

令和2年度文部科学省委託事業「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」
分野横断型リカレント教育プログラムの開発



介護における車椅子シーティングに関する
技術習得のための分野横断型
リカレント教育プログラムの開発事業

成果報告書

はじめに

今後、世界の総人口における 65 歳以上の高齢者の割合は 2060 年までに 17.6%になると見込まれています。これは、我が国だけの問題ではなく、世界的な課題となっています。

高齢化の進展から、これから人生 100 年時代を見据えると、他人に依存しなければ生きられない高齢者が急増してきます。高齢になると次第に今まで普通にできていたことができなくなってきます。そのため、今後、高齢者の介護を社会全体で支え合う介護サービスの充実のほか、高齢者が持っている能力や自分のできることが最大限発揮でき、健康的に長く生活を続けることを実現させるための自立支援が必要です。

この様な高齢化社会の中で、今後、車椅子の利用者数が増加していくことが、厚生労働省の調査結果からも分かります。厚生労働省介護給付費等実態統計の調査の中から居宅サービスによる福祉用具貸与種目別にみると、車椅子は、平成 27 年度では 8,053 千件、平成 28 年度 8,259 千件（前年度比 206 千件増）、平成 29 年度 8,467 千件（前年度比 208 千件増）、平成 30 年度 8,674 千件（前年度比 207 千件増）、平成 31 年度 8,868 千件（前年度比 194 千件増）と毎年増加傾向となっています。

欧米では発達障害児・者や障害者、高齢者が椅子・車椅子、または座位保持装置を適切に活用し自立生活の支援と促進、二次障害の予防、介護者の負担を軽減する手段としてシーティング技術が一般化しています。

しかしながら、我が国では、介護福祉士やヘルパーをはじめ、医療関係職種もシーティング技術の知識と実践が遅れているため「寝たきり大国」となっている状況です。

身体に接する用具の基本である車椅子や電動車椅子のサポートができることで、重度障害のある人が屋外に出て生活を楽しめるようになるためにも、介護支援技術が広がることが重要です。車椅子の不具合や、利用する際に姿勢が悪いなど正しい車椅子シーティングができていないと廃用性症候群（関節拘縮、褥瘡（床ずれ）、皮膚萎縮（短縮）、括約筋障害（便秘・尿便失禁）、廃用性骨萎縮（骨粗鬆症）、起立性低血圧、自律神経不安定など）になる恐れがあります。

本事業では、車椅子利用者が日常生活をより快適に過ごし、尚且つ、自立支援をも可能とする車椅子シーティング技術と車椅子メンテナンス技術を社会福祉サービスや介護サービス従事者をはじめ、はじめて介護に携わる方や興味がある方といったどなたでも学ぶことができる教育プログラム・カリキュラムの開発を目指します。

最後に、本事業に多大なるご協力をいただいた関係者の方々には深く感謝するとともに、この成果が関係者の方々の一助となれば幸いです。

令和 3 年 2 月

学校法人摺河学園 姫路ハーベスト医療福祉専門学校

目次

はじめに

第1章 活動内容

1. 事業の趣旨・目的	2
2. 事業を取組む背景	2
3. 学習ターゲット層・目指す人材像	4
4. 実施体制	4
5. 開発する教育プログラムの概要	5
6. 令和2年度活動概要	6
7. 構成機関・構成委員	7
8. 会議開催実績	16

第2章 具体的な取組み

1. シラバス・コマシラバス開発	22
2. テキスト開発	23
3. 授業シート・確認テスト	24
4. 講座アンケートの実施	26
5. 実証講座実施日程	27

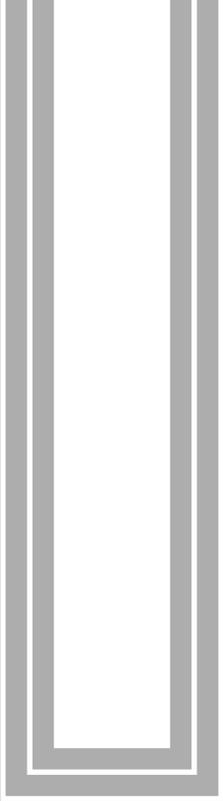
第3章 実証講座

1. 車椅子の選び方とメンテナンス入門講座	30
(1) 講座スケジュール	30
(2) 車椅子の選び方とメンテナンス入門講座確認テスト結果	36
(3) アンケート結果	44
2. 車椅子シーティング技術【基礎編】	73
(1) 講座スケジュール	73
(2) 車椅子シーティング技術【基礎編】確認テスト	75
(3) アンケート結果	77
3. 車椅子シーティング技術【応用編】	88
(1) 講座スケジュール	88
(2) 車椅子シーティング技術【応用編】確認テスト	90
(3) アンケート結果	90
4. キャリアデザイン編	103
(1) 講座スケジュール	103
(2) アンケート結果	116

第4章 第三者評価

第三者評価	128
-------	-----

第5章	まとめ	
	まとめ	134
第6章	参考資料・会議録	
	1. アンケート	138
	2. 会議録	163
	3. 新聞記事	232



第1章 活動内容



1. 事業の趣旨

今後、世界の総人口における 65 歳以上の高齢者の割合は 2060 年までに 17.6%になると見込まれている。これは、我が国だけの問題ではなく、世界的な課題である。

何かの要因で身体の一部の機能が損なわれても車椅子などの福祉用具で補えるようになれば、一人ひとりが自立できる範囲で生活していくことができる。

そのため、車椅子の構造などの知識や車椅子シーティングによるケア技術を普及させることにより、社会福祉サービスや介護サービスの従事者以外の方でも、車椅子利用者の自立介護を支援できるようにすることで、車椅子利用者の寝たきり予防や自立支援などに繋げることが重要である。

本事業は、車椅子利用者が日常生活をより快適に過ごせるよう改善点を明確にし、その課題を解決することで自立支援をも可能とした教育プログラムの開発を行う。超高齢化社会に入るといわれているこれからの社会において、現在の社会福祉サービスや介護サービス従事者以外の人にも、より深く車椅子シーティングに対する知識を習得することが早急に求められる。

2. 事業を取組む背景

高齢化の進展から、これから人生 100 年時代を見据えると、他人に依存しなければ生きられない高齢者が急増してくる。高齢になると次第に今まで普通にできていたことができなくなってくる。そのため、今後、高齢者の介護を社会全体で支え合う介護サービスの充実のほか、高齢者が持っている能力や自分のできることが最大限発揮でき、健康的に長く生活を続けることを実現させるための自立支援が必要である。

その様な高齢化社会の中で、今後、車椅子の利用者数が増加していくことが、厚生労働省の調査結果からも分かる。過去 3 年の厚生労働省介護給付費等実態統計の調査の中から居宅サービスによる福祉用具貸与種目別にみると、車椅子は、平成 27 年度では 8,053.2 千件、平成 28 年度 8,258.9 千件（前年度比 205.7 千件増）、平成 29 年度 8,466.9 千件（前年度比 208 千件増）と毎年増加傾向である。また、車椅子付属品も同様に平成 27 年度では 2,848.9 千件、平成 28 年度 2,966.4（前年比 117.5 千件増）、平成 29 年度 3,002.6 千件（前年比 36.2 千件増）と利用状況は毎年増え続けている。

車椅子の利用者の中には正しい姿勢で座れない、つまり正しい車椅子シーティングができていない者もいる。車椅子に不具合や利用する際に姿勢が悪いなど正しい車椅子シーティングができていないと廃用性症候群（関節拘縮、褥瘡（床ずれ）、皮膚萎縮（短縮）、括約筋障害（便秘・尿便失禁）、廃用性骨萎縮（骨粗鬆症）、起立性低血圧、自律神経不安定など）になるおそれもある。

車椅子シーティングの知識を有することにより、このような廃用症候群の予防やケアができることは、車椅子利用者が日常生活をするうえで自立支援を促すために、必要な知識・技術であるが、現状はそれらを持ちあわせている介護者は多くないのが状況である。

また、公益財団法人介護労働安定センターによる平成29年度介護労働実態調査の介護労働者の就業実態において、人手不足と回答した人は全体の53.0%であり、就業意識調査の労働条件の不安面において、賃金面と回答した人は全体の39.6%という結果であった。

このことから、高齢者が増加し超高齢化社会を迎え、それを支える人口も減ってきている中において、手動車椅子、電動車椅子、その他補助用品など利用した際の座位の不具合に直面した際に対応できる人材を増加していく必要があり、賃金面の解消も視野に入れていくことが必要と考える。

欧米では発達障害児・者や障害者、高齢者が椅子・車椅子、または座位保持装置を適切に活用し自立生活の支援と促進、二次障害の予防、介護者の負担を軽減する手段としてシーティング技術が一般化している。

我が国では、介護福祉士やヘルパーをはじめ、医療関係職種もシーティング技術の知識と実践が遅れているため、「寝たきり大国」となっている状況である。

身体に接する用具の基本である車椅子や電動車椅子のサポートができることで、重度障害のある人が屋外に出て生活を楽しめるようになるためにも、介護支援技術が広がることが重要である。

電動車椅子は自立支援に大変重要な福祉用具であるが、国内では十分に活用されておらず、使い方の指導などが十分でない。毎年、事故もあり、操作練習などを介護技術やリハビリの学習の中に入れることで、使用における安全性を高める必要がある。

このような背景から、本事業では車椅子の利用者数の増加に伴い、彼らのADL（日常生活動作）を改善させるために、車椅子に関する知識をより深く習得するための教育プログラムを開発し、介護サービスの充実を担う人材の育成を目指す。

3. 学習ターゲットと目指すべき人材像

(1) 学習ターゲット

介護に携わる方(介護福祉士、理学療法士、作業療法士、福祉用具専門相談員など)、
自転車整備関係や自動車整備士等

(2) 目指すべき人材像

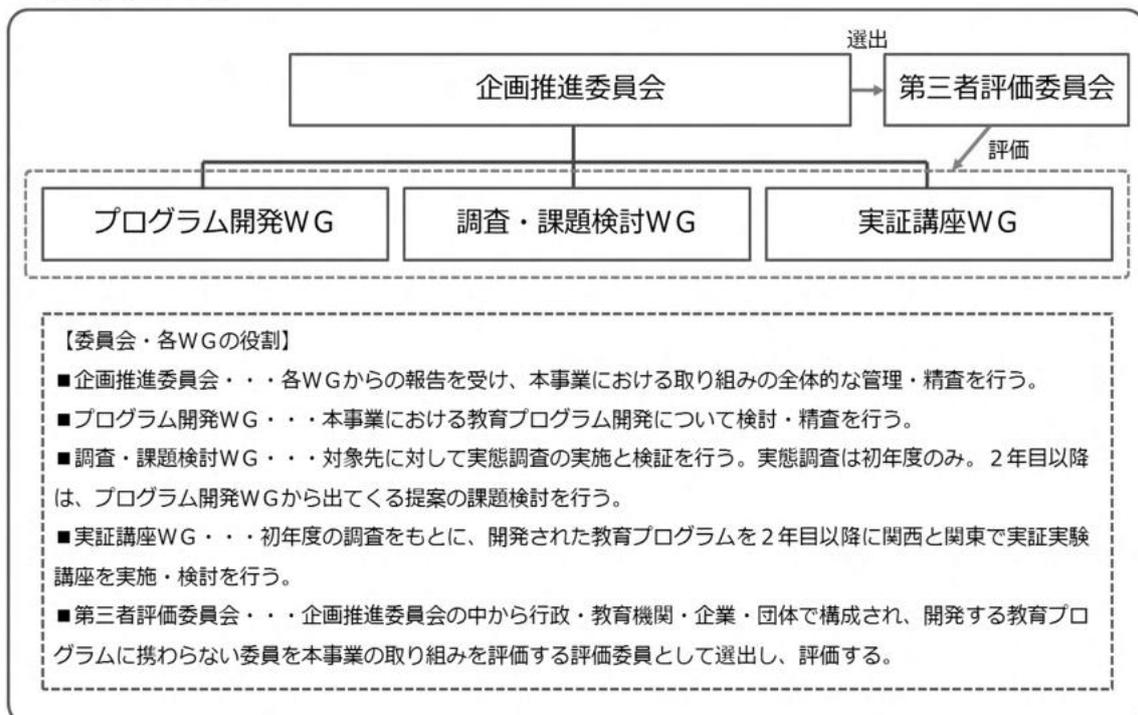
身体機能や構造を理解し、車椅子シーティング技術と手動・電動車椅子の構造や機能、特徴の理解と修理技術を持ち、自立支援（ADL）ができるプロを養成する。

4. 実施体制

本事業の体制は、以下の①～③を踏まえた体制を整えている。

- ① 被介護者や介護に携わる方々へのアプローチ方法。
- ② 電動車椅子の最新の情報がとれるメーカーとのルートづくりの構築。
- ③ 汎用性や普及を踏まえた関係団体へのアプローチができる教育プログラムの確立。

【実施体制図】



5. 開発する教育プログラムの概要

既存の介護福祉学科、理学療法学科の車椅子カリキュラムに付随した車椅子の構造・部品理解と修理(メンテナンス)技術および身体機能を含めたシーティング技術の習得。

◇既存のカリキュラム

移動・移乗の基本的理解 (1年次)	ボディメカニクスを理解する。ボディメカニクスの8原則を学ぶ。移動・移乗の介助における基本的な視点を理解する。動線を考えた動き、介助上の注意点を学ぶ。車椅子操作方法。基本的な操作方法と環境による違い。等
車椅子の基本構造の理解 (1年次)	車いすの基本構造を理解する。車椅子の種類・特徴・留意点を理解する。車椅子の基本的な使い方を理解する(車いすのたたみ方・車いすの広げ方)。車椅子の部位の名称。等
車椅子での移動の介助 (1年次)	移動環境に応じた車いす介助を理解する。段差を上がる・段差を下りる・坂道の介助・エレベーターでの介助。ベッドから車いすへの移乗の介助を理解する。車いすからベッドへの移乗の介助を理解する。等
ADL (2年次)	座位能力分類とモジュラー車椅子の部位の名称などの理解。モジュラー車椅子、電動車椅子の種類や選定などの理解。実習では操作方法、調整方法を実際の車椅子を使用して行う。等
理学療法 (2年次)	車椅子を使用する障害や疾患をもつ人の理解。病態に応じたポジショニング。シーティング基礎。等

ヒアリング結果を参考にし、上記カリキュラムをより実践的かつ応用的な「車椅子シーティング」の技術と車椅子の修理(メンテナンス)技術を取り入れ、すでに介護に携わっている方、これから携わる方、新たなビジネスとして考えている方などへ「シーティング技術と車椅子の修理(メンテナンス)ができる人材を養成し、介護業界の人手不足の解消するための教育プログラム」を開発する。

受講生には、技術修得のみならず、自己分析や社会との関わり方についての再認識や内面のケアも含め向上心をもって行動できるように、外部講師によるキャリアコンサルティングの受講を取り入れる。

◇開発する教育プログラム

- ① 車椅子シーティング技術【基礎編】(90分×4コマ)
- ② 車椅子シーティング技術【応用編】(90分×4コマ)
- ③ 車椅子の選び方とメンテナンス入門講座(90分×12コマ)
- ④ キャリアデザイン編(90分×2コマ)

6. 令和2年度の活動概要

令和1年度実施したヒアリング調査結果を参考とし、テキストを作り上げ、実証講座の実施。開発するにあたり、安心・安全・快適さを求める。正しい姿勢や車椅子部品の名称、事例(事故、ヒアリハット等含む)、制度や保険などを取り入れた。

(1) テキスト開発

【開発するテキスト】

- ・車椅子シーティング技術【基礎編】・【応用編】
- ・車椅子の選び方とメンテナンス入門講座
- ・キャリアデザイン編

(2) 実証講座

【対象】 姫路ハーベスト医療福祉専門学校 介護福祉学科1年生 19名

【講座時間】 合計33時間

(3) 受講アンケート

実証講座受講生から講座内容に関するアンケート

(4) 第三者評価

開発したテキストや実証講座を含めた本事業の取組みに対して、第三者評価委員による評価を行う。

7. 構成機関・構成委員

(1) 構成機関：教育機関

【役割】

- ▶ 車椅子シーティング技術カリキュラムの提案・検討
- ▶ 電動車椅子と自動車整備に関わるカリキュラムの提案・検討
- ▶ プログラム構成（テキストの内容構成や実証講座実施）に対するアドバイス
- ▶ 最新情報を含めた資料提供や普及などに関するアドバイス 等

	名称	役割等	都道府県名
1	姫路ハーベスト医療福祉専門学校	事業代表校	兵庫県
2	国際医療看護福祉大学校	企画検討・評価	福島県
3	国際情報工科自動車大学校	企画検討・評価	福島県
4	河原医療福祉専門学校	企画検討・評価	愛媛県
5	麻生工科自動車大学校	企画検討・評価	福岡県

(2) 構成機関：企業・団体

【役割】

- ▶ テキスト開発・実証講座の協力（参考資料や最新情報提供、実証講座実施先アドバイス等）
- ▶ 最新電動車椅子などの情報取得ルート確立の協力
- ▶ テキスト作成における知的財産（主に著作権）侵害有無のチェックやアドバイス
- ▶ 実証講座講師協力（キャリアデザイン含む）
- ▶ 実証講座受講生募集協力
- ▶ 本教育プログラム・カリキュラムの普及協力 等

	名称	役割等	都道府県名
1	一般社団法人日本福祉用具評価センター	企画検討・評価	兵庫県

2	一般財団法人日本車椅子シーティング財団	企画検討・評価	東京都
3	ラックヘルスケア株式会社	企画検討・評価	大阪府
4	川村義肢株式会社	企画検討・評価	大阪府
5	日本オートランニングシステム株式会社	企画検討・企業連携・評価	東京都
6	株式会社ビジョンクエスト	企画検討・評価	兵庫県
7	株式会社フロンティア	企画検討・企業連携・評価	千葉県
8	株式会社あっぷる	企画検討・企業連携・評価	兵庫県
9	関西オート整備株式会社	企画検討・企業連携・評価	兵庫県
10	株式会社シーティング研究所	教育プログラム・実証講座開発	東京都
11	株式会社マスターリンク	テキスト作成・知財関係・普及・評価	東京都
12	株式会社播磨リビング新聞社	企画検討・評価・普及	兵庫県
13	特定非営利活動法人フロンティア	企画検討・評価	兵庫県
14	アソシエイツ合同会社	キャリアデザイン：関東担当	埼玉県
15	有限会社グレイスプランニング	キャリアデザイン：関西担当	兵庫県

(3) 構成機関：行政機関

【役割】

- ▶ 開発する教育プログラム・カリキュラムへのアドバイス
- ▶ 国の動向を含めた最新情報の提供
- ▶ 分野横断型教育プログラム・カリキュラム開発の留意点などのアドバイス

▶ 新規取組みにおける企業連携協力（実証講座先や受講生募集アドバイス含む） 等

	名称	役割等	都道府県名
1	姫路市重度障害者活動支援センター	企画検討・評価	兵庫県

（４）構成委員・企画推進委員会委員

【役割】

本事業における取組みに対して、各WGの報告の整理を含めた全体的な管理・精査・調整を行う。

	氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
1	西川 一	学校法人 摺河学園 法人本部 本部長	事業責任者	兵庫県
2	菅原 武	姫路ハーベスト医療福祉専門 学校法人本部 副本部長	事業責任者 代理	兵庫県
3	千葉智子	国際医療看護福祉大学校 介護福祉学科 学科長	教育プログラム 企画検討・調 整・評価	福島県
4	阿部一則	国際情報工科自動車大学校 教務部長	教育プログラム 企画検討・調 整・評価	福島県
5	谷村紗里	河原医療福祉専門学校 介護福祉科 教員	教育プログラム 企画検討・調 整・評価	愛媛県
6	小串浩之	麻生工科自動車大学校 教務部 シニアエキスパート	教育プログラム 企画検討・評 価	福岡県
7	西山輝之	一般社団法人日本福祉用具評 価センター 事業部 部長	教材作成ア・評 価・講師	兵庫県
8	古谷彰則	一般財団法人日本車椅子シー ティング財団 理事	教育プログラ ム評価	東京都

9	花房勇輔	ラックヘルスケア株式会社 取締役社長	教材作成・評価・講師	大阪府
10	山中章二	川村義肢株式会社 取締役	教育プログラム企画検討・調整・評価	大阪府
11	大嶋勝己	日本オートランニングシステム株式会社 代表取締役社長	教育プログラム評価	東京都
12	案浦幹雄	株式会社ビジョンクエスト 代表取締役	教育プログラム企画検討・調整・評価	兵庫県
13	北村智也	株式会社フロンティア FP推進室 室長	教育プログラム企画検討・産学ルート	千葉県
14	田中 航	株式会社あつふる あつふる本部介護ステーション レンタル事業所 管理者/主任	教育プログラム企画検討・産学ルート	兵庫県
15	矢部卓也	関西オート整備株式会社 代表取締役	教育プログラム企画検討・企業連携	兵庫県
16	木之瀬 隆	株式会社シーティング研究所 代表取締役	教材作成・講師・アドバイス	東京都
17	吉川隆治	株式会社マスターリンク 営業部長	テキスト検討・知的財産・普及・評価	東京都
18	佐治彰一	株式会社播磨リビング新聞社 部長	教育プログラム企画検討・普及・評価	兵庫県
19	井上育俊	特定非営利活動法人フロンティア 理事長	教育プログラム企画検討・評価	兵庫県
20	小堀京子	アソシエイツ合同会社 代表取締役	キャリアデザイン (関東担当)	埼玉県

21	西口紗矢	有限会社グレイスプランニング 代表取締役	キャリアデザイン (関西担当)	兵庫県
22	坂本達也	姫路市重度障害者活動支援センター 所長	教育プログラム 企画検討・調整・評価	兵庫県
23	小寺正人	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 教頭 理学療法学科 学科長	教育プログラム 企画検討・改善	兵庫県
24	益永万理	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 介護福祉学科 学科長	教育プログラム 企画検討・改善	兵庫県
25	山戸光美	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 医薬健康学科 教員	教育プログラム 企画検討・改善	兵庫県

(5) 構成委員：プログラム開発WG

【役割】

本事業における教育プログラム・カリキュラム開発とその検討・精査を行う。

	氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
1	西川 一	学校法人 摺河学園 法人本部 本部長	事業責任者	兵庫県
2	菅原 武	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 法人本部 副本部長	事業責任者 代理	兵庫県
3	谷村紗里	河原医療福祉専門学校 介護福祉科 教員	教育プログラム 企画検討・調整・評価	愛媛県
4	西山輝之	一般社団法人日本福祉用具評価センター 事業部 部長	教材作成・評価 ・講師	兵庫県

5	花房勇輔	ラックヘルスケア株式会社 取締役社長	教材作成・評価・講師	大阪府
6	山中章二	川村義肢株式会社 取締役	教育プログラム企画検討・調整・評価	大阪府
7	北村智也	株式会社フロンティア FP推進室 室長	教育プログラム企画検討・産学ルート	千葉県
8	木之瀬 隆	株式会社シーティング研究所 代表取締役	教材作成・講師・アドバイス	東京都
9	吉川隆治	株式会社マスターリンク 営業部長	テキスト検討・知的財産・普及・評価	東京都
10	佐治彰一	株式会社播磨リビング新聞社 取締役	教育プログラム企画検討・普及・評価	兵庫県
11	小堀京子	アソシエイツ合同会社 代表取締役	キャリアデザイン (関東担当)	埼玉県
12	西口紗矢	有限会社グレイスプランニング 代表取締役	キャリアデザイン (関西担当)	兵庫県
13	小寺正人	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 教頭 理学療法学科 学科長	教育プログラム企画検討・改善	兵庫県
14	益永万理	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 介護福祉学科 学科長	教育プログラム企画検討・改善	兵庫県
15	山戸光美	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 医薬健康学科 教員	教育プログラム企画検討・改善	兵庫県

(6) 構成委員：調査・課題検討WG

【役割】

プログラム開発WGからの提案に対して、課題検討を行う（初年度：ヒアリング調査の実施と検証）。

氏名		所属・職名	役割等	都道府県名
1	西川 一	学校法人 摺河学園 法人本部 本部長	事業責任者	兵庫県
2	菅原 武	姫路ハーベスト医療福祉専門 学校 法人本部 副本部長	事業責任者 代理	兵庫県
3	西山輝之	一般社団法人日本福祉用具評 価センター 事業部 部長	教材作成・評 価・講師	兵庫県
4	吉川隆治	株式会社マスターリンク 営業部長	テキスト検 討・知的財産・ 普及・評価	東京都
5	佐治彰一	株式会社播磨リビング新聞社 取締役	教育プログラ ム企画検討・ 普及・評価	兵庫県
6	小寺正人	姫路ハーベスト医療福祉専門 学校 教頭 理学療法学科 学科長	教育プログラ ム企画検討・ 改善	兵庫県
7	益永万理	姫路ハーベスト医療福祉専門 学校 介護福祉学科 学科長	教育プログラ ム企画検討・ 改善	兵庫県

(7) 構成委員：実証講座WG

【役割】

初年度の調査を基に開発された教育プログラム・カリキュラムの実証実験講座の実施・検討を行う。

	氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
1	西川 一	学校法人 摺河学園 法人本部 本部長	事業責任者	兵庫県
2	菅原 武	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 法人本部 副本部長	事業責任者 代理	兵庫県
3	谷村紗里	河原医療福祉専門学校 介護福祉科 教員	教育プログラム 企画検討・ 調整・評価	愛媛県
4	西山輝之	一般社団法人日本福祉用具評価 センター 事業部 部長	教材作成・評 価・講師	兵庫県
5	花房勇輔	ラックヘルスケア株式会社 取締役社長	教材作成・評 価・講師	大阪府
6	北村智也	株式会社フロンティア FP推進室 室長	教育プログラ ム企画検討・ 産学ルート	千葉県
7	木之瀬 隆	株式会社シーティング研究所 代表取締役	教材作成・講 師・アドバイス	東京都
8	吉川隆治	株式会社マスターリンク 営業部長	テキスト検 討・知的財産・ 普及・評価	東京都
9	佐治彰一	株式会社播磨リビング新聞社 取締役	教育プログラ ム企画検討・ 普及・評価	兵庫県
10	小堀京子	アソシエイツ合同会社 代表取締役	キャリアデザ イン (関東担当)	埼玉県

12	西口紗矢	有限会社グレイスプランニング 代表取締役	キャリアデザイン (関西担当)	兵庫県
13	小寺正人	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 教頭 理学療法学科 学科長	教育プログラム 企画検討・ 改善	兵庫県
14	益永万理	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 介護福祉学科 学科長	教育プログラム 企画検討・ 改善	兵庫県
15	山戸光美	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 医薬健康学科 教員	教育プログラム 企画検討・ 改善	兵庫県

(8) 構成委員：第三者評価委員会

【役割】

開発された教育プログラム・カリキュラムの評価を行う。

	氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
1	古谷彰則	一般財団法人日本車椅子シーティング財団 理事	教育プログラム 評価	東京都
2	大嶋勝己	日本オートランニングシステム 株式会社 代表取締役社長	教育プログラム 評価	東京都

8. 会議実績

会議	企画推進委員会	
会議回数	全2回	
目的・役割	本事業における取り組みに対して、各WGの報告の整理を含めた全体的な管理・精査を行う。	
第1回 11名	議事内容	(1) 本事業概要説明 (2) 令和1年度(平成32年度)取り組み実績結果説明 (3) 令和1年度(平成32年度)課題抽出説明 (4) 令和2年度取り組み概要説明 等
	開催日時	令和2年8月25日(火) 15:00~17:00
第2回 9名	議事内容	(1) 実証講座の結果報告 <ul style="list-style-type: none"> - 車椅子の選び方とメンテナンス入門講座アンケート・確認テスト結果 - 車椅子シーティング技術【基礎編】・【応用編】アンケート・確認テスト結果 - キャリアデザイン編アンケート結果 (2) 昨年度の課題部分の検証確認について: アンケートと確認テスト資料から確認 <ul style="list-style-type: none"> - 講座内容(講座の流れ、講座の進め方、指導方法等について) - テキストの内容(専門用語、導入部分のレベルであったか等について) - 講座時間(メンテナンス12コマ、シーティング8コマ、キャリアデザイン2コマ) - 対象者(受講生が介護福祉学科1年生であったことが適正であったか) - 開講時期(12月~1月について) 等
	開催日時	令和3年2月3日(水) 15:00~17:00

会議	プログラム開発WG
会議回数	全3回
目的・役割	本事業における教育プログラム開発について検討・精査を行う。

第1回 8名	議事内容	<p>※第1回実証講座WGと合同開催</p> <p>(1) 本事業概要説明</p> <p>(2) テキスト改善方向の確認</p> <p>－【基礎編】・【応用編】・【普通車椅子編】・【モジュラー車椅子編】・【キャリアコンサルティング編】</p> <p>(3) 実証講座について</p> <p>－日程の検討、導入動画について、告知方法 等</p>
	開催日時	令和 2年 9月 15日 (火) 15:00～17:00
第2回 9名	議事内容	<p>(1) 実証講座内容の変更について</p> <p>(2) 【普通車椅子編】・【モジュラー車椅子編】テキスト内容の確認 (ルビについて)</p> <p>(3) 【キャリアデザイン編】概要説明</p> <p>(4) 実証講座日程の連絡 等</p>
	開催日時	令和 2年 10月 28日 (水) 15:00～17:00
第3回 6名	議事内容	<p>※第2回調査・課題検討WGと合同開催</p> <p>(1) 実証講座の感想</p> <p>－オブザーバーより感想</p> <p>(2) 車椅子の選び方とメンテナンス入門講座</p> <p>－確認テスト結果、アンケート結果からの改善点等</p> <p>(3) シーティング技術【基礎編】・【応用編】実証講座を終えた感想</p> <p>(4) キャリアデザイン編</p> <p>－アンケート項目の検討</p>
	開催日時	令和 3年 1月 15日 (金) 17:00～19:00

会議名	調査・課題検討WG	
会議回数	全3回	
目的・役割	プログラム開発WGから出てくる提案の課題検討を行う。	
第1回 4名	議事内容	<p>(1) 本年度事業取組み概要確認</p> <p>(2) テキスト改善方向の確認</p> <p>－【基礎編】・【応用編】・【普通車椅子編】・【モジュラー車椅子編】</p> <p>(3) 実証講座について</p> <p>－日程 等</p>
	開催日時	令和 2年 9月 25日 (金) 15:00～17:00

第2回 6名	議事内容	<p>※第3回プログラム開発WGと合同開催</p> <p>(1) 実証講座の感想 ーオブザーバーより感想</p> <p>(2) 車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 ー確認テスト結果、アンケート結果からの改善点等</p> <p>(3) シーティング技術【基礎編】・【応用編】実証講座を終えた感想</p> <p>(4) キャリアデザイン編 ーアンケート項目の検討</p>
	開催日時	令和 3年 1月 15日 (金) 17:00~19:00
第3回 4名	議事内容	<p>(1) 実証講座アンケート報告 ー車椅子シーティング技術【基礎編】・【応用編】、車椅子の選び方とメンテナンス入門講座、キャリアデザイン編</p> <p>(2) 第三者評価報告</p> <p>(3) 実証講座アンケートと第三者評価報告による課題の抽出 等</p>
	開催日時	令和 3年 1月 27日 (水) 15:00~17:00

会議名	実証講座WG	
会議回数	全3回	
目的・役割	開発された教育プログラム・カリキュラムの実証講座の実施・検討を行う。	
第1回 8名	議事内容	<p>※第1回プログラム開発WGと合同開催</p> <p>(1) 本事業概要説明</p> <p>(2) テキスト改善方向の確認 ー【基礎編】・【応用編】・【普通車椅子編】・【モジュラー車椅子編】・【キャリアコンサルティング編】</p> <p>(3) 実証講座について ー日程の検討、導入動画について、告知方法 等</p>
	開催日時	令和 2年 9月 15日 (火) 15:00~17:00
第2回 9名	議事内容	<p>(1) 導入動画・スライドについて検討</p> <p>(2) 各講座時間帯の確認</p> <p>(3) 講座内容と備品等について(教室・車椅子の台数の確認等)</p> <p>(4) 確認テストの方法(実施・採点・解説・回収)について</p> <p>(5) 講座アンケート(実施・回収)について 等</p>
	開催日時	令和 2年 11月 5日 (木) 15:00~17:00

第3回 3名	議事内容	(1) 導入動画・スライドについて検討 (2) 受講生アンケートについて (3) 講座備品等の再確認 等
	開催日時	令和 2年 11月 24日 (火) 15:00~17:00

会議名	第三者評価委員会	
会議回数	全2回	
目的・役割	開発された教育プログラム・カリキュラムとシラバス・コマシラバス、テキスト、実証実験講座等の評価を行う。	
第1回 4名	議事内容	(1) 令和1年取り組み内容の説明 (2) 令和2年取り組み概要の説明 (3) 実証講座の説明 (実証講座スケジュールに沿って) - 車椅子の選び方とメンテナンス入門講座内容の説明 - 車椅子シーティング技術〔基礎編〕・〔応用編〕内容の説明 - キャリアデザイン内容の説明 等
	開催日時	令和 2年 11月 30日 (月) 17:00~19:00
第2回 3名	議事内容	(1) 令和2年度取り組み計画の説明 (2) テキスト開発の説明 (3) 実証講座の説明 - 車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 - 車椅子シーティング技術〔基礎編〕・〔応用編〕 - キャリアデザイン内容 (4) 評価記入方法の説明 (5) 評価実施 等
	開催日時	令和 3年 1月 25日 (月) 14:30~16:30



第2章

具体的な取組み

具体的な取組み

1. シラバス・コマシラバス開発 (下記講座のシラバス・コマシラバスを開発)

車椅子シーティング技術【基礎編】

車椅子シーティング技術【応用編】

分野		シラバス(概要)	
高	リハビリテーション	今後、世界の人口における65歳以上の高齢者の割合は2040年までに14.9%になると見込まれている。これは、我が国での問題ではなく、世界的な課題である。	
対象	専門学校生・社会人	高齢化に伴って増加している中、車椅子の利用者の中には正しい姿勢で座れない、つまり正しい車椅子シーティングができていないという人が多い。車椅子の正しい利用は、高齢者の生活に大きな影響を与える。正しい姿勢で座れないと、健康被害(腰痛、肩痛、膝痛、股関節痛、頸椎痛、足関節痛、股関節痛、股関節痛)が生じ、日常生活に支障をきたすことになる。このように高齢者の生活の質が低下することは、車椅子利用者にとって大きな課題である。また、高齢者の生活の質を向上させるためには、必要な知識・技術を身につける必要がある。車椅子シーティング技術は、介護福祉士、介護職員、高齢者が車椅子、または座位保持装置を利用し、活動と参加への実践、発達の促進と学習の機会、高齢者の生活の質を向上させることである。	
履修単位	1	本講義では、車椅子の種類や構造、身体と車椅子との適合を説明し、車椅子シーティングの原則と現在の社会背景に適合することを目的とする。	
担当教員	文部科学省 職業・介護	評価方法	
教科書	オリジナルテキスト	確認テスト平均点70%以上及び発表内容にて講義内容の理解度を評価する。	

区分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	不良座位の理解	1.1 シラバスとの関係	座る姿勢が身体に与える影響を理解することで、車椅子シーティングへの導入を行う。	オリジナルテキスト 確認テスト
		1.2 コマ主題	座位、不良座位とはどういうものかを体験により理解する。	
		1.3 コマ主題目標	①座ることで身体に起こる現象 ②不良座位とは ③座席から与えられる影響 ④バックシート調整 ⑤座席高さによる二次障害について	
		1.4 コマ主題目標達成	座位・不良座位とはどういうものか、アプローチすることでどのような変化があるのかを理解する。	
		1.5 次コマとの関係	車椅子シーティングへ向かう前提となる不良座位を理解し、対策の必要性を理解する。	
2	車椅子選定のための基礎知識①	2.1 シラバスとの関係	車椅子シーティングを行うための環境としての車椅子の基礎知識を学ぶ。	オリジナルテキスト 確認テスト
		2.2 コマ主題	車椅子選定のための機能・機能・ユーザーとの適合を理解する。	
		2.3 コマ主題目標	①車椅子シーティングの目的、車椅子サイズや種類の必要性 ②車椅子選定の基準 ③車椅子に求められるもの ④車椅子サイズとの関係	
		2.4 コマ主題目標達成	車椅子は個人に合わせて選定・調整など適合が必要なものであることを理解する。	
		2.5 次コマとの関係	車椅子に関する基礎知識を持ち、実際の適合への下準備を行う。	
3	車椅子シーティングの基礎知識②	3.1 シラバスとの関係	車椅子シーティング実践に向けた基礎知識を学ぶ。	オリジナルテキスト
		3.2 コマ主題	車椅子クッションの種類と使い分け、シーティングの基礎知識の理解。	
		3.3 コマ主題目標	①車椅子シーティングのポイント ②車椅子クッションの必要性、種類と使い分け ③車椅子クッションの種類	
		3.4 コマ主題目標達成	車椅子クッションの必要性を理解する。	
		3.5 次コマとの関係	車椅子シーティングのベースとなる座席座定法を理解する。	
4	車椅子シーティング実習	4.1 シラバスとの関係	主題である車椅子シーティングについて実習を行う。	オリジナルテキスト
		4.2 コマ主題	座席に適合を行い、座位の変化を学ぶ。	
		4.3 コマ主題目標	①シーティングの基礎知識の整理 ②シーティング実習(グループワーク) ③グループワーク発表	
		4.4 コマ主題目標達成	自身がユーザーに出ることを知る。	

分野		シラバス(概要)	
高	リハビリテーション	今後、世界の人口における65歳以上の高齢者の割合は2040年までに14.9%になると見込まれている。これは、我が国での問題ではなく、世界的な課題である。	
対象	専門学校生・社会人	高齢化に伴って増加している中、車椅子の利用者の中には正しい姿勢で座れない、つまり正しい車椅子シーティングができていないという人が多い。車椅子の正しい利用は、高齢者の生活に大きな影響を与える。正しい姿勢で座れないと、健康被害(腰痛、肩痛、膝痛、股関節痛、頸椎痛、足関節痛、股関節痛)が生じ、日常生活に支障をきたすことになる。このように高齢者の生活の質が低下することは、車椅子利用者にとって大きな課題である。また、高齢者の生活の質を向上させるためには、必要な知識・技術を身につける必要がある。車椅子シーティング技術は、介護福祉士、介護職員、高齢者が車椅子、または座位保持装置を利用し、活動と参加への実践、発達の促進と学習の機会、高齢者の生活の質を向上させることである。	
履修単位	1	本講義では、車椅子の種類や構造、身体と車椅子との適合を説明し、車椅子シーティングの原則と現在の社会背景に適合することを目的とする。	
担当教員	文部科学省 職業・介護	評価方法	
教科書	オリジナルテキスト	確認テストと点以上及び発表内容にて講義内容の理解度を評価する。	

区分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	車椅子シーティング実習①	3.1 シラバスとの関係	車椅子シーティングの基礎知識について体験する。	オリジナルテキスト
		3.2 コマ主題	車椅子移動に対する適合	
		3.3 コマ主題目標	①車椅子移動のポイントについて グループワーク ②女性用の車椅子の移動体験 (座席、座席、メンホルンサイズ、メンホルン前後位置) ③移動体験した結果について発表	
		3.4 コマ主題目標達成	移動について、セッティングによる違いを理解する。	
		3.5 次コマとの関係	車椅子移動体験によりユーザーフィッティングへの土台をつくる。	
2	車椅子シーティングの基礎知識③	1.1 シラバスとの関係	車椅子シーティングのポイントを確認し、土台を作る。	オリジナルテキスト 確認テスト
		1.2 コマ主題	車椅子シーティングの基礎知識の理解	
		1.3 コマ主題目標	①車椅子シーティングの目的 ②車椅子の基礎知識の整理 ③車椅子シーティングの基礎知識	
		1.4 コマ主題目標達成	車椅子シーティングの必要性と基礎知識の理解	
		1.5 次コマとの関係	ベースとなる知識を理解する。	
3	車椅子シーティング実習②	2.1 シラバスとの関係	車椅子シーティングの座位について体験する。	オリジナルテキスト
		2.2 コマ主題	車椅子座位に対する適合	
		2.3 コマ主題目標	①シートクッション調整 ②アームサポート高さ調整 ③フットサポート高さ調整 ④背板傾斜調整(背角)など	
		2.4 コマ主題目標達成	適合調整により自身がユーザーに提供できる座位の変化を知る。	
		2.5 次コマとの関係	車椅子シーティング体験によりユーザーフィッティングへの土台をつくる。	
4	車椅子シーティング実習③	4.1 シラバスとの関係	自身の持つ車椅子シーティング、車椅子適合技術の確認。	オリジナルテキスト
		4.2 コマ主題	ケースを想定した車椅子シーティング	
		4.3 コマ主題目標	グループワーク ①座席の調整 ②アームサポート調整 ③フットサポート調整 ④背板傾斜調整 ⑤ユーザー役を決め、目標設定、適合実習 ⑥グループワークによる発表	
		4.4 コマ主題目標達成	自身の知識や技術によりユーザーへ良い変化を提供できることを体験する。	

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座

分野		シラバス(概要)	
高	リハビリテーション	今後、世界の人口における65歳以上の高齢者の割合は2040年までに14.9%になると見込まれている。これは、我が国での問題ではなく、世界的な課題である。	
対象	専門学校生・社会人	高齢化に伴って増加している中、車椅子の利用者の中には正しい姿勢で座れない、つまり正しい車椅子シーティングができていないという人が多い。車椅子の正しい利用は、高齢者の生活に大きな影響を与える。正しい姿勢で座れないと、健康被害(腰痛、肩痛、膝痛、股関節痛、頸椎痛、足関節痛、股関節痛)が生じ、日常生活に支障をきたすことになる。このように高齢者の生活の質が低下することは、車椅子利用者にとって大きな課題である。また、高齢者の生活の質を向上させるためには、必要な知識・技術を身につける必要がある。車椅子シーティング技術は、介護福祉士、介護職員、高齢者が車椅子、または座位保持装置を利用し、活動と参加への実践、発達の促進と学習の機会、高齢者の生活の質を向上させることである。	
履修単位	1	本講義では、車椅子の種類や構造、身体と車椅子との適合を説明し、車椅子シーティングの原則と現在の社会背景に適合することを目的とする。	
担当教員	文部科学省 職業・介護	評価方法	
教科書	オリジナルテキスト	確認テスト平均点70%以上及び発表内容にて講義内容の理解度を評価する。	

区分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	車椅子の種類 車椅子の種類による機能特性①	1.1 シラバスとの関係	車椅子の種類や構造の特性を理解する。	オリジナルテキスト 確認テスト
		1.2 コマ主題	車椅子の種類や構造の特性を理解する。	
		1.3 コマ主題目標	①車椅子の種類について学ぶ(60種類による分類) ②車椅子の種類から見たメリット・デメリット - 一般的なカテゴリーで分けられている分類(特異な機能が特徴的なタイプ) ③車椅子の種類から見たメリット・デメリット - 一般的なカテゴリーで分けられている分類(特異な機能が特徴的なタイプ) ④車椅子の種類から見たメリット・デメリット - 一般的なカテゴリーで分けられている分類(特異な機能が特徴的なタイプ)	
		1.4 コマ主題目標達成	構造とその他の機能の特性を把握することで、車椅子を有効活用できない生活への影響を理解する。	
		1.5 次コマとの関係	車椅子の種類や構造の特性を把握することで、不適合による人体への影響を理解する。	
2	車椅子の構造による機能の特性②	2.1 シラバスとの関係	車椅子を有効活用するための必要、機能の必要性を学ぶ。	オリジナルテキスト 確認テスト
		2.2 コマ主題	車椅子の構造とその他の機能の特性を理解する。	
		2.3 コマ主題目標	①車椅子の種類から見たメリット・デメリット - 一般的なカテゴリーで分けられている分類(6種類) ②車椅子の種類から見たメリット・デメリット - 一般的なカテゴリーで分けられている分類(6種類) ③車椅子の種類から見たメリット・デメリット - 一般的なカテゴリーで分けられている分類(6種類) ④車椅子の種類から見たメリット・デメリット - 一般的なカテゴリーで分けられている分類(6種類)	
		2.4 コマ主題目標達成	構造とその他の機能の特性を把握することで、車椅子を有効活用できない生活への影響を理解する。	
		2.5 次コマとの関係	使用目的への適合を踏まえたうえで、人体との適合の重要性を理解する。	
3	車椅子の構造による機能の特性③	3.1 シラバスとの関係	車椅子を有効活用するための必要、機能の必要性を学ぶ。	オリジナルテキスト 確認テスト
		3.2 コマ主題	人体と車椅子寸法の不適合による人体への影響を事例から学ぶ。	
		3.3 コマ主題目標	①各車椅子の特性や構造から選定方法を学ぶ。 ②各車椅子の特性や構造から選定方法を学ぶ(座席・背板・アーム等) ③各車椅子の特性や構造から選定方法を学ぶ(座席・背板・アーム等) ④各車椅子の特性や構造から選定方法を学ぶ(座席・背板・アーム等)	
		3.4 コマ主題目標達成	二次障害の予防と介護者の負担軽減のために必要、人体と車椅子寸法の不適合による人体への影響を理解する。	
		3.5 次コマとの関係	使用目的への適合を踏まえたうえで、人体との適合の重要性を理解する。	
4	人体寸法と車椅子寸法の不適合による人体への影響の事例④	4.1 シラバスとの関係	二次障害の予防と介護者の負担軽減のために必要に気づくことを学ぶ。	オリジナルテキスト 確認テスト
		4.2 コマ主題	人体と車椅子寸法の不適合による人体への影響を事例から学ぶ。	
		4.3 コマ主題目標	①車椅子を選定する基準となる、適切な寸法選定の必要性を学ぶ。 ②座席の傾斜、アームの調整など、適切な寸法選定方法を学ぶ。 ③適切な寸法選定方法を学ぶ。 ④適切な寸法選定方法を学ぶ(座席・背板・アーム等) ⑤適切な寸法選定方法を学ぶ(座席・背板・アーム等)	
		4.4 コマ主題目標達成	車椅子が必要となった場合の基礎を学ぶ。	
		4.5 次コマとの関係	人体に適合する車椅子選定の前に車椅子入りに関する理解を深める。	

分野		シラバス(概要)	
高	リハビリテーション	今後、世界の人口における65歳以上の高齢者の割合は2040年までに14.9%になると見込まれている。これは、我が国での問題ではなく、世界的な課題である。	
対象	専門学校生・社会人	高齢化に伴って増加している中、車椅子の利用者の中には正しい姿勢で座れない、つまり正しい車椅子シーティングができていないという人が多い。車椅子の正しい利用は、高齢者の生活に大きな影響を与える。正しい姿勢で座れないと、健康被害(腰痛、肩痛、膝痛、股関節痛、頸椎痛、足関節痛、股関節痛)が生じ、日常生活に支障をきたすことになる。このように高齢者の生活の質が低下することは、車椅子利用者にとって大きな課題である。また、高齢者の生活の質を向上させるためには、必要な知識・技術を身につける必要がある。車椅子シーティング技術は、介護福祉士、介護職員、高齢者が車椅子、または座位保持装置を利用し、活動と参加への実践、発達の促進と学習の機会、高齢者の生活の質を向上させることである。	
履修単位	1	本講義では、車椅子の種類や構造、身体と車椅子との適合を説明し、車椅子シーティングの原則と現在の社会背景に適合することを目的とする。	
担当教員	文部科学省 職業・介護	評価方法	
教科書	オリジナルテキスト	確認テスト平均点70%以上及び発表内容にて講義内容の理解度を評価する。	

区分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
8	メンテナンス基礎①	8.1 シラバスとの関係	車椅子のメンテナンス(=修理)技術を取得するための、車椅子の種類や構造による特性を学ぶ。	オリジナルテキスト 確認テスト
		8.2 コマ主題	点検項目の必要性を学ぶ。	
		8.3 コマ主題目標	①点検項目に付いた点検項目について(1)点検項目の整理 (2)構成部品、ネジ、スクリュー、シート、アームサポート ②確認テスト【解題10分/解答10分/計20分程度】	
		8.4 コマ主題目標達成	メンテナンス実習上の注意点を学ぶ。	
		8.5 次コマとの関係	適切なメンテナンスを実施するための基礎知識を学ぶ。	
9	人体寸法と車椅子寸法の不適合による人体への影響の事例⑤	5.1 シラバスとの関係	二次障害の予防と介護者の負担軽減のために必要に気づくことを学ぶ。	オリジナルテキスト 確認テスト
		5.2 コマ主題	人体と車椅子寸法の不適合による人体への影響を事例から学ぶ。	
		5.3 コマ主題目標	①車椅子の種類や構造を把握した上で人体への影響を学ぶ。 ②車椅子の種類や構造を把握した上で人体への影響を学ぶ。 ③車椅子の種類や構造を把握した上で人体への影響を学ぶ。 ④確認テスト【解題10分/解答10分/計20分程度】	
		5.4 コマ主題目標達成	人体と車椅子寸法の不適合による人体への影響を理解する。	
		5.5 次コマとの関係	人体への影響を及ぼす車椅子選定を行わないための基礎知識を学ぶ。	
6	人体寸法と車椅子寸法の不適合による人体への影響の事例⑥	6.1 シラバスとの関係	二次障害の予防と介護者の負担軽減のために必要に気づくことを学ぶ。	オリジナルテキスト 確認テスト
		6.2 コマ主題	人体と車椅子寸法の不適合による人体への影響を事例から学ぶ。	
		6.3 コマ主題目標	①車椅子の種類や構造を把握した上で人体への影響を学ぶ。 ②車椅子の種類や構造を把握した上で人体への影響を学ぶ。 ③車椅子の種類や構造を把握した上で人体への影響を学ぶ。 ④確認テスト【解題10分/解答10分/計20分程度】	
		6.4 コマ主題目標達成	人体と車椅子寸法の不適合による人体への影響を理解する。	
		6.5 次コマとの関係	人体への影響を及ぼす車椅子選定を行わないための基礎知識を学ぶ。	
7	メンテナンス基礎②	7.1 シラバスとの関係	メンテナンスを行うための事前知識を学ぶ。	オリジナルテキスト 確認テスト
		7.2 コマ主題	メンテナンスによる事故や製造物責任法(PL)と工程管理の必要性を学ぶ。	
		7.3 コマ主題目標	①メンテナンスに関する基礎知識を学ぶ。 ②製造物責任法(PL)と工程管理の必要性を学ぶ。 ③メンテナンスに関する基礎知識を学ぶ。 ④確認テスト【解題10分/解答10分/計20分程度】	
		7.4 コマ主題目標達成	不適切な知識や技術による問題を学ぶ。	
		7.5 次コマとの関係	適切なメンテナンスを実施するための基礎知識を学ぶ。	
8	メンテナンス基礎③	8.1 シラバスとの関係	メンテナンスを行うための事前知識を学ぶ。	オリジナルテキスト 確認テスト
		8.2 コマ主題	適切な部品交換に必要な方針を学ぶ。	
		8.3 コマ主題目標	①正確な交換のための基礎知識を学ぶ。 ②車椅子の修理や交換に必要となる安全性を学ぶ。 ③確認テスト【解題10分/解答10分/計20分程度】	
		8.4 コマ主題目標達成	主要部品のメンテナンスに必要な基礎知識を学ぶ。	
		8.5 次コマとの関係	適切なメンテナンスを実施するための基礎知識を学ぶ。	

キャリアデザイン

目 次				
■説明会（キャリアデザイン受講前準備：様式記入方法の説明）				
60分	キャリアデザイン事前ワーク説明	① 自分史を作る ライフステージチェックシート ② インタビューシート ③ あなたの個性・性格 ④ あなたの「強み」と「弱み」 ⑤ 仕事に対して大切にしたい価値観 ⑥ 環境や生活に対して大切にしたい価値観 ⑦ 自己理解のまとめ	パワーポイントとワークシートを作成	
■1日目（1コマ）				
計90分	コマのテーマ	項 目	内 容	
10分	1. キャリアデザイン～キャリアを考える～	1-1	自分を見つける	事前配布した「自分を見つける」を事前配布し、当日までに記入し持参
		1-2	キャリアとは	キャリアデザインの意味を理解し、納得感や幸福感を得られるように自ら主体的に考え行動し、振り返り学ぶことが重要であることに気づきを保つ。 上記1-1事前ワークと以降の章でも適宜照らし合わせる
		1-3	キャリアデザインとは	キャリアとは/キャリアデザインとは/目指すキャリアの成功とは/なぜ学生生活におけるキャリアデザインが必要なのか/キャリアデザインの5つのメリット/キャリアデザインの考え方
15分	2. 自分らしさについて～原点を探す～	2-1	自分史を作成する	事前配布した自分史と記入例を事前配布し、当日までに記入し持参
		2-2	インタビューシート	事前配布した「インタビューシート」を事前配布し、当日までに記入し持参
		2-3	最高の体験から自分らしさを探る	隣通しでペアを組み、自分史の内容もとにインタビューを互いに行い、傾聴力、共感力の大切さを養う。1人5分程度。計10分（タイムキーパー：講師） 折れ線グラフの最高点の時の気持ちや、大切なものを1人5分のインタビュー互いに行い、最後に自身の「大切にしたい」ことを記入する。5分
10分	3. 自己理解を深める～グループワーク～	3-1	自己理解	事前ワークシートの③～⑥を元にグループワークを行う。ペアを組み、1人1問3分×2人×4問＝24分（タイムキーパー：講師） 自分のことを言葉に出して伝える。話しやすい態度で聞く。否定しない。人との違いを体験する。気づいていない良いところは足してあげる。
4-1		3つの自己イメージ	事前配布した「⑦ 自己理解のまとめ」を事前配布し、当日までに記入し持参	
10分	4. 自分を知る～3つの自己イメージ～ エゴ・H・I・シンキング	4-2	キャリアデザインに必要な3つの要素	「できること（能力・才能）」、「やりたいこと（動機・欲求）」、「すべきこと（価値・価値）」の説明をし、学生生活における目標設定とする。
15分		今日の講義の振り返り	ペアワークを行ったペアのどちらかの人に、今日の講義を振り返って気づきや感想を発表してもらおう 9組（18名）×1分程度＝約10分	プリント

■2日目（1コマ）					
計90分	コマのテーマ	項 目	内 容	教材・教具	
15分	7. キャリアデザインの作成のための準備	7-1	キャリアデザインをする前に	⑧キャリアデザインシート 1.自己分析 を 前回の講義で使用した②-⑦のシートを使って埋めていく	事後ワーク
		7-2	キャリアデザインの制作手法	⑨キャリアデザインシートの方法 目標設計の流れ 例も合わせて書き方の説明	
		7-3	キャリアデザインの制作手法	⑩キャリアデザインシートの方法 ⑪目標達成のためのアクションプラン ⑫転職の考え方 シートの記入説明	
10分	8. キャリアデザインの作成	8-1	キャリアデザイン制作	実際に各自記入する。	事後ワーク
15分		発表	キャリアデザイングループワーク グループで発表しあい、さらに良いものに仕上げよう。 5分/人×4人		

2. テキストの開発（下記講座のテキストを開発：一部抜粋）

車椅子シーティング技術【基礎編】

車椅子シーティング技術 基礎編

シーティングとは・・・

【日本シーティングソサエティから抜粋】

シーティングとは、椅子・車椅子を利用して生活する人に対して、適切な座席設計と対応座席の調整、調整、メンテナンスなどを行うことで、シーティングの目的は、対象者と共に生活できる適切な座席環境を実現することにより、二次的障害の予防、運動と参加の促進、心身機能・健康の改善を図ることです。

車椅子シーティングの簡単なイメージは・・・

車椅子利用者が、車椅子に「座って」豊かな生活を送るためのお手伝い

車椅子シーティングは、車椅子の固定・調整など利用者の身体や生活に合わせることで、車椅子利用者が豊かな生活を送るためのお手伝いとなります。

車椅子シーティング技術 基礎編

では、「座る」ということについて考えてみましょう。



「座る」とは

【広辞林】
腰を折り曲げて、床に落ちるか、また、寝かける。

【大辞林】
腰を折り曲げたり、膝を折りたいて床につく。

考えると難しそう・・・

でも、すでに多くのことを体験により学習済み！

座るということについては、これまでの生活の中で体験してきたとおり、その体験をシーティングに活かすことができます。

車椅子シーティング技術【応用編】

車椅子シーティング技術 応用編

車椅子を利用する目的は・・・

障害を減らす/取除く

高い

座席の調整

個人の能力

個人の能力

低い

「ギャップ」=障害

「ギャップモデル」
障害の定義

障害とは状態だけを指すのではなく、目標生活の中で起こる個人の能力と座席の座席のギャップを指すものです。自分が置かれた座席を、歩いたり行かない場所に行かなくては車や輪車を使う、このようにギャップを埋めため座席の1つが車椅子です。

車椅子シーティング技術 応用編

シーティングとは・・・

【日本シーティングソサエティから抜粋】

シーティングとは、椅子・車椅子を利用して生活する人に対して、適切な座席設計と対応座席の調整、調整、メンテナンスなどを行うことで、シーティングの目的は、対象者と共に生活できる適切な座席環境を実現することにより、二次的障害の予防、運動と参加の促進、心身機能・健康の改善を図ることです。

車椅子シーティングの簡単なイメージは・・・

車椅子利用者が、車椅子に「座って」豊かな生活を送るためのお手伝い

シーティングは、車椅子利用者が豊かな生活を送るためのお手伝いです。

車椅子シーティング技術【応用編】

<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">授業シート</td> <td style="width: 40%; text-align: center;">第 (2/4) 回</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td>講師名:</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">今回の授業: 車椅子シーティング技術 (応用編)</td> </tr> <tr> <td colspan="3">●シラバス</td> </tr> <tr> <td colspan="3"> <p>今後、世界の総人口における65歳以上の高齢者の割合は2060年までに17.6%になると見込まれている。これは、我が国だけの問題ではなく、世界的な課題である。</p> <p>車椅子利用者が毎年増加している中、車椅子の利用者の中には正しい姿勢で座れない、つまり正しい車椅子シーティングができていない人も多い。車椅子の不具合や利用する際に姿勢が悪いなど正しい車椅子シーティングができていないと、腰背疼痛(腰痛)、褥瘡(床ずれ)、皮膚褥瘡(短縮)、括約筋障害(便秘・尿便失禁)、両性性骨痛(骨痛症)、起立性低血圧、自律神経不安定など)になるおそれもある。このような両性性骨痛の予防やケアができることは、車椅子利用者が日常生活をするうえで自立支援を促すために、重要な知識・技術である。現状はそれらを持ちあわせている介護者は多くない状態である。</p> <p>シーティング技術は、発達障害児・若や障害者、高齢者が椅子・車椅子、又は座位保持装置を適切に活用し活動と参加への支援、発達の促進と二次障害の予防、介護者の負担を軽減することである。</p> <p>本講座では、身体機能や構造を理解し、車椅子シーティング技術と福祉用具の開発、手動・電動車椅子の構造や機能とその特徴を理解することでメンテナンス(修理)技術を持ちあわせ、自立支援(ADL)ができる知識を習得することで現在の社会背景に適合することを旨とする。</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="3">●今日の授業</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">●第一ポイント</td> </tr> <tr> <td style="width: 10%;">Q1</td> <td style="width: 40%;">ギャップモデルについて</td> <td style="width: 50%;"> ギャップとは疾患や身体状況だけを指すものではなく、日常生活の中で起こるもの </td> </tr> <tr> <td>Q2</td> <td>車椅子シーティングの目的</td> <td>車椅子ユーザーが快適な生活を送るために必要なもの</td> </tr> <tr> <td>Q3</td> <td>車椅子のガイドラインについて</td> <td>車椅子は、ユーザーの身体状況と生活環境に合わせる必要がある</td> </tr> <tr> <td>Q4</td> <td>車椅子に求められる機能</td> <td>座位、移乗、移動の3つの項目は必ず考える</td> </tr> <tr> <td>Q5</td> <td>快適な座位のポイント</td> <td>安定した座位を取ること、長時間じっと座り続けられないことが重要</td> </tr> <tr> <td>Q6</td> <td>福祉用具選定のポイント</td> <td>ユーザーの身体状況だけでなく、住居環境や介護の環境を時間的な要素とともに考える</td> </tr> <tr> <td colspan="3">●参照資料</td> </tr> <tr> <td>Q1</td> <td>PP2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Q2</td> <td>PP3~4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Q3</td> <td>PP5~9</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Q4</td> <td>PP10</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Q5</td> <td>PP12~19</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Q6</td> <td>PP20</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3">●授業コメント</td> </tr> <tr> <td colspan="3"> 障害への対応では、日常生活を送るうえで起こる不都合を解消することが重要。不都合を解消するためには、用具を使用することや、バリアフリー化が手段として考えられる。 標準型車椅子について、膝生角幅が出ているガイドラインには、安定した座位が取れること、乗り降り動作がしやすいこと、転倒しやすいこと、生活環境で使いやすいことが記載されている。最低限として、この3つに合った車椅子を確保していくことが重要。 座位は重要となり、特に快適に安定した状態になることが出来ないと、生活に支障が出たり二次障害が発生するリスクがある。快適な座位のためには、褥瘡の発生、車椅子クッション・バックサポート・サイドサポート・アームサポート・フットレッグサポートが重要な要件となる。また、安定した座位が取れたとしても、長時間同じ姿勢で座り続けることは苦痛となり、動きをもつことも必ず必要になる。 </td> </tr> <tr> <td colspan="3">●その他関連</td> </tr> </table>	授業シート	第 (2/4) 回	2	講師名:	今回の授業: 車椅子シーティング技術 (応用編)		●シラバス			<p>今後、世界の総人口における65歳以上の高齢者の割合は2060年までに17.6%になると見込まれている。これは、我が国だけの問題ではなく、世界的な課題である。</p> <p>車椅子利用者が毎年増加している中、車椅子の利用者の中には正しい姿勢で座れない、つまり正しい車椅子シーティングができていない人も多い。車椅子の不具合や利用する際に姿勢が悪いなど正しい車椅子シーティングができていないと、腰背疼痛(腰痛)、褥瘡(床ずれ)、皮膚褥瘡(短縮)、括約筋障害(便秘・尿便失禁)、両性性骨痛(骨痛症)、起立性低血圧、自律神経不安定など)になるおそれもある。このような両性性骨痛の予防やケアができることは、車椅子利用者が日常生活をするうえで自立支援を促すために、重要な知識・技術である。現状はそれらを持ちあわせている介護者は多くない状態である。</p> <p>シーティング技術は、発達障害児・若や障害者、高齢者が椅子・車椅子、又は座位保持装置を適切に活用し活動と参加への支援、発達の促進と二次障害の予防、介護者の負担を軽減することである。</p> <p>本講座では、身体機能や構造を理解し、車椅子シーティング技術と福祉用具の開発、手動・電動車椅子の構造や機能とその特徴を理解することでメンテナンス(修理)技術を持ちあわせ、自立支援(ADL)ができる知識を習得することで現在の社会背景に適合することを旨とする。</p>			●今日の授業			●第一ポイント			Q1	ギャップモデルについて	ギャップとは疾患や身体状況だけを指すものではなく、日常生活の中で起こるもの	Q2	車椅子シーティングの目的	車椅子ユーザーが快適な生活を送るために必要なもの	Q3	車椅子のガイドラインについて	車椅子は、ユーザーの身体状況と生活環境に合わせる必要がある	Q4	車椅子に求められる機能	座位、移乗、移動の3つの項目は必ず考える	Q5	快適な座位のポイント	安定した座位を取ること、長時間じっと座り続けられないことが重要	Q6	福祉用具選定のポイント	ユーザーの身体状況だけでなく、住居環境や介護の環境を時間的な要素とともに考える	●参照資料			Q1	PP2		Q2	PP3~4		Q3	PP5~9		Q4	PP10		Q5	PP12~19		Q6	PP20		●授業コメント			障害への対応では、日常生活を送るうえで起こる不都合を解消することが重要。不都合を解消するためには、用具を使用することや、バリアフリー化が手段として考えられる。 標準型車椅子について、膝生角幅が出ているガイドラインには、安定した座位が取れること、乗り降り動作がしやすいこと、転倒しやすいこと、生活環境で使いやすいことが記載されている。最低限として、この3つに合った車椅子を確保していくことが重要。 座位は重要となり、特に快適に安定した状態になることが出来ないと、生活に支障が出たり二次障害が発生するリスクがある。快適な座位のためには、褥瘡の発生、車椅子クッション・バックサポート・サイドサポート・アームサポート・フットレッグサポートが重要な要件となる。また、安定した座位が取れたとしても、長時間同じ姿勢で座り続けることは苦痛となり、動きをもつことも必ず必要になる。			●その他関連			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">カルテ</td> <td style="width: 40%; text-align: center;">第 (2/4) 回</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td>講師名:</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">シーティング技術 (応用編)</td> </tr> <tr> <td colspan="3">以下の問いに○か×で答えよ</td> </tr> <tr> <td>氏名:</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>問題1</td> <td colspan="2">福祉用具は、ADL・QOL向上のために使用するものだ。</td> </tr> <tr> <td>解答1</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>問題2</td> <td colspan="2">車椅子は、安定した座位が取れないといけない。</td> </tr> <tr> <td>解答2</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>問題3</td> <td colspan="2">車椅子は、座位環境が整えば、移乗については考えなくて良い。</td> </tr> <tr> <td>解答3</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>問題4</td> <td colspan="2">車椅子を足でこく場合は、座面の高さが重要だ。</td> </tr> <tr> <td>解答4</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>問題5</td> <td colspan="2">快適な座位のために、骨盤の安定は必要だ。</td> </tr> <tr> <td>解答5</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>問題6</td> <td colspan="2">骨盤が安定していれば、シートクッションは必要ない。</td> </tr> <tr> <td>解答6</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>問題7</td> <td colspan="2">バックサポートはもたれることが出来れば、形状に工夫は必要ない。</td> </tr> <tr> <td>解答7</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>問題8</td> <td colspan="2">姿勢の安定には、側方からのサポートも必要だ。</td> </tr> <tr> <td>解答8</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>問題9</td> <td colspan="2">フットサポート・アームサポートの設置は、座位姿勢に影響を与える。</td> </tr> <tr> <td>解答9</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>問題10</td> <td colspan="2">身体に合った車椅子であれば、じっと長時間座っていても問題ない。</td> </tr> <tr> <td>解答10</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>	カルテ	第 (2/4) 回	2	講師名:	シーティング技術 (応用編)		以下の問いに○か×で答えよ			氏名:			問題1	福祉用具は、ADL・QOL向上のために使用するものだ。		解答1			問題2	車椅子は、安定した座位が取れないといけない。		解答2			問題3	車椅子は、座位環境が整えば、移乗については考えなくて良い。		解答3			問題4	車椅子を足でこく場合は、座面の高さが重要だ。		解答4			問題5	快適な座位のために、骨盤の安定は必要だ。		解答5			問題6	骨盤が安定していれば、シートクッションは必要ない。		解答6			問題7	バックサポートはもたれることが出来れば、形状に工夫は必要ない。		解答7			問題8	姿勢の安定には、側方からのサポートも必要だ。		解答8			問題9	フットサポート・アームサポートの設置は、座位姿勢に影響を与える。		解答9			問題10	身体に合った車椅子であれば、じっと長時間座っていても問題ない。		解答10		
授業シート	第 (2/4) 回	2																																																																																																																																									
講師名:	今回の授業: 車椅子シーティング技術 (応用編)																																																																																																																																										
●シラバス																																																																																																																																											
<p>今後、世界の総人口における65歳以上の高齢者の割合は2060年までに17.6%になると見込まれている。これは、我が国だけの問題ではなく、世界的な課題である。</p> <p>車椅子利用者が毎年増加している中、車椅子の利用者の中には正しい姿勢で座れない、つまり正しい車椅子シーティングができていない人も多い。車椅子の不具合や利用する際に姿勢が悪いなど正しい車椅子シーティングができていないと、腰背疼痛(腰痛)、褥瘡(床ずれ)、皮膚褥瘡(短縮)、括約筋障害(便秘・尿便失禁)、両性性骨痛(骨痛症)、起立性低血圧、自律神経不安定など)になるおそれもある。このような両性性骨痛の予防やケアができることは、車椅子利用者が日常生活をするうえで自立支援を促すために、重要な知識・技術である。現状はそれらを持ちあわせている介護者は多くない状態である。</p> <p>シーティング技術は、発達障害児・若や障害者、高齢者が椅子・車椅子、又は座位保持装置を適切に活用し活動と参加への支援、発達の促進と二次障害の予防、介護者の負担を軽減することである。</p> <p>本講座では、身体機能や構造を理解し、車椅子シーティング技術と福祉用具の開発、手動・電動車椅子の構造や機能とその特徴を理解することでメンテナンス(修理)技術を持ちあわせ、自立支援(ADL)ができる知識を習得することで現在の社会背景に適合することを旨とする。</p>																																																																																																																																											
●今日の授業																																																																																																																																											
●第一ポイント																																																																																																																																											
Q1	ギャップモデルについて	ギャップとは疾患や身体状況だけを指すものではなく、日常生活の中で起こるもの																																																																																																																																									
Q2	車椅子シーティングの目的	車椅子ユーザーが快適な生活を送るために必要なもの																																																																																																																																									
Q3	車椅子のガイドラインについて	車椅子は、ユーザーの身体状況と生活環境に合わせる必要がある																																																																																																																																									
Q4	車椅子に求められる機能	座位、移乗、移動の3つの項目は必ず考える																																																																																																																																									
Q5	快適な座位のポイント	安定した座位を取ること、長時間じっと座り続けられないことが重要																																																																																																																																									
Q6	福祉用具選定のポイント	ユーザーの身体状況だけでなく、住居環境や介護の環境を時間的な要素とともに考える																																																																																																																																									
●参照資料																																																																																																																																											
Q1	PP2																																																																																																																																										
Q2	PP3~4																																																																																																																																										
Q3	PP5~9																																																																																																																																										
Q4	PP10																																																																																																																																										
Q5	PP12~19																																																																																																																																										
Q6	PP20																																																																																																																																										
●授業コメント																																																																																																																																											
障害への対応では、日常生活を送るうえで起こる不都合を解消することが重要。不都合を解消するためには、用具を使用することや、バリアフリー化が手段として考えられる。 標準型車椅子について、膝生角幅が出ているガイドラインには、安定した座位が取れること、乗り降り動作がしやすいこと、転倒しやすいこと、生活環境で使いやすいことが記載されている。最低限として、この3つに合った車椅子を確保していくことが重要。 座位は重要となり、特に快適に安定した状態になることが出来ないと、生活に支障が出たり二次障害が発生するリスクがある。快適な座位のためには、褥瘡の発生、車椅子クッション・バックサポート・サイドサポート・アームサポート・フットレッグサポートが重要な要件となる。また、安定した座位が取れたとしても、長時間同じ姿勢で座り続けることは苦痛となり、動きをもつことも必ず必要になる。																																																																																																																																											
●その他関連																																																																																																																																											
カルテ	第 (2/4) 回	2																																																																																																																																									
講師名:	シーティング技術 (応用編)																																																																																																																																										
以下の問いに○か×で答えよ																																																																																																																																											
氏名:																																																																																																																																											
問題1	福祉用具は、ADL・QOL向上のために使用するものだ。																																																																																																																																										
解答1																																																																																																																																											
問題2	車椅子は、安定した座位が取れないといけない。																																																																																																																																										
解答2																																																																																																																																											
問題3	車椅子は、座位環境が整えば、移乗については考えなくて良い。																																																																																																																																										
解答3																																																																																																																																											
問題4	車椅子を足でこく場合は、座面の高さが重要だ。																																																																																																																																										
解答4																																																																																																																																											
問題5	快適な座位のために、骨盤の安定は必要だ。																																																																																																																																										
解答5																																																																																																																																											
問題6	骨盤が安定していれば、シートクッションは必要ない。																																																																																																																																										
解答6																																																																																																																																											
問題7	バックサポートはもたれることが出来れば、形状に工夫は必要ない。																																																																																																																																										
解答7																																																																																																																																											
問題8	姿勢の安定には、側方からのサポートも必要だ。																																																																																																																																										
解答8																																																																																																																																											
問題9	フットサポート・アームサポートの設置は、座位姿勢に影響を与える。																																																																																																																																										
解答9																																																																																																																																											
問題10	身体に合った車椅子であれば、じっと長時間座っていても問題ない。																																																																																																																																										
解答10																																																																																																																																											

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座

<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">授業シート</td> <td style="width: 40%; text-align: center;">「車椅子の選び方とメンテナンス入門講座」</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">第 (1/12) 回</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td>講師名:</td> <td colspan="3" style="text-align: center;">今回の授業: 車椅子の種類と構造による機能特性 (1)</td> </tr> <tr> <td colspan="4">●シラバス</td> </tr> <tr> <td colspan="4"> <p>今後、世界の総人口における65歳以上の高齢者の割合は2060年までに17.6%になると見込まれている。これは、我が国だけの問題ではなく、世界的な課題である。</p> <p>車椅子利用者が毎年増加している中、車椅子の利用者の中には正しい姿勢で座れない、つまり正しい車椅子シーティングができていない人も多い。車椅子の不具合や利用する際に姿勢が悪いなど正しい車椅子シーティングができていないと、腰背疼痛(腰痛)、褥瘡(床ずれ)、皮膚褥瘡(短縮)、括約筋障害(便秘・尿便失禁)、両性性骨痛(骨痛症)、起立性低血圧、自律神経不安定など)になるおそれもある。このような両性性骨痛の予防やケアができることは、車椅子利用者が日常生活をするうえで自立支援を促すために、重要な知識・技術である。現状はそれらを持ちあわせている介護者は多くない状態である。</p> <p>シーティング技術は、発達障害児・若や障害者、高齢者が椅子・車椅子、又は座位保持装置を適切に活用し活動と参加への支援、発達の促進と二次障害の予防、介護者の負担を軽減することである。</p> <p>本講座では、身体機能や構造を理解し、車椅子シーティング技術と福祉用具の開発、手動・電動車椅子の構造や機能とその特徴を理解することでメンテナンス(修理)技術を持ちあわせ、自立支援(ADL)ができる知識を習得することで現在の社会背景に適合することを旨とする。</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="4">●今日の授業</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">●第一ポイント</td> </tr> <tr> <td style="width: 10%;">Q1</td> <td style="width: 40%;">JIS規格による手動車椅子と電動車椅子の分類</td> <td style="width: 50%;"> 手動車椅子の分類 4種と4種以上の違い </td> </tr> <tr> <td>Q2</td> <td>アシスト機能の種類</td> <td>6種タイプ</td> </tr> <tr> <td>Q3</td> <td>電動車椅子の分類とハンドル形</td> <td>4種タイプ</td> </tr> <tr> <td colspan="4">●車椅子の構造による機能・特性</td> </tr> <tr> <td>Q5</td> <td>座面タイプのメリットデメリット</td> <td>特性と構造</td> </tr> <tr> <td>Q6</td> <td>コックアップタイプのメリットデメリット</td> <td>自立用、介助用</td> </tr> <tr> <td>Q7</td> <td>肘関節タイプのメリットデメリット</td> <td>自立用、介助用、ハンドル形</td> </tr> <tr> <td>Q8</td> <td>持ち手による構造体への負荷</td> <td>動力車と電力</td> </tr> <tr> <td>Q9</td> <td>肘関節タイプのメリットデメリット</td> <td>自立用、介助用</td> </tr> <tr> <td>Q10</td> <td>肘関節タイプの構造体の理解</td> <td>自立用、介助用</td> </tr> <tr> <td colspan="4">●参照資料</td> </tr> <tr> <td>Q11</td> <td>テキストP3~P5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Q12</td> <td>テキストP6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Q13</td> <td>テキストP7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Q14</td> <td>テキストP7~P9</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Q15</td> <td>テキストP12</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Q16</td> <td>テキストP12~P13</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Q17</td> <td>テキストP14</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Q18</td> <td>テキストP14</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Q19</td> <td>テキストP14</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Q20</td> <td>テキストP14</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4">●授業コメント</td> </tr> <tr> <td colspan="4"> 国家規格であるJISを指しとして車椅子が製造されている。JIS規格上での分類とその考え方を理解することが、一般的には、分類による分類でカタログ裏記されている。車椅子を選定するためには、機能それぞれのメリットとデメリットを理解し、優先順位を明確にしなければ有効に使用できる機能の選択が難しい。 車椅子のメンテナンス(=修理)技術を取得するため、車椅子の種類や構造による特性を学ぶ。 国家規格であるJIS上での分類とそれぞれの特性を確認。 カテゴリーの一般的な分類を高め、それぞれのメリットデメリットを確認する。 ・標準タイプ ・肘関節上げ、肘関節タイプ </td> </tr> <tr> <td colspan="4">●その他関連</td> </tr> </table>	授業シート	「車椅子の選び方とメンテナンス入門講座」	第 (1/12) 回	1	講師名:	今回の授業: 車椅子の種類と構造による機能特性 (1)			●シラバス				<p>今後、世界の総人口における65歳以上の高齢者の割合は2060年までに17.6%になると見込まれている。これは、我が国だけの問題ではなく、世界的な課題である。</p> <p>車椅子利用者が毎年増加している中、車椅子の利用者の中には正しい姿勢で座れない、つまり正しい車椅子シーティングができていない人も多い。車椅子の不具合や利用する際に姿勢が悪いなど正しい車椅子シーティングができていないと、腰背疼痛(腰痛)、褥瘡(床ずれ)、皮膚褥瘡(短縮)、括約筋障害(便秘・尿便失禁)、両性性骨痛(骨痛症)、起立性低血圧、自律神経不安定など)になるおそれもある。このような両性性骨痛の予防やケアができることは、車椅子利用者が日常生活をするうえで自立支援を促すために、重要な知識・技術である。現状はそれらを持ちあわせている介護者は多くない状態である。</p> <p>シーティング技術は、発達障害児・若や障害者、高齢者が椅子・車椅子、又は座位保持装置を適切に活用し活動と参加への支援、発達の促進と二次障害の予防、介護者の負担を軽減することである。</p> <p>本講座では、身体機能や構造を理解し、車椅子シーティング技術と福祉用具の開発、手動・電動車椅子の構造や機能とその特徴を理解することでメンテナンス(修理)技術を持ちあわせ、自立支援(ADL)ができる知識を習得することで現在の社会背景に適合することを旨とする。</p>				●今日の授業				●第一ポイント				Q1	JIS規格による手動車椅子と電動車椅子の分類	手動車椅子の分類 4種と4種以上の違い	Q2	アシスト機能の種類	6種タイプ	Q3	電動車椅子の分類とハンドル形	4種タイプ	●車椅子の構造による機能・特性				Q5	座面タイプのメリットデメリット	特性と構造	Q6	コックアップタイプのメリットデメリット	自立用、介助用	Q7	肘関節タイプのメリットデメリット	自立用、介助用、ハンドル形	Q8	持ち手による構造体への負荷	動力車と電力	Q9	肘関節タイプのメリットデメリット	自立用、介助用	Q10	肘関節タイプの構造体の理解	自立用、介助用	●参照資料				Q11	テキストP3~P5		Q12	テキストP6		Q13	テキストP7		Q14	テキストP7~P9		Q15	テキストP12		Q16	テキストP12~P13		Q17	テキストP14		Q18	テキストP14		Q19	テキストP14		Q20	テキストP14		●授業コメント				国家規格であるJISを指しとして車椅子が製造されている。JIS規格上での分類とその考え方を理解することが、一般的には、分類による分類でカタログ裏記されている。車椅子を選定するためには、機能それぞれのメリットとデメリットを理解し、優先順位を明確にしなければ有効に使用できる機能の選択が難しい。 車椅子のメンテナンス(=修理)技術を取得するため、車椅子の種類や構造による特性を学ぶ。 国家規格であるJIS上での分類とそれぞれの特性を確認。 カテゴリーの一般的な分類を高め、それぞれのメリットデメリットを確認する。 ・標準タイプ ・肘関節上げ、肘関節タイプ				●その他関連				<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">カルテ</td> <td style="width: 40%; text-align: center;">第 (1/12) 回</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td>講師名:</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">車椅子の種類と構造による機能特性 (1)</td> </tr> <tr> <td colspan="3">以下の問いに○か×で答えよ</td> </tr> <tr> <td>氏名:</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>問題1</td> <td colspan="2">手動式車椅子は、JIS規格 (JIS T 9201 : 2016) では、大きくは標準用と介助用の二つに分類されている。</td> </tr> <tr> <td>解答1</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>問題2</td> <td colspan="2">八輪車は、特殊形に含まれる。</td> </tr> <tr> <td>解答2</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>問題3</td> <td colspan="2">バッテリーを搭載したアシスト形はモーターがついているが、人的な駆動力・操作力を動力源としているので、電動車椅子ではなく手動車椅子に分類されている。</td> </tr> <tr> <td>解答3</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>問題4</td> <td colspan="2">介助形電動車椅子には、ハンドル形は含まれていない。</td> </tr> <tr> <td>解答4</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>問題5</td> <td colspan="2">手動車椅子の標準形で、取り外しできる部品などの構造がないタイプのメリットは、人体寸法に適合していることである。</td> </tr> <tr> <td>解答5</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>問題6</td> <td colspan="2">コンパクトな車椅子は、支持基底面が小さいため、支持基底面が大きい車椅子と比較すると、転倒リスクが高いと考えられる。</td> </tr> <tr> <td>解答6</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>問題7</td> <td colspan="2">肘関節上げや肘関節ができる車椅子の最も重要なメリットは、保管時にコンパクトになることである。</td> </tr> <tr> <td>解答7</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>問題8</td> <td colspan="2">車椅子を持ち上げる時に正しく持つ部分は、アームサポートである。</td> </tr> <tr> <td>解答8</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>問題9</td> <td colspan="2">肘関節上げや肘関節ができる車椅子は壊れやすいので、使わない方が良い。</td> </tr> <tr> <td>解答9</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>問題10</td> <td colspan="2">肘関節上げや肘関節ができる車椅子で不具合が起きやすい場所は、固定しているピンなどの本体との接合部分である。</td> </tr> <tr> <td>解答10</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>	カルテ	第 (1/12) 回	1	講師名:	車椅子の種類と構造による機能特性 (1)		以下の問いに○か×で答えよ			氏名:			問題1	手動式車椅子は、JIS規格 (JIS T 9201 : 2016) では、大きくは標準用と介助用の二つに分類されている。		解答1			問題2	八輪車は、特殊形に含まれる。		解答2			問題3	バッテリーを搭載したアシスト形はモーターがついているが、人的な駆動力・操作力を動力源としているので、電動車椅子ではなく手動車椅子に分類されている。		解答3			問題4	介助形電動車椅子には、ハンドル形は含まれていない。		解答4			問題5	手動車椅子の標準形で、取り外しできる部品などの構造がないタイプのメリットは、人体寸法に適合していることである。		解答5			問題6	コンパクトな車椅子は、支持基底面が小さいため、支持基底面が大きい車椅子と比較すると、転倒リスクが高いと考えられる。		解答6			問題7	肘関節上げや肘関節ができる車椅子の最も重要なメリットは、保管時にコンパクトになることである。		解答7			問題8	車椅子を持ち上げる時に正しく持つ部分は、アームサポートである。		解答8			問題9	肘関節上げや肘関節ができる車椅子は壊れやすいので、使わない方が良い。		解答9			問題10	肘関節上げや肘関節ができる車椅子で不具合が起きやすい場所は、固定しているピンなどの本体との接合部分である。		解答10		
授業シート	「車椅子の選び方とメンテナンス入門講座」	第 (1/12) 回	1																																																																																																																																																																											
講師名:	今回の授業: 車椅子の種類と構造による機能特性 (1)																																																																																																																																																																													
●シラバス																																																																																																																																																																														
<p>今後、世界の総人口における65歳以上の高齢者の割合は2060年までに17.6%になると見込まれている。これは、我が国だけの問題ではなく、世界的な課題である。</p> <p>車椅子利用者が毎年増加している中、車椅子の利用者の中には正しい姿勢で座れない、つまり正しい車椅子シーティングができていない人も多い。車椅子の不具合や利用する際に姿勢が悪いなど正しい車椅子シーティングができていないと、腰背疼痛(腰痛)、褥瘡(床ずれ)、皮膚褥瘡(短縮)、括約筋障害(便秘・尿便失禁)、両性性骨痛(骨痛症)、起立性低血圧、自律神経不安定など)になるおそれもある。このような両性性骨痛の予防やケアができることは、車椅子利用者が日常生活をするうえで自立支援を促すために、重要な知識・技術である。現状はそれらを持ちあわせている介護者は多くない状態である。</p> <p>シーティング技術は、発達障害児・若や障害者、高齢者が椅子・車椅子、又は座位保持装置を適切に活用し活動と参加への支援、発達の促進と二次障害の予防、介護者の負担を軽減することである。</p> <p>本講座では、身体機能や構造を理解し、車椅子シーティング技術と福祉用具の開発、手動・電動車椅子の構造や機能とその特徴を理解することでメンテナンス(修理)技術を持ちあわせ、自立支援(ADL)ができる知識を習得することで現在の社会背景に適合することを旨とする。</p>																																																																																																																																																																														
●今日の授業																																																																																																																																																																														
●第一ポイント																																																																																																																																																																														
Q1	JIS規格による手動車椅子と電動車椅子の分類	手動車椅子の分類 4種と4種以上の違い																																																																																																																																																																												
Q2	アシスト機能の種類	6種タイプ																																																																																																																																																																												
Q3	電動車椅子の分類とハンドル形	4種タイプ																																																																																																																																																																												
●車椅子の構造による機能・特性																																																																																																																																																																														
Q5	座面タイプのメリットデメリット	特性と構造																																																																																																																																																																												
Q6	コックアップタイプのメリットデメリット	自立用、介助用																																																																																																																																																																												
Q7	肘関節タイプのメリットデメリット	自立用、介助用、ハンドル形																																																																																																																																																																												
Q8	持ち手による構造体への負荷	動力車と電力																																																																																																																																																																												
Q9	肘関節タイプのメリットデメリット	自立用、介助用																																																																																																																																																																												
Q10	肘関節タイプの構造体の理解	自立用、介助用																																																																																																																																																																												
●参照資料																																																																																																																																																																														
Q11	テキストP3~P5																																																																																																																																																																													
Q12	テキストP6																																																																																																																																																																													
Q13	テキストP7																																																																																																																																																																													
Q14	テキストP7~P9																																																																																																																																																																													
Q15	テキストP12																																																																																																																																																																													
Q16	テキストP12~P13																																																																																																																																																																													
Q17	テキストP14																																																																																																																																																																													
Q18	テキストP14																																																																																																																																																																													
Q19	テキストP14																																																																																																																																																																													
Q20	テキストP14																																																																																																																																																																													
●授業コメント																																																																																																																																																																														
国家規格であるJISを指しとして車椅子が製造されている。JIS規格上での分類とその考え方を理解することが、一般的には、分類による分類でカタログ裏記されている。車椅子を選定するためには、機能それぞれのメリットとデメリットを理解し、優先順位を明確にしなければ有効に使用できる機能の選択が難しい。 車椅子のメンテナンス(=修理)技術を取得するため、車椅子の種類や構造による特性を学ぶ。 国家規格であるJIS上での分類とそれぞれの特性を確認。 カテゴリーの一般的な分類を高め、それぞれのメリットデメリットを確認する。 ・標準タイプ ・肘関節上げ、肘関節タイプ																																																																																																																																																																														
●その他関連																																																																																																																																																																														
カルテ	第 (1/12) 回	1																																																																																																																																																																												
講師名:	車椅子の種類と構造による機能特性 (1)																																																																																																																																																																													
以下の問いに○か×で答えよ																																																																																																																																																																														
氏名:																																																																																																																																																																														
問題1	手動式車椅子は、JIS規格 (JIS T 9201 : 2016) では、大きくは標準用と介助用の二つに分類されている。																																																																																																																																																																													
解答1																																																																																																																																																																														
問題2	八輪車は、特殊形に含まれる。																																																																																																																																																																													
解答2																																																																																																																																																																														
問題3	バッテリーを搭載したアシスト形はモーターがついているが、人的な駆動力・操作力を動力源としているので、電動車椅子ではなく手動車椅子に分類されている。																																																																																																																																																																													
解答3																																																																																																																																																																														
問題4	介助形電動車椅子には、ハンドル形は含まれていない。																																																																																																																																																																													
解答4																																																																																																																																																																														
問題5	手動車椅子の標準形で、取り外しできる部品などの構造がないタイプのメリットは、人体寸法に適合していることである。																																																																																																																																																																													
解答5																																																																																																																																																																														
問題6	コンパクトな車椅子は、支持基底面が小さいため、支持基底面が大きい車椅子と比較すると、転倒リスクが高いと考えられる。																																																																																																																																																																													
解答6																																																																																																																																																																														
問題7	肘関節上げや肘関節ができる車椅子の最も重要なメリットは、保管時にコンパクトになることである。																																																																																																																																																																													
解答7																																																																																																																																																																														
問題8	車椅子を持ち上げる時に正しく持つ部分は、アームサポートである。																																																																																																																																																																													
解答8																																																																																																																																																																														
問題9	肘関節上げや肘関節ができる車椅子は壊れやすいので、使わない方が良い。																																																																																																																																																																													
解答9																																																																																																																																																																														
問題10	肘関節上げや肘関節ができる車椅子で不具合が起きやすい場所は、固定しているピンなどの本体との接合部分である。																																																																																																																																																																													
解答10																																																																																																																																																																														

4. 講座アンケートの実施（下記講座のアンケートを実施：アンケート用紙を一部抜粋）

車椅子シーティング技術【基礎編】

◎受講アンケート 氏名 _____

文部科学省委託事業令和2年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」分野横断型リカレント教育プログラムの開発「介護における車椅子シーティングに関する技術習得のための分野横断型リカレント教育プログラムの開発事業」受講アンケートにご記入ください。

◆車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 アンケート 1頁目

1. 1コマ～4コマの授業「前」ごこと以下のそれぞれの表の項目に対して、該当する箇所を「○」を付けてください。

【1コマ目】

◆満足度

	1 満足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不満
テキストの良やすさについて				
授業の進め方やスピードについて				

◆理解度

	1 理解できた	2 まあまあ理解できた	3 あまり理解できなかった	4 理解できなかった
JIS規格による定義について				
車椅子の種類について				
車椅子機能（推・牽行）のメリット・デメリットについて				
車椅子機能（前後ね上げ・脚開閉）のメリット・デメリットについて				

車椅子シーティング技術【応用編】

◎受講アンケート 氏名 _____

文部科学省委託事業令和2年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」分野横断型リカレント教育プログラムの開発「介護における車椅子シーティングに関する技術習得のための分野横断型リカレント教育プログラムの開発事業」受講アンケートにご記入ください。

◆車椅子シーティング【基礎編】 アンケート

1. 1コマ～4コマの授業「前」ごこと以下のそれぞれの表の項目に対して、該当する箇所を「○」を付けてください。

【1コマ目】

◆満足度

	1 満足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不満
テキストの良やすさについて				
授業の進め方やスピードについて				

◆理解度

	1 理解できた	2 まあまあ理解できた	3 あまり理解できなかった	4 理解できなかった
座ることで身体に起こる現象について				
床座りについて				
座面から与えられる影響について				
バックサポートの役割について				
座位による二次障害について				

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座

◎受講アンケート 氏名 _____

文部科学省委託事業令和2年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」分野横断型リカレント教育プログラムの開発「介護における車椅子シーティングに関する技術習得のための分野横断型リカレント教育プログラムの開発事業」受講アンケートにご記入ください。

◆車椅子シーティング【応用編】 アンケート

1. 1コマ～4コマの授業「前」ごこと以下のそれぞれの表の項目に対して、該当する箇所を「○」を付けてください。

【1コマ目】

◆満足度

	1 満足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不満
テキストの良やすさについて				
授業の進め方やスピードについて				

◆理解度

	1 理解できた	2 まあまあ理解できた	3 あまり理解できなかった	4 理解できなかった
車椅子シーティングの目的について				
車椅子の構造知識の整理について				
車椅子シーティングの構造知識について				

【2コマ目】

◆満足度

	1 満足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不満
テキストの良やすさについて				

キャリアデザイン

◎受講アンケート 氏名 _____

文部科学省委託事業令和2年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」分野横断型リカレント教育プログラムの開発「介護における車椅子シーティングに関する技術習得のための分野横断型リカレント教育プログラムの開発事業」受講アンケートにご記入ください。

◆キャリアデザイン編 アンケート

1. 以下のそれぞれの表の項目に対して、該当する箇所を「○」を付けてください。

◆講座の進め方や講師の教え方に対する満足度

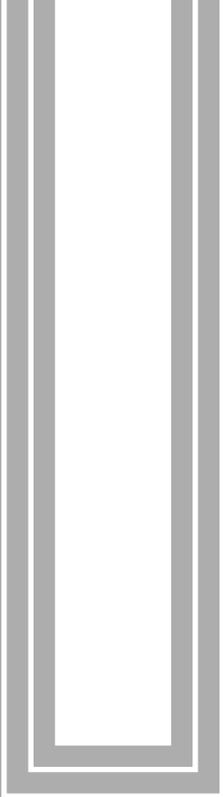
	1 満足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不満
講座の進め方やスピードについて				
講師の教え方はどうでしたか				

◆自分を理解することを目的に、下記表の様式に記入しました。整理できましたか。

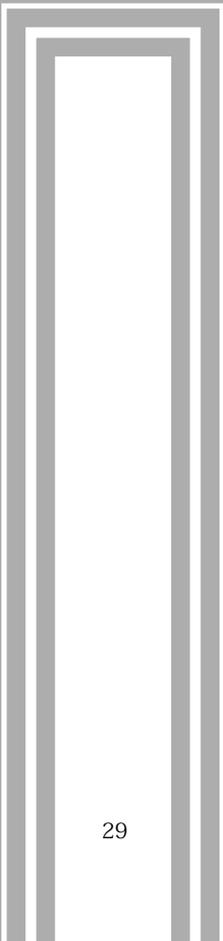
	1 整理できた	2 まあまあ整理できた	3 あまり整理できなかった	4 整理できなかった
自分史作成について				
インタビューシート：記入済みのことについて				
個性・性格について				
強みと弱みについて				
仕事への価値観について				
健康や生活の価値観について				
自分理解のまとめ方について				

5. 実証講座実施日程

講座名称	日時	場所・受講人数
キャリアデザイン前半	令和2年12月21日(月) 14:40~16:10	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 教場 介護福祉学科1年 18名
車椅子の選び方とメンテナンス 入門講座	令和2年12月22日(火) ~24日(木)(3日間) 9:00~16:10	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 教場 介護福祉学科1年 19名
車椅子シーティング技術 【基礎編】	令和3年1月14日(木) 9:00~16:10	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 教場 介護福祉学科1年 18名
車椅子シーティング技術 【応用編】	令和3年1月15日(金) 9:00~16:10	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 教場 介護福祉学科1年 18名
キャリアデザイン後半	令和3年1月18日(月) 14:40~16:10	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 教場 介護福祉学科1年 18名



第3章 実証講座



1. 車椅子の選び方とメンテナンス入門講座

(1) 講座スケジュール

1日目：令和2年12月22日（火）9：00～16：10

場 所：姫路ハーベスト医療福祉専門学校 教場

受講生：介護福祉学科1年生 19名

★車椅子の選び方とメンテナンス入門講座(1日目)

日程	時間	内容
12月22日(火) (90分×4コマ)	9:00～10:30	<p>■車椅子の種類／車椅子の構造による機能特性(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手動車椅子と電動車椅子について学ぶ(JIS規格による定義) ・車椅子機能から見たメリット・デメリット：一般的なカタログで分けられている分類(特別な機能が無い標準型タイプ) ・車椅子機能から見たメリット・デメリット：一般的なカタログで分けられている分類(肘跳ね上げ脚開閉タイプ) <p>【確認テスト10分+解答・解説10分】(計20分程度)</p>
	10:30～10:40	休憩
	10:40～12:10	<p>■車椅子の構造による機能特性(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車椅子機能から見たメリット・デメリット：一般的なカタログで分けられている分類(六輪車) ・車椅子機能から見たメリット・デメリット：一般的なカタログで分けられている分類(モジュールタイプ) ・車椅子機能から見たメリット・デメリット：一般的なカタログで分けられている分類(高性能タイプ) <p>【確認テスト10分+解答・解説10分】(計20分程度)</p>
	12:10～13:00	休憩(昼食)
	13:00～14:30	<p>■車椅子の構造による機能特性(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各車椅子の特性と機能から選定方法を学ぶ。 ・使用目的から見た車椅子のメリット・デメリットを理解する(目的：移動(屋内外等))／(環境要因と対応機能等) ・使用目的から見た車椅子のメリット・デメリットを理解する(目的：座る(長短等))／(環境要因と対応機能等) <p>【確認テスト10分+解答・解説10分】(計20分程度)</p>
	14:30～14:40	休憩
	14:40～16:10	<p>■人体寸法と車椅子寸法の不適合による人体への悪影響(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車椅子を選定する要素となる、適切なニーズ抽出の必要性を学ぶ。 ・福祉用具の入手ルートを理解する。 ・制度を理解する。 ・フィッティングの原理(考え方の基本)を理解する。 ・正しい姿勢の目的を理解する。 <p>【確認テスト10分+解答・解説10分】(計20分程度)</p>
16:10～	アンケート記入	

■講師

一般社団法人日本福祉用具評価センター (JASPEC)

事業部 部長 西山輝之 氏



■講座風景



2日目：令和2年12月23日（水）9：00～16：10

場 所：姫路ハーベスト医療福祉専門学校

受講生：介護福祉学科1年生 18名

くるまいす えら かに にゆらもろうざ かめ
★車椅子の選び方とメンテナンス入門講座(2日目)

日程	時間	内容
がつ にち すい 12月23日(水) ぶん (90分×4コマ)	9:00～10:30	<p>■人体寸法と車椅子寸法の不適合による人体への悪影響(2)</p> <p>くるまいす ざはば よういん じんたい えいきょう まな ・車椅子の座幅を要員とする人体への影響を学ぶ。</p> <p>くるまいす ざおくや よういん じんたい えいきょう まな ・車椅子の座奥行きを要員とする人体への影響を学ぶ。</p> <p>かくにん ぶん かいとう かいせつ ぶん けい ぶんていど 【確認テスト10分+解答・解説10分】(計20分程度)</p>
	10:30～10:40	きゆうけい 休憩
	10:40～12:10	<p>■人体寸法と車椅子寸法の不適合による人体への悪影響(3)</p> <p>くるまいす ざ い かにたいちようしつこうやういん じんたい えいきょう まな ・車椅子の座位下腿長(膝下高)を要因とする人体への影響を学ぶ。</p> <p>くるまいす ざ いちゆうとてう しよういん じんたい えいきょう まな ・車椅子の座位肘頭高(アームサポート)を要因とする人体への影響を学ぶ。</p> <p>たいたいこつけいぶこせつご ざい もんだいてん りかい ・大腿骨頭部骨折後の座位の問題点を理解する。</p> <p>かくにん ぶん かいとう かいせつ ぶん けい ぶんていど 【確認テスト10分+解答・解説10分】(計20分程度)</p>
	12:10～13:00	きゆうけい ちゆうしよく 休憩(尿 食)
	13:00～14:30	<p>■メンテナンス基礎(1)</p> <p>きいん じこじれい ふ もんだいてん まな ・メンテナンスに起因する事故事例を踏まえ、メンテナンスの問題点を学ぶ。</p> <p>せいぞうぶつせきにんぼろ せきにん りかい ・製造物責任法からみる責任を理解する。</p> <p>こうていかんり ひつようせい まな ・メンテナンス工程管理の必要性を学ぶ。</p> <p>かくにん ぶん かいとう かいせつ ぶん けい ぶんていど 【確認テスト10分+解答・解説10分】(計20分程度)</p>
	14:30～14:40	きゆうけい 休憩
14:40～16:10	<p>■メンテナンス基礎(2)</p> <p>こうてとりあつか きげんちしき まな ・工具取扱いのための基本知識を学ぶ。</p> <p>くるまいす きかくしけんほうほう あんぜんせい まな ・車椅子のJIS規格試験方法からみる安全性を学ぶ。</p> <p>かくにん ぶん かいとう かいせつ ぶん けい ぶんていど 【確認テスト10分+解答・解説10分】(計20分程度)</p>	
16:10～	きにゆう アンケート記入	

■講師

一般社団法人日本福祉用具評価センター（JASPEC）

事業部 部長 西山輝之 氏



■ 講座風景



3日目：令和2年12月24日（水）9：00～16：10

場 所：姫路ハーベスト医療福祉専門学校 教場

受講生：介護福祉学科1年生 18名

★車椅子の選び方とメンテナンス入門講座(3日目)

日程	時間	内容
12月24日(木) (90分×4コマ)	9:00～10:30	<p>■メンテナンス基礎(3)</p> <p>点検項目に従った点検確認並びに該当項目の整備。</p> <p><構成フレーム、キャスト、フットサポート、シート、アームサポート></p> <p>【確認テスト10分+解答・解説10分】(計20分程度)</p>
	10:30～10:40	休憩
	10:40～12:10	<p>■メンテナンス基礎(4)</p> <p>点検項目に従った点検項目並びに留意点の確認。</p> <p><車輪、駐车用ブレーキ、制動用ブレーキなど></p> <p>【確認テスト10分+解答・解説10分】(計20分程度)</p>
	12:10～13:00	休憩(昼食)
	13:00～14:30	<p>■メンテナンス基礎(5)</p> <p>点検項目に従った点検確認並びに該当項目の整備。</p> <p><クロスフレーム交点整備></p> <p><フットサポート整備></p> <p><駐车用ブレーキ及び制動用ブレーキ微調整></p> <p><駆動輪(チューブ交換含む)></p> <p>【確認テスト10分+解答・解説10分】(計20分程度)</p>
	14:30～14:40	休憩
	14:40～16:10	<p>■メンテナンス基礎(6)</p> <p>標準形以外の構造を学ぶことで、一般市場に流通している様々な構造を理解する。</p> <p>電動の使用注意点を学ぶ。</p> <p>【確認テスト10分+解答・解説10分】(計20分程度)</p>
16:10～	アンケート記入	

■講師

一般社団法人日本福祉用具評価センター（JASPEC）

事業部 部長 西山輝之 氏



■ 講座風景



(2) 車椅子の選び方とメンテナンス入門講座確認テスト結果

講座名称	車椅子の選び方とメンテナンス入門
時間数	90分×12コマ
期間	令和2年12月22日～23日

NO.	氏名	1コマ		2コマ		3コマ		4コマ		5コマ		6コマ	
		誤	得点	誤	得点	誤	得点	誤	得点	誤	得点	誤	得点
1	〇〇〇〇	2,3,4,5	60	9	90	1,3,9	70	2,3,5,6,8,10	40	1,5,6	70	1,8	80
2	〇〇〇〇	8	90	6,7	80	9,10	80	4,8	80	9	90		100
3	〇〇〇〇	2	90	4,5,6	70	9,10	80		100	9	90		100
4	〇〇〇〇	2	90	4,6,10	70	5,10	80		100	3,4,9	70	2,9	80
5	〇〇〇〇	1,5,10	70	3,6	80	7,9,10	70		100	6	90	6,7,8	70
6	〇〇〇〇	1,5,10	70	4,6,10	70	3,10	80	2,4,6,7,8	50	2,3,4,7,9	50	8,9,10	70
7	〇〇〇〇	4,5,6	70	4,5,6,10	60	7,8	80	4,10	80	5,7,9	70	7,10	80
8	〇〇〇〇	1	90	2,4,5,6,7	50	10	90	6	90	3,9	80	3	90
9	〇〇〇〇	2	90	6	90		100		100	欠席		欠席	
10	〇〇〇〇	2,7	80	4,6	80	10	90		100		100		100
11	〇〇〇〇	1,2,5,7,8	50	4,9	80	3,9	80	6	90		100	6,7,9	70
12	〇〇〇〇	1,4,7	70	6	90	9,10	80		100		100	6	90
13	〇〇〇〇	4	90	6	90	7,10	80		100	9	90		100
14	〇〇〇〇		100	4	90	10	90		100	3,9	80		100
15	〇〇〇〇	1,2,4	70	4,6	80	10	90		100	3,6,9	70	6,7	80
16	〇〇〇〇	1	90	6	90	9,10	80		100		100	6	90
17	〇〇〇〇	1,2,4,7,8	50	2,4,6	70	7,9	80	6	90	3,5,6	70	5	90
18	〇〇〇〇	1,3	80	6	90	9,10	80		100	3,6,9	70		100
19	〇〇〇〇	1,4	80	1	90	10	90		100	9	90		100
	平均		77.9		79.5		82.6		90.5		82.2		88.3

NO.	氏名	7コマ		8コマ		9コマ		10コマ		11コマ		12コマ		平均得点
		誤	得点	誤	得点	誤	得点	誤	得点	誤	得点	誤	得点	
1	〇〇〇〇	1,2,5,6,8,9	40	5,7,8,9	60	5,7,9,10	60	1,6,8	70	4,8,10	70	1,4,6,9,10	50	63.3
2	〇〇〇〇	2	90		100	9	90		100	8	90	1	90	90.0
3	〇〇〇〇	4,7	80		100		100	8	90	9	90		100	90.8
4	〇〇〇〇	1,2,3,6	60		100		100	1,2,3,6,8	50	1,5,6,8,10	50	5	90	78.3
5	〇〇〇〇	2	90	5,7,8,10	60	1,3	80	1,2,5,8,10	50	1,6,10	70	1,5,9	70	75.0
6	〇〇〇〇	2,9,10	70	4,5,8	70	1,10	80	1,5,8,10	60	4,5,6	70	1,6,7,9	60	66.7
7	〇〇〇〇	2,3	80	2,3,10	70	2,10	80	1,3,6	70	2,3,5,6	60	4,7,9	70	72.5
8	〇〇〇〇	2	90	5	90	5	90	1	90	1,6	80	4,5	80	84.2
9	〇〇〇〇	欠席			100		100		100	欠席		欠席		97.1
10	〇〇〇〇	2	90	4,5	80		100	10	90		100	9	90	91.7
11	〇〇〇〇	2,9	80	5,7	80	1,2,3	70	1,7	80	10	90	5,8	80	79.2
12	〇〇〇〇	2,9	80	5,7	80	3	90	1,9	80	5	90	2,4,5,9,10	50	83.3
13	〇〇〇〇	8	90	5,7	80		100	1,5	80	3	90	5	90	90.0
14	〇〇〇〇	2,7	80		100		100		100	3,9	80	9	90	92.5
15	〇〇〇〇		100	8	90	1,7	80	1,3,6,8,9,10	40		100	2,9	80	81.7
16	〇〇〇〇	2	90	7	90		100	1,4	80	6	90		100	91.7
17	〇〇〇〇	6,9	80	7,8	80	1	90	1,6,9,10	60	3,4,8,9	60	1,2,5	70	74.2
18	〇〇〇〇	2	90	4,8	80		100	1	90	6	90	8	90	88.3
19	〇〇〇〇	2	90		100		100		100	3,8,9	70	9	90	91.7
	平均		81.7		84.7		90.0		77.9		80.0		80.0	82.9

■正答率（1 コマ）

N=19

NO.	問題文	正答率
1	手動式車椅子は、JIS規格（JIS T 9201：2016）では、大きくは標準用と介助用の二つに分類されている。	47.4%
2	六輪車は、特殊形に含まれる。	57.9%
3	バッテリーを搭載したアシスト形はモーターがついているが、人的な駆動力・操作力を動力源としているので、電動車椅子ではなく手動車椅子に分類されている。	89.5%
4	介助形電動車椅子には、ハンドル形は含まれていない。	63.2%
5	手動車椅子の標準形で、取り外しできる部品などの構造がないタイプのメリットは、人体寸法に適合していることである。	73.7%
6	コンパクトな車椅子は、支持基底面が小さいため、支持基底面が大きい車椅子と比較すると、転倒リスクが高いと考えられる。	94.7%
7	肘跳ね上げや脚開閉ができる車椅子の最も重要なメリットは、保管時にコンパクトになることである。	78.9%
8	車椅子を持ち上げる時に正しく持つ部分は、アームサポートである。	84.2%
9	肘跳ね上げや脚開閉ができる車椅子は壊れやすいので、使わない方が良い。	100%
10	肘跳ね上げや脚開閉ができる車椅子で不具合が起きやすい場所は、固定しているピンなどの本体との接合部分である。	89.5%

■正答率（2 コマ）

N=19

NO.	問題文	正答率
1	六輪タイプの最も大きなメリットは、後輪（駆動輪・主輪）が他の車椅子に比べてかなり前側についており、小回りが利くことである。	94.7%
2	六輪タイプの最も大きなデメリットは、乗り越えられない段差が多く、室内の敷居段差や屋外で使用しにくいことである。	89.5%
3	モジュールタイプの最も大きなメリットは、入手するための費用が安いことである。	94.7%
4	モジュールタイプは誰でも簡単に寸法や形状を変更して構わない。	47.4%
5	モジュールタイプは、車椅子に乗る人や介助で押す人にとって、適切な設定を行えば、一般的な軽量車椅子より、軽く動かせる。	84.2%
6	簡易モジュールの最大のメリットは、その車椅子に乗る人の体重や身長が変わった時に簡易的に寸法を変更させることができることである。	21.1%
7	リクライニングタイプの問題点は、バックサポートを倒したり上げたりする際に、人体が前にずり落ちてしまうことが挙げられる。	89.5%
8	リクライニング機能を持つ車椅子は、前輪と後輪（主輪・駆動輪）までの距離が短いため、小回りが利きやすい。	100%
9	バックサポートを倒すためのレバーが介助者が握るグリップの周辺にあるため、制動用ブレーキレバーと間違える人はいない。	94.7%
10	ティルト機能のメリットは、不安定な座位の補助と、座面以外を含めた圧力分散ができることである。	84.2%

■ 正答率（3 コマ）

N=19

NO.	問題文	正答率
1	目的を明確にしないことで、機能や有効活用されていなかったり、使いにくいままで使用していることがある。	94.7%
2	屋内で使用する車椅子と屋外で使用する車椅子は、座って移動できるのであれば同じものを使用すべきである。	100%
3	屋外で使用するために車椅子にもとめるべき性能は、小回りが利くことである。	84.2%
4	「車椅子を持ち上げるための軽さ」と、「軽く動かせる」というそれぞれの「軽さ」は、車椅子本体の重量が軽ければ同じく「軽い」という意味ではない。	100%
5	移乗頻度が高いのであれば、肘置き跳ね上げ脚開閉タイプの優先順位が高い。	94.7%
6	車椅子と身体寸法が適切ならば、どんな車椅子であっても、クッションを使用する必要はない。	100%
7	同じ場所に座り続けるのであれば、車椅子から移乗して、長時間の座位に適した椅子を使用した方が良い。	84.2%
8	短時間の座位であれば、どんな人であってもクッションを使う必要はない。	100%
9	骨盤と大腿骨とで角度域制限がある場合に最も適した機能がある車椅子は、リクライニングタイプである。	52.6%
10	バックサポートと座面の角度を変える機能をティルト機能という。	26.3%

■ 正答率（4 コマ）

N=19

NO.	問題文	正答率
1	車椅子のサイズを選定するためには、身長と体重だけを確認していれば問題はない。	100%
2	アームサポートの高さを選定するために、座位肘頭高を確認した。	89.5%
3	車椅子に求めるべき最も大きな要因は、本体重量の軽さである。	94.7%
4	車椅子を入手する方法は、一般購入だけでなく、社会福祉制度による貸与や給付などもある。	84.2%
5	人体寸法とのフィッティングが不適切だと、二次障害を引き起こす可能性がある。	94.7%
6	使用環境とのフィッティングを考慮し、舗装道路ではない使用場所が多かったので、タイヤの小さい機種を選定した。	73.7%
7	使用目的とのフィッティングを考慮し、ベッドからトイレへ行く目的に適した車椅子として、ティルトリクライニングタイプの車椅子を選定した。	94.7%
8	座位での正しい姿勢は、かかと・ひざ・大転子の三ヶ所が90度であることとされている。	89.5%
9	リラックスを目的とした場合の姿勢に求める要件には、体重の圧ができるだけ分散していることも含まれる。	100%
10	どんな身体状況の人にとっても、三ヶ所の90度である正しい座位を行うようにしなければならない。	94.7%

■正答率（5 コマ）

n=18

NO.	問題文	正答率
1	右足を上にして足を組んで座ると、下になる左足側に、座面の圧力が高まる。	94.4%
2	長期間、一方向だけの「問題1の姿勢」を続けていることで、側弯のまま関節の柔軟性が無くなり、元に戻せなくなることで、自立した立位ができなくなる可能性がある。	94.4%
3	40cm幅の車椅子で、サイドガードが内側についている機種の場合、大転子部分での座幅は約36cmになる。	61.1%
4	人が座った時のお尻で一番幅が広い部分の名称を、座位臀幅(ざいでんぷく)と言う。	88.9%
5	人体の座位臀幅プラス約3cm程度が、車椅子の適切な座幅とされている。	83.3%
6	人体の座底長の寸法と、同じ奥行き長さの車椅子を選ぶことが重要である。	77.8%
7	前滑り座りの原因の一つに、座底長と車椅子座奥行きのとフィッティングの不具合がある。	88.9%
8	膝裏の腱が車椅子の座シート先端と当たっていても、シートは布なので問題ない。	100%
9	市販されている大半の車椅子は、座幅と座奥行きが同じ寸法で流通している。	38.9%
10	人体寸法に適した車椅子の座奥行きは、座底長マイナス10cmである。	100%

■正答率（6 コマ）

n=18

NO.	問題文	正答率
1	車椅子を使い始める時、新品であれば、フットサポートの長さを調整する必要はない。	94.4%
2	人体の座位下腿長(膝窩高)より、フットサポートが短い場合は、坐骨部分の圧が高まる。	94.4%
3	座位下腿長に合わせてフットサポートの長さ調節を行った結果、地面からフットサポート最下部までの距離が、地面に当たることのない3cmの隙間が確保した状態に調整をした。	94.4%
4	アームサポートの必要理由は、①立ち上がり並びに座り込み時の支え、②腕休め、③補強の、三つが挙げられる。	100%
5	座幅が適切な状態であり、アームサポートの高さ設定が適切であれば、特別な身体状況である場合を除き、胸郭が開き、呼吸がしやすい状態になっている。	94.4%
6	適切なアームサポートの高さの目安は、座位肘頭高マイナス2cmである。	72.2%
7	大腿骨と骨盤の角度に制限がある場合は、大腿骨頸部骨折による人工骨頭置換術を行ったという既往歴があることが考えられる。	77.8%
8	片側に股関節可動域制限がある人が背角度調整機能のない車椅子に座ると、上半身をねじって座っている姿勢になりやすい。	83.3%
9	片側に関節角度制限がある人が座る車椅子に適している機能は、リクライニング機能で座面と背角度を広げるだけで良い。	83.3%
10	バックサポートが倒せる機能を使うのであれば、ヘッドサポートも必要と考えるべきである。	88.9%

■ 正答率（7 コマ）

n=18

NO.	問題文	正答率
1	長年使用している製品が、使用を繰り返すうちにねじが緩んだ場合、製品に起因する事故なので、製造業者が責任を負う。	88.9%
2	製品に起因する事故なのか、不適切な整備に起因する事故なのかを判断する場合は、「製品自体が不良品ではなかったのか」を確認する。	22.2%
3	製造物責任法での「製造業者」には、「当該製造物を業として製造、加工又は輸入した者」と記述されている。	88.9%
4	事故の原因は、「使い方による事故（ヒューマンエラーが起因）」、「製品の設計や製造過程による欠陥による事故（マシンエラー）」の二点が挙げられる。	94.4%
5	点検整備を行っていなければ、整備に問題があることにならない。	94.4%
6	適切な整備をするための文書は、作るだけでなく、誰もが常に見ることができる状態にしておかなければ意味がない。	83.3%
7	直接指導を受けたことが証明できるのであれば、指導を受けた者は全員が整備して構わない。	88.9%
8	点検をした際に、廃棄と判断しなければならないことがある。	88.9%
9	整備をすれば、検査によって、廃棄となることはない。	72.2%
10	整備後の検査で、良品と判断されても、長期保管後であれば、改めて検査を行うべきである。	94.4%

■ 正答率（8 コマ）

N=19

NO.	問題文	正答率
1	スパナは回す方向を考慮し、めがねの丸になった部分に角度がついている。	100%
2	ドライバーは、回す力より、押し付ける力を強く行うことで、ねじの頭の溝を潰しにくくなる。	94.7%
3	六角レンチのポールポイントは、どんな状況でも、ネジ穴に斜めに入れて使うことができる。	94.7%
4	緩み止めナットは何度でも使用できる。	84.2%
5	本体にねじを入れた際、反対側の順番は、①緩み止め防止のスプリングワッシャー②ワッシャー③ナットという順番になる。	57.9%
6	スプリングワッシャーは金属疲労によって劣化すると、緩み止めの効果が無くなってしまうので、交換が必要となる。	100%
7	JIS T 9201:2016の中にある「機能試験」には、静止力試験が含まれており、内容は制動用ブレーキの効きを確認する内容である。	68.4%
8	JIS T 9201:2016の中にある「耐衝撃性試験」に含まれている、「バックサポート斜め耐衝撃試験」は、車椅子を開閉するときの衝撃による耐性を確認する内容である。	68.4%
9	JIS T 9201:2016の中にある工学的試験方法は、「機能試験」「耐衝撃性試験」「強度試験」「耐久性試験」の四種類がある。	94.7%
10	制動力試験を行う場合は、その車椅子を使用する人体を想定したダミーを載せて試験を行う。	89.5%

■正答率（9 コマ）

N=19

NO.	問題文	正答率
1	車椅子の折りたたみフレームは、強度を保つため、全てダブルブレースの構造になっている。	73.7%
2	クロスパイプ交点が緩んだままで使用していると、老朽化が加速する。	89.5%
3	キャストの回転がスムーズでない場合は、潤滑剤を差して、回転を良くしなければならない。	84.2%
4	キャストフォークの高さ調整を行う場合は、後輪（主輪・駆動輪）の車軸位置も同時に行い、ハウジングが地面に鉛直になっていなければならない。	100%
5	ウェッジ式のフットサポートの高さ調節を行う場合、直下の地面から、最低5cm以上空いていることは、日本の道路構造から考えても、必要であるといえる。	89.5%
6	フットプレートの向きにズレがあったが工具を使わずとも動いたので、力でズレを直した。	100%
7	シートが汚れたからといって、ホースの水で洗い流して天日で乾かすという作業は、しない方がよい。	89.5%
8	バックサポート、シート、レッグサポートには向きがある。	100%
9	アームサポートのアームパッドは、どの部品でも、左右どちらでも使用できる。	89.5%
10	アームパッドのきずは、見栄えが悪いため、交換が必要。	84.2%

■正答率（10 コマ）

N=19

NO.	問題文	正答率
1	タイヤの空気が減っていたので、タイヤ側面の適正空気圧の数値を確認し、ポンプの目盛りで空気圧を確認しながら、適正空気圧まで入れた。	31.6%
2	PSI表記の場合、その数値を5倍すれば、概ねkPaの数値になる。	89.5%
3	虫ゴムタイプのプランジャは使用されているタイヤに空気を入れる場合は、ポンプの目盛りに概ね130kPa追加して入れる。	84.2%
4	ノーパンクタイヤは、空気が減ることがないので、点検は、摩耗によるすり減りの状態だけを確認すればよい。	94.7%
5	後輪（主輪・駆動輪）を本体から分離する時は、絶対にボルトを回してはいけない。	84.2%
6	駐車用ブレーキの効きが悪くなっていたので、まず、後輪（主輪・駆動輪）の空気を適正空気圧まで追加した。	73.7%
7	駐車用ブレーキ本体を部品交換する場合は、左右のどちらを交換するのかが確認する必要がある。	94.7%
8	適正空気圧で適切に効いている駐車用ブレーキだが、使用者の握力（腕力）が弱く、使いにくかったため、その使用者が使えるようにレバーの固さを柔らかくした。	73.7%
9	一般的な制動用ブレーキには、締め付けて回転を抑えるバンド式と、広げて押し付けることで回転を抑えるドラム式がある。	84.2%
10	制動用ブレーキのワイヤーは、アウターとインナーの組み合わせの構造となっている。アウターがほつれていることで、錆びが付きやすくなる。	78.9%

■正答率（11コマ）

n=18

NO.	問題文	正答率
1	ダブルブレースの場合、増し締めと供回りを確認する場所は、8ヶ所である。	83.3%
2	ウェッジ式の高さ調節を工具を使って行った後で、フットプレートのズレがあったため。工具で一旦緩めて調整し、改めて工具で締めて、固定状態の確認をした。	94.4%
3	駐車用ブレーキの効きが悪かったので、まず、プランジャを確認し、適正空気圧を入れた。	72.2%
4	取り付け方（取付前後位置ではなく）を間違ふことで、タイヤを正しく押さえることができなくなることがある。	83.3%
5	車椅子に乗っている人の握力（腕力）が弱く、駐車用ブレーキレバーを使って静止させることができなかつたため、取付位置をずらして、その人が使える部分まで緩めた。	77.8%
6	ドラム式の制動用ブレーキの効きが悪かったので、まず、プランジャを確認し、適正空気圧を入れた。	61.1%
7	制動用ブレーキで片側の効きが悪かつたが、反対側が十分効いているので、そのまま使用を続けることにした。	100%
8	タイヤを浮かせて勢いよく回し、制動用ブレーキレバーを握つたら、瞬間的に回転が止まつたため、効きとして正常であるという判断をした。	72.2%
9	制動用ブレーキの効き確認の時には、アウターワイヤーがきちんとはまっているかどうかを確認する場所が2ヶ所ある。	77.8%
10	制動用ブレーキの効き確認をする時には、グリップと制動用ブレーキレバーに隙間が無い状態まで、しっかり握り込んで確認をする。	77.8%

■正答率（12コマ）

n=18

NO.	問題文	正答率
1	6輪車の場合、6輪が地面に接地していることで、安定性を保っている。	72.2%
2	ティルト機能とは、背もたれだけを倒す機能という意味である。	83.3%
3	自動ブレーキが機能としてついている車椅子であつたとしても、クッションを使用したり、構造に不備がおきると、自動でブレーキが効かなくなるため、注意が必要である。	100%
4	工具が無くても駆動輪を外せる機構の名称を、クイックリリースという。	77.8%
5	足踏みブレーキは、駐車用ブレーキではなく、制動用ブレーキである。	61.1%
6	ワンハンドブレーキは両手で駐車用ブレーキを操作できない人が、片手で停止できる機構である。	88.9%
7	背張り座張りベルトを適切に活用するためには、シーティングの理解が必要である。	88.9%
8	クッションは、主たる使用目的として、「体圧分散」と「姿勢保持」に大別して考えると理解しやすい。	88.9%
9	電動車椅子を乗って操作をせずに移動する場合、ブレーキレバーを解除しなければ、動かすことは難しい。	50.0%
10	ハンドル形電動車椅子で、電車（通勤型一般車両）への乗り込みは、拒否されない。	88.9%

■考察

確認テストの全体平均は、82.9点で、18名中2名が合格とする70点に満たない結果となった。全体的に、特に正答率が低かったところ（正答率50%未満）は以下の通りである。

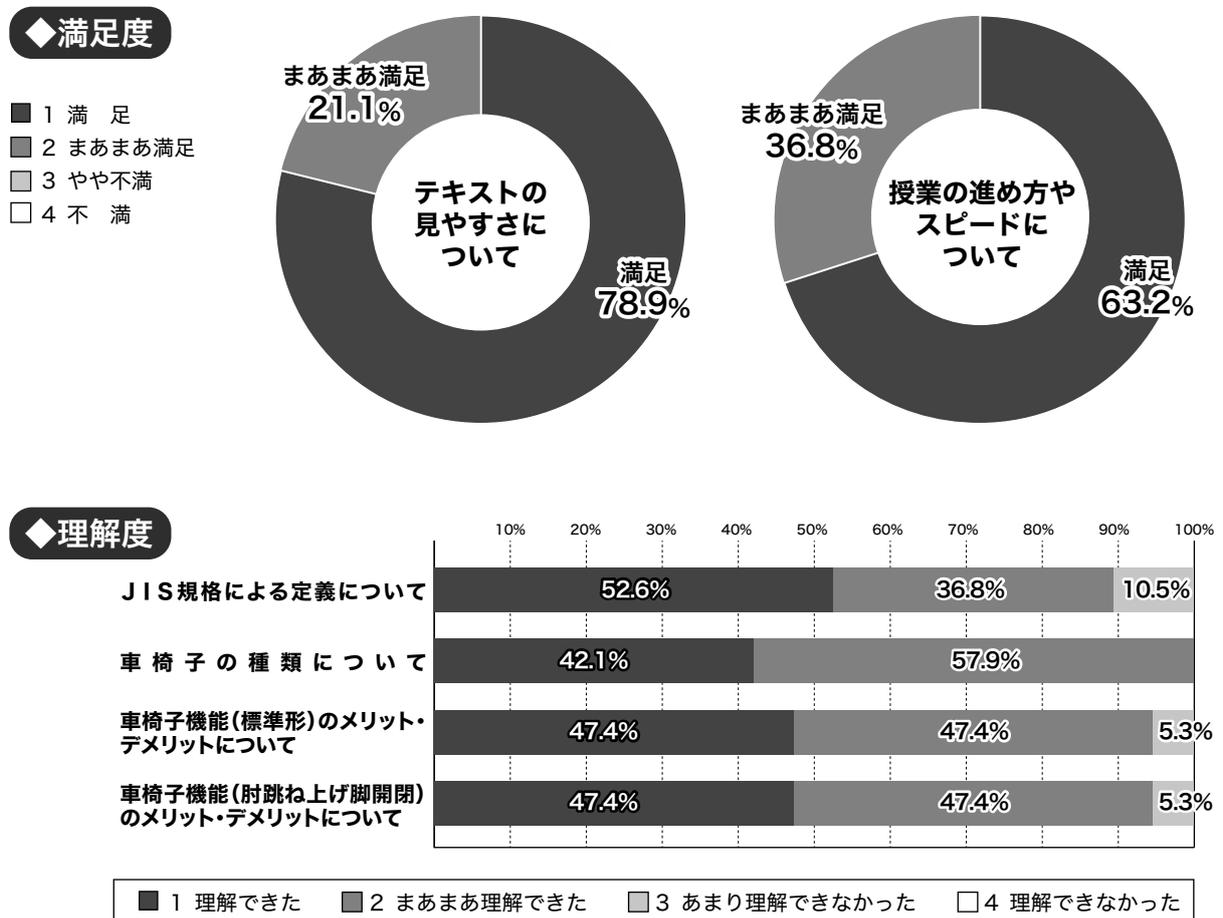
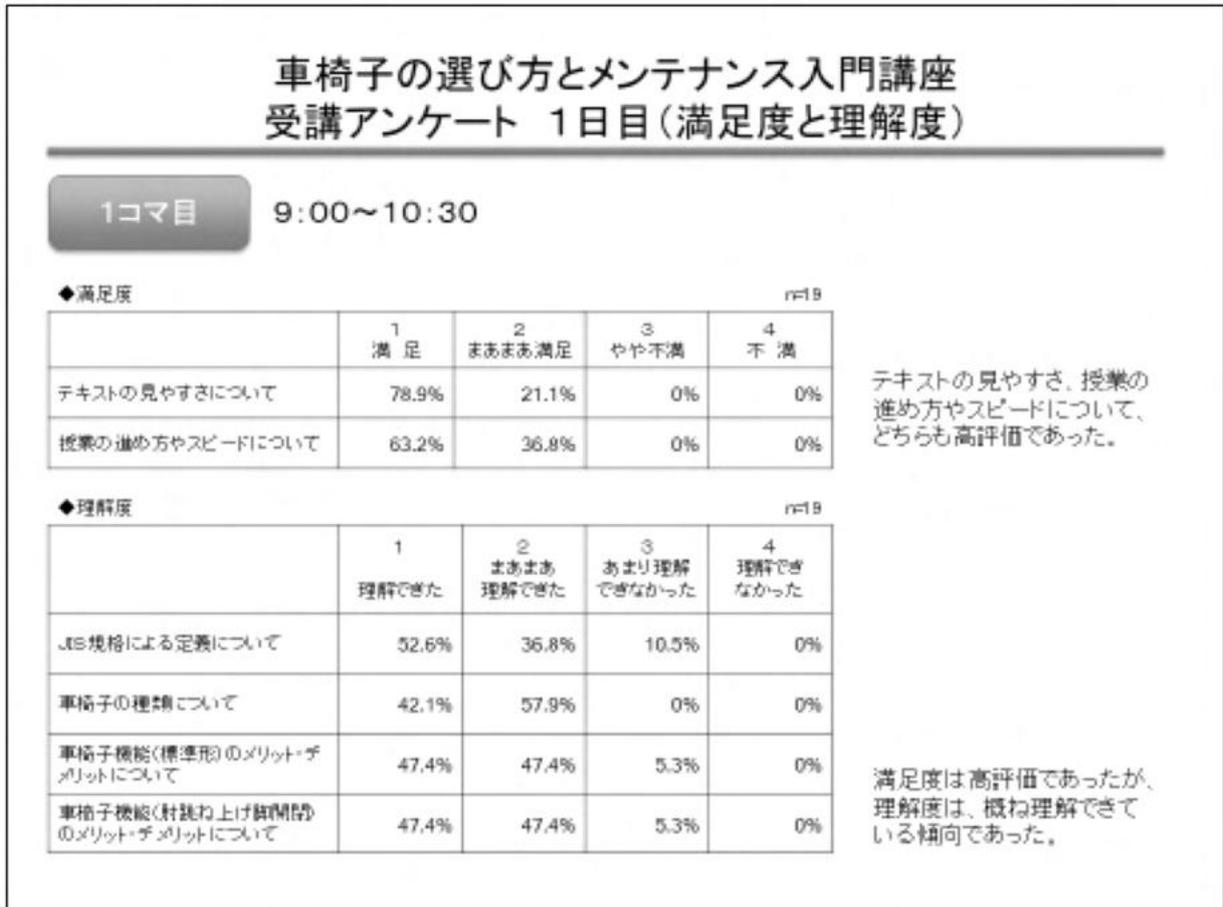
コマ	出題・正答率
1コマ目	第1問（正答率47.4%）
2コマ目	第4問（正答率47.4%）
	第6問（正答率21.1%）
3コマ目	第10問（正答率26.3%）
5コマ目	第9問（正答率38.9%）
7コマ目	第2問（正答率22.2%）
10コマ目	第1問（正答率31.6%）

確認テストの正答率が低いところは、ある程度テキストを読み込んで、正解を導き出すところである。正解を見つけ出し方ができない受講生が多かった。その他のところについては、正答率70%以上が多く、全体を通してみると、理解している傾向となっている。

一方、アンケート結果から見ると、問題の該当する理解度の箇所では、1コマ目の52.6%を除いての理解度は、全て「理解できた」が50%未満であった。

「理解できた」「まあまあ理解できた」に回答した割合は全て80%を超えていたが、その中には、ある程度理解できたとの思い込みで回答していると思われる。実際には、「あまり理解できなかった」が複数名入っており、その結果の表れとなったと考えさせられた結果となった。講座の内容や進め方を再度見直す必要があると考えられる。

(3) アンケート結果



車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 1日目(満足度と理解度)

2コマ目

10:40~12:10

◆満足度

n=19

	1 満 足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不 満
テキストの見やすさについて	68.4%	31.6%	0%	0%
授業の進め方やスピードについて	68.4%	21.1%	10.5%	0%

テキストの見やすさ、授業の進め方やスピードについて、どちらも高評価であったが、授業の進め方やスピードは検討が必要と考える。

◆理解度

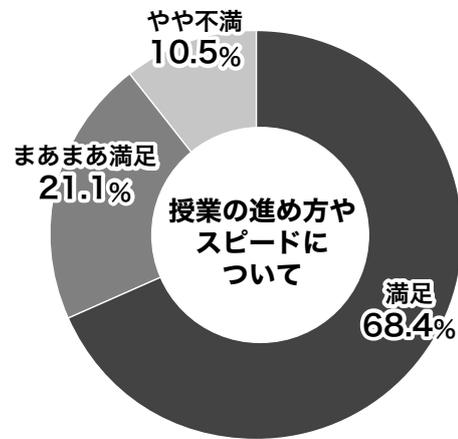
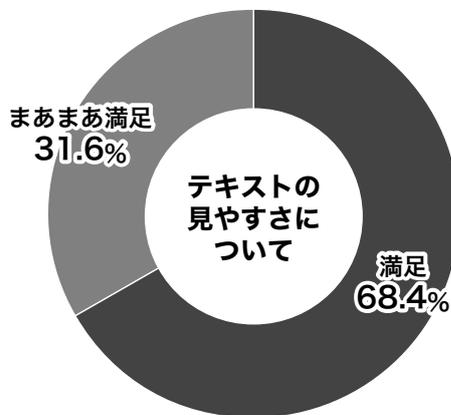
n=19

	1 理解できた	2 まあまあ理解できた	3 あまり理解できなかった	4 理解できなかった
車椅子機能(六輪車)のメリット・デメリットについて	52.6%	47.4%	0%	0%
車椅子機能(モジュール)のメリット・デメリットについて	26.3%	68.4%	5.3%	0%
車椅子機能(高機能)のメリット・デメリットについて	36.8%	57.9%	5.3%	0%

モジュールや高機能の車椅子機能については、普段の学校教育での馴染が無いこともあり、理解できる状態になった程度と思われる。

◆満足度

- 1 満 足
- 2 まあまあ満足
- 3 やや不満
- 4 不 満



◆理解度

車椅子機能(六輪車)のメリット・デメリットについて

10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



車椅子機能(モジュール)のメリット・デメリットについて



車椅子機能(高機能)のメリット・デメリットについて



- 1 理解できた
- 2 まあまあ理解できた
- 3 あまり理解できなかった
- 4 理解できなかった

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 1日目(満足度と理解度)

3コマ目

13:00~14:30

◆満足度

n=19

	1 満 足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不 満
テキストの見やすさについて	63.2%	36.8%	0%	0%
授業の進め方やスピードについて	68.4%	21.1%	10.5%	0%

テキストの見やすさは高評価であったが、授業の進め方やスピードについては、検討が必要と考える。

◆理解度

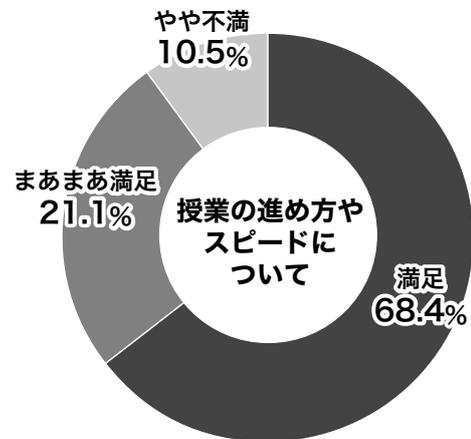
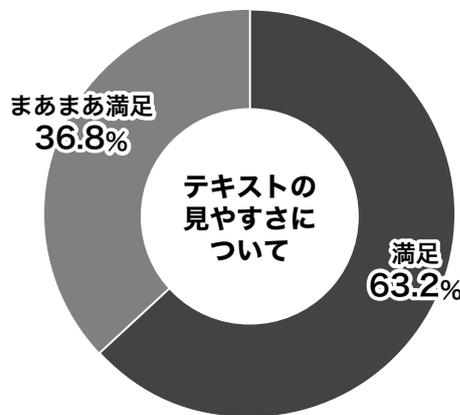
n=19

	1 理解できた	2 まあまあ理解できた	3 あまり理解できなかった	4 理解できなかった
車椅子使用目的(移動:屋内外等)のメリット・デメリットについて	47.4%	52.6%	0%	0%
車椅子使用目的(移動:環境要因と対応機能等)のメリット・デメリットについて	31.6%	63.2%	5.3%	0%
車椅子使用目的(座る:長短 等)のメリット・デメリットについて	47.4%	47.4%	5.3%	0%
車椅子使用目的(座る:環境要因と対応機能等)のメリット・デメリットについて	47.4%	47.4%	5.3%	0%

授業の進め方やスピードは満足度は高い方であったが、満足度の考察の通り、進め方やスピードが影響したのか、理解度は理解できる状況のようである。

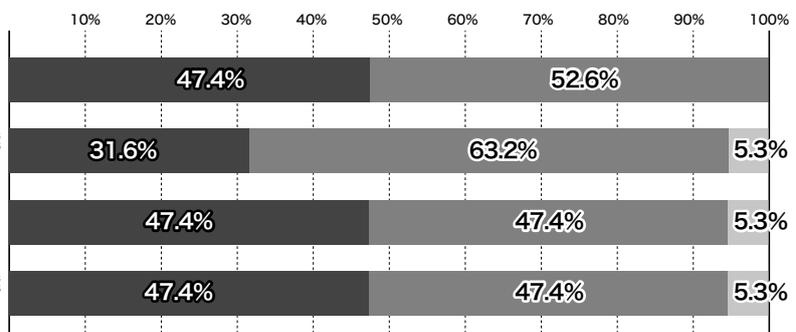
◆満足度

- 1 満 足
- 2 まあまあ満足
- 3 やや不満
- 4 不 満



◆理解度

- 1 理解できた
- 2 まあまあ理解できた
- 3 あまり理解できなかった
- 4 理解できなかった



- 1 理解できた
- 2 まあまあ理解できた
- 3 あまり理解できなかった
- 4 理解できなかった

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 1日目(満足度と理解度)

4コマ目

14:40~16:10

◆満足度

n=19

	1 満 足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不 満
テキストの見やすさについて	68.4%	31.6%	0%	0%
授業の進め方やスピードについて	68.4%	26.3%	5.3%	0%

テキストの見やすさ、授業の進め方やスピードは、どちらも高評価であった。

◆理解度

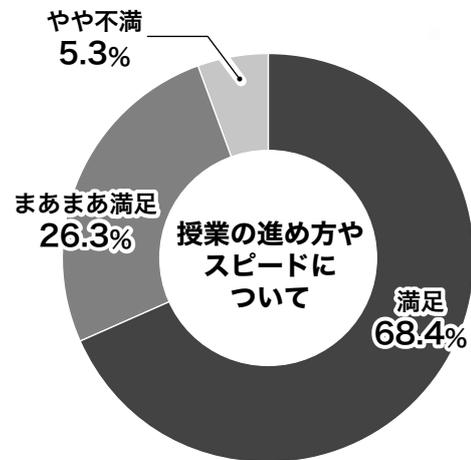
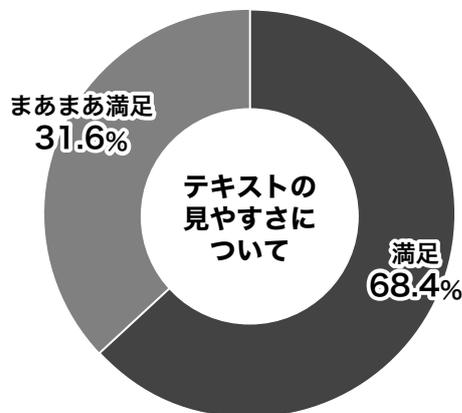
n=19

	1 理解できた	2 まあまあ理解できた	3 あまり理解できなかった	4 理解できなかった
車椅子の適切な選定について	31.6%	63.2%	5.3%	0%
入手ルート、制度について	42.1%	52.6%	5.3%	0%
フィッティングの原理について	47.4%	42.1%	10.5%	0%
正しい姿勢の目的について	57.9%	42.1%	0%	0%

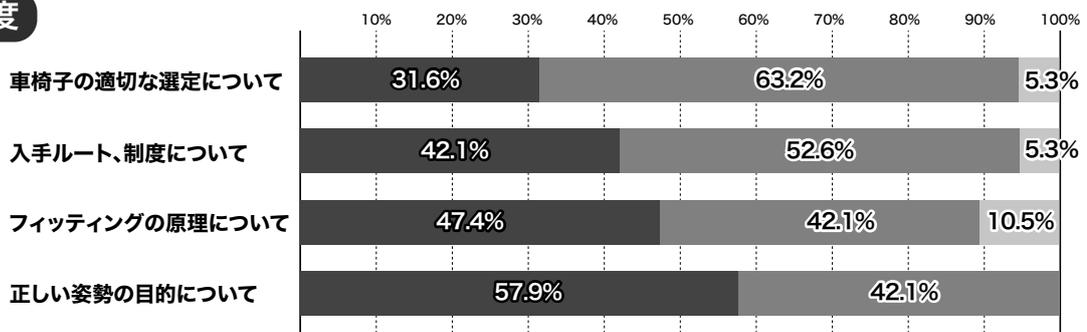
テキストと授業の進め方やスピードの満足度は高かったが、理解度は理解できる状態と考える。

◆満足度

- 1 満 足
- 2 まあまあ満足
- 3 やや不満
- 4 不 満



◆理解度



- 1 理解できた
- 2 まあまあ理解できた
- 3 あまり理解できなかった
- 4 理解できなかった

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 1日目(講師の教え方と興味・関心)

講師の教え方

	n=19			
	1 満 足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不 満
講師の教え方はどうでしたか	63.2%	36.8%	0%	0%

全員から講師の教え方に満足との回答が得られた。

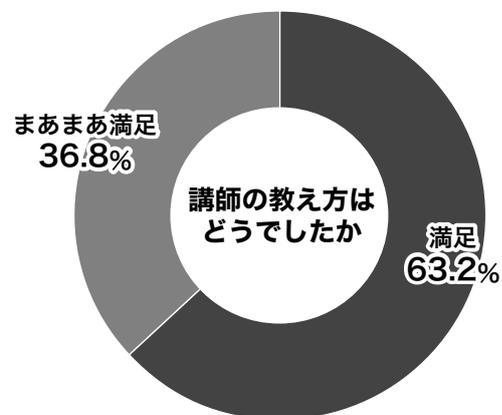
興味・関心

	n=19			
	1 できた	2 まあまあできた	3 あまりできてなかった	4 できてなかった
興味・関心について	52.6%	47.4%	0%	0%

全員が車椅子に関する興味・関心ができた。

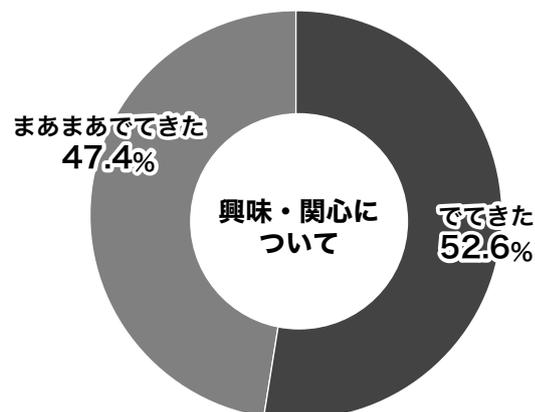
◆満足度

- 1 満 足
- 2 まあまあ満足
- 3 やや不満
- 4 不 満



◆興味・関心

- 1 できた
- 2 まあまあできた
- 3 あまりできてなかった
- 4 できてなかった



車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 1日目(考え方が変わったこと)

回答

- ・車椅子のフィッティングがとても重要だと分かった。
- ・車椅子の選び方が大切ということ。
- ・車椅子の正しい使い方の大切さを感じた。
- ・車椅子は人によって選ぶものが違う(優先順位をつける)。
- ・講義が始まる前の車椅子の印象ととても違う印象をうけた。
- ・乗り方や使用環境によって車椅子を選定することを分かって、もう少し学びたいと思った。
- ・車椅子1つで利用者の生活が変わるということを知った。
- ・これから利用者の状況によって、正しい車椅子をちゃんと選んで支援していきたいと考えられた。
- ・車椅子を買う際には、その人の状況にあったものを選ぶのが大事だと思った。
- ・車椅子は値段が良いのではない。本当にその人にあったものを選ばないと身体状況の悪化につながることを分かった。
- ・車椅子についての考え方。
- ・正しい車椅子の選び方の必要性が分かった。
- ・車椅子の種類と使用者にあった車椅子の選び方。
- ・最近、レンタルで使い始めた。車椅子のタイプを見直してみようと思った。

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 1日目(考え方が変わったこと)

回答

- ・車椅子に関して新しい知識を学んだ。
- ・車椅子の正しい選び方。
- ・車椅子の種類だけでなく、それぞれのメリット・デメリットを知ることができ、興味が出てきたと思う。
- ・車椅子のことについてより詳しくしたので、少し変わった。
- ・今までは車椅子の利用目的など考えてこなかったが、利用者の体格や腕力、使用環境によって違うことを知り、興味が出てきた。

【考察】

車椅子の正しい知識を得る機会となった。

特に、椅子の代わりに座るもの、移動に使う道具として捉えていたことから、車椅子の種類や利用者にとって正しい選び方や使い方があると考え方が変わった機会となった。

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 1日目(講座で得られたもの新しく気づいたこと感じたこと)

回 答

- ・車椅子の選び方が理解できた。
- ・屋内、屋外の車椅子の選択、知らなかったこともあった。
- ・車椅子を正しく使わないとどのような影響があるかを気づいた。
- ・車椅子は使う人や介助する人など立場によって違う。
- ・車椅子の前輪の方向によって、危険な場面と安全な場面が存在することを初めて知った。
- ・車椅子の種類、車椅子の使用目的、車椅子の機能。
- ・車椅子を利用者が使用する際に、危険点、注意点をもっと気づいてきたと感じた。
- ・車椅子の種類、買うときの選び方。
- ・人によって身体の構造・状況は違っているから、一人一人にあわせた車椅子が大切だと分かった。
- ・各車椅子のメリット・デメリットなど。
- ・介護をするための知識がまだまだ足りないと感じた。
- ・車椅子の選定方法、使用注意点。
- ・目的、環境によって車椅子の種類を検討すべきだと学んだこと。
- ・小柄な高齢者に適した車椅子が無いことを理解した。

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 1日目(講座で得られたもの新しく気づいたこと感じたこと)

回 答

- ・正しい姿勢、車椅子の使用目的などを気づいた。
- ・一人一人にあった車椅子をどう選ぶべきかを学んだ。
- ・車椅子のモジュール形について初めて知った。
- ・相手のことを考えて選ぶことに気をつけて行くことは大切なことだと感じた。
- ・車椅子を利用する人の身体的な機能だけでなく、使用する場所や時間などによっても選択肢が変わるということを知った。

【考察】

車椅子を使用する際に、利用者や介助者の立場に寄り添って、使用目的にあった車椅子選び方を考える機会が得られるものとなった。
特に、身体構造や状況により、車椅子の選び方が変わることを学ぶ機会となった。

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 1日目(満たされなかったもの、もっと学びたいこと)

回 答

- ・メンテナンス方法等。
- ・様々な車椅子の機能や正しい使い方についてもっと学びたい。
- ・もっと勉強したいと興味が沸いた。資料を家で読み返す。
- ・全部学びたい。
- ・利用者がどの病気でどの車椅子を使うのがベストかというところ。
- ・適切な車椅子の選び方をもっと学びたい。
- ・車椅子の組み立て方。
- ・一人一人にあった車椅子について。
- ・聞き取れなかった部分がある。
- ・どのような二次障害が考えられるか。その対応方法
- ・カタログの見方、探し方が今ひとつ理解できない。
- ・ティルト機能の車椅子の操作方法を実践をして学びたい。
- ・どのような車椅子の仕組みがあるのかを知りたいと思った。

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 1日目（総合的な満足度 満点100点）

満足度点数表

平均約81.6点

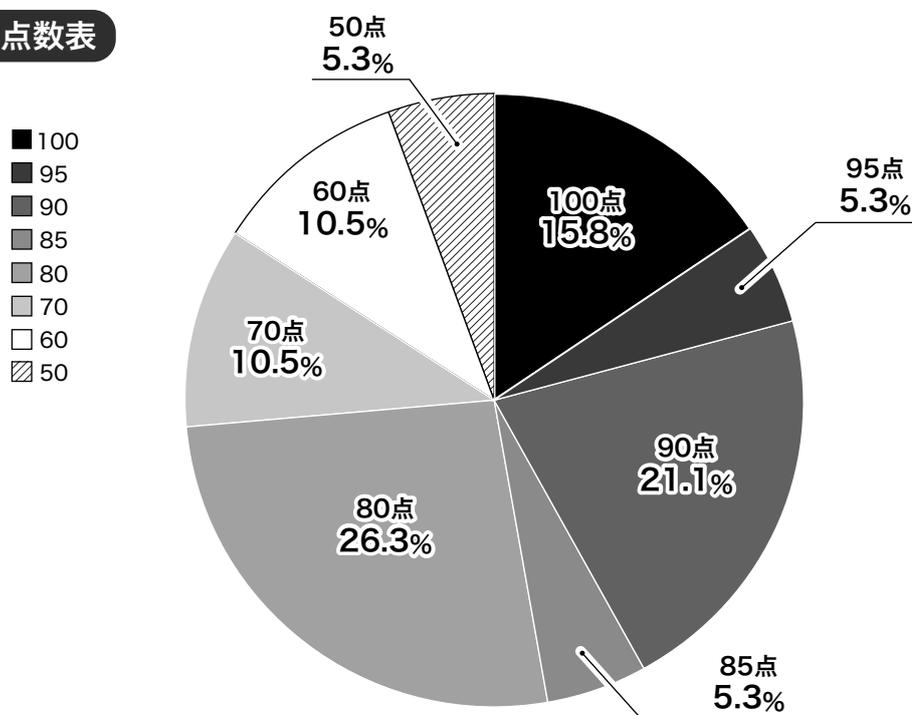
点数	100	95	90	85	80	70	60	50
割合	15.8%	5.3%	21.1%	5.3%	26.3%	10.5%	10.5%	5.3%

【考察】

安全で介護する立場になる気持ちの現われと思われるが、福祉用具の中でも特に使用されている車椅子に興味を持った結果となった。

「聞き取れなかった部分がある」との回答があったが、留学生の声であった。言葉の選び方が課題に残る結果となった。

満足度点数表



車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 1日目(点数の理由)

回 答

- ・車椅子が必要な時に、正しい選択ができるようになった。
- ・全てを理解できなかったから。
- ・様々な車椅子の機能を学べたから。
- ・時間が短く自分がまだ理解できていない部分があるため。
- ・車椅子にとっても興味・関心をもてて、さらに学びたいという意識が出てきたて、自分から知ろうと思って授業に望めたため。
- ・車椅子の細かい機能を知ることができた。
- ・最初はおもしろくて勉強して学ぶことができていたが、安定していない自分の姿勢によって、おもしろいが集中できなかったから。
- ・今日学んだことを復習して理解を深める。
- ・確認テストで少し間違いがあった。
- ・満足できた。
- ・日本語が聞き取れなかった部分がある。
- ・ペースも内容もよかった。
- ・今まで車椅子についてあまり興味はなかったが、興味を持てたから。

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 1日目(点数の理由)

回 答

- ・移動のための福祉用具(歩行器など)との使い方、選び方の違いも理解したかったため。
- ・車椅子を理解するには奥行きがあり、完全に消化した感はないため。
- ・細かく理解できた。
- ・車椅子についての知識が増えたため。
- ・分かったこともあったが、理解が難しいこともあった。
- ・車椅子の種類や特徴を知ることができてよかった。
- ・新しい知識や車椅子についてとても分かりやすく学べたから。

【考察】

総合的に、介護にとって車椅子の知識が必要であるとの必要性が出てきた。新しい知識を習得する楽しさが出てきたと思われる。
「日本語が聞き取れなかった部分がある」との留学生の声や「理解が難しいこともあった」との声があり、言葉の選び方が課題に残る結果となった。

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 2日目(満足度と理解度)

5コマ目

9:00~10:30

◆満足度

n=18

	1 満 足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不 満
テキストの見やすさについて	66.7%	33.3%	0%	0%
授業の進め方やスピードについて	77.8%	22.2%	0%	0%

テキストの見やすさ、授業の進め方やスピードについて、どちらも高評価であった。

◆理解度

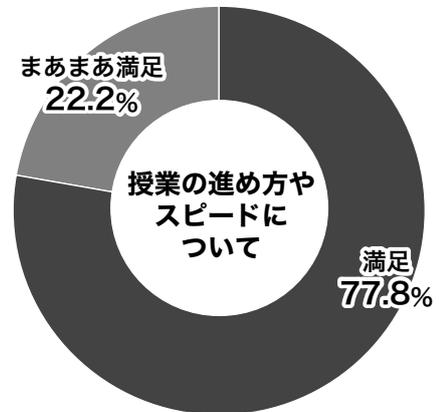
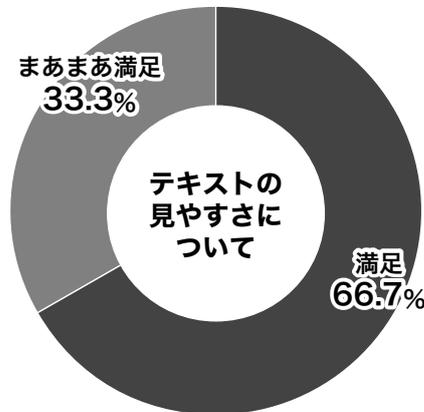
n=18

	1 理解できた	2 まあまあ理解できた	3 あまり理解できなかった	4 理解できなかった
座幅を要因とする人体への影響について	50.0%	50.0%	0%	0%
座奥行きを要因とする人体への影響について	50.0%	50.0%	0%	0%

満足度は高評価であったが、理解度は、概ね理解できている傾向であった。

◆満足度

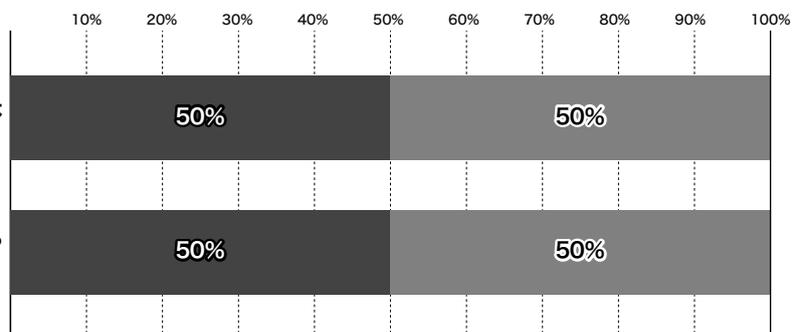
- 1 満 足
- 2 まあまあ満足
- 3 やや不満
- 4 不 満



◆理解度

座幅を要因とする人体への影響について

座奥行きを要因とする人体への影響について



- 1 理解できた
- 2 まあまあ理解できた
- 3 あまり理解できなかった
- 4 理解できなかった

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 2日目(満足度と理解度)

6コマ目

10:40~12:10

◆満足度

n=8

	1 満 足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不 満
テキストの見やすさについて	66.7%	33.3%	0%	0%
授業の進め方やスピードについて	72.2%	27.8%	0%	0%

テキストの見やすさ、授業の進め方やスピードについて、どちらも高評価であったが、授業の進め方やスピードは検討が必要と考える。

◆理解度

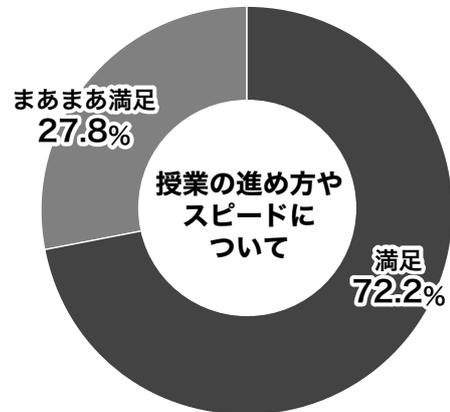
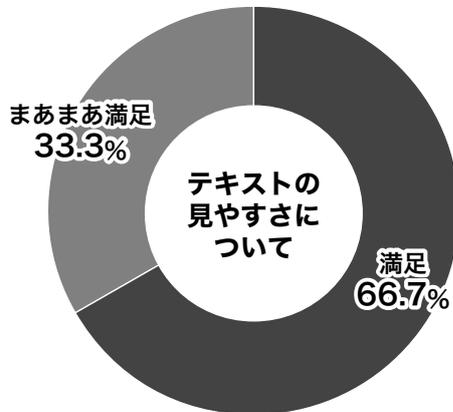
n=8

	1 理解できた	2 まあまあ理解できた	3 あまり理解できなかった	4 理解できなかった
座位下腿長(膝下高)を要因とする人体への影響について	38.9%	61.1%	0%	0%
座位肘頭(アームサポート)を要因とする人体への影響について	38.9%	61.1%	0%	0%
大腿骨頸部骨折後の座位の問題点について	50.0%	50.0%	0%	0%

膝下高やアームサポートの人体への影響が理解度が今ひとつである。理解できる状態になった程度と思われる。

◆満足度

- 1 満 足
- 2 まあまあ満足
- 3 やや不満
- 4 不 満

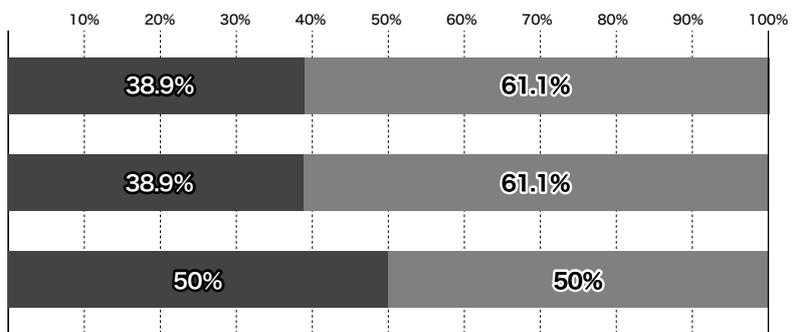


◆理解度

座位下腿長(膝下高)を要因とする人体への影響について

座位肘頭(アームサポート)を要因とする人体への影響について

大腿骨頸部骨折後の座位の問題点について



- 1 理解できた
- 2 まあまあ理解できた
- 3 あまり理解できなかった
- 4 理解できなかった

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 2日目(満足度と理解度)

7コマ目

13:00~14:30

◆満足度

n=8

	1 満 足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不 満
テキストの見やすさについて	61.1%	38.9%	0%	0%
授業の進め方やスピードについて	55.6%	38.9%	5.6%	0%

テキストの見やすさ、授業の進め方やスピードについて、どちらも高評価であった。

◆理解度

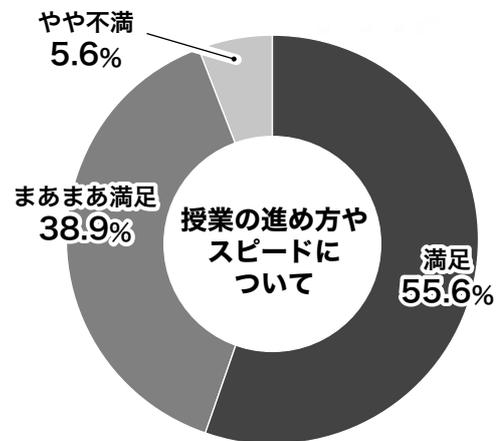
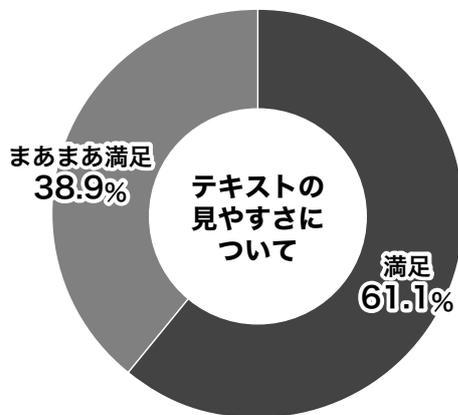
n=8

	1 理解できた	2 まあまあ理解できた	3 あまり理解できなかった	4 理解できなかった
車椅子のメンテナンスの問題点について	44.4%	55.6%	0%	0%
車椅子メンテナンスに携わる責任について	55.6%	38.9%	5.6%	0%
車椅子メンテナンス工程管理の必要性について	61.1%	38.9%	0%	0%

社会人経験がないと具体的に想像できないところかもしれない。検討する必要がある。理解できる状態になった程度と思われる。

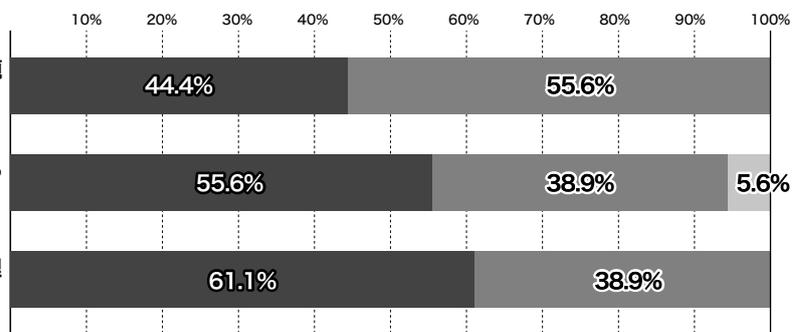
◆満足度

- 1 満 足
- 2 まあまあ満足
- 3 やや不満
- 4 不 満



◆理解度

- 1 理解できた
- 2 まあまあ理解できた
- 3 あまり理解できなかった
- 4 理解できなかった



- 1 理解できた
- 2 まあまあ理解できた
- 3 あまり理解できなかった
- 4 理解できなかった

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 2日目(講師の教え方と興味・関心)

講師の教え方

	1 満 足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不 満
講師の教え方はどうでしたか	63.2%	36.8%	0%	0%

1日目と同じ割合で、全員から講師の教え方に満足との回答が得られた。

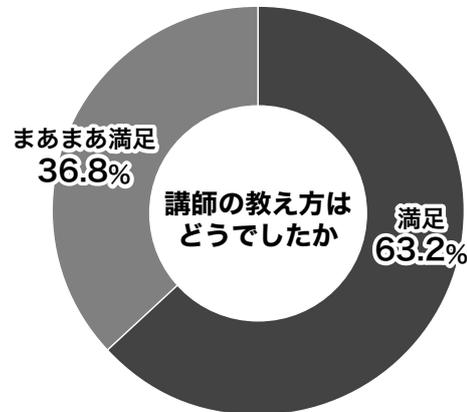
興味・関心

	1 できた	2 まあまあできた	3 あまりできてなかった	4 できてなかった
興味・関心について	63.2%	36.8%	0%	0%

1日目より、全員が車椅子に関する興味・関心が高まった。

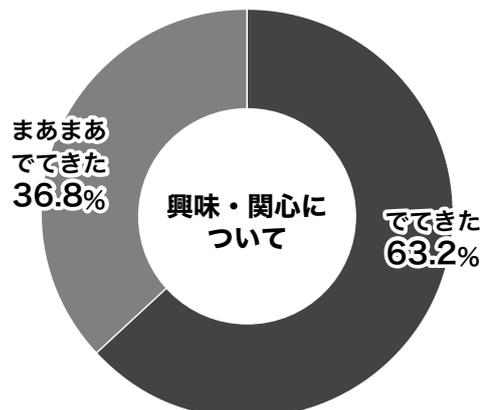
◆満足度

- 1 満 足
- 2 まあまあ満足
- 3 やや不満
- 4 不 満



◆興味・関心

- 1 できた
- 2 まあまあできた
- 3 あまりできてなかった
- 4 できてなかった



車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 2日目(考え方が変わったこと)

回 答

- ・車椅子を正しく使っているのか考えたことは無かったが、使い方、使用上の注意など沢山考えて使用しなければいけないということをととも感じた。
- ・車椅子によるメンテナンスの大切さが分かった。
- ・車椅子のバックサポートが倒れる車椅子を見た時に、考えられたことは、バックサポートの高さ、低さを調整できる車椅子を作られることではないかということ。
- ・車椅子の破損のタイミング、破損の仕方誰が責任を負うかが変わる事。
- ・整備の責任について。
- ・車椅子の正しい取扱いを理解しておかないと、劣化したり、利用者の健康にもつながることが分かった。
- ・工具の使い方があまりよくわからなかったが、ネジのサイズにあったものを使うことがわかるようになってよかった。
- ・自分にあわない車椅子によって、利用者の身体の負担の大きさやこれから将来が変わってしまうことが理解できたので、クッションの使い方などよく考えて工夫していきたい。
- ・車椅子の試験を受けて合格する車椅子が少ないことを知り、安全面について多くの試験をしていることが分かった。
- ・フットサポートの調整。
- ・車椅子を使うとき注意しなければならないこと、安全である使用方法が分かるようになったこと。

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 2日目(考え方が変わったこと)

回 答

- ・工具の正しい使い方を知ったこと。
- ・座幅や座奥行きによって姿勢が変わることを学び、これまでの実習で姿勢を直している職員を見たりしたので、今までの出来事につながった。今後も意識してポイントを見つけていければと感じた。
- ・身体の状況にあわせて座り方が大切と気づいたこと。
- ・工具を少しでも違う方法で使用すると、壊れたり、角が取れてしまうことを知ったこと。
- ・スパナやドライバーの使い方について考え方が変わったこと。
- ・車椅子の介助をするとき、自分が無意識で行ったことが命にも関わることを、働くときに気をつけないと分かったこと。

【考察】

車椅子のメンテナンスの必要性が理解できてきたと同時に、正しい工具の使い方を意識できる機会であった。

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 2日目(講座で得られたもの新しく気づいたこと感じたこと)

回 答

- ・車椅子の正しい使用方法や正しくない使用方法で起こる人体への影響など新しく知る知識が沢山あったこと。
- ・車椅子は安いものを買うのではなく、使用者の身体状況にあったものを買うのがよいと分かったこと。
- ・身長とあわせて車椅子を選ぶ大切さを理解して誤嚥にならないように適切に車椅子を選ばないといけないと思ったこと。
- ・こまめな点検が重要なこと。
- ・大切さ(車椅子の理解)。
- ・車椅子の耐久性など、利用までには試験があり、安全に使えるように配慮していること。
- ・様々な箇所を点検することは改めて大切だと感じたこと。
- ・車椅子の点検、整備などがとても大切だと知ったこと。
- ・車椅子の部品は、多くの種類のものが使われていることを知ったこと。
- ・工具の取扱い方法など。
- ・車椅子の調整方法が分かったこと。
- ・アームサポートの調節の仕方と高さをどれくらいにしたらいかががわかるようになった。
- ・フットサポートの位置が調整できることを初めて知り、また地面から5cmの決まりがあること。
- ・正しい座位や人体と車椅子との関係などについて。

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 2日目(講座で得られたもの新しく気づいたこと感じたこと)

回 答

- ・スパナやドライバー、六角レンチの正しい使い方や車椅子のフットサポートや座面の調整の仕方。
- ・自分にあった車椅子を使わないと病気がひどくなることが分かったこと。
- ・車椅子はグローバル市場を前提に安全性の評価がされていることを知ったこと。

【考察】

身体への影響を考えた車椅子の選び方や点検、整備、調整方法、それぞれの正しい工具の使い方など新しく学ぶ機会となった。

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 2日目(満たされなかったもの、もっと学びたいこと)

回 答

- ・車椅子をもう少し体験したかった。
- ・車椅子を調整することをもっと学びたい。
- ・様々な工具の扱い方。
- ・整備と法律。
- ・実際に高齢者の方が乗った時の気持ち、考え方。
- ・他に車椅子用試験があることを知りたいと思った。
- ・メンテナンスについては、とても難しく、細かいところまで理解することができなかったため、もっと詳しく学びたいと思った。
- ・ナット、ワッシャーと言われても詳しく説明されるまでは何のことを言っているのかが分からなかった。
- ・工具の使い方をもう少し分かりやすく説明してほしい。
- ・工具の正しい使い方をもっと分かるようになる。
- ・車椅子の構造をもっと知りたい。
- ・もっと詳しく説明してほしい(時間が足りない)。
- ・車椅子のメンテナンスをもっと学びたい。

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座

受講アンケート 2日目 (満たされなかったもの、もっと学びたいこと 総合的な満足度 満点100点)

回 答

- ・車椅子の細かい部分(について)もっと学びたい。
- ・聞き取れなかったところがあった。
- ・内容が少し難しかった。

満足度点数表

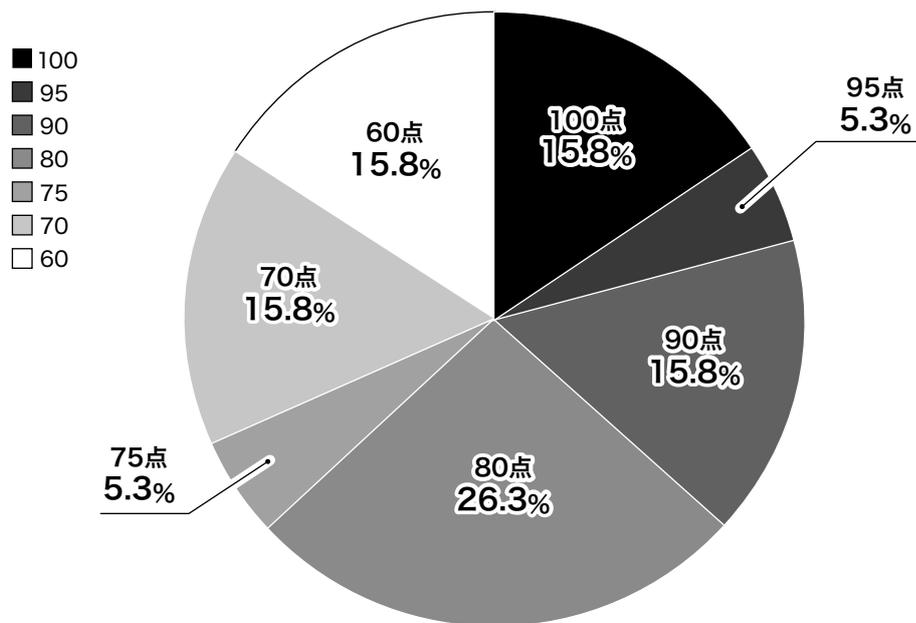
平均約80.5点

点数	100	95	90	80	75	70	60
割合	15.8%	5.3%	15.8%	26.3%	5.3%	15.8%	15.8%

【考察】

1日目より、満足度は若干低かったが、それでも高い満足度を維持している。車椅子の構造や正しい工具の使い方を学ぶには実習時間が短いことが考えられる。

満足度点数表



車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 2日目(点数の理由)

回 答

- ・とても分かりやすく楽しい授業で車椅子の使用での正しい知識を学べたから。
- ・フィッティングについて詳しく理解することができたから。
- ・おもしろくてものすごく勉強になった。少しずつ覚えるようになったから。
- ・実際に普段使わない工具を使ってネジを開閉したりできたから。
- ・車椅子を実際に触れたり乗ったりできて興味が湧いてきたから。
- ・それぞれの箇所を丁寧に点検することの大切さや道具の使い方を知ってわかるようになったから。
- ・2日ともとても大切なことを教えてもらっているが、理解がついていけないことが残念だから。
- ・このような勉強ができる機会を与えてもらって本当によかったから。
- ・自分の中ですごく色々興味が湧いてもっと勉強したいと思ったから。
- ・初めて知ることが多いのに、専門用語で話されると理解しづらかったから。
- ・満足できたから。
- ・車椅子のメンテナンスがいかに重要か分かったから。
- ・今日学んだところの復習と明日の予習をすること。
- ・車椅子の構造、車椅子のメンテナンス不足で起こる事故例が知れたから。

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 2日目(点数の理由)

回 答

- ・意見をしたり、気になるところを掘り下げて自分なりに理解しようと努めることができたから。
- ・工具の正しい使い方を実践できたから。
- ・知らなかったことを聞いたから。
- ・車椅子の細かい部分からくる危険性について学べたから。
- ・車椅子を使うとき起きる事故、座り方によって二次障害やその留意点などを理解し、他の人に説明するとき根拠がある説明の仕方ができる。
- ・写真の内容が分かりにくかった。ある程度の予備知識が必要と感じた。

【考察】

総合的に、講座が面白くなってきたのか、前向きな意見が具体的に出てきている。ただ、説明する際に、「初めて知ることが多いのに、専門用語で話されると理解しづらかったから」との声があるように、専門用語が入るところの工夫や実習の内容や時間については課題残った。

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 3日目(満足度と理解度)

9コマ目

9:00~10:30

◆満足度

n=19

	1 満 足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不 満
テキストの見やすさについて	68.4%	31.6%	0%	0%
授業の進め方やスピードについて	68.4%	31.6%	0%	0%

テキストの見やすさ、授業の進め方やスピードについて、どちらも高評価であった。

◆理解度

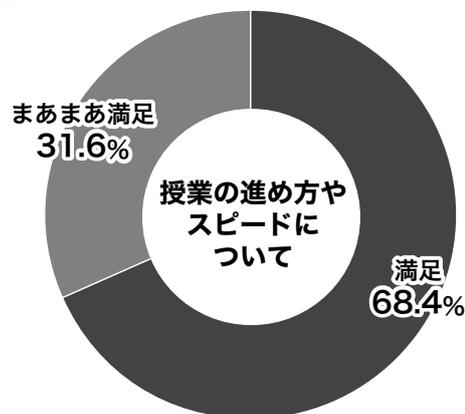
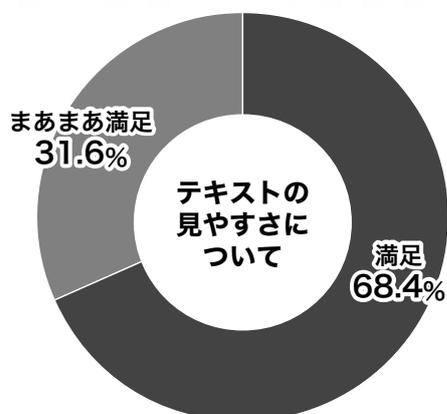
n=19

	1 理解できた	2 まあまあ理解できた	3 あまり理解できなかった	4 理解できなかった
構成フレームについて	36.8%	63.2%	0%	0%
キャストについて	47.4%	52.6%	0%	0%
フットサポートについて	47.4%	52.6%	0%	0%
シートについて	47.4%	52.6%	0%	0%
アームサポートについて	42.1%	57.9%	0%	0%

満足度は高評価であったが、理解度は、概ね理解できている傾向であった。

◆満足度

- 1 満 足
- 2 まあまあ満足
- 3 やや不満
- 4 不 満



◆理解度

構成フレームについて

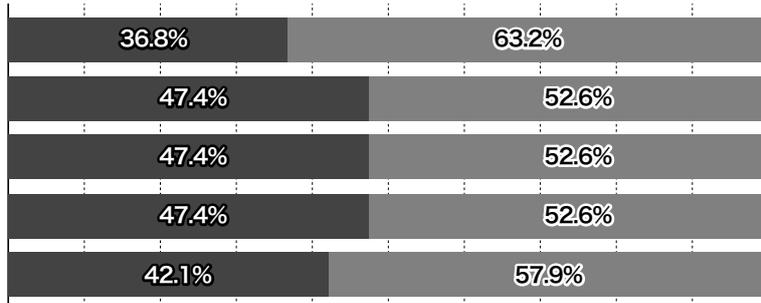
10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

キャストについて

フットサポートについて

シートについて

アームサポートについて



- 1 理解できた
- 2 まあまあ理解できた
- 3 あまり理解できなかった
- 4 理解できなかった

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 3日目 (満足度と理解度)

10コマ目

10:40~12:10

◆満足度

n=19

	1 満 足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不 満
テキストの見やすさについて	84.2%	15.8%	0%	0%
授業の進め方やスピードについて	63.2%	36.8%	0%	0%

テキストの見やすさ、授業の進め方やスピードについて、どちらも高評価であった。

◆理解度

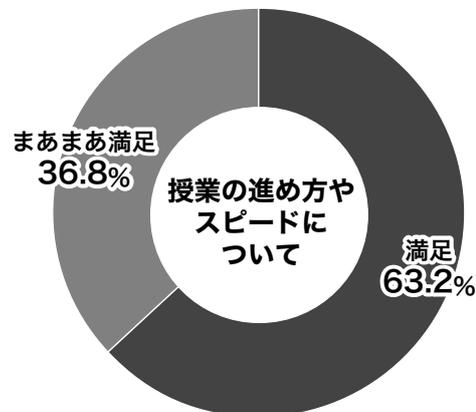
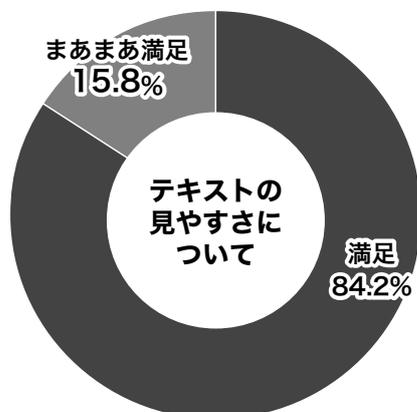
n=19

	1 理解できた	2 まあまあ理解できた	3 あまり理解できなかった	4 理解できなかった
車輪について	42.1%	57.9%	0%	0%
駐車用ブレーキについて	42.1%	52.6%	5.3%	0%
制動用ブレーキについて	47.4%	47.4%	5.3%	0%

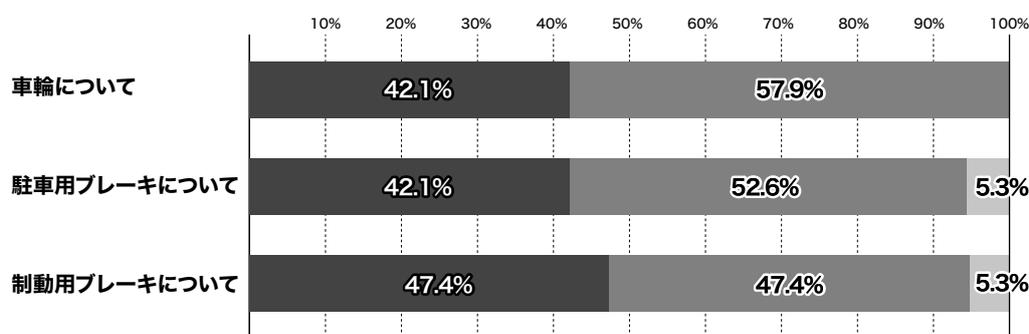
満足度は高評価であったが、理解度は、概ね理解できている傾向であった。

◆満足度

- 1 満 足
- 2 まあまあ満足
- 3 やや不満
- 4 不 満



◆理解度



- 1 理解できた
- 2 まあまあ理解できた
- 3 あまり理解できなかった
- 4 理解できなかった

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 3日目(満足度と理解度)

12コマ目

14:40~16:10

◆満足度

n=18

	1 満足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不満
テキストの見やすさについて	66.7%	33.3%	0%	0%
授業の進め方やスピードについて	66.7%	27.8%	5.6%	0.0%

テキストの見やすさ、授業の進め方やスピードは、どちらも高評価であった。

◆理解度

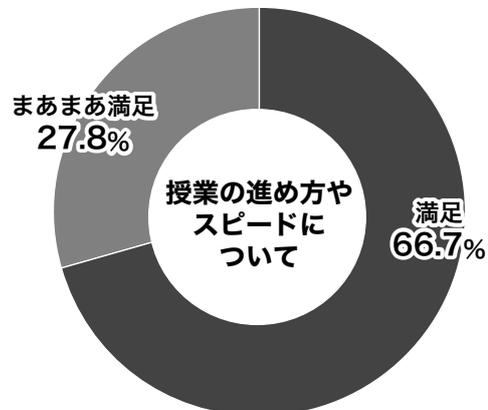
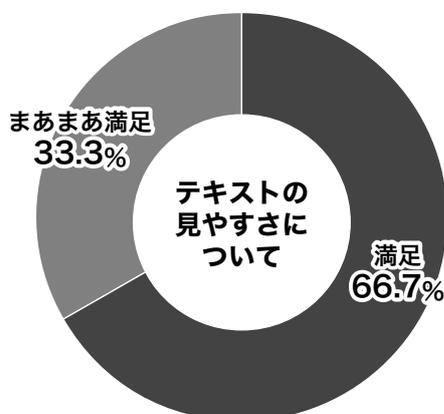
n=18

	1 理解できた	2 まあまあ理解できた	3 あまり理解できなかった	4 理解できなかった
標準型車椅子以外の構造について	44.4%	55.6%	0%	0%
電動の使用注意点について	38.9%	61.1%	0%	0%

満足度は高評価であったが、理解度は、概ね理解できている傾向であった。

◆満足度

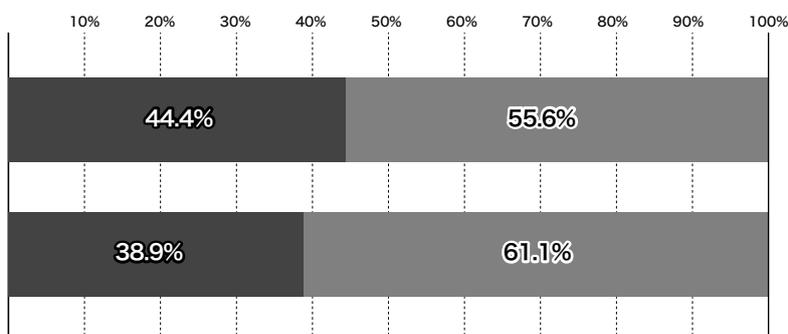
- 1 満足
- 2 まあまあ満足
- 3 やや不満
- 4 不満



◆理解度

標準型車椅子以外の構造について

電動の使用注意点について



- 1 理解できた
- 2 まあまあ理解できた
- 3 あまり理解できなかった
- 4 理解できなかった

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 3日目(講師の教え方と興味・関心)

講師の教え方

	1 満 足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不 満
講師の教え方はどうでしたか	66.7%	33.3%	0%	0%

n=18

1日目と2日目より満足が多い割合、全員から講師の教え方に満足との回答が得られた。

興味・関心

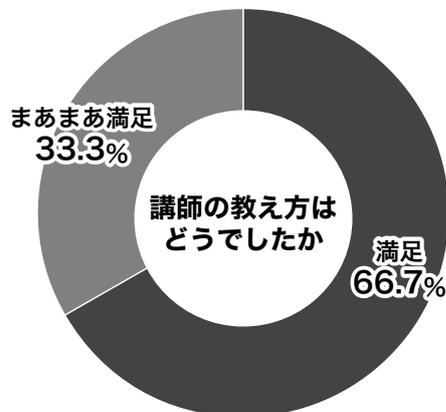
	1 できた	2 まあまあできた	3 あまりできてこなかった	4 できてこなかった
興味・関心について	55.6%	44.4%	0%	0%

n=18

1日目と2日目より、「できた」が低い、全員が車椅子に関する興味・関心は高まった結果となった。

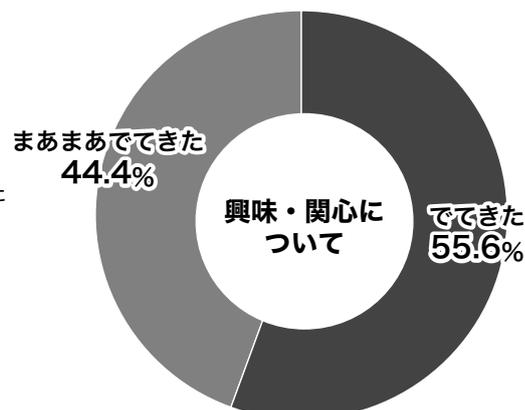
◆満足度

- 1 満 足
- 2 まあまあ満足
- 3 やや不満
- 4 不 満



◆興味・関心

- 1 できた
- 2 まあまあできた
- 3 あまりできてこなかった
- 4 できてこなかった



車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 3日目(考え方が変わったこと)

回 答

- ・メンテナンス時には、留意点が多いこと。
- ・チューブ交換や空気入れについての考え方が変わったこと。
- ・車椅子のシートを外して洗うこと。
- ・点検の大切さ。
- ・少しの異変でも、利用者の命に関わるため、使う前に点検することが大切だと思ったこと。
- ・実際に車椅子の修理をして、触ってみて、自分でも勉強すると触れるようになることに驚いたこと。
- ・普段ゆっくり車椅子を見る機会がないので、ゆっくり見ることができ、車椅子に対しての考え方が変わったこと。
- ・ブレーキやタイヤの安全確認の大切さ。
- ・利用者に車椅子での正しい姿勢とあわせて車椅子を選んでいこうと考えるようになった。
- ・車椅子のことがより分かるようになったこと。
- ・車椅子には、たくさんの種類があり、それぞれにメリット・デメリットがあることを学べたこと。
- ・車椅子の点検が命を守ることにつながること。
- ・ベアリングに5-56がダメなのを初めて知ったこと。

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 3日目(考え方が変わったこと)

回 答

- ・どの部分に気をつけて整備をするのかを知れたこと。
- ・車椅子の構造が少し理解できた分、点検や責任の重さを知ったこと。
- ・点検項目の大切さ。
- ・一つずつの工程をしっかりとやることで、破損をしているかをしっかり確認できると思ったこと。
- ・ナットの締め方によって車椅子が正常にならないことがあることを知り、一つ一つの部品を再度理解して、安心・安全の視点から車椅子を扱おうと感じた。
- ・ボルトを締める動作にもやり方があり、それを間違えると大きな事故につながってしまうこともあるということを知り、正しい整備方法をもっと学びたいと思った。

【考察】

車椅子のメンテナンスの大切さ、取扱う留意点について学ぶ機会となった。特に、命を守るためにメンテナンスが必要である考え方が生まれた。

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 3日目(講座で得られたもの新しく気づいたこと感じたこと)

回 答

- ・一つ一つのパーツについて、安全な利用とメンテナンスの留意点があること。
- ・衛生面への配慮がされていること。
- ・車椅子の部分部分の作られた形や理由を学ぶことができたこと。
- ・タイヤに空気を入れるときの注意点。
- ・タイヤへの空気の入れ方。
- ・工具の使い方。
- ・キャストに髪の毛やゴミがついていたら危ないから点検することが大切だと気づいたこと。
- ・正しい方法を学んで理解し、その通りにすると上手にできることが分かったこと。
- ・車椅子の点検項目や仕方など。
- ・安全への理解。
- ・講座を通して、整備の詳細手順について理解できるように感じた。
- ・電車に乗るときに確認することを大切だと感じたこと。
- ・車椅子の細かい構造。
- ・点検する真所。

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 3日目(講座で得られたもの新しく気づいたこと感じたこと)

回 答

- ・車椅子の点検項目が38個もあること。
- ・タイヤ交換の仕方が分かったこと。
- ・適正な空気圧を知れたこと。
- ・メンテナンスの仕方や注意点を教えていただき、実技もさせていただいたので、とても楽しく学ぶことができた。
- ・車椅子の点検項目がよく理解できた。
- ・確認は大切だと感じたこと。
- ・正常に車椅子が動いているようで、実は緩んでしまっている部分があることに気づき、車椅子の見方が変わったこと。
- ・車椅子に乗って生活をおくるために、車椅子を安心・安全に使えるように、定期的な点検を行うことが大切だと学んだ。

【考察】

日常的によくあるタイヤの空気交換をはじめ、点検項目が多くあるのは、安全につながる大切なことである。ということ学ぶ機会となった。

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 3日目(満たされなかったもの、もっと学びたいこと)

回 答

- ・車椅子の使い方や細かい部分についての注意点や点検の仕方について。
- ・空気圧とブランジャについて。
- ・シートの外し方の実践。
- ・車椅子の修理を全部実践してみたい。
- ・もっと色々な車椅子に触ったり、乗ったりしたい。
- ・実技の時間をもっとほしかった。
- ・車椅子の問題点や注意点などをもっと詳しく学びたい。
- ・メンテナンスのこと。
- ・車椅子をもう少し触りたかった。
- ・様々な点検の方法。
- ・時間があれば、もっといろいろ質問したりしたかった。テキストで勉強していく。
- ・キャストの外し方の実践。
- ・ティルト機能についてももう少し学びたかった。

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 3日目(総合的な満足度 満点100点)

満足度点数表

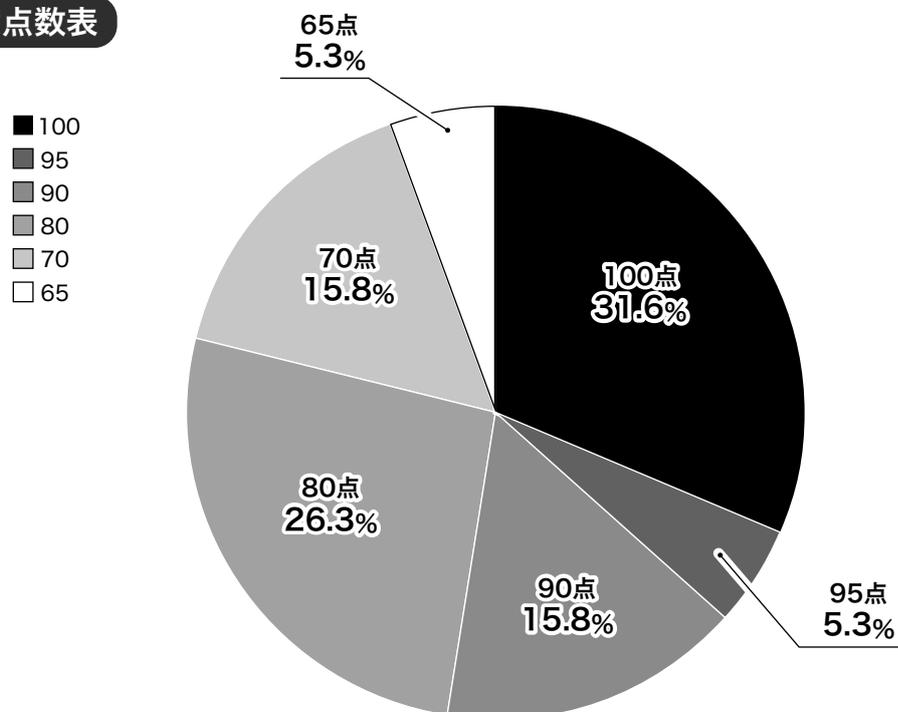
平均約86.3点

点数	100	95	90	80	70	65
割合	31.6%	5.3%	15.8%	26.3%	15.8%	5.3%

【考察】

2日目とは異なり、実習を多く取り入れ、様々なメンテナンスの方法を学ぶことが体験できた結果、高評価となった。

満足度点数表



車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 3日目(点数の理由)

回 答

- ・新たな学びが多くあったため。
- ・チューブ交換や細かい部分に気づきが増えたため。
- ・短時間で全部詳しく覚えることがなかなかできなかったため。
- ・分かりやすく説明してほしい。
- ・話すスピードが速く、聞き取れない部分があったため。
- ・車椅子を修理で触ったりすることで、車椅子の構造が前よりも理解できたため。
- ・満足できたから。3日間素敵な講座をありがとうございました。
- ・文字だけではなく、見たり、触ったりして学べるから。
- ・短時間で全部覚えること、考えることがなかなか工夫できなかったため。
- ・それぞれの箇条を点検することの大事さを改めて感じたため。
- ・細かい部分まで知ることができた。
- ・工具を使って、実際に調整できたりして、車椅子について沢山知れたから。
- ・車椅子のことが良く分かったから。
- ・3日間でたくさん学べたから。

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 受講アンケート 3日目(点数の理由)

回 答

- ・きちんと理解できたわけではないが、テキストを活かして学び深めていけると思う。
- ・理解できないこともあったから。
- ・気になっていたことができたから。
- ・工具の扱い方やボルト、ナットの位置など適切な使い方を学ぶことができ、もっと車椅子について知りたいと思った。
- ・3日間で車椅子の理解が深められ、正しい利用方法、点検方法など、沢山新しいことを教えてもらったから。

【考察】

総合的には、高評価であった。ただ、「分かりやすく説明してほしい」、「話すスピードが速く、聞き取れない部分があったため」、「理解できないこともあったから」という声があったことから、説明する際の言葉の選び方や話し方の工夫に課題残った。

■考察

テキストの見やすさは、概ね高評価であった。受講生からも、「今日学んだことを復習して理解を深める」や「復習や明日の予習をする」といったことから判断できる。全員が「満足」「まあまあ満足」と評価している。

【テキストの見やすさの満足度】

コマ数	満足度の割合 満足	満足度の割合 まあまあ満足	コマ数	満足度の割合 満足	満足度の割合 まあまあ満足
1コマ	78%	21.1%	7コマ	61.1%	38.9%
2コマ	68%	31.6%	8コマ	63.2%	36.8%
3コマ	63.2%	36.8%	9コマ	68.4%	31.6%
4コマ	68.4%	31.6%	10コマ	84.2%	15.8%
5コマ	66.7%	33.3%	11コマ	66.7%	33.3%
6コマ	66.7%	33.3%	12コマ	66.7%	33.3%

授業の進め方やスピードについては、検討する必要がある。その中でも、専門用語が入った説明や話すスピードについては、留学生もいたこともあり、気を配ることが重要であった。今後の課題である。受講生からも、「日本語が聞き取れなかった」「理解が難しいこともあった」「初めて知ることが多いのに、専門用語で話されると理解しづらかった」「分かりやすく説明してほしい」との声があった。総合的には高い評価と考えられるが、「満足」「まあまあ満足」が全員から評価が得られていないことから、講座内容を含めた検討は必要と考えられる。

【講師の教え方やスピードの満足度】

コマ数	満足度の割合 満足	満足度の割合 まあまあ満足	コマ数	満足度の割合 満足	満足度の割合 まあまあ満足
1コマ	63.2%	36.8%	7コマ	55.6%	38.9%
2コマ	68.4%	21.1%	8コマ	63.2%	36.8%
3コマ	68.4%	21.1%	9コマ	68.4%	31.6%
4コマ	68.4%	26.3%	10コマ	63.2%	36.8%
5コマ	77.8%	22.2%	11コマ	55.6%	44.4%
6コマ	72.2%	27.8%	12コマ	66.7%	27.8%

一方、講座全体としては、1日目81.6点、2日目80.5点、3日目86.3点と高評価であった。講師の教え方については、全員から満足したという回答であった。

本講座は車椅子を通して新しいことを学ぶことではあるが、講座の点数理由からも分かる通り、新しく学ぶことの楽しさ、学習意欲が高まった評価と考えることができる。これは、車椅子への興味・関心についても、度合いは違うが、全員から興味・関心がでてきたとの回答からでも判断できる。

2. 車椅子シーティング技術【基礎編】

(1) 講座スケジュール

令和3年1月14日(木) 9:00~16:10

場 所: 姫路ハーベスト医療福祉専門学校 教場

受講生: 介護福祉学科1年生 18名

★車椅子シーティング技術【基礎編】

日程	時間	内容
1月14日(木) (90分×4コマ)	9:00~10:30	■不良座位の理解 ①座ることで身体に起こる現象 ②不良座位とは ③座面から与えられる影響 ④バックサポートの役割 ⑤座位による二次障害について 【確認テスト10分+解答・解説10分】(計20分程度)
	10:30~10:40	休憩
	10:40~12:10	■車椅子選定のための基礎知識 I ①車椅子シーティングの目的、車椅子サイズや種類の必要性 ②車椅子選定の基準 ③車椅子に求められるもの ④車椅子上での二次障害と対策 【確認テスト10分+解答・解説10分】(計20分程度)
	12:10~13:00	休憩(昼食)
	13:00~14:30	■車椅子シーティングの基礎知識 II ①車椅子シーティングのポイント ②車椅子クッションの必要性、種類と使い分け ③車椅子クッション体験
	14:30~14:40	休憩
	14:40~16:10	■車椅子シーティング実習 ①シーティングの基礎の整理 ②シーティング実習(グループワーク) ③グループから体験発表
	16:10~	アンケート記入

■講師

ラックヘルスケア株式会社

プロダクトマネージャー 安村 亮 氏



■ 講座風景



(2) 車椅子シーティング技術【基礎編】確認テスト結果

講座名称	シーティング技術【基礎編】
時間数	90分×4コマ
期間	令和3年1月14日

NO.	氏名	1コマ		2コマ		3コマ	4コマ	平均得点
		誤	得点	誤	得点			
1	〇〇〇〇	6,9	80		100	無し	無し	90
2	〇〇〇〇		100		100			90
3	〇〇〇〇		100		100			100
4	〇〇〇〇	9	90		100			95
5	〇〇〇〇	9	90		100			95
6	〇〇〇〇		100		100			100
7	〇〇〇〇		100		100			100
8	〇〇〇〇		100		100			100
9	〇〇〇〇		100		100			100
10	〇〇〇〇		100	3,6	80			90
11	〇〇〇〇	9	90	3	90			90
12	〇〇〇〇		100		100			100
13	〇〇〇〇	9	90		100			95
14	〇〇〇〇		100		100			100
15	〇〇〇〇		100		100			100
16	〇〇〇〇		100		100			100
17	〇〇〇〇		100		100			100
18	〇〇〇〇		100	3	90			95
平均			96.7		97.8			97.2

■ 1コマ正答率

NO.	問題文	正答率
1	シーティングについて、体験から得るものは多い。	100%
2	どんな場面・場所でも座っている姿勢は変わらない。	100%
3	座ることは休憩には良いが、じっと長く座ると疲れる。	100%
4	座っていると、誰でも少しずつ姿勢を変えている。	100%
5	疲れてくると姿勢は崩れていく。	100%
6	どんな車椅子でも、車椅子を身体に合わせられるようにつくられている。	94.4%
7	椅子や車椅子など、座るものが身体に与える影響はあまりない。	100%
8	座ったとき、バックサポートは身体を支えるために重要な役割がある。	100%
9	崩れた姿勢を戻せないことが問題だ。	72.2%
10	車椅子に座った状態で発生する褥瘡は、車椅子座位の二次障害だ。	100%

■ 2 コマ正答率

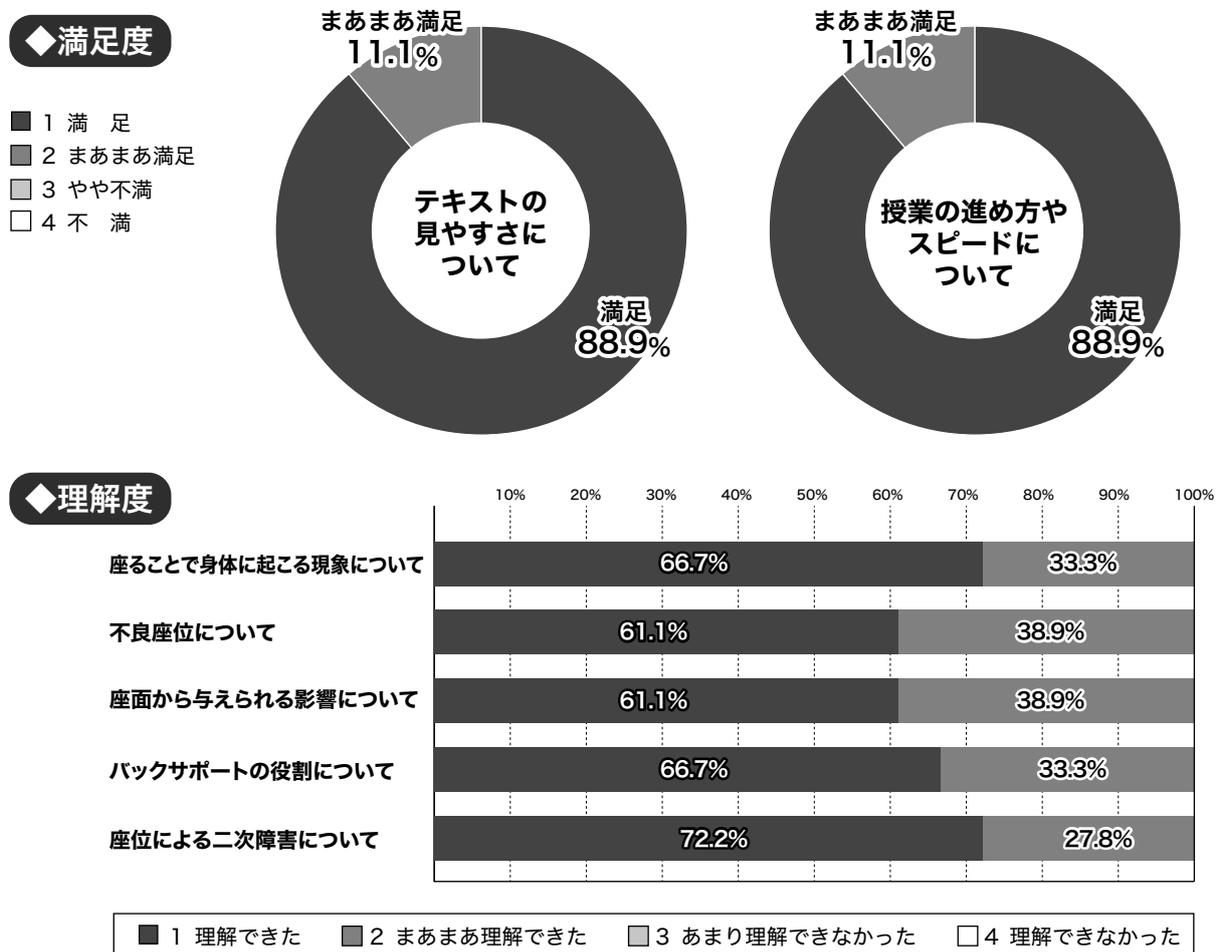
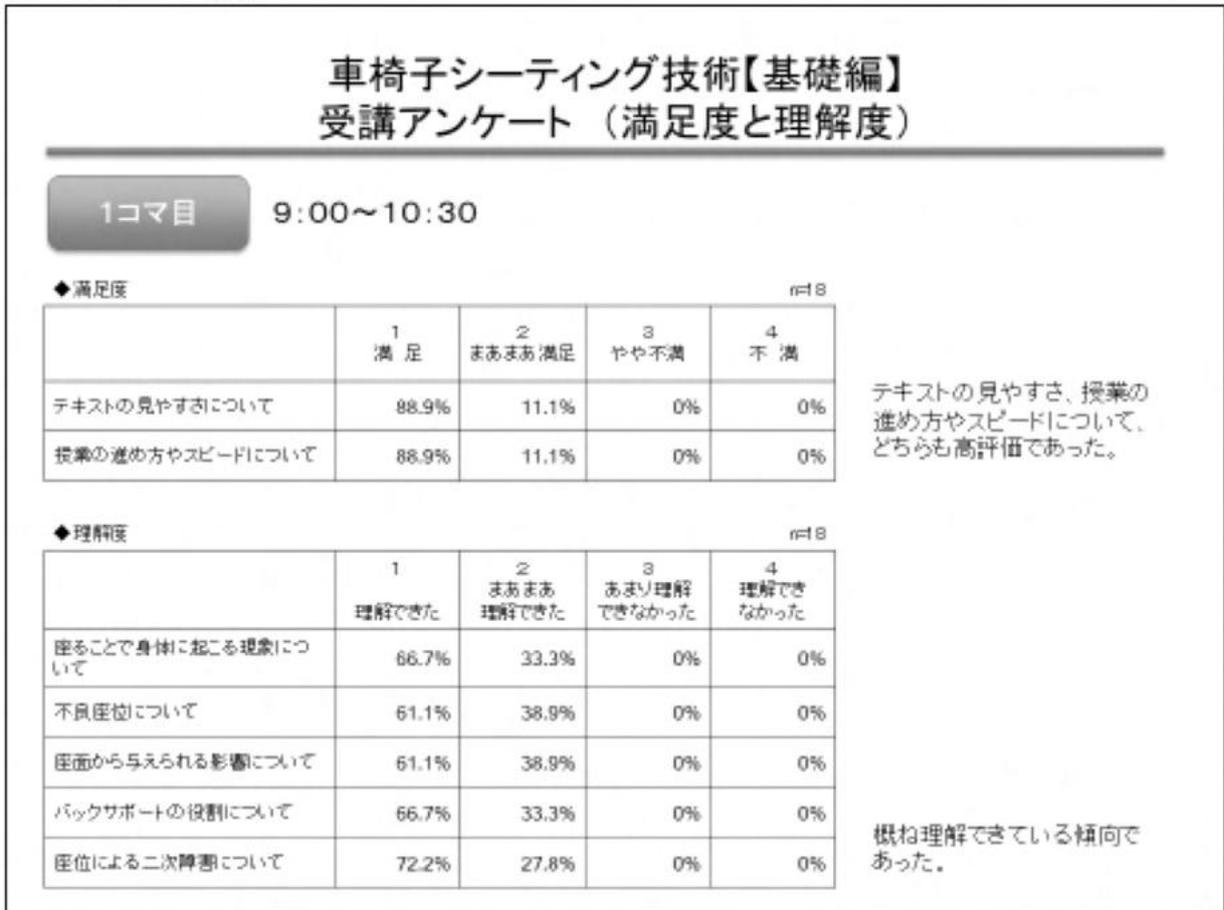
n=18

NO.	問題文	正答率
1	車椅子は利用することで、生活を豊かにするためのものだ。	100%
2	車椅子の役割は「座る」という役割1つだけだ。	100%
3	離床を進めることで座位時間は長くなる。	83.3%
4	車椅子の「座る」という役割はとても大切だ。	100%
5	車椅子の選定において、どこで車椅子を使うかはあまり関係ない。	100%
6	車椅子は、介助者の使いやすさが最も重要だ。	94.4%
7	車椅子は、利用者の身体状況や使用環境に合わせないといけない。	100%
8	車椅子の機能として、座位と移乗と移動が必要になる。	100%
9	身体に合わない車椅子を使い続けると、二次障害が発生する。	100%
10	車椅子は快適に座れさえすれば、他のことは何も考えなくて良い。	100%

■ 考察

理解度は高かった。正しい姿勢で座ることができない方が座るとどのような影響があるのか、滑るシート体験やどの部分をケアすると楽に座れる体験、実際にモジュールタイプの車椅子に触れる機会を多く取り入れ、ポイントを理解させるよう工夫したことによる結果と考える。問題文も留学生にも理解しやすい文章で作成されていた。受講生も楽しかったのか、活気のある講座であった。

(3) アンケート結果



車椅子シーティング技術【基礎編】 受講アンケート（満足度と理解度）

2コマ目

10:40~12:10

◆満足度

n=18

	1 満 足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不 満
テキストの見やすさについて	88.9%	11.1%	0%	0%
授業の進め方やスピードについて	94.4%	5.6%	0%	0%

テキストの見やすさ、授業の進め方やスピードについて、どちらも高評価であった。

◆理解度

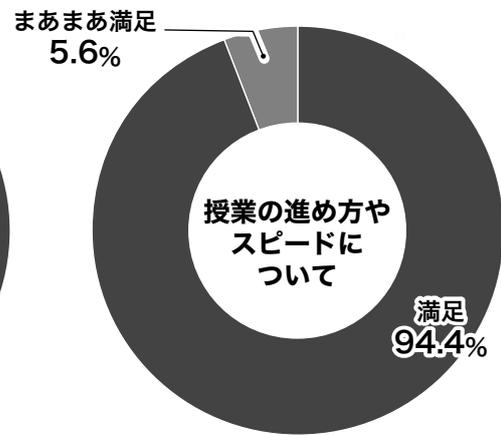
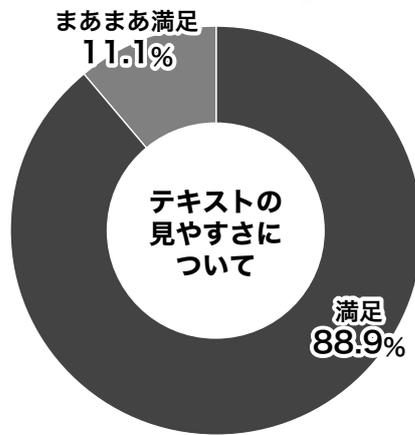
n=18

	1 理解できた	2 まあまあ理解できた	3 あまり理解できなかった	4 理解できなかった
車椅子シーティングの目的について	72.2%	27.8%	0%	0%
車椅子サイズの必要性について	66.7%	33.3%	0%	0%
車椅子の種類の必要性について	61.1%	38.9%	0%	0%
車椅子選定の基準について	61.1%	38.9%	0%	0%
車椅子に求められるものについて	83.3%	16.7%	0%	0%
車椅子上での二次障害と対策について	77.8%	22.2%	0%	0%

概ね理解できている傾向であった。

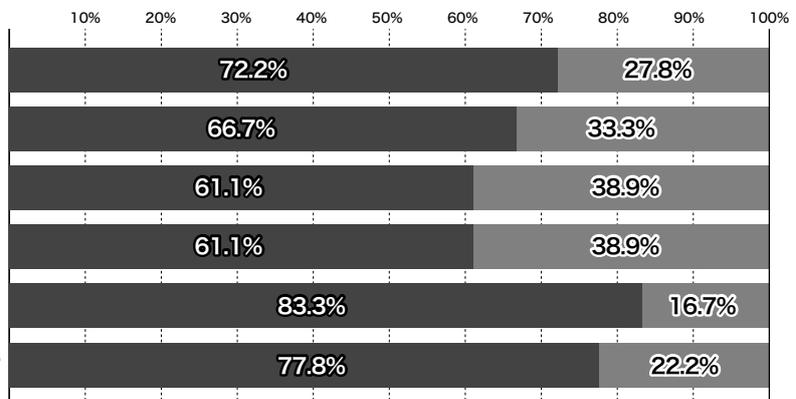
◆満足度

- 1 満 足
- 2 まあまあ満足
- 3 やや不満
- 4 不 満



◆理解度

- 車椅子シーティングの目的について
- 車椅子サイズの必要性について
- 車椅子の種類の必要性について
- 車椅子選定の基準について
- 車椅子に求められるものについて
- 車椅子上での二次障害と対策について



- 1 理解できた
- 2 まあまあ理解できた
- 3 あまり理解できなかった
- 4 理解できなかった

車椅子シーティング技術【基礎編】 受講アンケート（満足度と理解度）

3コマ目

13:00~14:30

◆満足度

n=18

	1 満 足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不 満
テキストの見やすさについて	88.9%	11.1%	0%	0%
授業の進め方やスピードについて	88.9%	11.1%	0%	0%

テキストの見やすさ、授業の進め方やスピードについて、どちらも高評価であった。

◆理解度

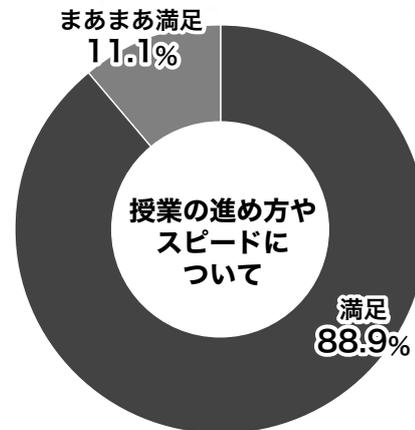
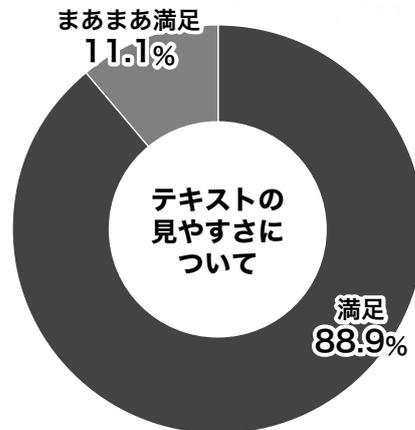
n=18

	1 理解できた	2 まあまあ理解できた	3 あまり理解できなかった	4 理解できなかった
車椅子シーティングのポイントについて	55.6%	44.4%	0%	0%
車椅子クッションの必要性について	66.7%	33.3%	0%	0%
車椅子クッションの種類と使い分けについて	55.6%	44.4%	0%	0%
車椅子クッション体験について	77.8%	22.2%	0%	0%

車椅子シーティングのポイントや車椅子クッションの種類と使い分けは若干整理できていない傾向であるが、全体的には、概ね理解できている傾向であった。

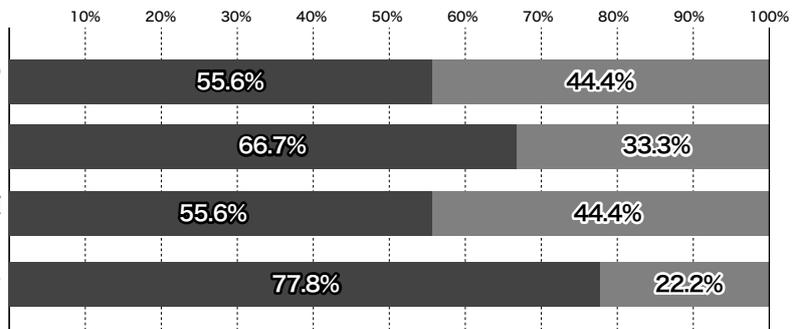
◆満足度

- 1 満 足
- 2 まあまあ満足
- 3 やや不満
- 4 不 満



◆理解度

- 車椅子シーティングのポイントについて
- 車椅子クッションの必要性について
- 車椅子クッションの種類と使い分けについて
- 車椅子クッション体験について



- 1 理解できた
- 2 まあまあ理解できた
- 3 あまり理解できなかった
- 4 理解できなかった

車椅子シーティング技術【基礎編】 受講アンケート（満足度と理解度）

4コマ目

14:40~16:10

◆満足度 n=18

	1 満 足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不 満
テキストの見やすさについて	88.9%	11.1%	0%	0%
授業の進め方やスピードについて	88.9%	11.1%	0%	0%

テキストの見やすさ、授業の進め方やスピードは、どちらも高評価であった。

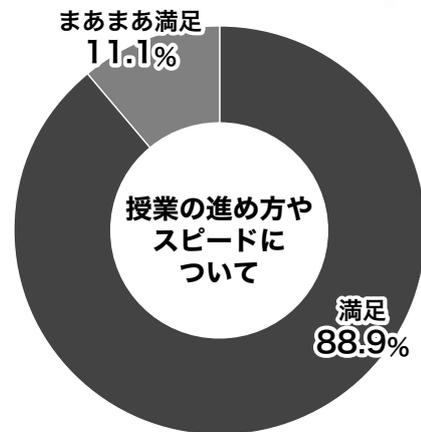
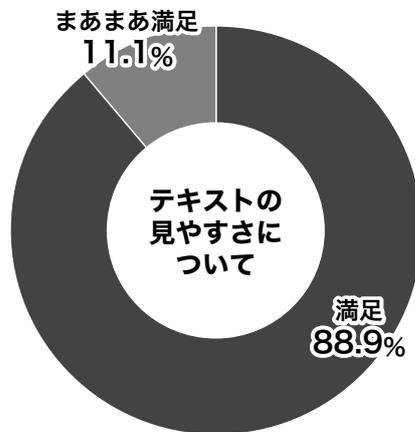
◆理解度 n=18

	1 理解できた	2 まあまあ理解できた	3 あまり理解できなかった	4 理解できなかった
シーティングの基礎の整理(適合)について	66.7%	33.3%	0%	0%
シーティングの基礎の整理(座位の変化)について	77.8%	22.2%	0%	0%

概ね理解できている傾向であった。

◆満足度

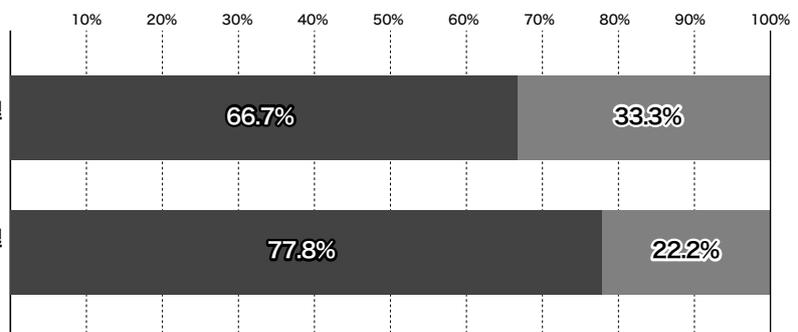
- 1 満 足
- 2 まあまあ満足
- 3 やや不満
- 4 不 満



◆理解度

シーティングの基礎の整理(適合)について

シーティングの基礎の整理(座位の変化)について



- 1 理解できた
- 2 まあまあ理解できた
- 3 あまり理解できなかった
- 4 理解できなかった

車椅子シーティング技術【基礎編】 受講アンケート（講師の教え方と興味・関心）

講師の教え方

	1 満 足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不 満
講師の教え方はどうでしたか	88.9%	11.1%	0%	0%

n=18

全員から講師の教え方に満足との回答が得られた。

興味・関心

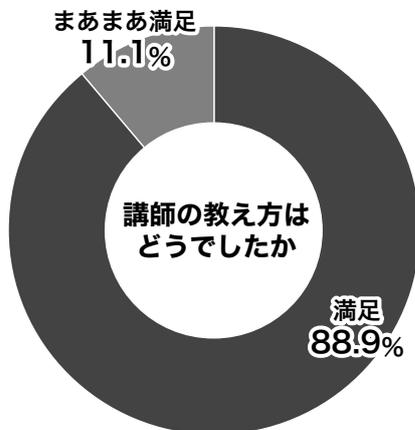
	1 できた	2 まあまあできた	3 あまりできてこなかった	4 できてこなかった
興味・関心について	83.3%	16.7%	0%	0%

n=18

全員が車椅子シーティングに興味・関心をもった結果となった。

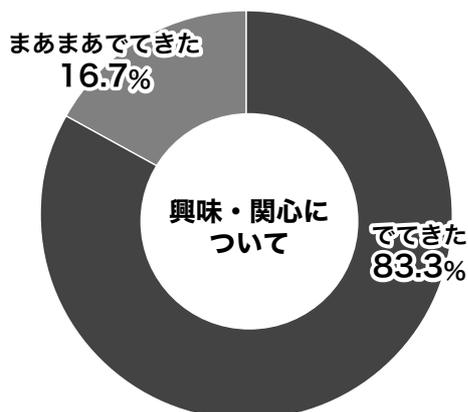
◆満足度

- 1 満 足
- 2 まあまあ満足
- 3 やや不満
- 4 不 満



◆興味・関心

- 1 できた
- 2 まあまあできた
- 3 あまりできてこなかった
- 4 できてこなかった



車椅子シーティング技術【基礎編】 受講アンケート（考え方が変わったこと）

回 答

- ・車椅子に使うクッションの選び方を理解できた。これからも工夫していきたいと考えられた。
- ・クッションの必要性と選び方が大切。
- ・車椅子の座位の崩れは、利用者の立場に立ち、30分程度で直す。
- ・調整で利用者の安楽がかなり変わると分かったこと。
- ・正しく調整した車椅子は、疲れにくいことに驚いたこと。
- ・座り方ひとつで利用者の状態が変わり、クッションの大切さが理解できたこと。
- ・車椅子の選定基準など。
- ・色々な車椅子を乗ってみて、色々なクッションと組み合わせるとその人に合う車椅子が見つかると思った。
- ・雑床をすすめることが良いということではないこと。
- ・車椅子の役割・選ぶときの優先すること。
- ・今回の授業で利用者側の立場になって考えることが多かったので、その経験を活かしていきたい。
- ・クッション等の種類の違いが、結構あると感じた。
- ・クッションが及ぼす座位の影響についての考え方が変わったこと。

車椅子シーティング技術【基礎編】 受講アンケート（考え方が変わったこと）

回 答

- ・車椅子を選択するとき、介助者が介助しやすい車椅子により、利用者にとって利用しやすい車椅子を選択するのが大切なこと。
- ・車椅子に座るときの見方が変わったと思った。
- ・座り方によって楽な姿勢でも苦痛に感じることを知り、座り方についての考え方が変わった。
- ・車椅子クッションに関しての大切さを理解できた。
- ・座ることによって起こる障害や身体への影響をもう一度考え直すことができた。

【考察】

特に、正しく座ること、車椅子のクッションの大切さの考え方を見直す機会となった。

車椅子シーティング技術【基礎編】 受講アンケート（講座で得られたもの新しく気づいたこと感じたこと）

回 答

- ・実際の利用者の状況と体験・見学をしてもっと学びたいと感じた。
- ・利用者の状況を理解できるようになってきたと感じた。
- ・クッションの素材、メリット、デメリット。
- ・車椅子よっての違いや機能についての知識が増えた。
- ・車椅子用に多くの種類のクッションがあると知った。
- ・車椅子の調整知識。
- ・クッションの選び方。
- ・車椅子の選定。
- ・車椅子の機能。
- ・フットサポートやアームサポートの高さを調整することで利用者が生活しやすくなることが分かったこと。
- ・クッションの中身や厚さなどが違うだけで、疲れにくさなど座り心地が全然違うこと。
- ・クッションを買うとき、最優先するべきこと。
- ・正しい座位姿勢や利用するクッションの機能性などをたくさん知れたこと。

車椅子シーティング技術【基礎編】 受講アンケート（講座で得られたもの新しく気づいたこと感じたこと）

回 答

- ・シーティングで、高さなどを少し変更するだけで、すごく変わると感じた。
- ・車椅子の機能を活用することの大切さとより良く工夫することの大切さを学んだ。
- ・利用者の身体に合わせた車椅子や環境に合わせないといけないこと。
- ・シーティングについて詳しく知ることができてよかったこと。
- ・普段、しっかり座っていたと思っていたが、正しい姿勢ではないと知り、今後、自分でも意識していかなければならないことを知ったこと。
- ・快適な座位のこと。
- ・座ることに対しての利用者への気遣いや、利用者にあった車椅子などを学べたこと。

【考察】

車椅子の機能、クッションの選び方、クッションのメリット・デメリットといった利用者への気配りに対する配慮が周りがあることに気づく機会となった。

車椅子シーティング技術【基礎編】 受講アンケート（満たされなかったもの、もっと学びたいこと）

回 答

- ・利用者のシーティングとあわせられる車椅子のことをもっと学びたい。
- ・自分の体験から利用者の状態と実際あわせて選びたい。
- ・身長、体型が車椅子にあわなかったときの対策。
- ・シート等が滑り、座位が崩れた時の工夫の仕方を教えてもらって、すごく勉強になった。他にも工夫点のアドバイス等が聞きたかった。
- ・素早い調整方法。
- ・働いて役立つことも知りたい。
- ・作る国の製品によって何が違うのか。
- ・シーティング技術。
- ・背もたれを合わせるのが上手にできなかったからもっとやってみたい。
- ・車椅子に座る姿勢の調整をもっと実践したい。
- ・もっと車椅子の部分について知りたかった。
- ・車椅子のフィッティングについて。

車椅子シーティング技術【基礎編】 受講アンケート（総合的な満足度 満点100点）

満足度点数表

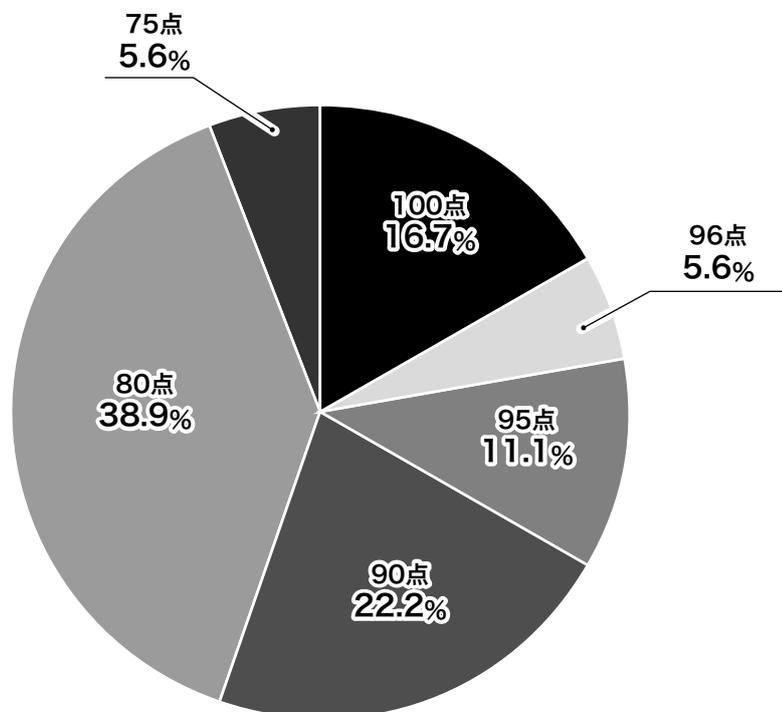
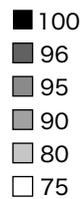
平均約87.8点

点数	100	96	95	90	80	75
割合	16.7%	5.6%	11.1%	22.2%	38.9%	5.6%

【考察】

体験実習を多く取り入れ、車椅子の機能やクッションの種類必要性と大切さを学ぶことができた結果の高評価となった。

満足度点数表



車椅子シーティング技術【基礎編】 受講アンケート（点数の理由）

回 答

- ・車椅子シーティングをもっと詳しく学びたいから。
- ・楽しく学べたが、難しいところもあった。
- ・車椅子の勉強する機会が今までになく、12月のリカレントで車椅子の構造等を教えていただき、すごく興味が沸いたので、シーティングについてもこれからのため、勉強したいと思ったから。
- ・車椅子の調整の仕方が分かったから。
- ・優しく分かりやすかったから。
- ・とても気を遣っていたり、実習があり、とても深く学ぶことができたから。
- ・満足できたから。
- ・分かりやすい内容だったから。
- ・体験がたくさんできてよかったから。
- ・色々なクッションに座って実際に体験して学べたから。
- ・シーティング技術をもっと理解できるよう努力する。
- ・今回の授業は実際体験することが多かったので、すぐ復習するような感じで理解しやすかったから。
- ・上手くできないところがあったから。

車椅子シーティング技術【基礎編】 受講アンケート 3日目（点数の理由）

回 答

- ・気づいていなかった車椅子の機能の活かし方を学ぶことができたから。
- ・車椅子の種類によって、安全に移動しやすい工夫ができると学んだから。
- ・もっと詳しくシーティングについて知りたいと思ったから。
- ・前回の車椅子の選び方とメンテナンス入門講座と違って、座り方について多く学ぶことができ、さらに知りたいと思えるようになり、積極的になれたから。
- ・教えてもらったことは分かりやすい。テキストを見ながら体験するため、理解できる。
- ・前回の車椅子の選び方とメンテナンス入門から引き続き新しい知識や考え直すことがあったから。

【考察】

総合的には、高評価であった。体験を多く取り入れることで、必要性を感じとり、受講生自身から意欲的に学ぼうという姿勢が見られた結果となった。

■考察

テキストの見やすさと授業の進め方やスピードは、高評価であった。受講生からも、「分かりやすかった」や「満足できた」といったことから判断できる。また、「体験がたくさんできてよかった」という声もあり、講師の工夫が見える。

講師の教え方についても、88.9%が「満足」で、11.1%が「まあまあ満足」と全員から満足したとの評価であった。

シーティングに対する興味・関心についても83.3%が「できた」で16.7%が「まあまあできた」という結果であった。

【テキストの見やすさの満足度】

【授業の進め方やスピードの満足度】

コマ数	満足度の割合 満 足	満足度の割合 まあまあ満足	コマ数	満足度の割合 満 足	満足度の割合 まあまあ満足
1コマ	88.9%	11.1%	1コマ	88.9%	11.1%
2コマ	88.9%	11.1%	2コマ	94.4%	5.6%
3コマ	88.9%	11.1%	3コマ	88.9%	11.1%
4コマ	88.9%	11.1%	4コマ	88.9%	11.1%

3. 車椅子シーティング技術【応用編】

(1) 講座スケジュール

令和3年1月15日(金) 9:00~16:10

場 所: 姫路ハーベスト医療福祉専門学校 教場

受講生: 介護福祉学科1年生 18名

★車椅子シーティング技術【応用編】

日程	時間	内容
1月15日(金) (90分×4コマ)	9:00~10:30	■車椅子シーティング実習Ⅰ(グループワーク) ①シートクッション選定 ②アームサポート高さ調整 ③フットサポート高さ調整 ④背張り調整(背角込み)
	10:30~10:40	休憩
	10:40~12:10	■車椅子シーティングの基礎知識Ⅲ ①車椅子シーティングの目的 ②車椅子の基礎知識の整理 ③車椅子シーティングの基礎知識 【確認テスト10分+解答・解説10分】(計20分程度)
	12:10~13:00	休憩(昼食)
	13:00~14:30	■車椅子シーティング実習Ⅱ(グループワーク) ①車椅子駆動のポイントについて ②仕様の違う車椅子の駆動体験(座高、座角、メインホイールサイズ、メインホイール前後位置) ③駆動体験した結果について発表
	14:30~14:40	休憩
	14:40~16:10	■車椅子シーティング実習Ⅲ(グループワーク) ①想定するケースの振り分け(片麻痺座位、片麻痺駆動、円背座位、円背駆動など。変形などない簡単なもの) ②ユーザー役を決め、目標設定し、適合実習 ③グループから適合ポイント発表
16:10~	アンケート記入	

■講師

ラックヘルスケア株式会社

プロダクトマネージャー 安村 亮 氏



■ 講座風景



(2) 車椅子シーティング技術【応用編】確認テスト結果

講座名称	シーティング技術【応用編】
時間数	90分×4コマ
期間	令和3年1月15日

NO.	氏名	1コマ	2コマ		3コマ	4コマ	平均得点
			誤	得点			
1	〇〇〇〇	無し		100	無し	無し	100
2	〇〇〇〇			100			100
3	〇〇〇〇		4	90			90
4	〇〇〇〇			100			100
5	〇〇〇〇			100			100
6	〇〇〇〇			100			100
7	〇〇〇〇			100			100
8	〇〇〇〇			100			100
9	〇〇〇〇			100			100
10	〇〇〇〇		3	90			90
11	〇〇〇〇		4	90			90
12	〇〇〇〇			100			100
13	〇〇〇〇			100			100
14	〇〇〇〇		6	90			90
15	〇〇〇〇			100			100
16	〇〇〇〇			100			100
17	〇〇〇〇		4	90			90
18	〇〇〇〇			100			100
	平均			97.2			97.2

2コマ正答率

n=18

NO.	問題文	正答率
1	福祉用具は、ADL・QOL向上のために使用するものだ。	100%
2	車椅子は、安定した座位が取れないといけない。	100%
3	車椅子は、座位環境を整えば、移乗については考えなくて良い。	94.4%
4	車椅子を足でこぐ場合は、座面の高さが重要だ。	83.3%
5	快適な座位のために、骨盤の安定は必要だ。	100%
6	骨盤が安定していれば、シートクッションは必要ない。	94.4%
7	バックサポートはもたれることが出来れば、形状に工夫は必要ない。	100%
8	姿勢の安定には、側方からのサポートも必要だ。	100%
9	フットサポート・アームサポートの設定は、座位姿勢に影響を与える。	100%
10	身体に合った車椅子であれば、じっと長時間座っていても問題ない。	100%

■考察

1コマ目で、実習を取り入れたことにより、2コマ目の内容の理解が深まった。実習と座学とのバランスができた内容であった。問題文も留学生にも理解しやすい文章で作成されていた。基礎編と同様に、受講生も楽しかったのか、活気のある講座であった。

(3) アンケート結果

車椅子シーティング技術【応用編】 受講アンケート（満足度と理解度）

1コマ目

9:00~10:30

◆満足度
n=18

	1 満 足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不 満
テキストの見やすさについて	94.4%	5.6%	0%	0%
授業の進め方やスピードについて	94.4%	5.6%	0%	0%

テキストの見やすさ、授業の進め方やスピードについて、どちらも高評価であった。

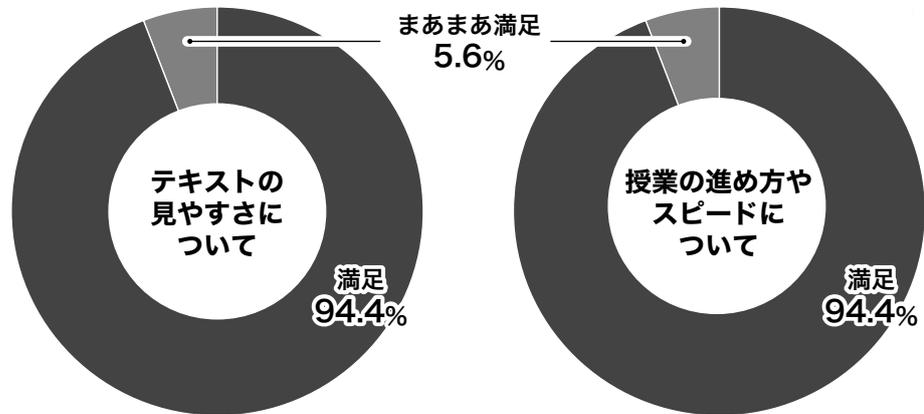
◆理解度
n=18

	1 理解できた	2 まあまあ理解できた	3 あまり理解できなかった	4 理解できなかった
車椅子シーティングの目的について	66.7%	33.3%	0%	0%
車椅子の基礎知識の整理について	66.7%	33.3%	0%	0%
車椅子シーティングの基礎知識について	66.7%	33.3%	0%	0%

概ね理解できている傾向であった。

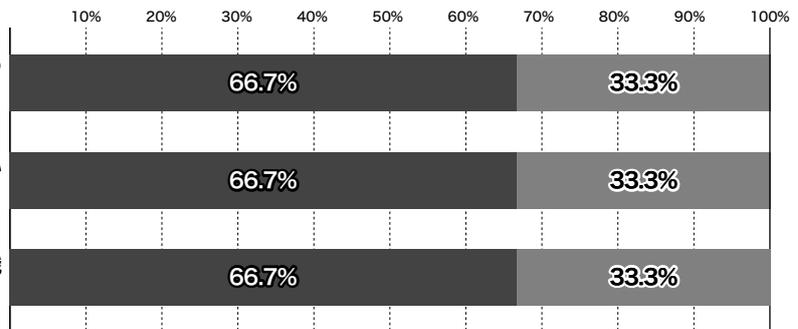
◆満足度

- 1 満 足
- 2 まあまあ満足
- 3 やや不満
- 4 不 満



◆理解度

- 1 理解できた
- 2 まあまあ理解できた
- 3 あまり理解できなかった
- 4 理解できなかった



- 1 理解できた
- 2 まあまあ理解できた
- 3 あまり理解できなかった
- 4 理解できなかった

車椅子シーティング技術【応用編】 受講アンケート（満足度と理解度）

2コマ目

10:40~12:10

◆満足度 n=18

	1 満 足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不 満
テキストの見やすさについて	88.9%	11.1%	0%	0%
授業の進め方やスピードについて	83.3%	16.7%	0%	0%

テキストの見やすさ、授業の進め方やスピードについて、どちらも高評価であった。

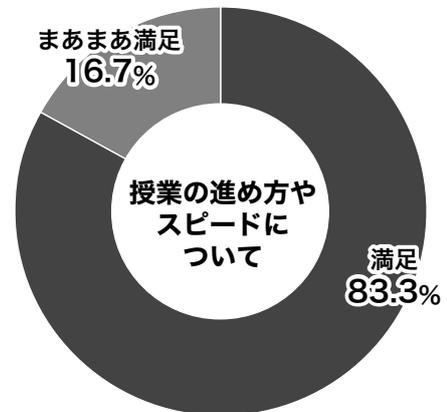
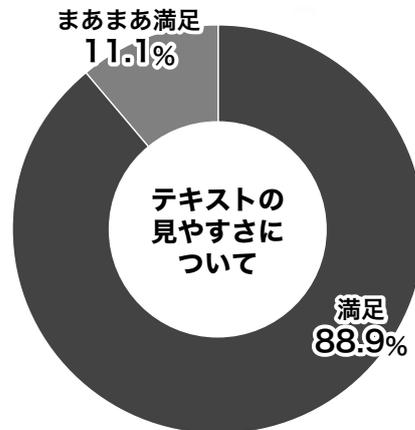
◆理解度 n=18

	1 理解できた	2 まあまあ理解できた	3 あまり理解できなかった	4 理解できなかった
シートクッション選定について	66.7%	33.3%	0%	0%
アームサポート高さ調整について	72.2%	27.8%	0%	0%
フットサポート高さ調整について	72.2%	27.8%	0%	0%
背張り調整(背角込み)について	61.1%	38.9%	0%	0%

概ね理解できている傾向であった。

◆満足度

- 1 満 足
- 2 まあまあ満足
- 3 やや不満
- 4 不 満



◆理解度



- 1 理解できた
- 2 まあまあ理解できた
- 3 あまり理解できなかった
- 4 理解できなかった

車椅子シーティング技術【応用編】 受講アンケート（満足度と理解度）

3コマ目

13:00~14:30

◆満足度 n=18

	1 満 足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不 満
テキストの見やすさについて	83.3%	16.7%	0%	0%
授業の進め方やスピードについて	83.3%	16.7%	0%	0%

テキストの見やすさ、授業の進め方やスピードについて、どちらも高評価であった。

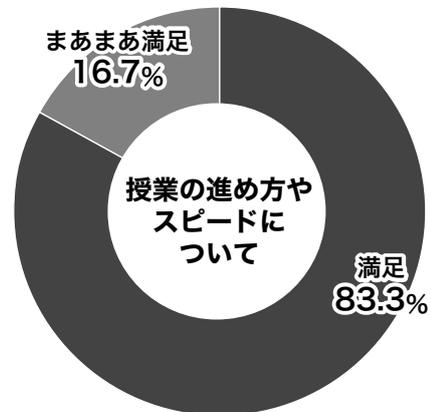
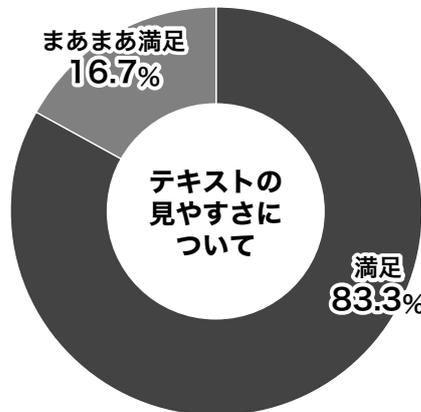
◆理解度 n=18

	1 理解できた	2 まあまあ理解できた	3 あまり理解できなかった	4 理解できなかった
車椅子駆動のポイントについて	66.7%	33.3%	0%	0%
仕様の違う車椅子の駆動体験(座高)について	61.1%	38.9%	0%	0%
仕様の違う車椅子の駆動体験(座角)について	61.1%	38.9%	0%	0%
仕様の違う車椅子の駆動体験(メインホイールサイズ)について	61.1%	38.9%	0%	0%
仕様の違う車椅子の駆動体験(メインホイール前後位置)について	61.1%	38.9%	0%	0%

概ね理解できている傾向であった。

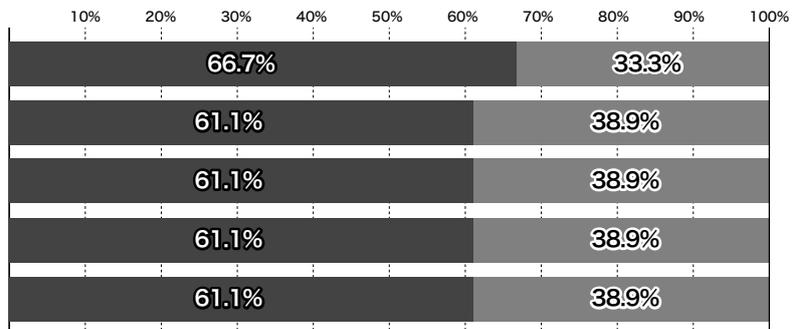
◆満足度

- 1 満 足
- 2 まあまあ満足
- 3 やや不満
- 4 不 満



◆理解度

- 車椅子駆動のポイントについて
- 仕様の違う車椅子の駆動体験(座高)について
- 仕様の違う車椅子の駆動体験(座角)について
- 仕様の違う車椅子の駆動体験(メインホイールサイズ)について
- 仕様の違う車椅子の駆動体験(メインホイール前後位置)について



- 1 理解できた
- 2 まあまあ理解できた
- 3 あまり理解できなかった
- 4 理解できなかった

車椅子シーティング技術【応用編】 受講アンケート（満足度と理解度）

4コマ目

14:40~16:10

◆満足度

n=18

	1 満 足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不 満
テキストの見やすさについて	88.9%	11.1%	0%	0%
授業の進め方やスピードについて	88.9%	11.1%	0%	0%

テキストの見やすさ、授業の進め方やスピードは、どちらも高評価であった。

◆理解度

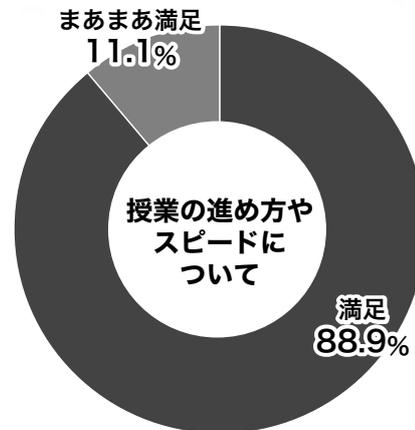
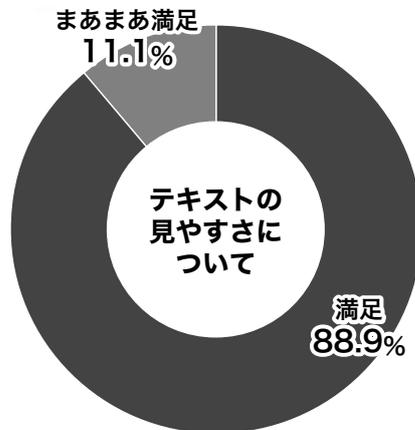
n=18

	1 理解できた	2 まあまあ理解できた	3 あまり理解できなかった	4 理解できなかった
想定するケースの振り分け(片麻痺座位)について	50.0%	50.0%	0%	0%
想定するケースの振り分け(片麻痺駆動)について	55.6%	44.4%	0%	0%
想定するケースの振り分け(円背座位)について	66.7%	33.3%	0%	0%
想定するケースの振り分け(円背駆動)について	66.7%	33.3%	0%	0%

片麻痺座位や片麻痺駆動は若干理解度が低い傾向であるが、概ね理解できている傾向であった。

◆満足度

- 1 満 足
- 2 まあまあ満足
- 3 やや不満
- 4 不 満



◆理解度



- 1 理解できた
- 2 まあまあ理解できた
- 3 あまり理解できなかった
- 4 理解できなかった

車椅子シーティング技術【応用編】 受講アンケート（講師の教え方と興味・関心）

講師の教え方

	n=18			
	1 満 足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不 満
講師の教え方はどうでしたか	88.9%	11.1%	0%	0%

全員から講師の教え方に満足との回答が得られた。

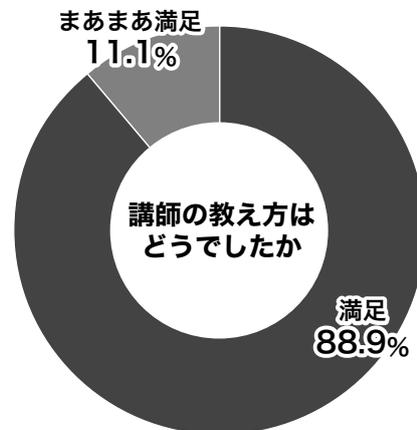
興味・関心

	n=18			
	1 できた	2 まあまあできた	3 あまりできてこなかった	4 できてこなかった
興味・関心について	72.2%	27.8%	0%	0%

全員が車椅子シーティングに興味・関心をもった結果となった。

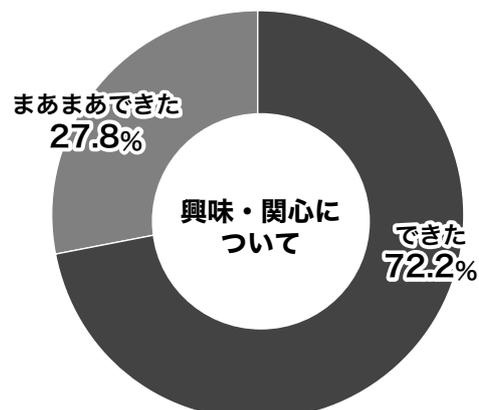
◆満足度

- 1 満 足
- 2 まあまあ満足
- 3 やや不満
- 4 不 満



◆興味・関心

- 1 できた
- 2 まあまあできた
- 3 あまりできてこなかった
- 4 できてこなかった



車椅子シーティング技術【応用編】 受講アンケート（考え方が変わったこと）

回 答

- ・車椅子が使用する利用者に大きな影響を与えることが分かった。
- ・車椅子に対する考え方。
- ・骨盤が安定することで、快適な座位が取れることが分かった。
- ・様々な工夫により、乗り心地が変わったことについて体験してみて工夫することの良さを感じた。
- ・過度なサポートは、時々ユーザーを拘束する場合があること。
- ・タイヤの大きさ、位置などで駆動のしやすさが変わること。
- ・適合した車椅子を乗ることで、ユーザーの心身の状態がどれほど変わるのか。
- ・様々な身体の部分について、あわせることが大事だと感じた。
- ・車椅子には、その人に合わせてフットサポートやアームサポート、座面の高さなどを変えることが大切だと分かった。
- ・背面の調整が必要ということ。
- ・同じ車椅子でも、色々な種類と特徴がそれぞれ違うことをよく考えられた。
- ・骨盤の位置によって、姿勢が変わること。
- ・身体の状態に応じた漕ぎ方など車椅子の構造を理解するだけで、全く違うということが身体で感じる事ができた。

車椅子シーティング技術【応用編】 受講アンケート（考え方が変わったこと）

回 答

- ・体験を通して、車椅子の大切さを学び、今後、介護の現場で生きていくことを実践していきたいと思った。
- ・対象者の体調と身体の状態に合わせ車椅子を繰り返し調整すること。
- ・車椅子に座って自走してみて、体勢が崩れたり、腕や脚が疲れたりと介助側ではなく、利用者側の体験ができて、これからの介助の仕方が分かった。
- ・車椅子の調整についてよく理解できた。
- ・実際、長時間車椅子に乗ってみて、車椅子を利用している人が、どんな車椅子に乗って自走するかで疲れが変わることを体験できて分かった。

【考察】

体験を通して、車椅子ユーザー目線で考える思考ができる機会となった。

車椅子シーティング技術【応用編】 受講アンケート（講座で得られたもの新しく気づいたこと感じたこと）

回 答

- ・車椅子に調整できる部分が以外に多いことが分かったこと。
- ・車椅子の操作方法(片麻痺)の場合などのコツを得ることができた。また、個人に合わせた適合の仕方学ぶことができたこと。
- ・タイヤの位置によって滑りやすいことに気づいたこと。
- ・車椅子の機能の調整の仕方とその調整することによって使いやすくなることについて学ぶことができたこと。
- ・バリエーション。
- ・側方からのサポートがあることで、より姿勢が安定すること。
- ・シーティング、背中合わせ方。
- ・車椅子の高さなどを合わせることで、ADLなど向上することが適切に行うことも改めて必要だと思ったこと。
- ・車椅子に乗る機会が多く、色々な情報があることが分かったこと。
- ・円背などで、背面を合わせる時、少し背もたれを傾けて、後ろのベルトを少し緩めるところと、きつくするところがあること。
- ・利用者の快適な座位のポイントを理解したことがきっかけで、利用者が安定するような確認をすることに気づいた。

車椅子シーティング技術【応用編】 受講アンケート（講座で得られたもの新しく気づいたこと感じたこと）

回 答

- ・片手片足での車椅子操作が難しかったため、初めて行う高齢者も難しいと思ったこと。
- ・どのように合わせたりするのが知れた。
- ・実際に体験しないと得られない疲労感や車椅子の違いについて、体感することができ、座り方についても気づかされるが多かったこと。
- ・調整する根拠を身をもって知ることができたこと。
- ・フットサポートの位置や角度によって、腰や座骨の向きが変わり、座位姿勢に影響を与えることを知り、少しのことで、全然変わってくると実感したこと。
- ・背張り調整について。
- ・車椅子の構造だけではなく、体格や乗る角度に合わせる必要があることを知った。

【考察】

車椅子ユーザーの目線に立つ体験によって、車椅子の機能の活用方法について詳しく学ぶことができる機会となった。

車椅子シーティング技術【基礎編】 受講アンケート（満たされなかったもの、もっと学びたいこと）

回 答

- ・聞き取れなかったから、また学びたい（話すスピードが少し速かった）。
- ・利用者の状態にあわせた車椅子の調整の仕方。
- ・車椅子のバックサポートの上げ方と車輪の取り外し方。
- ・車椅子の構造。
- ・外に車椅子を使って行ってみたい。
- ・シート、クッションには他にどのようなものがあるのか知りたい。
- ・自分に最も合う車椅子が知りたい。
- ・車椅子の高さ調整をもっとしてみたい。
- ・福祉用具選定についてもっと詳しく学びたい。
- ・シーティングをもっと学びたい。
- ・学んだことを実践してみたい。
- ・実際に車椅子を乗り比べ、自分で運転しやすいものと、重かったり、動かしにくいものがあり、分かりやすかったもので、もっと色々違いを知りたい。
- ・アームサポートの調整。

車椅子シーティング技術【応用編】 受講アンケート（総合的な満足度 満点100点）

満足度点数表

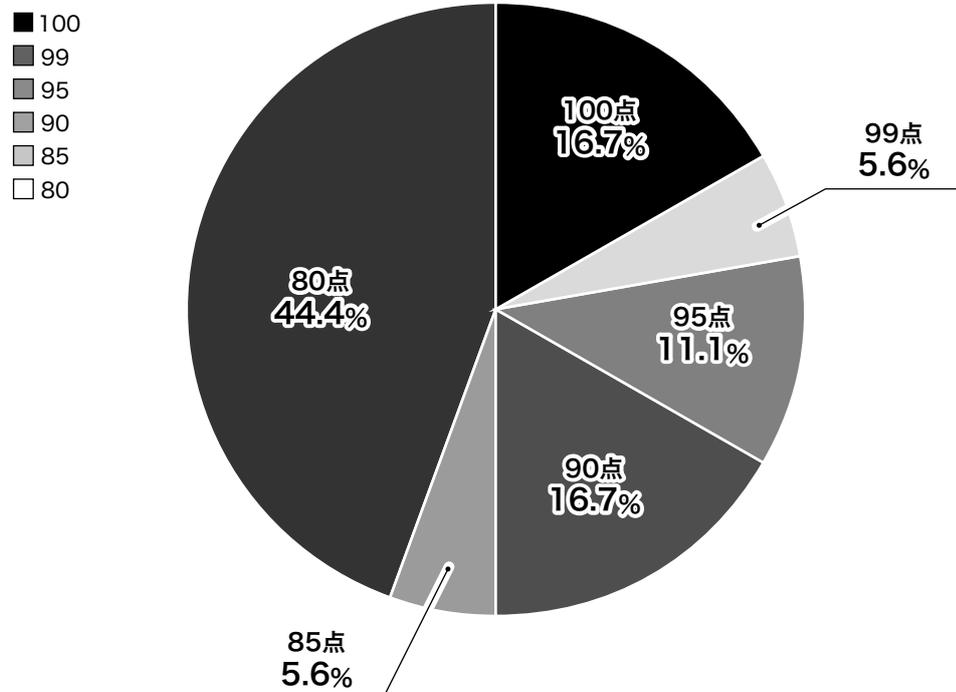
平均約88点

点数	100	99	95	90	85	80
割合	16.7%	5.6%	11.1%	16.7%	5.6%	44.4%

【考察】

体験実習を多く取り入れたことにより、体験でしか得られないことを通して、学ぶ意識が高まった結果となった。

満足度点数表



車椅子シーティング技術【応用編】 受講アンケート（点数の理由）

回 答

- ・利用者に必要な車椅子の調整の仕方が分かったから。
- ・満足できたから、とても分かりやすかったから。
- ・円背の方にバックサポートを調節し、倒れることで姿勢をサポートできるなど学べたから。
- ・利用者の状態に応じた調整の仕方や車椅子の調整による使い方について学ぶことができたから。
- ・もっと学びたいと思ったから。
- ・たくさんの種類の車椅子を駆動して、利用者の気持ちが少し分かったから。
- ・体験が多かったり、座学で深く学べたから。
- ・各部分の高さを合わせないと姿勢が安定しないことも知れて良かったから。
- ・体験がたくさんできて、身体で感じることで良い体験になったから。
- ・知らなかったことを学べて良かったと思ったから。
- ・車椅子を適切に調整できるようにもっと学びたいから。
- ・利用者が安定していない姿勢を見つけ、上手に調整していきたいから。
- ・車椅子で教室内を回る時、スピードが遅い人がいて恐かった。車椅子が合っていなかったから。
- ・1コマ目に片麻痺になりきって車椅子を動かしたが、思ったより動かなくて少しイラついた体験ができたから。

車椅子シーティング技術【応用編】 受講アンケート（点数の理由）

回 答

- ・自分が知りたいことを学ぼうとする意志ができたため。
- ・全て良かったから。
- ・車椅子についてまだ理解できていないことがあるので、また機会があれば、是非たくさん教えてほしい。
- ・体験時間が多かったので分かりやすかったから。
- ・実際、体験をして車椅子を知ることができて良い経験となったから。

【考察】

総合的には、高評価であった。体験を通して、学ぶ目的を感じることによって、受講生自身から意欲的に学ぼうという姿勢が見られた結果となった。
受講生からも、学び足りないという声が多かった。

■考察

テキストの見やすさと授業の進め方やスピードは、高評価であった。受講生からも、「分かりやすかった」や「満足できた」「もっと学びたいと思ったから」といったことから判断できる。また、「体験がたくさんできてよかった」という声もあり、講師の工夫が見える。

講師の教え方についても、88.9%が「満足」で、11.1%が「まあまあ満足」と全員から満足したとの評価であった。

シーティングに対する興味・関心についても基礎編より若干下ったものの、72.2%が「できた」で、27.8%が「まあまあできた」という結果であった。

【テキストの見やすさの満足度】

【授業の進め方やスピードの満足度】

コマ数	満足度の割合 満 足	満足度の割合 まあまあ満足	コマ数	満足度の割合 満 足	満足度の割合 まあまあ満足
1コマ	94.4%	5.6%	1コマ	94.4%	5.6%
2コマ	88.9%	11.1%	2コマ	83.3%	16.7%
3コマ	83.3%	16.7%	3コマ	83.3%	16.7%
4コマ	88.9%	11.1%	4コマ	88.9%	11.1%

4. キャリアデザイン編

(1) 講座スケジュール

令和2年12月21日(月)・令和3年1月18日(月) 9:00~16:10

場所: 姫路ハーベスト医療福祉専門学校 教場

受講生: 介護福祉学科1年生 18名

★キャリアデザイン

日程	時間	内容
12月21日(月) (90分×1コマ)	14:40~16:10	<p>■事前に配布し①~⑧の様式に記入したもので行う</p> <p>・様式:①自分史、②インタビューシート、③個性・性格、④「強み」と「弱み」、⑤仕事に対して大切にしたい価値観、⑥環境や生活に対して大切にしたい価値観、⑦自分理解のまとめ、⑧リアセック体験</p> <p>■流れ</p> <p>「キャリアデザイン~キャリアを考える~」→「自分らしさについて~原点を探す~」→「自己理解を深める~グループワーク~」→「自分を知る~3つの自己イメージ~」→「自己理解と仕事理解」</p>
1月18日(月) (90分×1コマ)	14:40~16:10	<p>目標設定</p> <p>キャリアデザインシート(12月21日に作成した①~⑦を参考に書き上げる)</p> <p>目標達成のためのアクションプラン</p> <p>転機のかた</p>

■講師

有限会社グレイスプランニング

キャリアコンサルタント 嶋田アキ 氏



■講座風景 (令和2年12月21日)



■講座風景（令和3年1月18日）



2020年12月21日 (抜粋)

① 自分史を作る

① 自分史を作る ライフステージチェックシート 10-20代

氏名 [] 作成日: 年 12月 15日

各年代別に自分がかかわった主な出来事、興味があったこと・好きだったことの欄に記入して、最下部の「満足度グラフ」を記入してください。

	誕生～小学生 (0歳～12歳)	中学生 (13歳～15歳)	高校生 (16歳～18歳)	卒業から現在まで (19歳～)
自分がかかわった主な出来事	3歳の時 弟が生まれた。 12歳の時 引越をした	テニスを5年間続けて、 表彰状が3枚くらいある (団体合わせて)	バイトを始めた。 青春を味わった。	コロナ 介護職を目指している
興味があったこと 好きだったこと	・トーマス・ゲーム ・トミカ ・新幹線 ・フクロボス	・テニス ・卓球 ・ゲーム	・ファッション ・音楽 ・映画	・ファッション ・音楽 ・心理学 ・映画

① 自分史を作る ライフステージチェックシート 10-20代

氏名 [] 作成日: 2020年 12月 15日

各年代別に自分がかかわった主な出来事、興味があったこと・好きだったことの欄に記入して、最下部の「満足度グラフ」を記入してください。

	誕生～小学生 (0歳～12歳)	中学生 (13歳～15歳)	高校生 (16歳～18歳)	卒業から現在まで (19歳～)
自分がかかわった主な出来事	祖父兄に甘やかされて育ち。 初めは自己中学に転校。	今も昔仲の良い親友ができた。 毎日通っていた。 中3で受験勉強が少なくて大変に なり、成績の事で親友とケンカに	今も仲の良い4人の親友と無敵で 出会う。 3年間丁度楽しんだ。	とにかく親に誤得で4年間の 学校へ。 親友が甲子園へ引越した。 お父さんが「ヘルニア」入院
興味があったこと 好きだったこと	運動すること 絵と書くこと 料理の材料	メイク 洋服 AVジャ=00	メイク 洋服 アクセサリー	メイク 洋服 アクセサリー ネイル

②インタビューシート

氏名 XXXXXXXXXX 作成日: 年 月 日

①で自分史を作りました。その中には、自分の興味・好きなことの変化や、最高の体験などが組み込まれていました。下記の自分用メモを記入しましょう。

① **あなた自身について**
 最初にあなた自身について、現在取り組んでいること、趣味、時間を割いている活動などを教えていただけますか？

自分用メモ
 アルバイト お弁当作り
 学校

② **あなたの最高の体験について**
 あなたのこれまでの経験の中で、最高の体験について振り返ってみてください。
 それはいつのことで、どのような状況だったでしょうか？ 最高の体験まで、あなたはどのようなことをしましたか？

自分用メモ
 仲の良い友達5人で温泉に行っただけ。
 高2の冬、桜の日等甲子園に憧れしかなかった。

そのとき周囲にはどのような人がいましたか？ どのような人とかかわりあい、どのような人と助け合ったのでしょうか？

自分用メモ

③ **あなたの大切にしたいことについて（授業中に記入しますので、空欄のままにしてください。）**
 最高の体験を振り返り、大切なことは何だったと思いますか？あなたの思い、人間関係、チームの雰囲気など、思い浮かぶ限り教えてください。

自分用メモ

氏名 XXXXXXXXXX 作成日: 年 月 日

①で自分史を作りました。その中には、自分の興味・好きなことの変化や、最高の体験などが組み込まれていました。下記の自分用メモを記入しましょう。

① **あなた自身について**
 最初にあなた自身について、現在取り組んでいること、趣味、時間を割いている活動などを教えていただけますか？

自分用メモ
 ・音楽を聴くこと -ファッション -アニメ観る -テニス
 ・ジョギング -映画を観る -バイト -カフェ巡り

② **あなたの最高の体験について**
 あなたのこれまでの経験の中で、最高の体験について振り返ってみてください。
 それはいつのことで、どのような状況だったでしょうか？ 最高の体験まで、あなたはどのようなことをしましたか？

自分用メモ
 ・東京に1泊2日して、「アキバ・シブヤ」「チームラボ」「お台場」「ライブ」「球技」「表参道」などたくさんのおこりに行って来て
 参観したこと。

そのとき周囲にはどのような人がいましたか？ どのような人とかかわりあい、どのような人と助け合ったのでしょうか？

自分用メモ
 ・友達 店員
 ・観光客

③ **あなたの大切にしたいことについて（授業中に記入しますので、空欄のままにしてください。）**
 最高の体験を振り返り、大切なことは何だったと思いますか？あなたの思い、人間関係、チームの雰囲気など、思い浮かぶ限り教えてください。

自分用メモ
 ・一緒に最高の体験をする人も最高の体験をしていることが分かった。
 ・一人で最高の思い出は作りたくない。

③あなたの個性・性格

③ あなたの個性・性格 氏名 [] 作成日: 年 月 日

(1) 個性・性格

以下の表から、自分に当てはまる言葉を5つ以上選び、左の空欄に○を記入してください。あまり考え込まずに、直感的に選びましょう。

当てはまる言葉がない、またはほかにより自分に当てはまると思う言葉がある場合は「()」の欄に記入してください。

<input type="checkbox"/> 明るくて社交的	<input type="checkbox"/> 自分にも人にも優しく、他人に弱みを見せられない	<input type="checkbox"/> 臆病で消極的なところがあり、慎重になりすぎる
<input checked="" type="checkbox"/> 人にやさしく、穏やかな性格	<input type="checkbox"/> 自分の意見を強引に通すところがある	<input type="checkbox"/> 繊細でデリケートな部分があり、細かい点に気が付く
<input type="checkbox"/> 引っ込み思案で内向的	<input type="checkbox"/> 悪い状況でも前向きに考えることができる	<input type="checkbox"/> 周りの人たちや環境等の問題点によく気が付く
<input type="checkbox"/> さっぱりした性格、さばさばしている	<input type="checkbox"/> 警戒心が強く、よく考えてから行動する	<input type="checkbox"/> 冷静に物事を考え、論理的に説明することができる
<input type="checkbox"/> 好奇心旺盛で、何事にも興味を持つ性格	<input type="checkbox"/> 常識や道徳を大切にしている	<input type="checkbox"/> 物事を合理的に考え、より良い方向に導くのが好き
<input type="checkbox"/> 困っている人に対して、思いやりを持って接する	<input type="checkbox"/> 集中力があり、何事にもまじめに向き合える	<input type="checkbox"/> 大胆な発想をすることが好き
<input type="checkbox"/> 仲間と助け合ったり譲り合ったりしながら行動できる	<input type="checkbox"/> 頼まれたことや、自分の行動に対して責任感が強い	<input type="checkbox"/> その場に応じて臨機応変に対応ができる
<input type="checkbox"/> 気が短くてせっかちなところがある	<input type="checkbox"/> コミュニケーションを大切にしている	<input type="checkbox"/> 物事を多面的、客観的にとらえる
<input type="checkbox"/> 何事にもへこたれず前向きに考えられる	<input type="checkbox"/> 意志が強く、自分で決めたことは達成できる	()

(2) 自分の個性を表現する特徴的な言葉

上記(1)で選んだ言葉から、特に自分に当てはまると思う言葉を3つ選び、その言葉を選んだ理由を過去の出来事をもとに記入してみましょう。

文章にすることが難しい場合は、箇条書きやキーワードのみの記入でも問題ありません。(例) 高校、部活、友情を感じたなど。

選んだ言葉	選んだ理由
① 慎重	・何事にもあせらずに自分のペースでゆっくりと慎重に行えることからこれを選びました。 ・物事を1人で決められない
② 責任感	・できてしまったことでもそれをしないことが自分に責任感を感じてしまうことからこれを選びました。
③ 集中力	・一気にたくさんのはたきで、1つのものをコツコツと作り上げていくのが好きです。この時の集中力は自分でもすごいと感じたから

③ あなたの個性・性格 氏名 [] 作成日: 年 月 日

(1) 個性・性格

以下の表から、自分に当てはまる言葉を5つ以上選び、左の空欄に○を記入してください。あまり考え込まずに、直感的に選びましょう。

当てはまる言葉がない、またはほかにより自分に当てはまると思う言葉がある場合は「()」の欄に記入してください。

<input type="checkbox"/> 明るくて社交的	<input type="checkbox"/> 自分にも人にも優しく、他人に弱みを見せられない	<input type="checkbox"/> 臆病で消極的なところがあり、慎重になりすぎる
<input type="checkbox"/> 人にやさしく、穏やかな性格	<input checked="" type="checkbox"/> 自分の意見を強引に通すところがある	<input type="checkbox"/> 繊細でデリケートな部分があり、細かい点に気が付く
<input type="checkbox"/> 引っ込み思案で内向的	<input type="checkbox"/> 悪い状況でも前向きに考えることができる	<input type="checkbox"/> 周りの人たちや環境等の問題点によく気が付く
<input type="checkbox"/> さっぱりした性格、さばさばしている	<input type="checkbox"/> 警戒心が強く、よく考えてから行動する	<input type="checkbox"/> 冷静に物事を考え、論理的に説明することができる
<input type="checkbox"/> 好奇心旺盛で、何事にも興味を持つ性格	<input type="checkbox"/> 常識や道徳を大切にしている	<input type="checkbox"/> 物事を合理的に考え、より良い方向に導くのが好き
<input type="checkbox"/> 困っている人に対して、思いやりを持って接する	<input type="checkbox"/> 集中力があり、何事にもまじめに向き合える	<input type="checkbox"/> 大胆な発想をすることが好き
<input type="checkbox"/> 仲間と助け合ったり譲り合ったりしながら行動できる	<input type="checkbox"/> 頼まれたことや、自分の行動に対して責任感が強い	<input type="checkbox"/> その場に応じて臨機応変に対応ができる
<input type="checkbox"/> 気が短くてせっかちなところがある	<input type="checkbox"/> コミュニケーションを大切にしている	<input type="checkbox"/> 物事を多面的、客観的にとらえる
<input type="checkbox"/> 何事にもへこたれず前向きに考えられる	<input type="checkbox"/> 意志が強く、自分で決めたことは達成できる	<input checked="" type="checkbox"/> (わかま)

(2) 自分の個性を表現する特徴的な言葉

上記(1)で選んだ言葉から、特に自分に当てはまると思う言葉を3つ選び、その言葉を選んだ理由を過去の出来事をもとに記入してみましょう。

文章にすることが難しい場合は、箇条書きやキーワードのみの記入でも問題ありません。(例) 高校、部活、友情を感じたなど。

選んだ言葉	選んだ理由
① わかま	小1の頃から祖父と兄に甘やかされて育ったから。
② 好奇心旺盛	昔から兄のする事も興味、した事に対して自分も「アゲアゲ」していたから
③ 人見知り	意外と言われる事が多いが初対面の人が苦手だから。

④あなたの「強み」と「弱み」

氏名 XXXXXXXXXX 作成日: 年 月 日

④ あなたの「強み」と「弱み」

(1) 「強み」と「弱み」
以下の表で、自分が非常に自信があるものに◎、ある程度自信があるものに○、絶対に自信がないものに×を、番号左の空欄に記入してください。
すべてに印をつけなくても大丈夫です。考え込まずに直感的に選びましょう。該当するものがない場合は「()」の欄に記入してください。

1	興味があがることは進んで取り組む	13	クラス発表などで説明をする時、わかりやすく伝えることができる
2	人からの指示や意見を聞くのではなく、自分で選択して行動できる	14	他の人に自分の考えをわかりやすく伝えることができる
3	グループ活動中に、発言が少ない人に声をかけてなごませる	15	相手の話にきちんと耳を傾け、理解することができる
4	クラス発表で担当を決める時など、自分に合っている役割を理解している	16	相手が話しやすい雰囲気を作り出すことができる
5	目標を立てて、努力を積み重ねて達成することができる	17	相手との意見や立場の違いを理解し、相手を尊重することができる
6	目標に対して、どれくらい達成できたか、次はどう繋げるか考える	18	相手から断られた場合、諦めずによりよい提案を考えることができる
7	常に「これでいいのか?」と考え、良くするために課題を見つける	19	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解することができる
8	トラブルが起きた時や失敗した時は、どこに問題があったかを考える	20	社会のルールをきちんと理解し、守ることができる
9	二度と失敗しないために、問題をどう解決したらよいか考える	21	人との約束を守ることを心がけている
10	具体的に目標を達成するために計画を立てることができる	22	ストレスの原因を早めに特定して取り除く努力をする
11	これまで存在しなかったアイデア、考え方、価値を生み出すことが得意	23	()
12	今までやってきたことを、創意工夫をして改善することができる	24	()

(2) 今後伸ばしていきたい「強み」と、克服していきたい「弱み」
上記(1)で「強み: ◎、○」、「弱み: ×」として選択した項目を、下記の表で今後伸ばしたい強み、克服したい弱みに番号を記入して整理しましょう。

今後伸ばしていきたい「強み」				今後克服していきたい「弱み」			
2				5	7	22	

自分メモ どのように強みを伸ばしていくか、弱みを克服していくかを記入しましょう。
 自分で行動できる場面にプラスして、周りに対しては、
 必要に応じてサポートできるように。
 何か小さな声でも良いから目標を自分自身で、
 ストレスを感じた時詳細に相談する。

氏名 XXXXXXXXXX 作成日: 年 月 日

④ あなたの「強み」と「弱み」

(1) 「強み」と「弱み」
以下の表で、自分が非常に自信があるものに◎、ある程度自信があるものに○、絶対に自信がないものに×を、番号左の空欄に記入してください。
すべてに印をつけなくても大丈夫です。考え込まずに直感的に選びましょう。該当するものがない場合は「()」の欄に記入してください。

1	興味があがることは進んで取り組む	13	クラス発表などで説明をする時、わかりやすく伝えることができる
2	人からの指示や意見を聞くのではなく、自分で選択して行動できる	14	他の人に自分の考えをわかりやすく伝えることができる
3	グループ活動中に、発言が少ない人に声をかけてなごませる	15	相手の話にきちんと耳を傾け、理解することができる
4	クラス発表で担当を決める時など、自分に合っている役割を理解している	16	相手が話しやすい雰囲気を作り出すことができる
5	目標を立てて、努力を積み重ねて達成することができる	17	相手との意見や立場の違いを理解し、相手を尊重することができる
6	目標に対して、どれくらい達成できたか、次はどう繋げるか考える	18	相手から断られた場合、諦めずによりよい提案を考えることができる
7	常に「これでいいのか?」と考え、良くするために課題を見つける	19	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解することができる
8	トラブルが起きた時や失敗した時は、どこに問題があったかを考える	20	社会のルールをきちんと理解し、守ることができる
9	二度と失敗しないために、問題をどう解決したらよいか考える	21	人との約束を守ることを心がけている
10	具体的に目標を達成するために計画を立てることができる	22	ストレスの原因を早めに特定して取り除く努力をする
11	これまで存在しなかったアイデア、考え方、価値を生み出すことが得意	23	()
12	今までやってきたことを、創意工夫をして改善することができる	24	()

(2) 今後伸ばしていきたい「強み」と、克服していきたい「弱み」
上記(1)で「強み: ◎、○」、「弱み: ×」として選択した項目を、下記の表で今後伸ばしたい強み、克服したい弱みに番号を記入して整理しましょう。

今後伸ばしていきたい「強み」				今後克服していきたい「弱み」			
5	7	10	14	16	3	6	13
							22

自分メモ どのように強みを伸ばしていくか、弱みを克服していくかを記入しましょう。
 1日1個自分で作りそれを自分なりにコメントしていくことで成長できるとは思いますが、
 1自分の思いを研ぎ込んで話し合う場を作り、強みの言語化を使いながらしていく。

⑤仕事に対して大切にしたい価値観

氏名 XXXXXXXXXX 作成日: 年 月 日

⑤ 仕事に対して大切にしたい価値観

(1) 仕事を選ぶ上でのこだわり
以下の表から、自分が仕事を選ぶ上でのこだわり(大切にしたい価値観)を5つ以上選び、左の空欄に○を記入しましょう。
考え込まずに直感的に選びましょう。当てはまる選択肢がない場合は、「その他()」欄に自由に記入してください。

<input type="radio"/> 1	仕事の中で専門家としての能力を発揮したい	<input type="radio"/> 7	安定している組織で働き、確実な報酬を得たい	<input type="radio"/> 13	互いに意見交換ができる職場で仕事がしたい
<input type="radio"/> 2	資格取得や講習会参加等を推奨する会社が良い	<input type="radio"/> 8	中小企業よりも大企業で仕事がしたい	<input type="radio"/> 14	顧客に安心・安全を感じてもらいたい仕事がしたい
<input type="radio"/> 3	信頼関係が築ける会社で仕事がしたい	<input type="radio"/> 9	周囲の人と協力して仕事がしたい	<input type="radio"/> 15	安定よりも挑戦を求めて仕事がしたい
<input type="radio"/> 4	自分を正当に評価してくれる会社が良い	<input type="radio"/> 10	開発や発明等の創造性のある仕事がしたい	<input type="radio"/> 16	仕事だけではなくプライベートを大事にしたい
<input type="radio"/> 5	顧客満足度を第一にサービスを作る仕事がしたい	<input type="radio"/> 11	世の中を良くするための仕事がしたい	<input type="radio"/> 17	その他()
<input type="radio"/> 6	組織で働くよりも独立して仕事がしたい	<input type="radio"/> 12	人や社会に貢献できる仕事がしたい	<input type="radio"/> 18	その他()

(2) 自分のこだわり(仕事に対して大切にしたい価値観)に影響を与えた心に残る経験・出来事
上記(1)で選んだ中で、強く思っているものを1位から3位まで順位をつけ、下記の番号欄に記入してください。
文章にすることが難しい場合は、箇条書きやキーワードのみの記入でも問題ありません。

順位	番号	選んだ理由
1位	4	みんなを基準で決めるのではなく、1人1人にあったペースや性格に合わせて判断してほしいから
2位	2	仕事ができても仲間の関係が悪かったら、質も下がるから
3位	7	危険なことをするより安定な報酬を得て幸せにしたいから

氏名 XXXXXXXXXX 作成日: 年 月 日

⑤ 仕事に対して大切にしたい価値観

(1) 仕事を選ぶ上でのこだわり
以下の表から、自分が仕事を選ぶ上でのこだわり(大切にしたい価値観)を5つ以上選び、左の空欄に○を記入しましょう。
考え込まずに直感的に選びましょう。当てはまる選択肢がない場合は、「その他()」欄に自由に記入してください。

<input type="radio"/> 1	仕事の中で専門家としての能力を発揮したい	<input type="radio"/> 7	安定している組織で働き、確実な報酬を得たい	<input type="radio"/> 13	互いに意見交換ができる職場で仕事がしたい
<input type="radio"/> 2	資格取得や講習会参加等を推奨する会社が良い	<input type="radio"/> 8	中小企業よりも大企業で仕事がしたい	<input type="radio"/> 14	顧客に安心・安全を感じてもらいたい仕事がしたい
<input type="radio"/> 3	信頼関係が築ける会社で仕事がしたい	<input type="radio"/> 9	周囲の人と協力して仕事がしたい	<input type="radio"/> 15	安定よりも挑戦を求めて仕事がしたい
<input checked="" type="radio"/> 4	自分を正当に評価してくれる会社が良い	<input type="radio"/> 10	開発や発明等の創造性のある仕事がしたい	<input checked="" type="radio"/> 16	仕事だけではなくプライベートを大事にしたい
<input type="radio"/> 5	顧客満足度を第一にサービスを作る仕事がしたい	<input type="radio"/> 11	世の中を良くするための仕事がしたい	<input type="radio"/> 17	その他()
<input type="radio"/> 6	組織で働くよりも独立して仕事がしたい	<input type="radio"/> 12	人や社会に貢献できる仕事がしたい	<input type="radio"/> 18	その他()

(2) 自分のこだわり(仕事に対して大切にしたい価値観)に影響を与えた心に残る経験・出来事
上記(1)で選んだ中で、強く思っているものを1位から3位まで順位をつけ、下記の番号欄に記入してください。
文章にすることが難しい場合は、箇条書きやキーワードのみの記入でも問題ありません。

順位	番号	選んだ理由
1位	7	将来的に報酬を失いたくないから、お金の心配がないから。
2位	16	お金だけ稼がたくらいじゃ、趣味など仕事以外の時間でもリフレッシュしたいから。
3位	4	他者と競うつもりはないので、1人1人の仕事を個別に見て評価してほしいから。

⑥環境や生活に対して大切にしたい価値観

氏名 XXXXXXXXXX 作成日: 年 月 日

あなたは何に価値を感じるのか考えてみましょう。

手順1. 以下の言葉の中で、自分に「あてはまる」、「大切にしていることだ」と感じるものを5つ以上選び、欄の左上に○をつけてください。

手順2. ○をつけたものに対して、「特に大切なもの」を3つ選んで右上に◎をつけてください。

平和であること	○ ◎ ストレスが少ないこと	友情関係が築けること	○ 人は「違う」と認めること	犯罪が少なく安全な環境であること	清潔で衛生的であること
○ ◎ お金持ちになること	愛する人々を大切にすること	忠実であること	刺激があること	周囲から認められること	勉強することが歓迎されること
能力を高めること	◎ 情があり、やさしいこと	権威・地位を得ること	◎ ◎ 自由に選択できること	均等なチャンスを得ること	夢を持ったり大きな志を抱くこと
物事をじっくり深く考えること	愛情に満ちていること	名声と栄誉を得ること	常識にとらわれず創造的であること	誠実に義務を果たすこと	自然や芸術の美しさを味わえること
正直であること	◎ 人の幸せのために行動すること	道徳・倫理・正義を大事にすること	◎ 自分に誇りを感ぜられること	他者を許す心を持つこと	礼儀正しく規範を守ること
自律的に行動すること	◎ 便利であること	◎ 頼れる存在が近くにいること	自分の信念をつらぬくこと	合理的で一貫性があること	能力のある人々に囲まれた環境であること

氏名 XXXXXXXXXX 作成日: 年 月 日

あなたは何に価値を感じるのか考えてみましょう。

手順1. 以下の言葉の中で、自分に「あてはまる」、「大切にしていることだ」と感じるものを5つ以上選び、欄の左上に○をつけてください。

手順2. ○をつけたものに対して、「特に大切なもの」を3つ選んで右上に◎をつけてください。

○ 平和であること	◎ ストレスが少ないこと	◎ 友情関係が築けること	人は「違う」と認めること	犯罪が少なく安全な環境であること	◎ 清潔で衛生的であること
○ ◎ お金持ちになること	◎ 愛する人々を大切にすること	忠実であること	刺激があること	◎ 周囲から認められること	◎ 勉強することが歓迎されること
能力を高めること	◎ 情があり、やさしいこと	権威・地位を得ること	◎ ◎ 自由に選択できること	均等なチャンスを得ること	◎ 夢を持ったり大きな志を抱くこと
○ 物事をじっくり深く考えること	◎ 愛情に満ちていること	名声と栄誉を得ること	◎ 常識にとらわれず創造的であること	◎ 誠実に義務を果たすこと	◎ 自然や芸術の美しさを味わえること
○ 正直であること	◎ 人の幸せのために行動すること	◎ 道徳・倫理・正義を大事にすること	◎ 自分に誇りを感ぜられること	◎ 他者を許す心を持つこと	◎ 礼儀正しく規範を守ること
○ 自律的に行動すること	◎ 便利であること	◎ 頼れる存在が近くにいること	◎ 自分の信念をつらぬくこと	◎ 合理的で一貫性があること	◎ 能力のある人々に囲まれた環境であること

⑦ 自分理解のまとめ

氏名 XXXXXXXXXX 作成日: 年 月 日

「キャリアデザイン」とは、自分の仕事と人生を主体的に描き、実現していくことを指します。自分が自分のことを決めるために、自分を理解してきました。キャリアデザインを設計する上では、大きく分けて「何ができるか」「何をやりたいか」「何をやるべきか」という3要素が重要になります。

1. 自分にできることは何か

「これはできると言えるかな？」
 「[う]して[う]けるならこれかな」というレベルでもOK。
 自分が現在持っている力です。これは今後もどんどん増えていきます。

できること: 現在自分が持っている力・能力・スキル(技能)のこと。
 人の話を最後まで傾聴し、どんな話でもまずは共感してあげられる。

2. 自分がやりたいことは何か

「どんなことが好きなのか、どんなことにやりがいを感じるのか、どんなことに興味を引かれるのか」を考えましょう。

やりたいこと: 自分のできることや、将来の「ユメ」から、何をやりたいのか考えてみましょう。
 介護福祉士を5年預める

3. 自分がやるべきことは何か

自分が置かれている環境の中で、期待されたり、役割が出てきたり、課題がでてきたりします
 できること: 認知症について正しい知識を持てる。
 やりたいこと: 地域密着型サポーターグループを作る。
 やるべきこと: ???

やるべきこと: 何かをする時、自分の役割・使命だと思ったり、周りの期待に応えたいことは?
 自分でケツメネをとり、先生になる

氏名 XXXXXXXXXX 作成日: 年 月 日

「キャリアデザイン」とは、自分の仕事と人生を主体的に描き、実現していくことを指します。自分が自分のことを決めるために、自分を理解してきました。キャリアデザインを設計する上では、大きく分けて「何ができるか」「何をやりたいか」「何をやるべきか」という3要素が重要になります。

1. 自分にできることは何か

「これはできると言えるかな？」
 「[う]して[う]けるならこれかな」というレベルでもOK。
 自分が現在持っている力です。これは今後もどんどん増えていきます。

できること: 現在自分が持っている力・能力・スキル(技能)のこと。 (5/5)
 何事にも興味を持って取り組むこと
 認知症サポーターとして対応すること
 自分の意見を他人に伝えること

2. 自分がやりたいことは何か

「どんなことが好きなのか、どんなことにやりがいを感じるのか、どんなことに興味を引かれるのか」を考えましょう。

やりたいこと: 自分のできることや、将来の「ユメ」から、何をやりたいのか考えてみましょう。 (6/6)
 将来性があり給料が良い仕事
 休日がしっかり取れる石確保された仕事

3. 自分がやるべきことは何か

自分が置かれている環境の中で、期待されたり、役割が出てきたり、課題がでてきたりします
 できること: 認知症について正しい知識を持てる。
 やりたいこと: 地域密着型サポーターグループを作る。
 やるべきこと: ???

やるべきこと: 何かをする時、自分の役割・使命だと思ったり、周りの期待に応えたいことは?
 介護福祉士資格の取得

⑨ キャリアデザインシート

氏名

作成日: 3年1月18日

1. 自己分析

1. 自己分析

事前アンケート② インタビューシート ③ 最高の体験を振り返って感じた大切なこと

おりに 貴重な機会 関わることが大切だと感じました。

事前アンケート③ あなたの個性・性格

① 引込 卒業まで 利他的 積極的: 人と関わりたい。

② 困っている人に対して思いやりを接する 困っている人が居れば、手伝う。

③ 気が楽い チャンとしたことで、リラックス。

事前アンケート④ あなたの強み・弱み

① 強い 自信がある ① コミュニケーション技術が身についた。

② 今までのことを 奮起 ② 仕事をこなすことで、自信がもてる。

③ ③

事前アンケート⑤ 仕事に対して大切にしたい価値観

顧客が安心 安全を感じてサービスを依頼し、仕事をやりがいを感じたい。

事前アンケート⑥ 理想や生活に対して大切にしたい価値観

平和であること。

事前アンケート⑦ 自己理解のまとめ

① できること 人の話を聴くこと、自分の話を聴いてくれる。

② やりたいこと 人の話を聴きたい。

③ やるべきこと 介護に関心を持ち、技術を身につけたい。

2. なりたい自分を探す

2. なりたい自分を探す

目的 「今一番実現したいこと」

「なりたい自分」が定まらずに迷っている。 「なりたい自分」を最終的に実現したいこと。 目指す到達点。

修習シートを各科目合格のこと

予習復習や定着の授業に積極的になること。

3. 課題をクリアするための目標設定

3. 課題をクリアするための目標設定

「なりたい自分」に対して「今の自分」が足りていないこと

① 専門用語の理解 言葉の意味を調べ、1 単語の意味を調べる、2 単語の意味を調べる、3 単語の意味を調べる

② 予習復習 1 単語の意味を調べる、2 単語の意味を調べる、3 単語の意味を調べる

③ システム化して勉強する。 1 単語の意味を調べる、2 単語の意味を調べる、3 単語の意味を調べる

4. 手段 (具体的な行動) 今後の行動を考える

4. 手段 (具体的な行動) 今後の行動を考える

① 1 自分で調べたい科目を探す、2 勉強する科目の優先順位を決める。

② 1 この科目は何時間か勉強するかを決める、2 システム化して勉強する。

③ 上記4.手段を⑩アクションプランシートで期間や進捗の管理をしましょう。

⑨ キャリアデザインシート

氏名

作成日: 年 月 日

1. 自己分析

自己分析	現在の自分を把握
事前ワークシート② インタビューシート	最高の体験を振り返って感じた大切なこと
・音楽 ・バレエ ・絵画(動物彫刻・野菜栽培)	
事前ワークシート③ あなたの個性・性格	自分の個性を表現する特徴的な言葉とその理由
① 思いやり	人といい人をするのがいい
② 考えが深い	一度決めたらとことんやる
③ 熱心家	100%の力でやる
事前ワークシート④ あなたの強み・弱み	自分の個性を表現する特徴的な言葉とその理由
自分の強み	強みをさらに伸ばしてゆくには
① 目標を立てず常に達成している	① 自分に厳しく 目標を定める
② 常に「本気でいこう?」と、考えが非常に熱心で、物事を進めようとする	② 自分に厳しい目標を設定し、達成した後は褒めたり自分を励ます
③ 得意な分野は、得意な分野に集中して取り組む	③ 得意分野以外の分野にも興味を持ち、知識を吸収する
① 自己分析の結果、得意分野に集中して取り組む	① 自己分析の結果、得意分野に集中して取り組む
② 得意分野以外の分野にも興味を持ち、知識を吸収する	② 得意分野以外の分野にも興味を持ち、知識を吸収する
③ 得意な分野は、得意な分野に集中して取り組む	③ 得意な分野は、得意な分野に集中して取り組む
事前ワークシート⑤ 仕事に対して大切にしたい価値観	
① 顧客に喜んでもらえること	
② 業務の効率化	
③ 安全な職場環境	
事前ワークシート⑥ 環境や生活に対して大切にしたい価値観	
① 自然環境を大切にすること	
② 地域社会の活性化	
③ 健康な生活を送ること	
事前ワークシート⑦ 自分理解のまとめ	
① できること	・勉強
② やりたいこと	・音楽 ・絵画 ・バレエ
③ やるべきこと	・自己分析の結果、得意分野に集中して取り組む

2. なりたい自分を探そう

目的	「今一番実現したいこと」	目的達成後の自分
手段	「今一番実現したいこと」	目的が達成した後の自分はどのように変化したいか
目的	「今一番実現したいこと」	目的が達成した後の自分はどのように変化したいか
手段	「今一番実現したいこと」	目的が達成した後の自分はどのように変化したいか

3. 課題をクリアにするための目標設定

課題	「今一番実現したいこと」	何をすればなりたい自分になるか
① 身体が健康になる	1 運動を毎日行う	1 運動を毎日行う
② バレエの練習を続ける	1 基礎的なバレエの練習を毎日行う	1 基礎的なバレエの練習を毎日行う
③ 絵画の練習を続ける	1 絵画の練習を毎日行う	1 絵画の練習を毎日行う

4. 手段(具体的な行動) 今後の行動を考える

手段(具体的な行動)	今後の行動を考える	目標を達成するために具体的に行動すること
①	毎日運動を行う	毎日運動を行う
②	バレエの練習を毎日行う	バレエの練習を毎日行う
③	絵画の練習を毎日行う	絵画の練習を毎日行う

上記A.手段を⑩アクションプランシートで期間や進捗の管理をしましょう。

上記A.手段を⑩アクションプランシートで期間や進捗の管理をしましょう。

⑩ 目標達成のためのアクションプラン

氏名 XXXXXXXXXX
 作成日: 年 月 日

手段 番号	手段 (具体的行動)	期 日 (年/月)	進捗												達成の確認方法							
			1 か月後 (2月)	2 か月後 (3月)	3 か月後 (4月)	4 か月後 (5月)	5 か月後 (6月)	6 か月後 (7月)	7 か月後 (8月)	8 か月後 (9月)	9 か月後 (10月)	10 か月後 (11月)	11 か月後 (12月)	1 年後 (1月)								
①-1	テスト受検準備(1ヶ月) < 自習パス 取得済	1年																				
①-2	説明会的勉強会(1ヶ月) < 質問や練習 済	1年																				
②-1	1ヶ月分を練習(1ヶ月) < テキストの精読(1ヶ月) 済	7月																				
②-2	1ヶ月分を練習(1ヶ月) < テキストの精読(1ヶ月) 利用済 < 開帳	7月																				
③-1	試験長インタビュー < 自習パス	4月																				
③-2	試験説明会、見学会(1ヶ月)	5月																				

⑪ 転機の考え方

環境が変わったり、新しい知識を得たりすることは、キャリアにとって大切な「転機」となります。なりたい自分に近づくためには、「転機」をチャンスに変えましょう。今回の車椅子の授業を受けたことをあなたの「転機」と考えて、今後のキャリアに活かせるように練習しましょう。

今後の自分のキャリアに役立つ知識だと思ったことを記入してください。	車椅子の選び方とメンテナンス入門講座	シーティング技術【基礎編】・【応用編】
その知識は、今後どのようなシーンで活用できますか?	施設で車椅子の修理(100円)に活用	施設で車椅子を利用する(100円)
その知識を活用した時の自分はどういう気持ちですか?	嬉しい	嬉しい
その知識は、今後どのように伸ばしていきたいですか?	施設の職員のみに伝えたい	施設の職員のみに伝えたい ほかには車椅子を費用はいる時はシーティングで対応したい

⑩ 目標達成のためのアクションプラン

氏名: XXXXXXXXXX 作成日: 年 月 日

手段 番号	手段 (具体的な行動)	進捗												達成の確認方法	
		1ヵ月後 (月)	2ヵ月後 (月)	3ヵ月後 (月)	4ヵ月後 (月)	5ヵ月後 (月)	6ヵ月後 (月)	7ヵ月後 (月)	8ヵ月後 (月)	9ヵ月後 (月)	10ヵ月後 (月)	11ヵ月後 (月)	1年後 (月)		
①-1	毎日、最低10分間は勉強														
①-2	自分で問題を考え、解いていく														
②-1	教科書の内容を覚える														
②-2	授業に集中する。														
③-1	作業技術の取得														
③-2	安全・守備・自主支援を覚える。														

⑪ 転機の考え方

環境が変わったり、新しい知識を得たりすることは、キャリアにとって大切な「転機」となります。なりたい自分に近づくためには、「転機」をチャンスに変えましょう。今回の車椅子の授業を受けたことをあなたの「転機」と考えて、今後のキャリアに活かせるように練習しましょう。

今後の自分のキャリアに役立つ知識だと思ったことを記入してください。	車椅子の選び方とメンテナンス	シーティング技術【基礎編】・【応用編】
その知識は、今後どのようなシーンで活用できますか？	車椅子の構造や操作方法を学ぶ。	車椅子の構造や操作方法を学ぶ。
その知識を活用した時の自分はどうな気持ちですか？	自信を持って、利用者と関わることができる。	自信を持って関わることができる。
その知識は、今後どのように伸ばしていきたいですか？	生活を車椅子の授業などで活かしていきたい。	授業に積極的に参加する。

(2) アンケート結果

キャリアデザイン編 受講アンケート（満足度と理解度）

満足度

14:40~16:10(受講前1コマ、受講後1コマ:計2コマ)

◆講座の進め方や教え方に対する満足度

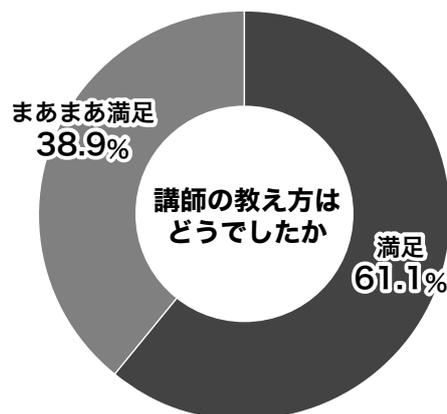
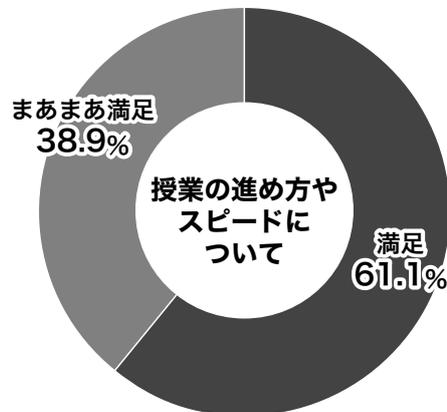
n=18

	1 満 足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不 満
授業の進め方やスピードについて	61.1%	38.9%	0%	0%
講師の教え方はどうでしたか	61.1%	38.9%	0%	0%

授業の進め方やスピード、講師の教え方は、どちらも高評価であった。

◆満足度

- 1 満 足
- 2 まあまあ満足
- 3 やや不満
- 4 不 満



キャリアデザイン編 受講アンケート（整理度）

整理度

14:40～16:10(受講前1コマ、受講後1コマ:計2コマ)

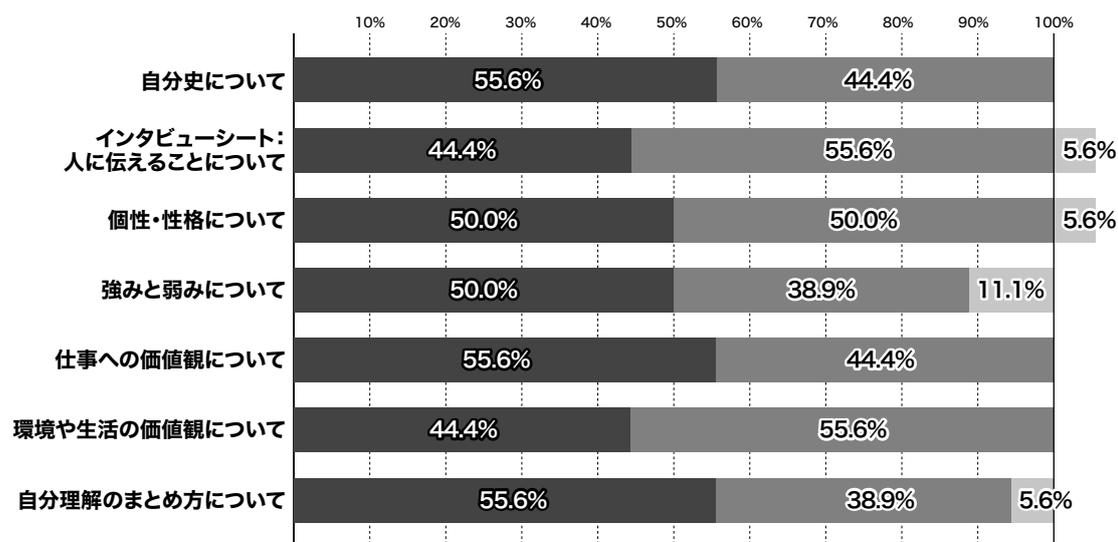
◆自分を理解することを目的に、下記の様式に記入しました。整理できましたか。

n=18

	1 整理できた	2 まあまあ整理できた	3 あまり整理できなかった	4 整理できなかった
自分史について	55.6%	44.4%	0%	0%
インタビューシート:人に伝えることについて	44.4%	55.6%	5.6%	0%
個性・性格について	50.0%	50.0%	5.6%	0%
強みと弱みについて	50.0%	38.9%	11.1%	0%
仕事への価値観について	55.6%	44.4%	0%	0%
環境や生活の価値観について	44.4%	55.6%	0%	0%
自分理解のまとめ方について	55.6%	38.9%	5.6%	0%

概ね、各項目の様式を活用して自己理解ができたようであった。

◆整理度



■ 1 整理できた ■ 2 まあまあ整理できた ■ 3 あまり整理できなかった □ 4 整理できなかった

キャリアデザイン編 受講アンケート（整理度）

整理度

14:40～16:10(受講前1コマ、受講後1コマ:計2コマ)

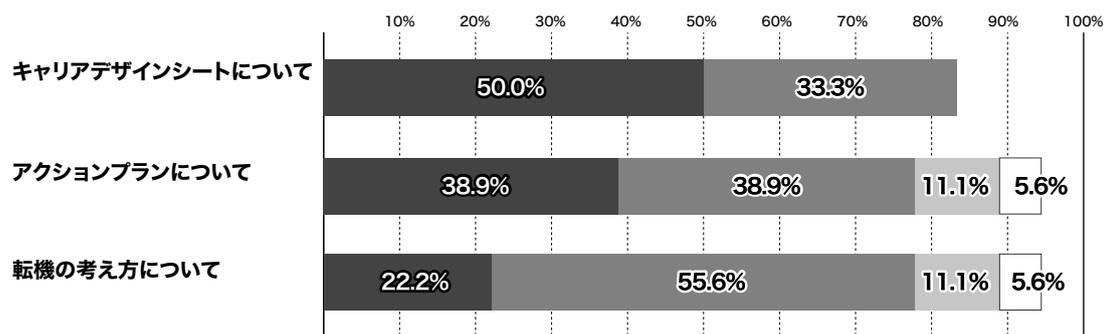
◆さらに、目標設計をするため整理して、下記様式を作成しました。整理・作成できましたか。

n=18

	1 満 足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不 満
キャリアデザインシートについて	50.0%	33.3%	0%	0%
アクションプランについて	38.9%	38.9%	11.1%	5.6%
転機のお考え方について	22.2%	55.6%	11.1%	5.6%

概ね、各項目の様式を活用して自己理解ができたようであった。

◆整理度



■ 1 整理できた ■ 2 まあまあ整理できた ■ 3 あまり整理できなかった □ 4 整理できなかった

キャリアデザイン編 受講アンケート（考え方が変わったこと）

回 答

- ・なんとなく目的が見えてきた。
- ・将来の目標に対して、自分の考え方が変わった。
- ・自分のことを振り返られてよかった。
- ・自分にないことを理解できる。
- ・1つの目標に対して、様々な視点で考えてみること。
- ・目標を明確に立てることが成功への方法。
- ・目標に向かってあきらめず、前に進む。
- ・考えをしっかりと持った方がよいと思った。
- ・具体的に一日一日の小さな目標を立てることが大切だと分かった。
- ・これからの目標を具体的に考えたこと。
- ・将来が明確になった。
- ・色々な視点を持つことが大切。
- ・目標を立てることの大切さを知り、実践しようと思った。

キャリアデザイン編 受講アンケート（考え方が変わったこと）

回 答

- ・自分のやりたいことを紙に書くことで、細かいことを考えるようになって、やる気アップした。
- ・日々の考えが色々変わっても自分の納得できる結果にしたい。
- ・自分史の立て方、自分の未来像について。
- ・何歳までにと具体的に目標を立てることで、考えになかった考えが出てきた。

【考察】

自身の振り返りにより、自己理解することで目標を持つことの大切さを考えさせられるものであった。

キャリアデザイン編

受講アンケート（講座で得られたもの新しく気づいたこと感じたこと）

回 答

- ・目標を立てる必要性に気づいた。
- ・将来への整理をすることで得られることがあってよかったと思った。
- ・自分のことを理解できるようになった。
- ・もっと勉強していくこと。
- ・色々な視点で考えると色々な考え方ができると学んだこと。
- ・自分と相手の考え方が違うこと。
- ・目標を変えることもよいと思った。
- ・目標などをしっかりと持ち、行動していきたいと感じた。
- ・他の人に自分の考え方を話すことで、楽しく、新しい考えを取り入れられた。
- ・自分を見つめ直す時間が持てたこと。
- ・目標を明確にすると目指しやすくなること。
- ・なりたい自分について。
- ・自分が気づけなかった個性に気づかされたこと。

キャリアデザイン編

受講アンケート（講座で得られたもの新しく気づいたこと感じたこと）

回 答

- ・自分がやりたいことが無理だと思っぐらい難しいことであっても、細かいところをきちんとすれば達成できること。
- ・いつまでに達成するかを考えていくことが大切だと感じたこと。
- ・どんな自分が理想なのか想像ができたこと。
- ・ただ目標を決めるのではなく、その目標に細かく手段などを付け加えることで、達成しやすくなると知ったこと。

【考察】

目標を立てることで何をすべきか明確に感じとったものであった。

キャリアデザイン編 受講アンケート（様式への記入について）

記入が分かりにくいもの

n=18

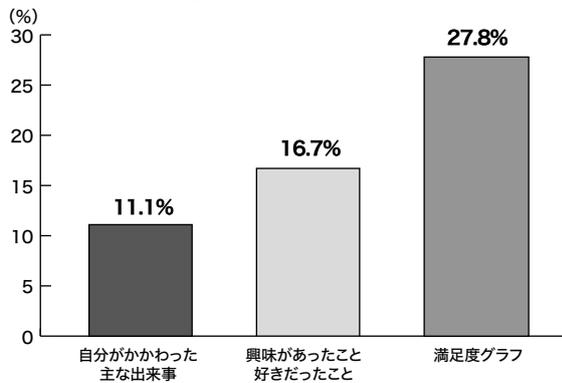
①自分史作成	
自分がかかわった主な出来事	11.1%
興味があったこと 好きだったこと	16.7%
満足度グラフ	27.8%

②インタビューシート	
あなた自身について	16.7%
あなたの最高の体験について	27.8%
あなたの大切にしたいことについて	22.2%

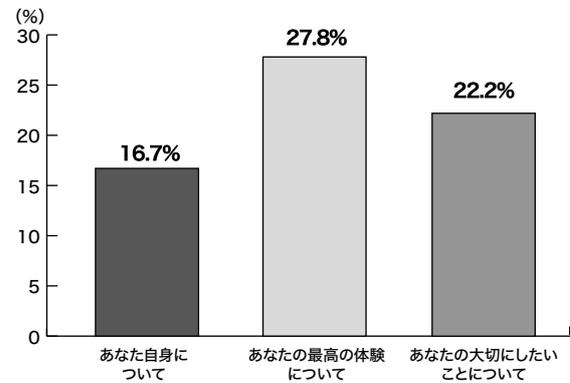
③個性・性格	
自分に当てはまる個性・性格を選ぶこと	11.1%
自分の個性を表現する特徴的な言葉	22.2%

④強みと弱み	
「強み」と「弱み」を選ぶこと	16.7%
今後、伸ばしていきたい「強み」、克服していきたい「弱み」	16.7%

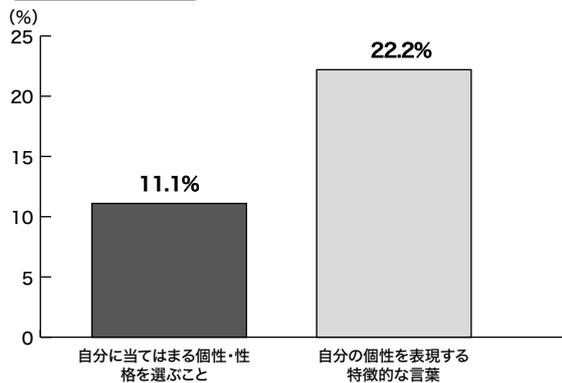
①自分史作成



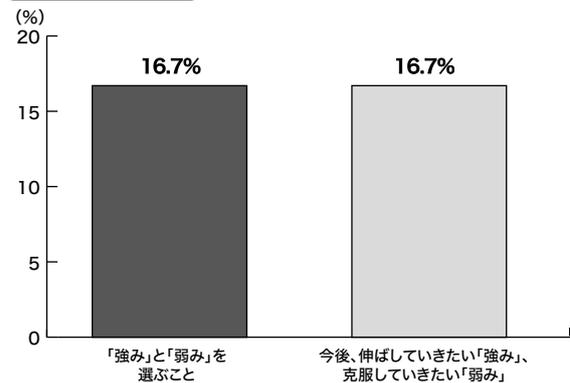
②インタビューシート



③個性・性格



④強みと弱み



キャリアデザイン編 受講アンケート（様式への記入について）

記入が分かりにくいもの

n=18

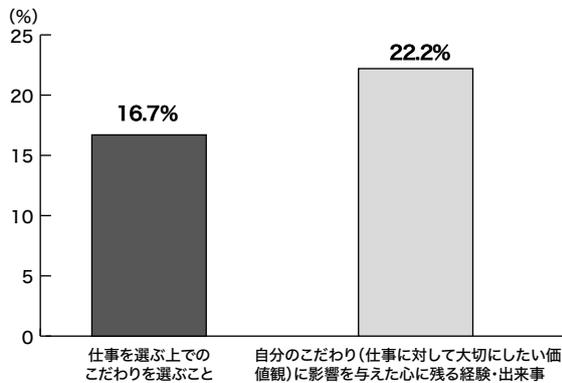
⑤ 仕事への価値観	
仕事を選ぶ上でのこだわりを選ぶこと	16.7%
自分のこだわり(仕事に対して大切にしたい価値観)に影響を与えた心に残る経験・出来事	22.2%

⑥ 環境や生活の価値観	
手順1	16.7%
手順2	16.7%

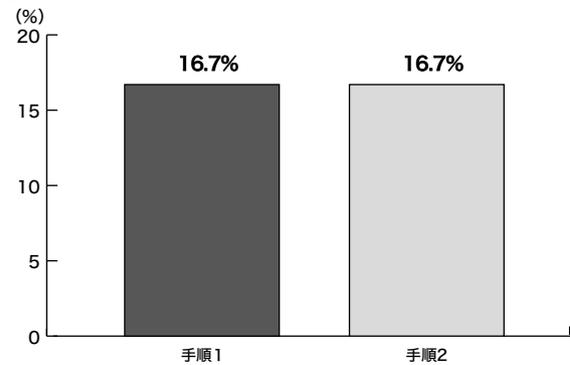
⑦ 自分理解	
自分にできることは何か	16.7%
自分がやりたいことは何か	33.3%
自分がやるべきことは何か	16.7%

⑨ キャリアデザインシート	
自己分析	22.2%
なりたい自分を探す	27.8%
課題をクリアにするための目標設定	22.2%
手段(具体的行動)、今後の行動を考える	27.8%

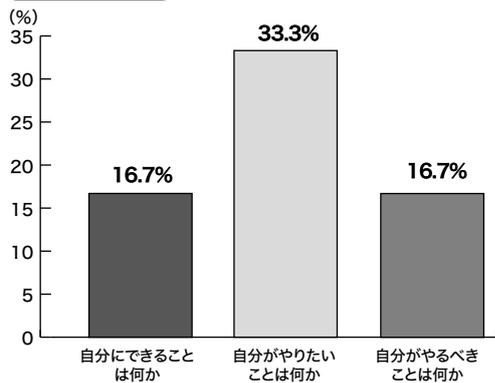
⑤ 仕事への価値観



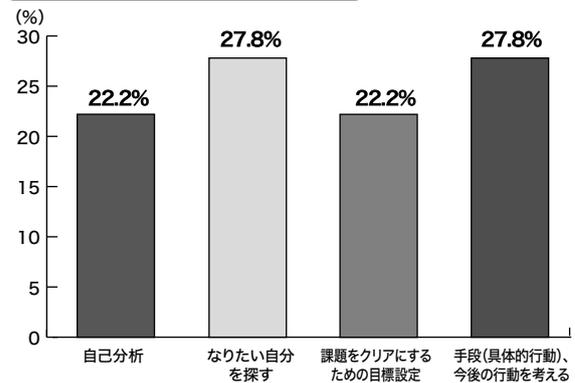
⑥ 環境や生活の価値観



⑦ 自分理解



⑨ キャリアデザインシート



キャリアデザイン編 受講アンケート（様式への記入について）

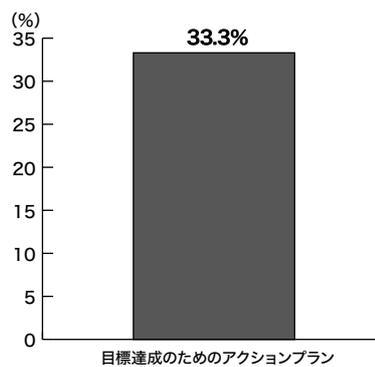
記入が分かりにくいもの

n=18

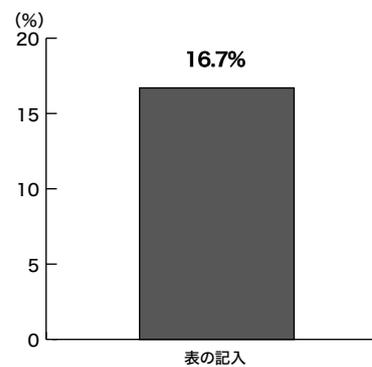
⑩アクションプラン	
目標達成のためのアクションプラン	33.3%

⑪転職の考え方	
表の記入	16.7%

⑩アクションプラン



⑪転職の考え方



キャリアデザイン編 受講アンケート（総合的な満足度 満点100点）

満足度点数表

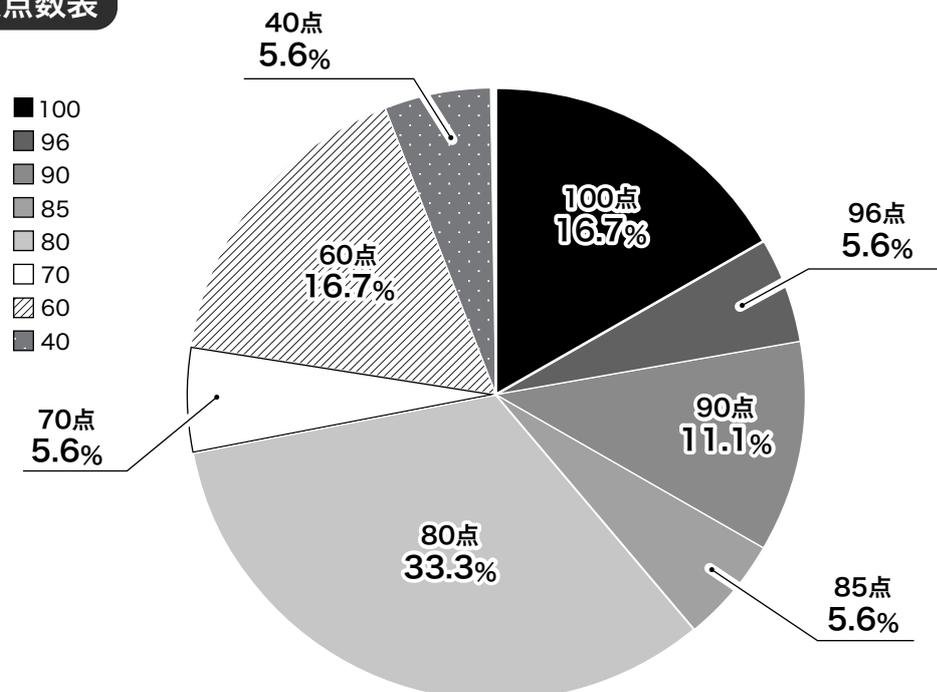
平均約79.5点

点数	100	96	90	85	80	70	60	40
割合	16.7%	5.6%	11.1%	5.6%	33.3%	5.6%	16.7%	5.6%

【考察】

自己理解をし、目標を立てる大切さを知った結果となった。

満足度点数表



キャリアデザイン編 受講アンケート（点数の理由）

回 答

- ・自分を客観的に見る機会を得たから。
- ・自分の想いを書いたり、伝えることがあまりできなかったから。
- ・自分が頑張ったら何でもできると思えたから。
- ・自分の目標や考え方を共有できてスッキリしたから。
- ・自分のことを整理できたから。
- ・理解しやすかった。他の人とのコミュニケーションをする時間が多かったから。
- ・目標などを上手く持てなかったから。
- ・自分のこれからの人生についてしっかり考えられたことと他の人に話すことで新しい考え方ができることが加わったから。
- ・目標達成に向けて考える時間などがもう少しあれば良かった。
- ・分かりやすく、自分のためになったから。
- ・今まで気づいていなかったことに気づくことができたから。
- ・今やるべきことについて理解を深められたから。
- ・多くの人の感想を聞いて、自分自身に気づかされることがあったから。

キャリアデザイン編 受講アンケート（点数の理由）

回 答

- ・とても分かりやすい授業で満足できたから。
- ・ある程度自分について考えることができたから。
- ・今後の目標と課題が明確になったから。
- ・目標が具体的にまだ定まっていなかったもので、来年までにコツコツ小さな目標から立てていきたいと思えるようになったから。
- ・今までは、目標を立てて頑張るだけだったので達成が難しかったけど、具体的に細かく考えることで、細かく立てた目標を一つ一つ達成していき、最後は目標を達成できるということがよく分かったから。

【考察】

総合的に、評価が高い結果であった。自分について考えることの場合があったこと、目標は小さなことでも具体的に持つことが大切ということを考える機会の結果と思われる。

■考察

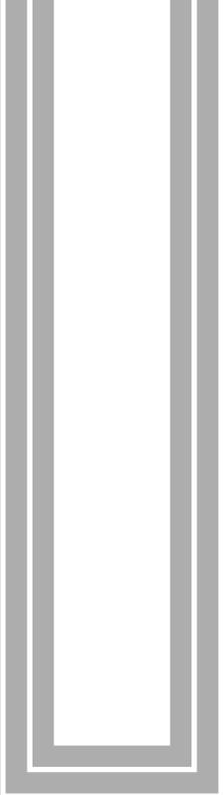
将来に向けて自分のキャリアをデザインしていく上で、自己を理解し、目標を明確に立てることを理解する内容で実施した。受講生の中には、具体的な目標を手足ること、今まで考えなかったことを考えるようになったり、将来が明確になったりと様々な考えの変化が見られた。

様々な様式に記入するため、受講生のテンションが気がかりであったが、講師の講座の進め方のスピードや教え方の工夫があり、受講生も楽しく受講できたように思われる。

【講座の進め方やスピードの満足度】

【講師の教え方の満足度】

満足度の割合 満 足	満足度の割合 まあまあ満足	満足度の割合 満 足	満足度の割合 まあまあ満足
61.1%	38.9%	61.1%	38.9%



第4章 第三者評価



第三者評価

1. 評価方法

- (1) 評価用紙記入による採点形式（第三者評価様式参照）
- (2) 評価参考資料：シラバス・コマシラバス、講座スケジュール、テキスト、確認テスト問題、確認テスト解答・解説、確認テスト結果一覧表、アンケート回答（コメント入り） 等

2. 第三者評価委員

- ▶ 企画推進委員会委員より、2名選出（団体・企業）

3. 評価結果

- ▶ 93点（団体）、90点（企業）という高評価であった。

4. 結果からの考察

(1) 検討必要と思われる評価項目

7. 【分野横断型】ターゲットに沿った講師で実施していたか。
8. 【リカレント教育】受講生と開催時期は適切であったか（介護学科1年生・12月：実習終了後）
9. 【リカレント教育】講座時間は適切であったか（総講座時間：33時間）
12. 【選び方とメンテナンス】受講生アンケート結果から、本事業が目指す人材像に向かった内容と思われるか。
13. 【シーティング】受講生アンケート結果から、本事業が目指す人材像に向かった内容と思われるか。

これらは、それぞれ評価が分かれたところである。それぞれの配点の差が20%配点違っている。介護分野の専門学校生に向けた実証講座結果ということもあり、分野横断型のリカレント教育としての評価では差が出た結果となった。様々な分野の方や年齢層の参加といった幅広く集めた検証を行うことで、これらの項目はクリアできると思われる。

(2) 特に良かったと思われる評価項目

5. 【分野横断型】ターゲットに向けたプログラム・カリキュラム、シラバス・コマシラバスになっているか。
15. 【汎用性・普及】事業終了後、開発したプログラム・カリキュラムは幅広く適用され普及すると思われるか。

この2つは、評価委員2人とも、配点では満点を付けていた。プログラム・カリキュラム内容としては、これまでにない取り組みであり、短期間でここまで作り上げたことには称賛という意見があった。

コメントでも、「現場での介護にも良いことだと思う」「理解度が高い結果」「講師を選ばず実施できることを目標にしていたことがわかる」「広く一般的に普及するためのカリキュラムになっていると感じる」など出てきたことから高評価を得られた結果であった。

(第三者評価様式)

評価項目	事業のポイント	評価の観点	配分点	採点	
評価項目	1	リカレント教育	分野横断型のリカレント教育として期待できるプログラム・カリキュラムになっているか。	10点	
	3	連携	企業・団体、教育機関等の連携は取れているか。	10点	
	4	分野横断	リカレント教育のプログラム・カリキュラム、シラバス・コマシラバスを開発しているか。	10点	
	5	分野横断	ターゲットに向けたプログラム・カリキュラム、シラバス・コマシラバスになっているか。	5点	
	6	分野横断	ターゲットに沿ったテキスト内容になっているか。	5点	
	7	分野横断	ターゲットに沿った講師で実施していたか。	5点	
	8	リカレント教育	受講生と開催時期は適切であったか（介護学科1年生・12月：実習終了後）	5点	
	9	リカレント教育	講座時間は適切であったか（総講座時間：33時間）	5点	
	10	選び方とメンテナンス	教材（車椅子の台数・クッション・工具等）は適切であったか。	5点	
	11	シーティング	教材（車椅子の台数・クッション・工具・シート等）は適切であったか。	5点	
	12	選び方とメンテナンス	受講生アンケート結果から、本事業が目指す人材像に向かった内容と思われるか。	10点	
	13	シーティング	受講生アンケート結果から、本事業が目指す人材像に向かった内容と思われるか。	10点	
	14	キャリアデザイン	受講生アンケート結果から、自己理解や目標に対する意識づけとなったと思われるか。	5点	
	15	汎用性・普及	事業終了後、開発したプログラム・カリキュラムは幅広く適用され普及すると思われるか。	10点	
	合計点			100点	

【配分点の考え方】

	大変優れている			優れている		やや劣っている			劣っている	
5点満点	5			4	3	2			1	
10点満点	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

評価者コメント	
---------	--

評価者氏名	所属先	
-------	-----	--

評価項目	事業のポイント	評価の観点	配分点	採点
評価項目	1 リカレント教育	分野横断型のリカレント教育として期待できるプログラム・カリキュラムになっているか。	10点	10
	3 連携	企業・団体、教育機関等の連携は取れているか。	10点	10
	4 分野横断	リカレント教育のプログラム・カリキュラム、シラバス・コマシラバスを開発しているか。	10点	10
	5 分野横断	ターゲットに向けたプログラム・カリキュラム、シラバス・コマシラバスになっているか。	5点	5
	6 分野横断	ターゲットに沿ったテキスト内容になっているか。	5点	5
	7 分野横断	ターゲットに沿った講師で実施していたか。	5点	3
	8 リカレント教育	受講生と開催時期は適切であったか（介護学科1年生・12月：実習終了後）	5点	3
	9 リカレント教育	講座時間は適切であったか（総講座時間：33時間）	5点	3
	10 選び方とメンテナンス	教材（車椅子の台数・クッション・工具等）は適切であったか。	5点	5
	11 シーティング	教材（車椅子の台数・クッション・工具・シート等）は適切であったか。	5点	5
	12 選び方とメンテナンス	受講生アンケート結果から、本事業が目指す人材像に向かった内容と思われるか。	10点	10
	13 シーティング	受講生アンケート結果から、本事業が目指す人材像に向かった内容と思われるか。	10点	10
	14 キャリアデザイン	受講生アンケート結果から、自己理解や目標に対しての意識づけとなったと思われるか。	5点	4
	15 汎用性・普及	事業終了後、開発したプログラム・カリキュラムは幅広く適用され普及すると思われるか。	10点	10
	合計点			100点

【配分点の考え方】

	大変優れている			優れている		やや劣っている			劣っている	
5点満点	5			4	3	2			1	
10点満点	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

一般的に座学を急ぐ社会の世界へ出される方が（P.T.・V.T.）
 補器具、特に座位保持の重要性について理解を得られず
 シーティングの発展に大きく影響を及ぼす事になると思え、
 現場での介護にも良い事だと感じます。

評価者 氏名		所属先	団 体
-----------	--	-----	-----

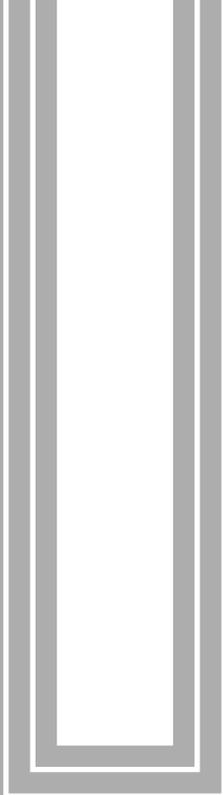
評価項目	事業のポイント	評価の観点	配分点	採点	
評価項目	1	リカレント教育	分野横断型のリカレント教育として期待できるプログラム・カリキュラムになっているか。	10点	9
	3	連携	企業・団体、教育機関等の連携は取れているか。	10点	9
	4	分野横断	リカレント教育のプログラム・カリキュラム、シラバス・コマシラバスを開発しているか。	10点	9
	5	分野横断	ターゲットに向けたプログラム・カリキュラム、シラバス・コマシラバスになっているか。	5点	5
	6	分野横断	ターゲットに沿ったテキスト内容になっているか。	5点	4
	7	分野横断	ターゲットに沿った講師で実施していたか。	5点	5
	8	リカレント教育	受講生と開催時期は適切であったか（介護学科1年生・12月；実習終了後）	5点	4
	9	リカレント教育	講座時間は適切であったか（総講座時間：33時間）	5点	4
	10	選び方とメンテナンス	教材（車椅子の台数・クッション・工具等）は適切であったか。	5点	5
	11	シーティング	教材（車椅子の台数・クッション・工具・シート等）は適切であったか。	5点	5
	12	選び方とメンテナンス	受講生アンケート結果から、本事業が目指す人材像に向かった内容と思われるか。	10点	7 8
	13	シーティング	受講生アンケート結果から、本事業が目指す人材像に向かった内容と思われるか。	10点	8
	14	キャリアデザイン	受講生アンケート結果から、自己理解や目標に対しての意識づけとなったと思われるか。	5点	5
	15	汎用性・普及	事業終了後、開発したプログラム・カリキュラムは幅広く適用され普及すると思われるか。	10点	10
	合計点			100点	90

【配分点の考え方】

	大変優れている			優れている		やや劣っている			劣っている	
5点満点	5			4	3	2			1	
10点満点	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

評価者コメント	<p>受講生が初心者に関わらず、理解度が高い結果に高評価を得る。 シーティング技術に関する高度な内容をうまくテキストにして講師を選ばず実施できる事も目標にしていることがわかる。 広く一般的に普及するためのカリキュラムになっていると感じる。</p>
---------	---

評価者氏名		所属先	企業
-------	--	-----	----



第5章
まとめ

まとめ

1. 本年度の取組みの整理

昨年度のヒアリングを参考に、教育プログラム・カリキュラムの開発をし、実証講座を実施した。

(1) 実施する実証講座

- ① シーティング技術【基礎編】
- ② シーティング技術【応用編】
- ③ 車椅子の選び方とメンテナンス入門講座
- ④ キャリアデザイン編

(2) コマ数・時間数

- ① シーティング技術【基礎編】 4コマ(90分×4コマ)
- ② シーティング技術【応用編】 4コマ(90分×4コマ)
- ③ 車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 12コマ(90分×12コマ)
- ④ キャリアデザイン編 4コマ(90分×2コマ)

(3) 2019年度の課題改善の反映

(反映した項目)

- ・共通のキーワードとしては、安心・安全・快適さを求める。
- ・正しい姿勢や車椅子部品の名称、保険制度

(テキスト作成における留意点)

- ・学生のレベルに合った文章の言い回しを含めた表現方法
- ・漢字の表記、専門用語 等

【考察】

2019年度に実施した企業・団体ヒアリングの中で重要な安心、安全、快適さ、正しい姿勢の考え方、車椅子部品の名称、保険制度といった項目を取り入れて、実証講座を実施した。

受講生が介護系1年生を対象とした開講時期は、企画推進委員会の発言からも適切であった。

テキストには、漢字にルビを振り、留学生にも配慮した内容で作成した。受講生アンケートでは、満足度を聞いた結果から講座は高評価であった。「相手の立場に立って考える思考の変化」「目標を持った行動の大切さ」「もっと学びたい」という声とともに、福祉用具で重要な一つの車椅子やシーティングに関して、興味・関心が高まった結果となった。

受講生は、講座受講中に生き活きとした目の色に変わって、自ら率先して参加するようになっていった。介護する現場にとって最も重要なことの一つの技術習得の機会である本講座で体験したことは、これからの自信につながると思われる。

しかしながら、専門用語がどうしても出てくることに対する対応策や留学生にとって、話すスピードや言葉の選び方について、工夫が必要であるとの課題もあった。専門用語の対応策としては、用語集の開発を目指す。

最後に、第三者評価委員からも高評価であり、本事業の取り組みを姫路市の新聞社にも記事に取り上げられた。

2. 次年度の取組み

来年度は、本年度の課題改善と当初から予定していた電動車椅子を組み込んだ教育プログラム・カリキュラムを開発するなど、その他以下の項目について改善を図る。

(1) テキストの改善

- ・・・ポイントに絞った文字数で作成

(2) 講座内容

- ・・・車椅子シーティング技術【基礎編】・【応用編】のポイントを絞った内容
- ・・・車椅子の選び方とメンテナンス入門講座の実習時間の工夫
- ・・・キャリアデザイン編の内容検討 2コマ→1コマへの変更
- ・・・電動車椅子講座の盛り込み 一つのメーカーに絞って開発

(3) 講座時間

- ・・・本年度と同じ33時間構成を目指す

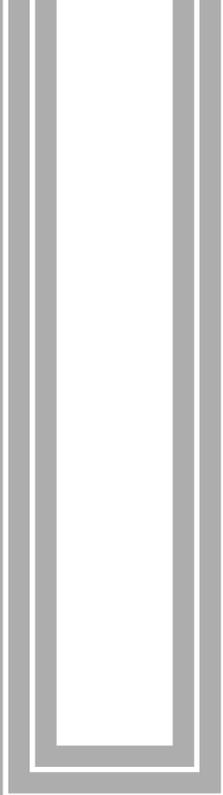
(4) 講師要項・用語集（専門用語の解説）の作成

- ・・・講座のポイントを整理した講師要項の開発とテキスト内の専門用語を整理した用語集の採用

(5) 対象者

- ・・・当校学生をはじめ、他地域の専門学校や一般社会人といった分野を問わず、広く受講生を募ることを予定

来年度は、入門編としての講座が出来上がりつつある。そのためには、様々な方が受講し、精査することがまだまだ必要である。新型コロナウイルスの影響次第ではあるが、関西地域以外で実証講座を実施できればと願う。



第6章

参考資料・会議録

1. アンケート

◎受講アンケート

氏名 _____

文部科学省委託事業令和2年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」分野横断型リカレント教育プログラムの開発「介護における車椅子シーティングに関する技術習得のための分野横断型リカレント教育プログラムの開発事業」受講アンケートにご記入ください。

◆車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 アンケート 1日目

1. 1コマ～4コマの授業終了ごとに以下のそれぞれの表の項目に対して、該当する箇所に「○」を付けてください。

【1コマ目】

◆満足度

	1 満足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不満
テキストの見やすさについて				
授業の進め方やスピードについて				

◆理解度

	1 理解できた	2 まあまあ理解できた	3 あまり理解できなかった	4 理解できなかった
JIS規格による定義について				
車椅子の種類について				
車椅子機能（標準形）のメリット・デメリットについて				
車椅子機能（肘跳ね上げ脚開閉）のメリット・デメリットについて				

【2コマ目】

◆満足度

	1 満足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不満
テキストの見やすさについて				
授業の進め方やスピードについて				

◆理解度

	1 理解できた	2 まあまあ理解できた	3 あまり理解できなかった	4 理解できなかった
車椅子機能(六輪車)のメリット・デメリットについて				
車椅子機能(モジュール)のメリット・デメリットについて				
車椅子機能(高機能)のメリット・デメリットについて				

【3コマ目】

◆満足度

	1 満足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不満
テキストの見やすさについて				
授業の進め方やスピードについて				

◆理解度

	1 理解できた	2 まあまあ 理解できた	3 あまり理解 できなかった	4 理解でき なかった
車椅子使用目的（移動：屋内外等）のメリット・デメリットについて				
車椅子使用目的（移動：環境要因と対応機能等）のメリット・デメリットについて				
車椅子使用目的（座る：長短等）のメリット・デメリットについて				
車椅子使用目的（座る：環境要因と対応機能等）のメリット・デメリットについて				

【4コマ目】

◆満足度

	1 満足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不満
テキストの見やすさについて				
授業の進め方やスピードについて				

◆理解度

	1 理解できた	2 まあまあ 理解できた	3 あまり理解 できなかった	4 理解でき なかった
車椅子の適切な選定について				
入手ルート、制度について				

フィッティングの原理 について				
正しい姿勢の目的について				

2. 下記の該当する箇所に「○」を付けてください。

	1 満足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不満
講師の教え方はどうでしたか				

3. 下記の該当する箇所に「○」を付けてください。

	1 でてきた	2 まあまあ でてきた	3 あまりでてこ なかった	4 でてこなかった
興味・関心について				

4. 講座受講後にあなたの考え方が変わったことをお書きください。

5. 講座で得られたもの、新しく気づいたこと感じたことなどをお書きください。

6. 満たされなかったもの、もっと学びたいことなどをお書きください。

7. 総合的にあなたの満足度は100点満点中の何点でしょうか。

点

8. その理由をお書きください。

--

◎受講アンケート

氏名 _____

文部科学省委託事業令和2年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」分野横断型リカレント教育プログラムの開発「介護における車椅子シーティングに関する技術習得のための分野横断型リカレント教育プログラムの開発事業」受講アンケートにご記入ください。

◆車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 アンケート 2日目

1. 5コマ～8コマの授業終了ごとに以下のそれぞれの表の項目に対して、該当する箇所に「0」を付けてください。

【5コマ目】

◆満足度

	1 満足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不満
テキストの見やすさについて				
授業の進め方やスピードについて				

◆理解度

	1 理解できた	2 まあまあ理解できた	3 あまり理解できなかった	4 理解できなかった
座幅を要因とする人体への影響について				
座奥行きを要因とする人体への影響について				

【6コマ目】

◆満足度

	1 満足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不満
テキストの見やすさについて				
授業の進め方やスピードについて				

◆理解度

	1 理解できた	2 まあまあ 理解できた	3 あまり理解 できなかった	4 理解でき なかった
座位下腿長（膝下高）を 要因とする人体への影 響について				
座位肘頭高（アームサポ ート）を要因とする人体へ の影響について				
大腿骨頸部骨折後の座位 の問題点について				

【7コマ目】

◆満足度

	1 満足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不満
テキストの見やすさにつ いて				
授業の進め方やスピー ドについて				

◆理解度

	1 理解できた	2 まあまあ 理解できた	3 あまり理解 できなかった	4 理解でき なかった
車椅子のメンテナンス の問題点について				
車椅子メンテナンスに 携わる責任について				
車椅子メンテナンス工 程管理の必要性について				

【8コマ目】

◆満足度

	1 満足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不満
テキストの見やすさについて				
授業の進め方やスピードについて				

◆理解度

	1 理解できた	2 まあまあ理解できた	3 あまり理解できなかった	4 理解できなかった
工場の取扱いについて				
JIS規格試験方法からみる安全性について				

2. 下記の該当する箇所に「○」を付けてください。

	1 満足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不満
講師の教え方はどうでしたか				

3. 下記の該当する箇所に「○」を付けてください。

	1 でてきた	2 まあまあでてきた	3 あまりでてこなかった	4 でてこなかった
興味・関心について				

4. 講座受講後にあなたの考え方が変わったことをお書きください。

5. 講座で得られたもの、新しく気づいたこと感じたことなどをお書きください。

6. 満たされなかったもの、もっと学びたいことなどお書きください。

7. 総合的にあなたの満足度は100点満点中の何点でしょうか。

点

8. その理由をお書きください。

◎受講アンケート

氏名 _____

文部科学省委託事業令和2年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」分野横断型リカレント教育プログラムの開発「介護における車椅子シーティングに関する技術習得のための分野横断型リカレント教育プログラムの開発事業」受講アンケートにご記入ください。

◆車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 アンケート 3日目

1. 9コマ～12コマの授業終了ごとに以下のそれぞれの表の項目に対して、該当する箇所に「○」を付けてください。

【9コマ目】

◆満足度

	1 満足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不満
テキストの見やすさについて				
授業の進め方やスピードについて				

◆理解度

	1 理解できた	2 まあまあ理解できた	3 あまり理解できなかった	4 理解できなかった
構成フレームについて				
キャストについて				
フットサポートについて				
シートについて				
アームサポートについて				

【10コマ目】

◆満足度

	1 満足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不満
テキストの見やすさについて				
授業の進め方やスピードについて				

◆理解度

	1 理解できた	2 まあまあ理解できた	3 あまり理解できなかった	4 理解できなかった
車輪について				
駐車用ブレーキについて				
制動用ブレーキについて				

【11コマ目】

◆満足度

	1 満足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不満
テキストの見やすさについて				
授業の進め方やスピードについて				

◆理解度

	1 理解できた	2 まあまあ理解できた	3 あまり理解できなかった	4 理解できなかった
クロスフレーム交点整備について				
フットサポート整備について				
駐車用ブレーキ微調整について				

制動用ブレーキ微調整 について				
駆動輪（チューブ交換 含む）について				

【12コマ目】

◆満足度

	1 満足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不満
テキストの見やすさ について				
授業の進め方やスピー ドについて				

◆理解度

	1 理解できた	2 まあまあ 理解できた	3 あまり理解 できなかった	4 理解でき なかった
標準型車椅子以外の 構造について				
電動の使用注意点につ いて				

2. 下記の該当する箇所に「○」を付けてください。

	1 満足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不満
講師の教え方はどうで したか				

3. 下記の該当する箇所に「○」を付けてください。

	1 でてきた	2 まあまあ でてきた	3 あまりでてこ なかった	4 でてこなかった
興味・関心について				

4. 講座受講後にあなたの考え方が変わったことをお書きください。

5. 講座で得られたもの、新しく気づいたこと感じたことなどをお書きください。

6. 満たされなかったもの、もっと学びたいことなどお書きください。

7. 総合的にあなたの満足度は100点満点中の何点でしょうか。

点

8. その理由をお書きください。

◎受講アンケート

氏名 _____

文部科学省委託事業令和2年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」分野横断型リカレント教育プログラムの開発「介護における車椅子シーティングに関する技術習得のための分野横断型リカレント教育プログラムの開発事業」受講アンケートにご記入ください。

◆車椅子シーティング【基礎編】アンケート

1. 1コマ～4コマの授業終了ごとに以下のそれぞれの表の項目に対して、該当する箇所に「○」を付けてください。

【1コマ目】

◆満足度

	1 満足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不満
テキストの見やすさについて				
授業の進め方やスピードについて				

◆理解度

	1 理解できた	2 まあまあ理解できた	3 あまり理解できなかった	4 理解できなかった
座ることで身体に起こる現象について				
不良座位について				
座面から与えられる影響について				
バックサポートの役割について				
座位による二次障害について				

【2コマ目】

◆満足度

	1 満足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不満
テキストの見やすさについて				
授業の進め方やスピードについて				

◆理解度

	1 理解できた	2 まあまあ理解できた	3 あまり理解できなかった	4 理解できなかった
車椅子シーティングの目的について				
車椅子サイズの必要性について				
車椅子の種類の種類について				
車椅子選定の基準について				
車椅子に求められるものについて				
車椅子上での二次障害と対策について				

【3コマ目】

◆満足度

	1 満足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不満
テキストの見やすさについて				
授業の進め方やスピードについて				

◆理解度

	1 理解できた	2 まあまあ 理解できた	3 あまり理解 できなかった	4 理解でき なかった
車椅子シーティングの ポイント				
車椅子クッションの必 要性について				
車椅子クッションの種 類と使い分けについて				
車椅子クッション体験 について				

【4コマ目】

◆満足度

	1 満足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不満
テキストの見やすさ について				
授業の進め方やスピー ドについて				

◆理解度

	1 理解できた	2 まあまあ 理解できた	3 あまり理解 できなかった	4 理解でき なかった
シーティングの基礎の 整理（適合）について				
シーティングの基礎の 整理（座位の変化）に ついて				

2. 下記の該当する箇所に「○」を付けてください。

	1 満足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不満
講師の教え方はどうでしたか				

3. 下記の該当する箇所に「○」を付けてください。

	1 でてきた	2 まあまあ でてきた	3 あまりでてこ なかった	4 でてこなかった
興味・関心について				

4. 講座受講後にあなたの考え方が変わったことをお書きください。

5. 講座で得られたもの、新しく気づいたこと感じたことなどをお書きください。

6. 満たされなかったもの、もっと学びたいことなどお書きください。

7. 総合的にあなたの満足度は100点満点中の何点でしょうか。

点

8. その理由をお書きください。

◎受講アンケート

氏名 _____

文部科学省委託事業令和2年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」分野横断型リカレント教育プログラムの開発「介護における車椅子シーティングに関する技術習得のための分野横断型リカレント教育プログラムの開発事業」受講アンケートにご記入ください。

◆車椅子シーティング【応用編】アンケート

1. 1コマ～4コマの授業終了ごとに以下のそれぞれの表の項目に対して、該当する箇所に「O」を付けてください。

【1コマ目】

◆満足度

	1 満足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不満
テキストの見やすさについて				
授業の進め方やスピードについて				

◆理解度

	1 理解できた	2 まあまあ理解できた	3 あまり理解できなかった	4 理解できなかった
車椅子シーティングの目的について				
車椅子の基礎知識の整理について				
車椅子シーティングの基礎知識について				

【2コマ目】

◆満足度

	1 満足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不満
テキストの見やすさについて				

授業の進め方やスピードについて				
-----------------	--	--	--	--

◆理解度

	1 理解できた	2 まあまあ理解できた	3 あまり理解できなかった	4 理解できなかった
シートクッション選定について				
アームサポート高さ調整について				
フットサポート高さ調整について				
背張り調整(背角込み)について				

【3コマ目】

◆満足度

	1 満足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不満
テキストの見やすさについて				
授業の進め方やスピードについて				

◆理解度

	1 理解できた	2 まあまあ理解できた	3 あまり理解できなかった	4 理解できなかった
車椅子駆動のポイントについて				
仕様の違う車椅子の駆動体験(座高)について				
仕様の違う車椅子の駆動体験(座角)について				

仕様の違う車椅子の駆動体験（メインホイールサイズ）について				
仕様の違う車椅子の駆動体験（メインホイール前後位置）について				

【4コマ目】

◆満足度

	1 満足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不満
テキストの見やすさについて				
授業の進め方やスピードについて				

◆理解度

	1 理解できた	2 まあまあ理解できた	3 あまり理解できなかった	4 理解できなかった
想定するケースの振り分け（片麻痺座位）について				
想定するケースの振り分け（片麻痺駆動）について				
想定するケースの振り分け（円背座位）について				
想定するケースの振り分け（円背駆動）について				

2. 下記の該当する箇所に「○」を付けてください。

	1 満足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不満
講師の教え方はどうでしたか				

3. 下記の該当する箇所に「○」を付けてください。

	1 でてきた	2 まあまあ でてきた	3 あまりでてこ なかった	4 でてこなかった
興味・関心について				

4. 講座受講後にあなたの考え方が変わったことをお書きください。

5. 講座で得られたもの、新しく気づいたこと感じたことなどをお書きください。

6. 満たされなかったもの、もっと学びたいことなどお書きください。

7. 総合的にあなたの満足度は100点満点中の何点でしょうか。

点

8. その理由をお書きください。

◎受講アンケート

氏名 _____

文部科学省委託事業令和2年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」分野横断型リカレント教育プログラムの開発「介護における車椅子シーティングに関する技術習得のための分野横断型リカレント教育プログラムの開発事業」受講アンケートにご記入ください。

◆キャリアデザイン編 アンケート

1. 以下のそれぞれの表の項目に対して、該当する箇所に「○」を付けてください。

◆講座の進め方や講師の教え方に対する満足度

	1 満足	2 まあまあ満足	3 やや不満	4 不満
講座の進め方やスピードについて				
講師の教え方はどうでしたか				

◆自分を理解することを目的に、下記表の様式に記入しました。整理できましたか。

	1 整理できた	2 まあまあ整理できた	3 あまり整理できなかった	4 整理できなかった
自分史作成について				
インタビューシート：人に伝えることについて				
個性・性格について				
強みと弱みについて				
仕事への価値観について				
環境や生活の価値観について				
自分理解のまとめ方について				

◆さらに、目標設計をするため整理して、下記様式を作成しました。整理・作成できましたか。

	1 整理・作成 できた	2 まあまあ整理・ 作成できた	3 あまり整理・作 成できなかった	4 整理・作成 できなかった
キャリアデザイン シートについて				
アクションプラン について				
転職の考え方につ いて				

2. 講座受講後にあなたの考え方が変わったことをお書きください。

3. 講座で得られたもの、新しく気づいたこと感じたことなどをお書きください。

4. 記入が分かりにくい項目はありましたか。あれば、以下の該当する箇所に「○」を付けてください。

①自分史作成		
自分がかかわった 主な出来事	興味があったこと 好きだったこと	満足度グラフ

②インタビューシート		
あなた自身について	あなたの最高の体験について	あなたの大切にしたい ことについて

③個性・性格	
自分に当てはまる個性・性格を選ぶこと	自分の個性を表現する特徴的な言葉

④強みと弱み	
「強み」と「弱み」を選ぶこと	今後、伸ばしていきたい「強み」 克服していきたい「弱み」

⑤仕事への価値観	
仕事を選ぶ上でのこだわりを選ぶこと	自分のこだわり（仕事に対して大切にしたい価値観）に影響を与えた心に残る経験・出来事

⑥環境や生活の価値観	
手順 1	手順 2

⑦自分理解		
自分にできることは何か	自分がやりたいことは何か	自分がやるべきことは何か

⑨キャリアデザインシート			
自己分析	なりたい自分を探す	課題をクリアするための目標設定	手段（具体的な行動） 今後の行動を考える

⑩アクションプラン	⑪ <small>てんき かんが かた</small> 転機の考え方
<small>もくひょうたっせい</small> 目標達成のためのアクションプラン	<small>ひょう きじゅう</small> 表の記入

5. そうごうてき総合的にあなたのまんぞくど満足度は100点満点中てんまんてんちゅうの何点なんてんでしょうか。

点

6. りゆうその理由をお書きください。

--

＜ 会 議 録 ＞

2. 会議録

事業名	令和2年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」分野横断型リカレント教育プログラムの開発「介護における車椅子シーティングに関する技術習得のための分野横断型リカレント教育プログラムの開発」事業
会議名	第1回企画推進委員会
開催日時	令和 2年 8月 25日（火） 15:00～17:00
場 所	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 教場
出席者	委員： 菅原 武、西山輝之（日本福祉用具評価センター）、案浦幹雄、山中章二、 田中 航、木之瀬 隆、吉川隆治、佐治彰一、西口紗矢、坂本達也、益永万理 （合計11名）
【 議 事 内 容 】	
<p>【 目 的 】 2年目のキックオフ会議、昨年度の取組み実績の説明と確認、及び本年度の事業取組み概要の説明と確認を行い、委員全員との共通認識を持つことを目的とした会議を開催した。</p>	
<p>【 次 第 】 日 時：令和2年8月25日（火）15:00～17:00 会 場：姫路ハーベスト医療福祉専門学校 教場</p>	
<p>1_ 15:00 開 会 2_ 15:05 委員紹介（各委員による自己紹介） 3_ 15:20 議 事 (1) 本事業概要説明 (2) 令和1年度（平成32年度）取組み実績結果説明 (3) 令和1年度（平成32年度）課題抽出説明 (4) 令和2年度取組み概要説明 4_ 16:50 その他（連絡事項等） 5_ 17:00 閉 会</p>	
<p>＜配布資料＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・事業概要（PPT） 	

< 会 議 録 >

- ・別紙1：令和1年度（平成32年度）取り組み実績と課題抽出
- ・別紙2：令和2年度取り組み概要

【 内 容 】

以下、次第に沿って会議が進められた

1. 開 会

お忙しい中会議ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。この度、昨年度から引き続き、「介護における車椅子シーティングに関する技術習得のための分野横断型リカレント教育プログラムの開発」事業を文部科学省から事業継続決定の連絡をいただき、事業の継続実施をしていきます。委員の皆様には、お忙しい中ご協力をいただきますが、本年度もよろしくお願いたします。

2. 委員紹介（各委員による自己紹介）

- ・各委員から自己紹介の形式で挨拶が行われた。

3. 議 事

- (1) 本事業概要説明・・・以下の説明が行われた。

昨年度と重なるが、委員の皆様との共有認識を行うことを目的として説明する。事業の趣旨と目的として、一人一人が自立できる範囲で生活していくことができる。そのため、車椅子の構造などの知識や車椅子シーティングによるケア技術を普及させることにより、社会福祉サービスや介護サービスの従事者以外の方でも、車椅子利用者の自立介護を支援できるようにする。

本事業は、車椅子利用者が日常生活をより快適に過ごせるよう改善点を明確にし、その課題を解決することで自立支援をも可能とした教育プログラムの開発を行う。超高齢化社会に入るといわれているこれからの社会において、現在の社会福祉サービスや介護サービス従事者以外の人にも、より深く車椅子シーティングに対する知識を習得する。

学習ターゲット層は、介護に携わる方（介護福祉士、理学療法士、作業療法士、福祉用具専門相談員など）、自転車整備関係や自動車整備士等で、目指す人材像は、身体機能や構造を理解し、車椅子シーティング技術と手動・電動車椅子の構造や機能、特徴の理解とメンテナンス（修理）技術を持ち、自立支援（ADL）ができるプロを養成する（配布資料：事業概要（PPT）3頁参照）。

当該教育カリキュラム・プログラムが必要な背景として、配布資料に記載されているように、車椅子の利用者数が年々増加傾向である。このような背景から車椅子に関する知識をより深く習得するための教育プログラムを開発し、介護サービスの充実を担う人材の育成を目指すことが求められている。実際に、昨年ヒアリングでも車椅子に携わる方が現在よりも多くなることを求めているとの回答が多かった（配布資料：事業概要（PPT）4頁参照）。

< 会 議 録 >

車椅子の増加傾向や地域の高齢化状況、従業員の過不足状況、介護職員の推移と見直しなどのデータは、配布資料：事業概要（PPT）5～9頁に記載している。

開発するカリキュラム・プログラムについて、現在の学校カリキュラムをカスタマイズして行う。レベルは初心者～5年未満を想定して開発する。自動車整備士や自転車整備関係者には、技術的な面からのアプローチからが妥当と考え、興味を持つ部分のモジュラー車椅子や電動車椅子のメンテナンス技術習得で働きかける（配布資料：事業概要（PPT）10～12頁参照）。

実施体制は、委員全員が所属する企画推進委員会と下部組織にプログラム開発WG、調査・課題検討WG、実証講座WGがある。それぞれの役割については、記載されている通りである。本年度は、実証講座を実施するにあたり、第三者評価委員会を設け、その委員は企画推進委員会から選定して行う。教育機関、企業・団体、行政機関の役割については配布資料に記載されている通りである。第三者評価委員会の評価も方法は、PDCAサイクルによる観点からルーブリック評価方法で行う（配布資料：（PPT）13～16頁参照）。等

（2）令和1年度（平成32年度）取り組み実績結果説明・・・以下の説明が行われた（配布資料別紙1参照）。

令和1年度（平成32年度）の実績結果を整理した。取り組み実績1としてヒアリング調査と取り組み実績2として骨子案の作成の2つを実施した。

取り組み実績1は、ヒアリング調査は、車椅子関連企業18社（メーカー11社（内FAX1社）、卸業2社、販売店2社、団体3社（内電話対応1社）、施設関係（高齢者施設2施設、障害者施設2施設、リハビリセンター1施設）、利用者（高齢者40人、障害者19人）に実施した。要点部分を整理すると、

■車椅子関連企業（メーカー11社、卸業2社、販売店2社、団体3社）等

①車椅子に関する相談できるところが身近に増えることについて

- ・望ましい（72%：教育面からのアプローチや電動車椅子のスピード対応等）

②お客様の知識状況について

- ・車椅子に対する知識の低さ（84%：調整の大切さ、重要性、意識が低い等）

③教育プログラム開発に求めること

- ・部品の名称の理解（72%：部品の名称、JIS基準のパーツの理解、専門用語等）
- ・安全性について（78%：安全性の理解、調整内容、正しい姿勢で座ることの重要性、基本構造の理解等）

■施設（5カ所）・高齢者（40名）・障害者（19名）等

①車椅子が不具合になった時の対応

- ・事業者任せ（高齢者施設：20%）
- ・業者との連携（障害者施設：80% 配線系・機能的なもの等）
- ・施設職員の担当に連絡（高齢者：78%、障害者：100%）

②車椅子に関する相談できるところが身近に増えることについて

< 会 議 録 >

- ・増えることは良い（高齢者：70%、障害者53%）
- ・安心する（高齢者：70%、障害者95%等）
- ③身体に合っていない車椅子を使うことについて
 - ・あまり気にしたことがない（高齢者：70%）
 - ・知っている（障害者：100%）
- ④教育プログラム開発に求めること
 - ・分かりやすく整理されたもの（施設：60%）
 - ・車椅子の部品部分（施設：40%）

ということであった。本事業が取り組む内容を否定する方は企業・団体・個人を含め珍しくいなかった。期待している声であった。

この声を反映して、取り組み実績2として以下の骨子案を作成した。

{1} シーティング技術〔基礎編〕（90分×8コマ）・・・総論、福祉用具の理解、身体機能の基礎等を学ぶ。

- ①総論・シーティング技術、②福祉用具とシーティングの関係、③標準型車椅子の理解、④ワークショップ、⑤シーティングに必要な身体機能、⑥シーティングに必要な運動学、⑦シーティングに必要な用具関係、⑧ワークショップ等

{2} シーティング技術〔応用編〕（90分×8コマ）・・・実践的な内容を取り入れ、理解を深める。

- ①・②車椅子シーティングの応用：障害・疾患の理解、③車椅子シーティングの応用：二次障害の理解と対応方法、④ワークショップ、⑤シーティングの評価方法と対応Ⅰ、⑥シーティングの評価方法と対応Ⅱ、⑦ワークショップ等

{3} シーティング技術〔モジュラー車椅子編〕（90分×4コマ）・・・基本的な構造の理解と事例から学ぶ。興味・関心度と高めるため、実機を使う。

- ①モジュラー車椅子の調整方法を実習、②ティルト・リクライニング機能付きモジュラー車椅子の調整方法を実習、③座位補助具・車椅子クッション類の取り扱い実習、④ワークショップ等

{4} シーティング技術〔電動車椅子編〕（90分×4コマ）・・・基本的な構造の理解と事例から学ぶ。興味・関心度と高めるため、実機を使う。

- ①電動車椅子の基礎、②電動車椅子の取り扱い、③電動車椅子に関する制度や導入方法、④ワークショップ等

{5} シーティング技術〔キャリアデザイン編〕（60分×1コマ）・・・事前に学ぶ目的を意識させる。

- ①キャリアデザインとは、②自分らしさ・自分を知る、③自己理解と仕事理解、④転機、⑤基礎力（キャリアデザインシート）等

(3) 令和1年度（平成32年度）課題抽出説明・・・以下の説明が行われた（配布資料別紙1参照）。

< 会 議 録 >

昨年度取り組んだ課題として、作成した骨子案はあくまで学習する方向性を示すに留まり、対象とする専門学校生やはじめての方が理解できるレベルまで落とし込んだものには至っていない。

特に、受講生レベルにあった文章の言い回しを含めた表現方法や漢字の使い方、専門用語の取扱い、電動車椅子の内容などを充実させ、改善する必要がある。という見解となった。

本年度はこれらの点を考慮し、以下の項目について検証を行う予定である。

①講座内容は、学生の理解度、指導方法、時間配分などについて、②テキスト内容は、導入レベルであったか、理解できるレベルかどうか、専門用語に対する配慮などについて、③講座時間として、講座全体・科目ごとの時間数、内容とのバランスなどについて、④対象者として、専門学校1年生を受講させたことが適正であったかなどについて、⑤開催時期が秋口で実施したことが適正であったなどについて検証を行う。等

(4) 令和2年度取り組み概要説明・・・以下の説明が行われた(配布資料別紙2参照)。

本年度は、黄色部分である取り組みを行う。

①テキストの改善として、受講生レベルにあった文章の言い回しを含めた表現方法や漢字の使い方、専門用語の取扱いを行う。次に、電動車椅子の内容を充実させるため、電動車椅子の実証講座は本年度行わず、内容の整理を行う。

また、シーティング技術〔応用編〕の8コマの内3コマのシーティングの評価方法と対応Ⅰ、シーティングの評価方法と対応Ⅱ、関連したワークショップが当校の学生がついていけない内容になると思われるため削除し、その分学生の興味・関心度を上げるため、〔普通車椅子編〕に置き換え、改善する。

②実証講座の実施内容として、秋口に当校介護系1年生(シーティング技術〔基礎編〕・〔応用編〕・〔普通車椅子編〕・〔モジュラー車椅子編〕・〔キャリアデザイン編〕を行う。

シーティング技術〔応用編〕を削除し、新たに〔普通車椅子編〕を導入した内容を整理すると次のようになる。

1. シーティング技術〔基礎編〕(90分×8コマ)
2. シーティング技術〔応用編〕(90分×5コマ)
3. シーティング技術〔普通車椅子編〕(90分×3コマ)は、メンテナンス技術に重点をおく。
4. シーティング技術〔モジュラー車椅子編〕(90分×4コマ)は、メンテナンス技術に重点をおく。
5. シーティング技術〔電動車椅子編〕(90分×4コマ)は、本年度は内容の再検討に時間を要することとするため、実証講座は来年度に実施。再検討内容としては、メンテナンス範囲の検討、セニアカーの取扱いの導入などについて行う。ただし、現時点ではこのように整理しているが、確定では無い。変更する場合がある。

次に、実証講座について次のように整理する。

・受講対象：姫路ハーベスト医療福祉専門学校介護系1年生を予定

< 会 議 録 >

- ・開催時期：11月中旬頃開講
- ・手法：従来の授業に特別枠として新たに設けて実施
- ・講座内容（日数予定）：

1. 実施予定日数：1日 シーティング技術〔キャリアデザイン編〕（60分×1コマ）
2. 実施予定日数：1日 シーティング技術〔普通車椅子編〕（90分×3コマ）
3. 実施予定日数：2日 シーティング技術〔モジュラー車椅子編〕（90分×4コマ）
4. 実施予定日数：2日 シーティング技術〔基礎編〕（90分×8コマ）
5. 実施予定日数：2日 シーティング技術〔応用編〕（90分×5コマ）

合計の実施予定日数は8日（26時間）を考えているが、講師や学校の授業関係により変動する場合がある。今年は、新型コロナの影響が今後どのようになるのかが不透明なため、柔軟な対応をしながら検討を重ねる。現時点では、あくまで予定であるため、内容が変更される可能性はある。

実証講座実施後に検証と評価、改善を行う。①検証は、講座の時間数や入門のレベル設定で実施できたかどうか。受講生の反応を見ながら行う。②評価は、講座受講後に受講生によるアンケートを行い、受講生アンケート評価を整理し、委員から意見を伺う。③改善は、受講生アンケート結果と委員の意見を総合して整理する。次年度に向けた課題等とその改善内容を明確化する。等

【意見交換】

・昨年度のシーティング技術〔応用編〕の8コマ分のテキストの受け取り方はどのようにすればよいのか。

→昨年度作成の成果として残していただきたい。本年度は、昨年度作成した部分の評価方法と対応Ⅰ、シーティングの評価方法と対応Ⅱ、関連したワークショップを削除した状態で作成し直す方向となる。表現の言い回しなどを含め、昨年度のものをベースとして改善する。

・ヒアリングの「身体に合っていない車椅子を使うことについて」で、「知っている」との回答であったがこれはどのような意味なのか。

→身体に合っていないで使っていると病気などになり、良くないということを知っているということである。

・ヒアリングについて、好意的な意見が多かったようだが、反対意見はなかったのか。

→聞いた限りではいなかった。個々のサービス提供の違いなどで実際に今あるサービスの充実を求める声はあったが、それは相談できる場所が多くなればそれで良い。という回答に集約されている。

→今までそのようなことができていないという声でもあると思われるが、ニーズがあるという理解でよいのか。

→求めているニーズはある。担当者によってサービスの質が異なっている。身内に障害者がいるが、急変の場合は別として、相談する曜日が決まっていて、それでの対応で満足している現状がある。

< 会 議 録 >

→車椅子シーティングの概念が我が国になかったため、ある程度ヒアリングによってその根本的な部分が出てきたと思う。

・シーティング技術〔基礎編〕と〔応用編〕は主に座学で、〔普通車椅子編〕や〔モジュラー車椅子編〕は主にメンテナンスの実技に分けられている。シーティング技術〔普通車椅子〕と〔モジュラー車椅子編〕はタイトルだけを見ると同じ内容のように見えてしまう。また、〔基礎編〕と〔応用編〕が16コマから13コマ、〔普通車椅子編〕と〔モジュラー車椅子編〕が4コマから7コマとなったが、座学と実技のバランス的なところはどうか。

→〔基礎編〕と〔応用編〕の全てが座学ということではないが、講師と学校とで詰めていく。〔普通車椅子編〕と〔モジュラー車椅子編〕は同じようなところがあるが、例えば工具一つ一つの説明部分を取り入れながら行う。触れられる範囲を理解してもらう、そうすると例えば、座学3コマ、実技・演習部分4コマという括りとなり、実技・演習部分は増えることとなり、学生にとっても有意義なものになると思われる。講師と相談しながらそのバランス調整をしていく。

→方向性と落としどころを見極めるには、一度、実証講座をしないと見えない部分はあるが、実証講座の前に話し合う場はあるのか。

→実証講座に向けて、テキストについてはプログラム開発WG、実証講座については実証講座WGで会議を行う。

・コロナ禍における4月からの入学生の授業の進み具合はどうなっているのか。

→前期の試験は先週終了した。9月半ばから後期の授業がはじまる。遅れながらも何とか授業を削ることなく進めていけている。

→実習は予定通りできているのか。

→学校では演習としているが、1年生は9月からが始まりであるため、予定通り進んでいる。

・シラバスなどを見せていただけるとありがたい。

→後期授業が始まる際に用意する。

・何名が受講する予定なのか。

→1年生25名を予定している。現段階では、車椅子に興味はあるが、はじめたばかりでシーティングについても理解できてはいない。

・受講生のアンケートはどのように考えているのか。全てが終わって実施するのか。

→〔基礎編〕と〔応用編〕、〔普通車椅子編〕、〔モジュラー車椅子編〕それぞれが終わった段階で実施する予定である。

→コマ毎に実施してはどうか。ブラッシュアップするには、理解しているものとしていないものが必要であるため、その方が良いと思うがどうか。

→考えているのは、コマ毎に確認テストを実施した上で判断することを考えている。平均70点以上となるような内容で、実施して数字として見られるようなものを考えている。ただ、実技の場合は難しいので、工具の種類などを問題とするなど。講師と相談して進めていければと考えている。

・実証講座は、11月中旬を考えているのか。

< 会 議 録 >

→新型コロナの影響による学校授業の問題はあるが、文科省への提出が2月末であり、それを考えると遅くても実証講座は1月末～2月頭までに終了しなければならない。状況によっては連続ではなく間が空くこともある。柔軟な対応ができるように考えていきたい。

→指導要領や要項などは、別途作成するのか。

→作成した方が良いと思うが、時間的なものが問題となる。来月のWG会議でその要領や要項について話し合いたい。

→講師が誰になっても指導できるようにすることは必要と考える。

→今年たたき台的なものできれば良いと思う。新型コロナの状況を見ながら全体的な調整を行いつつ進めることが必要と考える。等

本日はお忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございました。引き続き、よろしくお願いたします。との言葉で会議散会となった。

【会議風景】



＜ 会 議 録 ＞

事業名	令和2年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」分野横断型リカレント教育プログラムの開発「介護における車椅子シーティングに関する技術習得のための分野横断型リカレント教育プログラムの開発」事業
会議名	第1回プログラム開発WG・実証講座WG合同会議
開催日時	令和2年9月15日(火) 15:00～17:00
場 所	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 教場
出席者	委員： 菅原 武、西山輝之（日本福祉用具評価センター）、澤田 篤、木之瀬 隆、 吉川隆治、佐治彰一、小堀京子、西口紗矢 (合計8名)
【 議 事 内 容 】	
<p>【 目 的 】 本年度の事業取組み概要の説明と確認を行い、実施する内容の共通認識と実証講座に向けた意見交換を目的とした会議を開催した。</p> <p>【 次 第 】 日 時：令和2年9月15日(火) 15:00～17:00 会 場：姫路ハーベスト医療福祉専門学校 教場</p> <p>1_ 15:00 開 会 2_ 15:05 議 事 (1) 本事業概要説明 (2) テキスト改善方向の確認 －【基礎編】・【応用編】・【普通車椅子編】・【モジュラー車椅子編】・【キャリアコンサル ティング編】 (3) 実証講座について －日程の検討、導入動画について、告知方法等 3_ 16:50 その他(連絡事項等) 4_ 17:00 閉 会</p> <p>＜配布資料＞ ・ 議事次第 ・ 会議出席者一覧表</p>	

< 会 議 録 >

- ・令和2年度取組み概要
- ・開発と既存カリキュラムの関係と変更（PPT）
- ・工程表
- ・令和2年度【普通車椅子編】・【モジュラー車椅子編】テキスト作成途中抜粋
- ・令和1年度テキスト骨子案【基礎編】・【応用編】・【キャリアデザイン編】

【 内 容 】

以下、次第に沿って会議が進められた

1. 開 会

お忙しい中会議ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。お時間になりましたので、これより第1回プログラム開発WG会議を開催します。よろしく願いいたします。との言葉で会議が始まった。

2. 議 事

(1) 本事業概要説明

配布資料令和2年度取組み概要の取り組み1に書かれている通り、大幅な変更を行うこととした。配布資料の開発と既存カリキュラムの関係と変更は、当校の授業内容と昨年度作成した骨子案の内容に該当するところを示している。左側が既存の授業内容で、右側が作成した骨子案となっている。学校授業では、車椅子に関する専門的な内容ではなく、浅く流す程度の内容の授業で行っている。本事業で開発するのは、この部分に厚みを持たせる授業内容とする。

大きく変更する部分は、【応用編】のシーティングの評価方法と対応I・II・ワークショップの3コマである。先生と話し合った結果、学生がついていけない内容のようであったため削り、その代わり車椅子に興味を持ってもらうために、素人でもできる【普通車椅子】のメンテナンス技術習得授業に置き換える。

全体の時間数とコマ数を変更することはない、内容を変更する。その他のところは扱っていない内容で新規となるため変更はなし。配布資料令和2年度取組み概要に書かれている変更内容とする。【基礎編】90分×8コマ、【応用編】90分×5コマ、【普通車椅子編】90分×3コマ、【モジュラー車椅子編】90分×4コマ、【電動車椅子編】90分×4コマ、【キャリアデザイン編】60分といった講座内容となる。

本年度は、【電動車椅子編】の実証講座は行わない。メンテナンスの線引きが難しく間に合わないため、範囲や実証講座ができるのかを含めた検討を行う。

実証講座の予定としては、当校の介護系の1年生を対象、11月中旬を予定しているが、コロナ禍ということもあり、この先不透明なところと、授業の調整などで後ろにズレル可能性がある。手法としては、従来の授業に特別枠として設けて実施する。キャリアデザインの時期については、独立した形で実施してもよいと考えている。予定日数としては、【キャリアデザイン編】1日（60分）、【普通車椅子編】1日（90分×3コマ）、【モジュラー車椅子編】2日

< 会 議 録 >

(90分×4コマ)、【基礎編】2日(90分×8コマ)、【応用編】2日(90分×5コマ)で合計8日間(26時間)を実施予定と考えている。日数等はいくまで予定であるため、変更する場合がある。

実証講座修了後、検証と評価、改善を行う。検証は、講座の時間数や入門のレベル設定で実施できたかどうか、受講生の反応などといったもの。評価は講座受講後に受講生によるアンケートを行う。受講生アンケート評価を整理し、委員からの意見を伺うなど。改善は受講生アンケートや確認テストなどの結果と委員の意見を総合して整理し、課題等に対して最終年度の次年度への取り組みの材料とする(配布資料:令和2年度取組み概要参照)。

テキストの言い回しや単語について、講師にお聞きしたが、レベル感が分かりづらいという回答であった。当校の先生に確認したところ、全ての漢字にルビをつけてほしい。手直しの必要はないと思う。との回答があった。ルビについては、制作側で可能である。まずはこの方向で進めようと考えているがどうか。

→大学生に教えているものをベースに作成した。受講対象の1年生にはかなり試練となる内容となると思う。学生の割合(入学前の学歴)の情報を人数や御校のシラバスをいただければ落とし込みができると思う。

→本日、先生が欠席のため、人数ではあるが受講する学生は25名(内留学生4名)である。

→会話はできる程度なのか。

→N2は取っていないが、ギリギリのところである。

→成果物はどのようになるのか。

→昨年度の骨子案をベースに改善するところは行い、評価を反映したものをまとめ提出する。例えば、先ほどの漢字にルビを付けるということで実施する。実証授業と確認テストを通して、学生が分からないところの原因を明確にし、改善を図り、来年度に実施するというような流れとなる。

→基本的にはこの昨年度のテキストとなるのか。

→このテキストをベースに加筆・修正を、実証講座に入る。実証講座を行いながら、気づいた点があれば修正をかけていく。テキストとしてまとまっているものであるが、製本したもので実証講座は行わない。

→事業終了後の対象者のレベルは、どのあたりを考えているのか。

→全国の介護士や理学療法士を目指している専門学校生をはじめ、社会人初心者や留学生のレベルである。留学生は一般的な日本語がある程度分かるN2レベルを想定している。専門用語は別として、ある程度の文章が理解できるレベル。

→ある程度介護業界の汎用的なものとして捉えてよいのか。

→素人でも分かるといっても実務書の導入編としてのテキストとなるため、介護の専門用語は存在すると思う。使うべきところは使う必要はあると思う。

→自動車整備士と自転車整備士などは介護系と関係が無いがどのような扱いとなるのか。

→企画書にも明記しているが、導入部分としてのメンテナンス技術の部分に該当すると考え

ている。

→シーティング技術とメンテナンス技術は、対象者が別々に考えるべきということか。

→介護系はシーティング技術とメンテナンス技術の全てで、自動車整備士の方々は、技術屋さんということもあり、シーティング技術よりメンテナンスを前面に打ち出す。出し方の問題である。本事業では6種類あるので、選択しやすいように作っていききたい。

→自分にとってカスタマイズできるような内容となっていることか。

→全てを導入してはほしいが、特定の分野ではなく分野を横断する教育プログラムの開発であるため、興味のある部分からでも入れる講座作りを目指している。

→【基礎編】で説明する部分に、メンテナンス部分で同じ事が入る場合があり、受講生が分からなくなることがあるかもしれない。

→調整が必要であるが、必要な内容は重複しても構わない。あくまで講座としては6種類で一講座という構成である。学ぶ人のスタンスで学び方が変えられるようなものを目指す。

→この講座は色々な場所で行うのか。

→当校を中心として実証講座を実施する。等

(2) テキスト改善方向の確認

◆【基礎編】・【応用編】について

・【基礎編】と【応用編】の確認テストの内容は学生の属性が分かった上で作成するのか。実際に講座で使用する講師の指導用テキストなどはパワーポイントとなるのか。また、ワークショップはどのような内容を考えているのか。

→学生のレベルが分かればと思う。授業はパワーポイントで進める考えである。車椅子で講義を受ける、もしくは講義後に車椅子に座って不具合について確認する。なぜお尻が痛くなるか、腰が痛くなるのか、足がしびれてくるのだろうか、といったものを振り返りながらグループワークで行うことを考えている。

→5人一組で行うことができるのか。また車椅子の種類は普通のものかモジュール型といったこだわりはあるのか。

→5人一組でも大丈夫である。車椅子の指定は特には無い。モジュールは調整ができるので、座り心地が悪い普通のものでよいと思う。グループディスカッションとしては、成り立つ内容と考えている。

→ワークショップは5人一組として普通車椅子で進める。途中で変更が生じた際には臨機応変に対応していく。【基礎編】と【応用編】の確認テストは、学生の属性や他の委員に意見を整理して作業に入っていただく。等

◆【普通車椅子編】・【モジュラー車椅子編】について

・素人(=初心者)でも扱える範囲のメンテナンス技術として【普通車椅子編】・【モジュラー車椅子編】のテキストのたたき台について検討をする。入門編というレベルになる。既に色々な企業・団体に存在している研修を学ぶ前段階の内容として位置付けたものを目指す。昨年度と大幅な変更となっている。お配りしているものは、一部抜粋したものである。本文構成とし

てはパワーポイントの下に詳しく文章を入れて理解しやすいように工夫をしている。

→内容自体は分かりづらいものをeラーニングで教える準備をしているものである。そのeラーニングをベースに作成している。【基礎編】と重なる部分がどうしても出てくるため、その点をどのように工夫するのかを考えている。専門用語をなるべく使わず、車椅子の選定の部分で表現することを考えている。

→重なっていても構わないと思う。【基礎編】に入っていることを気にしないでメンテナンス技術部分で理解できてよいと思う。

→【基礎編】のテキストの内容とメンテナンス技術のテキストとの作り方が違うため、調整は必要と考える。

→昨年のアンケートから部品の名称などが必要という回答があり、その部分が網羅されている。また、メンテナンスにおける注意点や一覧表がある。昨年のアンケートの要望する回答にはしっかりと応えられている内容と感じる。シーティングとの関係については、もう一度確認していく。

→これは3コマ分なのか。そうなることが多いのではないのか。

→【普通車椅子編】と【モジュール車椅子編】をあわせた7コマ分となっている。読み込む部分は前半あるが、後半の部品部分や注意点、一覧表は実習部分となっている。分量的には多いものではないと考える。

→【基礎編】にモジュール車椅子の寸法がはいっているので、ここではその部分に触れていないが、どのようにしたらよいのか指示をいただきたい。例えば、教える方、考え方によってひじ掛けの寸法の測り方が違っているグレーな部分がある。

→テクノエイド協会が作成したリストの範囲の福祉用具相談員シーティングコースの中のひじ掛け部分は寸法プラス2cm以内ということからはじめるという捉え方で書けばよいと思う。

→確認テストの作成をお願いします。等

◆【キャリアコンサルティング編】についての確認

・20～25名の受講生で60分という割り当ての時間に対してどうか。

→事前に様式への書き方の説明が1時間取れればできると思うが、様式に書く時間を含めた60分は厳しいものがある。パワーポイントで進める予定である。

→骨子案のテキスト+パワーポイントで講座は行う。事前に先生方の協力をいただきながら学生に書き方の説明をしてもらおう。ということの理解でよいか。

→それで大丈夫である。

→新型コロナのことがあるが、東京から講師が来ることに對してどうか。

→現時点では、特に問題はない。

→キャリアデザインについては、東京と姫路の2カ所に講師が居るので、講師同士情報を共有してもらいながら講座内容を固めてほしい。等

(3) 実証講座について

・実証講座の日程の検討について

実証講座の日程としては、授業状況を確認したところ、12月中旬から下旬が実証講座の時間が取れる。【キャリアデザイン編】は別で11月上旬でもよいと考えているがどうか。

→【キャリアデザイン編】をした後に結構時間が空くということになるのか。

→学校の実習授業が11月後半から12月初旬にかけて予定しているため、そこに入れる空きが無い。講師の予定を後で連絡いただきたい。次に、12月10日～23日の間でその他の内容を入れたいがどうか。【普通車椅子編】と【モジュラー車椅子編】の日程はどうか。12月が難しいということであれば、1月に入れても構わない。【基礎編】と【応用編】は2日分となるが、それぞれ予定をお聞きしたい。

→1月下旬はどうか。

→最終的にまとめる段階となるため、その前に実証講座は終了したい。

→【普通車椅子編】と【モジュラー車椅子編】は、12月22日～23日は予定を入れることができる。

→【基礎編】と【応用編】は、1月14日～18日の中で調整する。

→先ほど【キャリアデザイン編】は11月ということであったが、講座に近い方がよいと思うので【普通車椅子編】と【モジュラー車椅子編】、【基礎編】、【応用編】の日程が確定次第決定する。等

・導入動画について

・イメージとしてそのようなものがよいと思うのか。

→堅苦しいものではなく、ノルウェーなどの外国では電動車椅子で生き生きとして過ごしている。といった動画を見せて、このように関わることができる仕事をしませんか。というようなもの。やりがいのあるものというような3分程度のショート動画のイメージである。

→導入するタイミングは、どこがよいと思うか。

→授業に組み込む形となると思うので、どこでもよいと思う。

→【キャリアデザイン編】の中に入れた方が盛り上がるかもしれない。

→今回は電動を入れないので、電動無しのものであればよいと思う。

→調整をすることで車椅子がスイスイ動くようなもの、楽しんでいるものがあればよいと思う。

→動画について事務局で検討する。等

・告知方法等

委員のご協力により、本講座を新聞記事として1月に掲載していただく。等

その他

会議はプログラム開発WG会議と実証講座WGの会議を合同で行うか、分けて行った方が

< 会 議 録 >

よいか確認をする。プログラム開発WGは主にテキストに関する内容を中心に、実証講座WGは実証講座運営方法などを中心に行う内容で進める考えである。実証講座に向けての取り組みは同じであるが、テキストと講座運営とで分けた方が議論が進むと考え分けている。

→別々にしてもよい。ただし、プログラム開発WG会議を先にして、実証講座WG会議をその後にした方がよい。

→別々に開催することとする。第2回プログラムWG会議は10月28日（水）、第2回実証講座WG会議は11月5日（木）で本日と同じ時間で開催する。等

本日はお忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございました。第1回プログラム開発WGと実証講座WG合同会議を終了します。引き続き、よろしくお願いいたします。との言葉で会議散会となった。

【会議風景】



＜ 会 議 録 ＞

事業名	令和2年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」分野横断型リカレント教育プログラムの開発「介護における車椅子シーティングに関する技術習得のための分野横断型リカレント教育プログラムの開発」事業
会議名	第1回調査・課題検討WG会議
開催日時	令和2年9月25日(金) 15:00～17:00
場 所	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 教場
出席者	委員： 菅原 武、西山輝之（日本福祉用具評価センター）、吉川隆治、佐治彰一 （合計4名）
【 議 事 内 容 】	
<p>【 目 的 】 本年度実施する実証講座の教育プログラムについて意見交換を目的とした会議を開催した。</p>	
<p>【 次 第 】 日 時：令和2年9月25日(金) 15:00～17:00 会 場：姫路ハーベスト医療福祉専門学校 教場</p>	
<p>1_ 15:00 開 会 2_ 15:05 議 事 (1) 本年度事業取組み概要確認 (2) テキスト改善方向の確認 － 【基礎編】・【応用編】・【普通車椅子編】・【モジュラー車椅子編】 (3) 実証講座について － 日程等</p>	
<p>3_ 16:50 その他（連絡事項等） 4_ 17:00 閉 会</p>	
<p>＜配布資料＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 議事次第 ・ 会議出席者一覧表 ・ 令和2年度取組み概要 ・ 工程表 	

【 内 容 】

以下、次第に沿って会議が進められた

1. 開 会

お忙しい中会議ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。少ない人数での会議となりますが、よろしく願いいたします。前回の第1回プログラム開発WG・実証講座WG合同会議までの内容確認、実証講座修了までのスケジュールの確認、【普通車椅子編】・【モジュラー車椅子編】のテキスト内容の確認を行います。

2. 議 事

(1) 本年度事業取組み概要確認・・・以下の説明が行われた。

15日の第1回プログラム開発WG・実証講座WG合同会議における議論を調査・課題検討WGで再度確認を行う。

シーティング技術【応用編】を8コマから5コマに減らし、その減らした3コマは、学生に興味・関心が高まるように触れる機会を設けるため、【普通車椅子編】に置き換える。実機に触れる体験を増やす。

講座の流れとしては、【普通車椅子編】・【モジュラー車椅子編】を行った後、高度な内容となるシーティング技術【基礎編】・【応用編】になる。

今年度は、【電動車椅子編】の実証講座は行わない。理由としては、素人がどこまで扱えるかの範囲がメーカー毎にバラバラであるため、精査する必要があると考え、見送る。本事業の山中委員に協力を仰ぎ、今後整理していく。現段階での方向性としては多く利用されているメーカーの電動車椅子をベースとして進める考えである。この方向は協会にも問い合わせた結果の判断である。

販売協力企業が電動車椅子に関するものは、一般の方が注意するものとして3項目程度であった。メーカー主導によるメンテナンス範囲は整理をする。テキストや講師などといった時間が取られるものについて、メーカーと販売店との連携で進める可能性はある。等

(2) テキスト改善方向の確認ー【基礎編】・【応用編】・【普通車椅子編】・【モジュラー車椅子編】・・・確認と意見交換が行われた。

・【普通車椅子編】・【モジュラー車椅子編】のテキストでは、メンテナンス技術を学ぶ前に車椅子の種類としての知識は必要と考える。講座で電動車椅子に対して全く触れないということとはできない。触れる範囲がどこまでとするのか指示を仰ぎたい。

→説明をするにおいて、触れてはよいと思うが、詳しくは来年ということ流す程度でお願いしたい。次に、【普通型車椅子編】・【モジュラー型車椅子編】についての時間配分について説明に入る。車椅子の機能特性の中のIの車椅子の種類で30分程度、IIで150分程度、III人体寸法と車椅子寸法の不適合による人体への悪影響に入る。シーティングと重なるのかとい

< 会 議 録 >

う懸念があるが、ここで180分という時間配分としている。メンテナンスの基礎的な部分の考え方として製造物責任、JIS原案・作業工程で60分。作業を始める前の基礎知識として、工具の説明となる。工具は1グループ1つとして30分。各部品の特性としてタイヤ、構成フレーム、キャスト、フットサポートに入る時間は30分。このあたりは、昨年度のアンケートの反映として工具や部品の名称といったことを習得する。標準形と普通とあるが、どちらがよいと思うか。

→試験上では、規格の言語を使用する。そういったことから標準形で行った方がよいと思う。

→テキストは、普通ということは無しにして標準型で統一する。

→手動車椅子という分類があり、その中で標準形がある。そもそも普通型というものはない。

→手押しの車椅子が、一般的に普通と呼ばれているのか。

→そうである。統一感が必要である。

→標準形は「型」ではなく、「形」なのか。

→「形」である。7コマで収まらない可能性がある。

→コマ数について相談は後ほど行う。先に進める。その他、モジュールセッティングとクッションの選定に入るが、この部分は、シーティングの【基礎編】部分とどのような連動をするのかで検討が必要となっている。講師同士ですりあわせが必要である。【電動車椅子編】は大勢に影響のないメーカーを選定中である。素人でも扱える範囲をある程度明確にすることが本年度の取り組みである。車椅子安全整備士の紹介が入っているが、ステップアップ講座としてのこととして捉えてよいのか。

→このテキストに書かれている内容で全てができると勝手に勘違いしないように、説明するために入れている。

→まとめ部分としての注意事項の中での取り扱いとして大丈夫か。

→それで問題ない。

→確認テストについては、フォーマットを作成するので、それを参考にして作成いただきたい。○×形式や空欄に言葉を入れる、選択式といったものを作成いただきたい。素人ということで、女性もいることを考えると工具の名称や部品の名称といったもので作成しても構わない。

→【基礎編】・【応用編】とのすりあわせが必要である。

・報告であるが、【基礎編】と【応用編】の講師が諸事情で辞退された。講師を予定した方は、委員としての参加をお願いします。代わりに西山委員のご紹介先と現状の内容に対して打ち合わせをし、テキストと講師の件に関して理解していただいた上で決定する。【基礎編】と【応用編】に関しての時間数は見直す必要があるという話はあった。多い分は、【キャリアデザイン編】や【普通型車椅子編】・【モジュラー型車椅子編】に対して、実習の時間数を多くした内容を振り分ける方向で考えている。文科省に提出した当初の事業計画の振り分け時間数とは異なるものになると思われる。

→現状の時間数では、【普通型車椅子編】・【モジュラー型車椅子編】は流すようなものであるため、時間数を増やしていただいた方がしっかりと理解できると思う。ただし、実技に対して

< 会 議 録 >

の確認テストが作り辛いという懸念はある。2コマ程度増えるのか。

→2コマ以上は増える。【基礎編】と【応用編】で8コマあれば十分という提案をいただいている。来週連絡をする。実技の質を担保する必要はある。ワークショップであれば講評で判断できるが、例えば、生徒達がお互いにグループ毎でチェックし合うようなパターンもあるがどうか。

→社会人であると手順の順番を確認するという細かい点に対してチェックを入れていくのか。

→そこまでの細かい部分は難しい。

→実技試験は、試験官が不具合を探すというやり方はある。それを一班ずつ点検するやり方もある。

→大掛かりになるのではないか。

→不良個所と点検する個数を考えればよい。テキストのチェック項目に沿った最低限のものであれば可能である。

→学生のレベルなどの前提となる指針がないため、手探りでのやり方は仕方がない。柔軟に対応できる方法を考える。

→1回学ぶと分かるようにしているつもりである。実技の部分について、座位ベルトは何のためにあるかの説明はしているが、調整などには触れていない。調整方法などシーティング【基礎編】・【応用編】に触れるところに関しては効果など詳しく盛り込んではいない。前段階で知っていた方がシーティング【基礎編】・【応用編】に入りやすいと思い、その程度入れている。今後のすり合わせは必要と考える。学校の実習では、全員が試験を受けるのか。

→全員が受けるようにしている。

→個人個人やらせて判定するスタイルなのか。授業自体がそうなのか。

→その通りである。個人個人スキルを上げていかないといけない。個人差はあるがグループ分けをして指導をしている。学生同士でサポートしながら進めている。最終的な評価は個人となっている。

→モジュールセッティングはメンテナンスとシーティングはどちらに入るのか。機体と人体による扱いで変わる。講師一人では対応できないと考えられる。サブ要員を用意することは可能なのか。

→状況により必要であれば用意いただいても構わない。無理に一人でする必要はない、それにより十分な指導ができないことになることが問題である。現在学校にある工具について問題は無いのか。

→この講座内容であれば、特に問題はないと考える。

(3) 実証講座について一日程等・・・確認と意見交換が行われた。

・メンテナンスの日程について、状況が変化したので現在の12月22日～23日の2日間から3日間になると思われる。

→連続した方がよいのか。

→連続した方がよいと思うが、授業の調整は必要である。後日連絡を入れる。予定としては、

3日間とするが大丈夫か。

→朝一からはじめることができるのであれば、3日間は可能である。ただ、標準型（普通車椅子）とモジュール型を明確に分けて説明することが難しい。基本的には標準型を理解していればモジュールはできる。関連しているところが多いので、専門的なパーツや工具が異なるだけで、その理解ができればよい。明確に分けるよりも車椅子を理解する座学と車椅子をメンテナンスする実技というようにした方が分かりやすいと思う。

・シーティング技術【基礎編】・【応用編】の日程についてであるが、メンテナンスを実施した後に行う予定であるが、【基礎編】をメンテナンスの先にする点についてどうか。

→メンテナンスを先にした方がよいと思う。シーティングは1月にした方がよい。

→メンテナンスにもシーティングに繋がることに触れているところがあるので、それをベースにしてシーティングに入った方がよいと思う。

→メンテナンスに調整という部分があり、シーティングの基礎に触れているので、先がよいと思う。等

・シーティング技術【基礎編】・【応用編】を1月14日～15日の2日間とする。シーティング技術が当初13コマと考えていたが、8コマにする。その分、【普通車椅子編】・【モジュラー車椅子編】と【キャリアデザイン編】に振り分けする。実習をメインに構成を考え直す。

→実習が多くなると指導要項の整理が必要である。講座の風景を撮影するのか。

→汎用性を考えると、講座風景の撮影はするが、なるべく学生の顔が写らないような取り方で行う。事前に教員から学生に話をする。

→【キャリアデザイン編】を増やした方がよいと思うがどうか。

→講座の入口で学ぶ目的を持たせる1コマ、終了後目標設定ができたかどうかなどで1コマを設けるという方向もある。本来、マンツーマンで実施しているので、6時間（4コマ）という考え方もあるが、学生に負担がかかると思う。

→時間数が多いと学生はイメージができていないため難しいと思う。

→イメージは映像で見せるという方向で目標設定すれば、1時間でも可能であり、その後講座を受け進むにつれてどのような変化があったのかということになると思う。

→全く新しいことをするため、講座の前と後で行った方がよい。映像をどうするのか。

→映像は肖像権などの取扱いがあり難しい。

→色々な動画を見ると車椅子の利用者の充実度がかなり変わると世界観が変わるようなことがあるので、あれば望ましいが、電動車椅子の映像である。

→本年度は電動車椅子の講座は行わないので、手動車椅子のものがあればよいと思う。

→電動はあるが、手動は見当たらない。イメージ作りということを考えれば、電動でもよいと思うがどうか。

→シーティングは、本来、正しい座り方をすることが大事であるため、その人に合ったクッションなどの取扱い方を考えるイメージである。その場合、電動車椅子でのシーティングは存在しないと考えている。内蔵型の電動車椅子は椅子が乗っている状態で動かさないため、人の身体に合わせるのが困難である。手動式であればシーティングを学ぶことによって、座り辛く

< 会 議 録 >

している方が快適に座ることができ、車椅子もスムーズに動かせる。このような映像のイメージが本講座と合っている。電動車椅子映像を見せると違うイメージでとらえられるのではないかな。

→ADL支援も考えた取り組みであるため、どちらともいえない。

→今回の代わりに講師をいただけるのであれば、動画を持っていると思われるので、受けていただけるのであれば、この部分もあわせてお願いしてはどうか。

→当校の学生に出演してもらってはどうか。

→在学中に色々なところに発信されてその時点で終わりであればよいが、卒業後に使い続けられるとなった場合、肖像権の管理は難しいと思われる。学生にはその点も踏まえた確認を取る必要がある。等

本日はお忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございました。引き続き、よろしくお願いたします。との言葉で会議散会となった。

【会議風景】



＜ 会 議 録 ＞

事業名	令和2年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」分野横断型リカレント教育プログラムの開発「介護における車椅子シーティングに関する技術習得のための分野横断型リカレント教育プログラムの開発」事業
会議名	第2回プログラム開発WG会議
開催日時	令和 2年 10月 28日 (水) 15:00～17:00
場 所	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 教場
出席者	委員： 菅原 武、西山輝之（日本福祉用具評価センター）、山中章二、 花房勇輔（ラックヘルスケア株式会社）、吉川隆治、佐治彰一、小堀京子、 西口紗矢、益永万理 (合計9名)
【 議 事 内 容 】	
<p>【 目 的 】 本年度実施する実証講座の教育プログラムについて意見交換を目的とした会議を開催した。</p>	
<p>【 次 第 】 日 時：令和2年10月28日 (水) 15:00～17:00 会 場：姫路ハーベスト医療福祉専門学校 教場</p>	
<p>1_ 15:00 開 会 2_ 15:05 議 事 (1) 実証講座内容の変更について (2) 【普通車椅子編】・【モジュラー車椅子編】 テキスト内容の確認 (ルビについて) (3) 【キャリアデザイン編】 概要説明 (4) 実証講座日程の連絡 3_ 16:50 その他 (連絡事項等) 4_ 17:00 閉 会</p>	
<p><配布資料> ・ 議事次第 ・ 会議出席者一覧表 ・ 令和2年度取り組み概要 ・ 【普通車椅子編】・【モジュラー車椅子編】 ルビ見本 ・ 【キャリアデザイン編】 概要</p>	

- ・【基礎編】・【応用編】 コマシラバス (案)
- ・工程表 (実証講座日程)

【 内 容 】

以下、次第に沿って会議が進められた

1. 開 会

お忙しい中会議ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。第2回プログラム開発WG会議を行います。本日の会議は、講座内容と割り当ての時間数の変更、【普通車椅子編】・【モジュラー車椅子編】のテキストの本文の構成、【キャリアデザイン編】の概要と様式の説明、実証講座日程について意見交換を行います。よろしく願いいたします。

2. 議 事

(1) 実証講座内容の変更について・・・以下の説明が行われた。

・A3判の配布資料の令和2年度取り組み概要に4月に提出した事業計画の中での講座内容から現在に至るまでの変遷を記載している。大きな変化としては、当初シーティング技術【応用編】の8コマを5コマに削減し、車椅子に学生が興味・関心を持ってもらうため、実機に触れる機会を多くする目的で【普通車椅子編】3コマ設けて実施する計画であった。

しかし、シーティング技術【基礎編】と【応用編】講師が事情のため、辞退されることになり、委員のご協力を得て講師を新たに迎え入れるとともに、全体の講座の見直しを行った。見直した結果が次の通りである。

【キャリアデザイン編】講座の前と後で各1コマ実施、当初の60分1回から大幅に時間数を設ける。【普通車椅子編】・【モジュラー車椅子編】を7コマから12コマと大幅に増加する。

【基礎編】・【応用編】は各4コマと【基礎編】8コマ、【応用編】5コマから大幅に削減する。これらの時間はそれぞれの講師に相談した結果決定した。【キャリアデザイン編】は学生に自分自身の変化を感じてもらうため、時間数が必要と感じ、当校側で判断した。

本年度は、この時間数で実証講座を実施し、検証と評価を行い、改善点を明確にしたものを報告書にまとめ、提出する。検証と評価、改善は書かれている内容で行う。等

(2) 【普通車椅子編】・【モジュラー車椅子編】テキスト内容の確認(ルビについて)・・・以下の説明が行われた。

・配布資料【普通車椅子編】・【モジュラー車椅子編】ルビ見本の通り、図表に対して説明文を添え、その説明文の中の漢字にルビを入れて作成している。図表などに入れると文字数が多くなり、見え辛くなるため、あえてルビを入れないようにしている。

→カラーで指している文章をどのようにするのかを考えている。カラー印刷は無理なのか。

→講座の際には、スライドで示して学生に分かりやすくしてほしいが、カラー印刷は基本的には行わない。最終的な成果物として提出するスタンスで進めてほしい。5枚目の5行目にその

部分を修正した文章で示しているがどうか。

→できる部分とできない部分があるがどうすべきか。

→事務局へその都度相談してほしい。改善策を一緒に考える。

→ルビを全てに付けるのは大変な労力と思うがどうしているのか。

→配布している資料は、事務局で行った。現在は、校正も含め講師の方で進めていただいている。

→テキストの期限はいつまでか。

→11月末までに作成していただければと考えている。お仕事の都合もあるので、校正を優先していただき、ルビについては事務局や印刷会社で作成する。等

(3)【キャリアデザイン編】概要説明・・・以下の説明が行われた。

・60分から90分×2コマということになり、コマシラバスを変更した。また、12月21日(月)の前半部分に必要な様式を①～⑧作成した。キャリアデザインは自分を理解することからはじめ、何のたけに行動しているのかの確認と考えることを目的とする。学生にこの①～⑧の様式を講座までに書いてもらう。先生方の協力をお願いする。①これまで自分が興味や好きだったこと、かかわったことなどを年代別に満足度のグラフを含め作成することから始める。書き方が分からないと思うので、記入例を添えている。②インタビューシートとして自分用書き、整理していく。③自分の個性と性格について該当するところにチェックを入れ、その理由を書く。④「強み」と「弱み」についてチェックする。⑤仕事に対して大切にしたい価値観にチェックを入れ、その理由を記入する。⑥環境や生活に対して大切にしたい価値観にチェックを入れる。⑦①～⑥を整理し、自分自身を理解するために、「何ができるか」、「何をやりたいのか」、「何をやるべきか」といったことを書く。⑧最後に①～⑦までのことをリアセックに落とし込む。といったものを講座までに書いてもらう(配布資料:【キャリアデザイン編】概要参照)。意見を伺いたい。

→①の年齢について、学生に50代2名、60代1名あるので、工夫してほしい。

→修正する。30代、40代の学生はいるのか。

→その他は20代前半である。

→小学生、中学生、高校生となるが、留学生に当てはまるのか。

→年齢で判断することできるので、対応は可能である。

→③「神経質」と「緻密」とあるが、学生は同じ意味ととるのではないか。

→表現が固すぎるので、もっと学生よりにした方がよい。

→「社会的」を「コミュニケーション」というような表現など堅苦しいのは考えてほしい。チェック項目が多すぎると思うので、同じような意味を持つものはなるべく統一するようにした方がよい。

→④No. 13の「プレゼン」は授業では無いので他の言葉にした方がよい。例えば、「発表」に置き換えるなど。

→「チームメンバー」といった表現も通常はないので、他の言葉に置き換える方がよい。

→⑤は仕事に対しての内容となっているので、外してもよいと思うが意見を伺いたい。

→専門学校を卒業すると多くはすぐに仕事をするので、あってもよいと思う。

→No. 3の経営に関することは削除すればよいと思う。

→⑦「何をやるべきか (Must)」で、キャリアデザインの中では **Must** はこのような意味で捉えるが、学生の中ではこのような意味と考えていない。誤解を生まないように削除した方がよい。「何をやりたいか (Will)」の **Will** も同じで削除した方がよい。等

→これらの意見をはじめ、全体的に堅苦しい表現を避けて再度作成し直してほしい。宿題として願います。

【基礎編】・【応用編】・・・以下の説明が行われた。

・昨年度、ある程度の内容のテキストができているということで、その方向性を確認しながらシーティング導入編として専門学校生向けに考えたものである。キャリアデザインの説明にもあったが、何のために学ぶのか目的が見出せるような内容を目指している。座る姿勢が身体に与える影響を理解することから入る。座り方が悪いと身体がきついという理解から入る。そこから車椅子のサイズや種類の必要性と二次障害、車椅子クッションの必要性と種類といった流れで【基礎編】を構成している。最後に基礎整理として自身が車椅子ユーザーにできることをグループワークで行う。【応用編】は基礎知識の整理から入り、グループワークを中心に行う。20年ほど前から海外から講師を招き入れ、指導してきた結果、このような流れが学生には向いていると考え、本年度はこの流れを進める方向である（配布資料：【基礎編】・【応用編】コマシラバス（案）参照）。等

→【普通車椅子編】・【モジュラー車椅子編】とテキスト内容が重なるところがあると思われるので、お互いの内容の確認が必要と思う。

→どこで話せば分かりやすいのか、お互い確認する必要はある。

→まずは、講師同士で話し合っていたいただき、内容を整理していただきたい。等

(4) 実証講座日程の連絡・・・以下の説明が行われた。

・実証講座は配布資料の工程表に記載されている日程で実施する。12月21日（月）【キャリアデザイン編（前半）】1コマ、12月22日（火）～24日（木）【普通車椅子編】・【モジュラー車椅子編】のメンテナンス講座4コマ×3日間、シーティング技術【基礎編】1月14日（木）4コマ、シーティング技術【応用編】1月15日（金）4コマ、【キャリアデザイン編（後半）】1月18日（月）1コマで実施する。等

3. その他

・前回の会議で導入動画について検討したが、どうするのか。

→色々探してはみたが、採用する動画は見当たらなかった。スライドでもよいと考えている。

【キャリアデザイン編】のところで流してもよいと考えている。来週の実証講座WGでその部分を相談したい。

・検証・評価・改善とあって、評価部分に委員の意見を伺うということが書かれているが、そ

< 会 議 録 >

れはどのようにするのか。

→実証講座が終了した際に行う予定である。1月末～2月初旬の間の本年度最後の企画推進委員会会議で意見を伺う予定である。会議前に資料として実証講座のアンケート、確認テスト結果等を整理して、委員全員に資料を送り、議論するといった流れを考えている。

・講座動画は撮るのか。

→固定になると思うが、講座風景は撮る。等

本日はお忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございました。引き続き、よろしく
お願いいたします。との言葉で会議散会となった。

【会議風景】



＜ 会 議 録 ＞

事業名	令和2年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」分野横断型リカレント教育プログラムの開発「介護における車椅子シーティングに関する技術習得のための分野横断型リカレント教育プログラムの開発」事業
会議名	第2回実証講座WG会議
開催日時	令和 2年11月 5日 (木) 15:00～17:00
場 所	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 教場
出席者	委員： 菅原 武、西山輝之（日本福祉用具評価センター）、澤田 篤（北村智也代理出席）、花房勇輔（ラックヘルスケア株式会社）、吉川隆治、佐治彰一、小堀京子、西口紗矢、益永万理 (合計9名)
【 議 事 内 容 】	
<p>【 目 的 】 本年度の実証講座に向けた意見交換を目的とした会議を開催した。</p>	
<p>【 次 第 】 日 時：令和2年11月5日（木）15：00～17：00 会 場：姫路ハーベスト医療福祉専門学校 教場</p>	
<p>1_ 15：00 開 会 2_ 15：05 議 事 （1）導入動画・スライドについて検討 （2）各講座時間帯の確認 （3）講座内容と備品等について（教室・車椅子の台数の確認等） （4）確認テストの方法（実施・採点・解説・回収）について （5）講座アンケート（実施・回収）について 3_ 16：50 その他（連絡事項等） 4_ 17：00 閉 会</p>	
<p><配布資料> ・議事次第 ・会議出席者一覧表 ・各講座実施スケジュール（日付のみ、時間帯blank） ・確認テスト、解答・解説抜粋 ・講座アンケート【キャリアデザイン編】（案）</p>	

・講座アンケート【基礎編・応用編】・【普通車椅子・モジュラー車椅子編】(案)

【 内 容 】

以下、次第に沿って会議が進められた

1. 開 会

お忙しい中会議ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。お時間になりましたので、これより第2回実証講座WG会議を開催します。よろしくお願いいたします。との言葉で会議が始まった。

2. 議 事

(1) 導入動画・スライドについて

検討前回の会議において、動画や写真等のスライドを学生に見せてはどうかという意見について検討していきたい。本年度の実証講座は、手動の標準形とモジュラー形、シーティングの3つの内容となる。素材について事務局側で探したが、なかなか良いものが見つけれなかった。使用できる素材を持っているかなど委員の方々にご意見をいただきたい。今回は、電動車椅子は使用しない方向である。使用するところは、キャリアデザインのところ意識付けとして動画を流したいと考えている。ただ、動画にこだわってはいない。写真でも昨年度のアンケート調査の一部抜粋のスライドでも事前の意識付けのものとなるのであればよいと考えている。

→学校としてはじめての取り組みとなり、年ごとに学生のキャラクターも異なる。真っ白な状態で学生は受講するため、色々な車椅子があるだけでも驚く。長い動画は避けてほしい。ポイントが整理されているものがよい。

→目的を明確化した方がよいと思う。今から学ぶことを説明するのであれば動画やスライドは有効と考えるが、意識を高める、イメージを持たせることが一番と思う。例えば、YouTube 動画再生を上げるためには、見ている人が途中で飽きてしまうため、ゆっくりとおしゃべりすることはない。3～4分一気におしゃべりをする。海外の電動車椅子利用者の笑顔、幸せに生活している動画などを見せるだけでよいと思う。このような方々に関わる意識のオープニングがよいと思う。説明では学生の意欲が削がれる恐れがあると思う。たくさんのごことを求めない。幸せな笑顔を見せるのか、マンガで電動車椅子や座るのが大変といったことを見せるといったのがよいと思う。

→そのような動画を見つけることができなかった。イメージだけでも見せることができればよかったが、無理であった。動画は厳しいという考えが出てきたので、今回、改めて意見を伺っている。

→いつ頃までにあればよいのか。

→事前に学生が見られるようにするためには、12月18日までにあればよい。ただ、動画は作ることは時間的にも厳しいため、導入するとなるとどこからかお借りすることになると

< 会 議 録 >

思う。委員の方々のご協力をいただきたい。

→日本車椅子シーティング財団には動画はないのか。

→財団は持っていない。財団の取り組みとは意味合いが異なる。参加している企業に対しての働きかけになる。

→**You Tube** にアップしているものがある。ワクワク感ということであればよいと思う。会社に確認してもよいが、電動車椅子であり、講座内容とは違っている。

→学生は車椅子がもつ本来の機能が活用がされていない状況しか見たことがない。椅子代わりにしているところしか見ていない。学生には移動手段のものであって椅子ではないことを学生に説明している。

→学生の車椅子の概念を変えるにはよいと思う。

→許可を得ることが可能なのか。編集は可能なのか。

→管理が厳しい、編集はできない。貸し出すとしても条件付きとなる。

→今年は電動車椅子の講座はしない。その中で採用するという事なのか。

→あくまで、ワクワク感ということに関しての一つの案である。他の動画や写真・スライドと組み合わせができる素材の一つとしての提案であり、採用するという事ではない。

→**You Tube** で弊社の「ラックヘルスケア」を入れると「ラックチャンネル」がある。そこに弊社の取扱い製品や研修動画がある。そこは全て弊社で作成しているので、使用できる。モジュールタイプの調整動画などがある。ただし、用具などはよいが、ユーザーさん個人さんのものは遠慮いただきたい。

→ラックさんの方が動画としてはよいと思う。

→講師の方々は導入イメージ動画としてはどのように思われるか。

→スライド形式であれば、キャリアデザインからメンテナンス関連2～3枚とシーティングと関連2～3枚という流れで学ぶべきことの内容を素材さえあれば手作りできる。動画というより画像を流しながら、最後に幸せそうな画像が入る。そこに講師なり先生なりの説明を入れる。という作り方を弊社ではしている。それぞれの特徴を伝えるということ考えると動画ではなく画像でよいと思う。新たに作成するにしても、例えばモジュールであれば、パーツの拡大写真などの素材は容易に準備できる。これであれば講座までに間に合うと思う。

→静止画を編集でつなげるだけでも動画っぽく作ることはできる。画像による動画タッチ的なものができる。

→講師でもあるラックさんを中心に作成していく。1つのコンテンツで1分程度にしていきたい。

→全体で2～3分程度の時間を目安で考えていくのがよいと思う。

→本事業はシーティングがテーマの中心であると思う。姿勢があまり良くない状態を良くすることによってどうなるかというイメージであった。先ほどの電動車椅子などの動画は、この事業で取り組む内容のワンランク上のものと思う。動き回る移乗、乗り継ぐ移乗、姿勢の3つがあり、それぞれで動きにくいのか、移動しにくいのか、一人で立ち上がれるのか、車椅子を使うことにより自分自身で移乗できるのかという、これまでできないことが何かの知

< 会 議 録 >

識を得ることでできるようになること、アドバイスできる知識を有することができるというような動画のイメージであった。そう考えると少し違うイメージである。例えばシーティングでいえば、悪い姿勢状態で食事をするとこぼすが、姿勢を良くすることでこぼさず食べることができるといったものでもよいと思う。このようなものはすぐに撮影できる。このようなイメージを持っていた。悪い状態を良い状態にもっていくことを目的とすることがタイトルにあっていると思う。

→実際に撮影となると人物の確保が必要である。

→講師がしてもよいと思う。できる状態とできない状態で移乗、移動、姿勢の3つそれぞれ1分程度、イメージとしては40秒程度でできる。それに色々な車椅子の紹介ということであわせて3分程度でできるという授業を受ける意味ではこのようなイメージを考えていた。

→全体像として見せることも必要である。

→素材が揃えば作ることは可能である。

→素材については、講師の方々と相談しながら選んでいく。それをつなぎあわせて委員のみなさんにお示しする。何もない状況の中からのなので、できる範囲作り上げていく。等

(2) 各講座時間帯の確認

配布資料の各講座実施スケジュールは、それぞれのコマシラバスの内容を記入している。実施日のみ決定している段階で時間帯は未決定である。それを埋めていく。キャリアデザインは、実施前に事前の説明があり、12月21日(月)14:40~16:10で実施。大丈夫か。

→大丈夫である。

→次に、12月22日(火)~24日(木)の3日間それぞれ4コマのメンテナンス技術の実証講座についてはどうか。

→学校のカリキュラムの9:00~10:30、10:40~12:10、13:00~14:30、14:40~16:10の4時限にあわせていただきたい。

→大丈夫である(講師)。

→24日(木)まで大丈夫か。

→大丈夫である。1月のシーティング技術も同様をお願いしたい。

→大丈夫である(講師)。

→講師の方々には学校まで距離がある。事故等で遅れたり、休講などを避けるため、実証講座期間はホテルでの宿泊をお願いする。

→1月のキャリアデザインは12月と同じ時間帯で進めるが大丈夫か。

→大丈夫である。

→教室の確認をする。場所はどこになるか。

→1年生は2階の教室である。実習も同じ2階にある。会議後に講師の方々に確認いただきたい(会議後確認)。

(3) 講座内容と備品等について(教室・車椅子の台数の確認等)

< 会 議 録 >

車椅子の台数を講師に聞きたい。学生が20名ということで、グループ分けをするにあたり、4名を1グループとするのか5名を1グループとするのか。特に実習（演習）部分に影響が出てくると思われる。ただし、講師は1人で対応となる。工具は5セットある。

→なるべく少ない人数の4名1グループとした方が触れる機会が多くなるので、それでよいと思う。

→車椅子の台数はどうか。

→今のところ、標準形を5台あればよい。

→モジュール型は使用しないのか。

→メンテナンスには標準形を使う。標準形のメンテナンスができれば、モジュール形もほとんど対応できる技術力が養える。

→比較説明用としては必要ないのか。

→メンテナンスでは1台あればよいと思う。今後、テキスト作成を進めるにつれ、変更する場合もある。

→シーティング技術では全てモジュール形で進める予定である。見比べる程度で用意いただければよい。モジュールは捉え方の幅が広い、教材用に使いやすいタイプを選定する。等

（4）確認テストの方法（実施・採点・解説・回収）について

確認テストの実施について確認を行う。実習のコマでは確認テストは難しいところもあると思うが、確認テストをするコマの確認である。

配布資料の確認テスト、解答・解説抜粋ではあるが、○×形式で作成してある。確認テスト10分、解答・解説10分の計20分で行う。1コマ90分には、講義70分に確認テストと解答・解説が20分という割合になる。

確認テストの問題用紙と解答用紙を学生に配り、実施。その後、解答・解説用紙を配り、自己採点をする。講師の先生方には、全てを解説すると時間が足りないなので、特にポイントなところを2～3ピックアップして解説していただきたい。学生の解答用紙は一度集めて、採点の集計を行い、返却する。という流れをコマ毎に行う。振り返りができることと学生の取得点数により、苦手傾向を見ることができる。

→テキストを見ながらできるのか。

→テキスト見ながら確認テストを行う。等

（5）講座アンケート（実施・回収）について

講座アンケート【キャリアデザイン編】（案）、講座アンケート【基礎編・応用編】・【普通車椅子・モジュラー車椅子編】（案）

以下の意見交換が行われた。

キャリアデザインのアンケートはいつした方がよいと思うか。

→1月でよいと思う。

普通ということ避けて4段階を点数制にしてみた。それぞれの項目に該当するところに

< 会 議 録 >

○をつけて、その理由を書いてもらうような形式をとった。

→キャリアデザインの記入様式の点数化はしない方がよいと思う。記入ありきのもので進める内容のため、避けてほしい。

→理解できて書いているのかを聞いている。

→なるべくそのようなことがないように、1週間前に様式を配って書いてもらい、講座を進める考えをとっている。

→判断基準の点数があいまい、記入しやすかった、しにくかったのを聞きたいのか、中身を判断して記入してほしいのか。ということで受け取る人によって点数の付け方は変わる。項目の工夫は必要である。

→点数というよりも、記入の仕方が分かりやすかったというところで判断項目を作成してほしい。点数にしたのはどうしてか。

→わかりやすい、わからない、満足、不満という表現を点数ではどういったところかをつけるとどうなるかを見たかった。

→点数での判断は難しいと思うので避けた方がよいと思う。また、通常は、中間的な普通を入れているが、ここでは入れていないのはなぜか。

→点数で判断するという事は避ける。中間的な普通を入れなかったのは、どちらにも受け取れるあいまいな回答を避けるためである。

→そうであれば、普通は入れなくてもよいと思う。

→最後の点数の部分はよいと思うが、表の項目に講座のテーマなどがあるが、もっと具体的に内容に関するものを入れた方がよいと思う。

→コマ毎の内容に沿って聞いて、最後の方で全体的に聞くとするようなものがよいと思う。

→何回か会議に参加しているのでこの項目は理解できるが、学生は理解できないと思う。具体的な学ぶ内容に対して聞くように作成した方がよいと思う。

→講師の教え方はあるが、内容に関してではよいが、講師個人の評価も入るのでこれは必要なのか。

→必要と感じる。将来的に普及した際に、講師がどうあるかということは考えず、作った開発した時点での満足度を聞く必要はあると思う。

→受講生の満足度を見るものであればあってもよいと思う。表の項目では、教え方、理解、おもしろさ・興味といった3つと時間配分のところを長く感じたか、短く感じたかのように具体的に変更した4つぐらいでよいと思う。レベルに関しては、初めての方は高いと感じるかもしれない。自分にあったかどうかの判断ぐらいと思う。

→高校生では、自分にあわせた速さで授業をしてもらわなかった、ページの順番に教えてくれなかった、ページを跨いで教えると不満の声が上がる。表の項目の中に講師の教え方とあるが、順番に教えて行かないと納得しない子たちがいるので、このような回答をする学生も中にはいるかもしれない。このような状況を踏まえ項目を具体的にしないといけないと思う。

→簡単に、記入様式は記入しやすさ、選択項目のわかりやすさ、授業の進め方は速くなく

< 会 議 録 >

たか、教え方はわかりやすかったかというような項目が悪いということではなく、書き方を工夫すればよいと思う。時間配分というよりは自分にとっての授業スピードを聞くようなスタイルに変えるとよいと思う。アンケートをするときに、質問が出ないような工夫が必要と思われる。総合的な点数について聞くべきか。

→総合的な評価として点数は学生に付けてほしいと思う。選択項目については、再度、修正し直して委員へ確認を取るように進める。キャリアデザインは感想部分に押さえ、メンテナンスとシーティングに関しては、ある程度細かく聞くスタイルで検討する。

→自分が変化したことについて回答できるか。「変化」の言い回しを考えた方がよいと思う。

→講座を受講したことにより、車椅子に関する考え方が変化したかを書いていただきたい。ただ、伝わりにくいと思われるので考える。

→シーティングのアンケートに関して、3と4は同じ意味合いなので、統一した方がよいと思う。【基礎編】と【応用編】は別々にとるのか。

→今のところ、一つで行うことを予定している。

→アンケートは講座時間内で実施するのか。

→講座時間外、講座終了後に行う。10～15分を考えている。

→7と8も連動しているので、考える必要があると思う。

→まとめてするより、その日その日で学んだことのアンケートをした方が傾向を見られると思う。

→多くのご意見ありがとうございます。皆様のご意見を整理し、修正したのち、ご連絡いたします。他に意見がある方は、メール等で連絡いただきたい。 等

本日はお忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございました。第1回プログラム開発WGと実証講座WG合同会議を終了します。引き続き、よろしく願いいたします。との言葉で会議散会となった。

【会議風景】



＜ 会 議 録 ＞

事業名	令和2年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」分野横断型リカレント教育プログラムの開発「介護における車椅子シーティングに関する技術習得のための分野横断型リカレント教育プログラムの開発」事業
会議名	第3回実証講座WG会議
開催日時	令和 2年11月 24日 (火) 15:00～17:00
場 所	一般社団法人日本福祉用具評価センター (JASPEC) 会議室
出席者	委員： 西山輝之（日本福祉用具評価センター）、安村 亮（ラックヘルスケア株式会社：花房勇輔氏代理）、吉川隆治 （合計3名）
【 議 事 内 容 】	
<p>【 目 的 】 本年度の実証講座車椅子メンテナンスとシーティング技術の講師とともに、導入動画、受講アンケート、講座備品等に関して、意見交換と確認を目的とした会議を開催した。</p> <p>【 次 第 】 日 時：令和2年11月24日 (火) 15:00～17:00 会 場：一般社団法人日本福祉用具評価センター (JASPEC) 会議室</p> <p>1_ 15:00 開 会 2_ 15:05 議 事 (1) 導入動画・スライドについて検討 (2) 受講生アンケートについて (3) 講座備品等の再確認 3_ 16:50 その他 (連絡事項等) 4_ 17:00 閉 会</p> <p>＜配布資料＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 議事次第 ・ 会議出席者一覧表 ・ 導入動画コメント (案) ・ 受講生アンケート (案) ・ 実証講座スケジュール (学習項目、日時記入) 	

【 内 容 】

以下、次第に沿って会議が進められた

1. 開 会

本日は、受託機関の姫路ハーベストさんが急な所用が入ったということで、私（吉川）が代わりとなり議事進行をします。確認する内容について聞いているので、次第に沿って導入動画と受講生アンケート、実証講座における備品等に関して意見交換と確認をします。実証講座までの会議はこれが最後となります。よろしく願いいたします。との言葉で会議が始まった。

2. 議 事

(1) 導入動画・スライドについて検討（配布資料：導入動画コメント（案）参照）

【意見交換】

・5日の第2回の会議で、色々なご意見があり、その後、安村委員より、たたき台的なものをお送りいただいたものも参考とし、進めていく。

→動画を流す時期は、どうするのか。

→学校としては、キャリアデザインを実施する1週間に様式の記入を先生に説明していただく際に、流そうと考えているとのこと。

→講座内容では無く、講座概要となると参考資料として作り込むのであれば、キャリアコンは必要ではない。ただし、生徒がどのような内容をするのを伝えれば良いと思う。そうするとキャリアコンは必要である。メンテナンスとシーティングはイメージ画像があれば伝えればよい。興味がないことを3分流しても苦でしかない。音は流れるのよりも、説明でよいと思う。

→概要がわかる図とコメントを講師に送ってもらう。具体例が1～2コほどあった方がよいと思う。講座全体の概要を説明するものにするのか、内容を説明するのか。

→音声を入れたものがよいのか。先生がスライドに沿って説明するのか。

→来年度にも使えるような導入動画を考える方向で整理する方がよいと思う。

→キャリアデザイン以外のコメントを作成してみた。講座の名称と取り組み内容は、動画に入れても入れなくてもよい部分。次に、初めての方からでも学べるという内容でシーティング技術とメンテナンスのコメントを作成している。シーティングは別としても自立支援のことは専門学校生は知っていると思うがどうか。

→自立支援ということは知っていると思われる。シーティングは学んでいないので分からないと思うので、この内容でよいと思う。

→キャリアデザインもこのような形で2～3行程度のコメントを作成しようと思う。キャリアデザインの見せ方が難しい。

→文字数を決めて講師にコメントと動画の映像などを依頼して進めるようにした方がよい。

→映像に入れる文章などを考えていると思う。上部の3ブロック部分は先生に話して伝えて

< 会 議 録 >

いただいてもよいと思う。

→文字数を考えると、人間の頭に入る1分間での文字数は、学問的に320文字程度と考えられている。10秒で約50文字となる。そこに画と文字を同時に入れるのは、厳しいものがあると思う。特に複雑な画になると全く頭に入らなくなってくる。スライドショーのようなもので作る方が頭に入るのではないか。

→コメントに合わせた画の出し方を考えて作る必要がある。

→音声を取り入れたもので、校正は必要となるが、頭に入りやすいスライドショーで進めれば伝わるのではないか。本年度は、講座の構成を一から始めるようになったこともあり、作り込む場合は、来年度になると思われる。

→作成いただいた画像とコメントをベースに作り上げるとよいと思う。現在の提案のものは、スライドと文字数が少ないと思う。見直す必要があると思う。

→全体の構成はどうするのか。

→キャリアデザイン、車椅子の選定とメンテナンス、シーティング基礎編、応用編というように分けて構成を考えてはどうか。

→ポイントを考えながら2つずつのスライドでバランスをとって作成する方向でお願いしたい。全体で1分320文字数を考えながらお願いしたい。

→提案のスライドを活かすのであれば、声だけをナレーションとして時間を計りながら別取りし、スライドショーやアニメーションに時間設定をして載せて作成することができる。メンテナンスとシーティングは各スライド1枚につき80文字×2で作成してはどうか。

→時間のこともあるため、それで進める方向にしていけることを学校に伝える。タイトルだが、普通があったが、手動とモジュラーとが混ざっている内容でもあるので、メンテナンスのタイトルはこのままでよいのか。

→メンテナンスは広く深い内容である。基礎を学ぶことを考えると車椅子メンテナンスの基礎になるのか。

→実務者を対象とするのであれば、基礎でもよいと思うが、初心者のことを考えると入門ではないのか。

→入門講座という扱いがよいと思う。

→講座の流れとしては車椅子選定が先にあるので、入れてほしい。

→車椅子の選び方とメンテナンス入門講座で学校に話をする。

→動画の納期はいつまでにするか。

→キャリアデザインを受講する前の様式記入を12月14日(月)からするとのことなので、それまでがよいと思う。等

(2) 受講生アンケートについて (配布資料: 受講生アンケート (案) 参照)

【意見交換】

・汎用性を考慮し、コマごとに満足度と理解度を聞くように作成し直した。教育機関の委員の意見を取り入れた内容で作成している。

< 会 議 録 >

- 意外とシンプルになったと思う。
- 興味深さをコマごとか1日ごとに入れるのかを確認したい。
- 1日にまとめてした方がよいと思う。
- テキストの見やすさか使いやすさかどちらが適当か。
- テキストの見やすさがよいと思う。
- 満足度と理解度を分けるともっとスッキリすると思う。
- 同じ表で作成するのではなく、表を分けて作成する。興味深さ、おもしろさをコマごとにしなければよいと思う。
- コマごとに学ぶ深度を取り入れた項目を作成した方がよいと思う。等
 - ・シーティング基礎編の基礎知識3が応用編に基礎知識3の整理とあるが同じなのか。
- もう一度、見直して検討する。確認テストの実施はどうか。グループワークは講師が見て講評とすると思えるがその他はどうか。
- 基礎編の4コマ目と応用編2～4コマ目は実習のため、確認テストはなし。何かを残すようなものが必要なのか。
- 発表などをさせる様式にグループごとに意見を書かせるという残し方はあってもよいと思うが、現時点においては何か考えがあるのか。
- 検討する。
- 興味深さ、おもしろさを変更した方がよいと思う。
- 興味・関心に変更した方がよいと思う。
- 講師の教え方がコマごとに入っている。同じ講師で進めるため、1日の最後に入れた方がよいと思う。等

(3) 講座備品等の再確認 (配布資料: 実証講座スケジュール (学習項目、日時記入) 参照)

【意見交換】

- ・車椅子メンテナンスの講座において必要となる車椅子を教えてください。
- 標準形車椅子をメインに行うため、標準型を用意いただきたい。色々なパターンが必要と思うため、台数は10台以上いると思う。
- 20名を5グループに分けるため、5台と他にどのようなものが必要なのか。
- ブレーキのタイプが異なるものは必要である。その他、モジュールを見せる程度で構わないのでご用意いただきたい。電動は、今回は必要ない。
- どのようなタイプのものを何台というように、学校にお送りいただきたい。車椅子を分解するようなことをすると思うが、ブルーシートは学校が用意するのか。
- ブルーシートは部品や工具がどこにいったのか分からなくなるようにするため必要。ただ、その部分は勝手に分からないと思われるので、こちらで用意する。
- そのことは学校に伝える。他に用意するものはないか。
- 今のところはない。等
 - ・シーティングの講座はどうか。まだ時間的な余裕はあるが、現時点で必要なものがあればお

< 会 議 録 >

聞きしたい。車椅子はどのようなタイプがあればよいか。

→モジュールタイプをメインに行うので、モジュールタイプ。あと、クッションなどが必要である。

→どこが違っているかということを確認しながら進めるとよいと思われるが、標準形は必要か。

→見せる程度あればよい、2～3台あればよいと思う。モジュールタイプを中心に2日間進める予定である。

→講座に使用するモジュールタイプの車椅子と台数を来月中旬以降で構わないので、連絡していただきたい。ブルーシートは必要か。

→多少モジュールタイプの車椅子の部品を取り出す程度するかもしれないが、車椅子メンテナンスとは異なり、必要ないと思う。用意するにしても、工具が置ける程度のシートがあればよいと思う。等

その他

・色々聞いてみたところ、シーティング、フィッティング、ポジショニングなどは現場では関係はあるが、国家資格には関係ない。社会では必要なことの一つではあるが、専門学校教育においては、国家資格を取得させるカリキュラムに導入するにはハードルが高い。一方、理学療法士の教育の中にも入りつつあるが、現時点では、テキストに2～3行程度である。

→シーティングは、今後、しっかりとした内容で入っていく予定で動いているが、それがいつかは分からない。資格取得を目的としている専門学校は、国家資格ではないものに対して、教える必要もない。国家資格の合格率を考えている。というように受け取る先生もいる。

→ある専門学校に聞いたところ、卒業生を対象として考えた。試験が終わって、働くまでの間約1カ月半の中で現場の事前教育の一環として取り入れることを考えている。とのこと。

→習わずに現場に出ている。卒業し、就職した後に、再度、学校に戻って学ぶ。本来であれば、現場の主任クラスが学ぶべき、知っておくべき内容と思う。

→卒業生が学べる環境づくりができ上がればよいと思う。

→卒業前の教育としての導入方法はどのようなものが考えられるか。

→全生徒ではできなと思う。個別であれば可能性はあると思うが、例えば、理学療法士を目指している学生は3月末が合否の発表のため、難しい。就職が決定していても安心できないので、難しい。模試の段階で合格の感触を得ていて、就職も決まっているという早い学生は学校がよいと考えれば、就職するところによって異なるが、事前学習がなければ可能と思う。

→来年度は、このことを含めて考えていくのもよいと思う。4名揃えば、1グループできるので考えるのはありと思う。等

・基本は、若い方ということになるのか。リカレントとして職業訓練ということを見ると、ロータリーやライオンズクラブなどに声かけをしてレクリエーション的なものとして学校に呼び込むのもありかもしれない。

→自分が介護に携わっている方の千寿会などもよいと思う。

< 会 議 録 >

→求心力のある方を探すことが重要と思う。

→対象は学生のみではないと思う。リスクマネジメントとしての考え方も入っているので、ある程度の年代の方にも受講できればよいと思う。等

・テキストの確認であるが、送っていただいたものをルビが入るため、行間を空けたもので半分ほど作成しているとのこと。途中であるが、確認いただきたいとのことでお渡しする。等

本日はお忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございました。第3回実証講座WG会議を終了します。引き続き、よろしくお願いいたします。との言葉で会議散会となった。

【会議風景】



＜ 会 議 録 ＞

事業名	令和2年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」分野横断型リカレント教育プログラムの開発「介護における車椅子シーティングに関する技術習得のための分野横断型リカレント教育プログラムの開発」事業
会議名	第1回第三者評価委員会会議
開催日時	令和 2年 11月 30日 (月) 17:00～19:00
場 所	社会福祉法人もくば会 グループホーム「シップス」 会議室
出席者	委員： 古谷彰則、大嶋勝己、吉川隆治 オブザーバー： 小玉広輝（もくば会理事長） （合計4名）
【 議 事 内 容 】	
<p>【 目 的 】 本年度の事業取組みにおける評価方法の確認を目的とした会議を開催した。</p>	
<p>【 次 第 】 日 時：令和2年11月30日 (月) 17:00～19:00 会 場：社会福祉法人もくば会 グループホーム「シップス」 会議室</p>	
<p>1_ 17:00 開 会</p> <p>2_ 17:05 議 事</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 令和1年取組み内容の説明</p> <p style="margin-left: 20px;">(2) 令和2年取組み概要の説明</p> <p style="margin-left: 20px;">(3) 実証講座の説明（実証講座スケジュールに沿って）</p> <p style="margin-left: 40px;">_車椅子の選び方とメンテナンス入門講座内容の説明</p> <p style="margin-left: 40px;">_シーティング技術〔基礎編〕・〔応用編〕内容の説明</p> <p style="margin-left: 40px;">_キャリアデザイン内容の説明</p> <p>3_ 16:50 その他（連絡事項等）</p> <p>4_ 19:00 閉 会</p> <p>＜配布資料＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・会議出席者一覧表 ・令和1年取組み実績 ・令和2年取組み概要 	

- ・車椅子の選び方のメンテナンス入門講座コマシラバス
- ・シーティング技術〔基礎編〕コマシラバス
- ・シーティング技術〔応用編〕コマシラバス
- ・キャリアデザイン編コマシラバス
- ・車椅子の選び方とメンテナンス入門講座テキスト一部抜粋
- ・実証講座スケジュール
- ・車椅子の選び方とメンテナンス入門講座アンケート抜粋

【 内 容 】

以下、次第に沿って会議が進められた

1. 開 会

お忙しい中会議ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。お時間になりましたので、これより第1回第三者評価委員会会議を開催します。本日の会議進行は受託機関である姫路ハーベスト様に代わり吉川が行います。本会議の第三者評価委員会は、評価をしていただく方で構成された会議で、主なお願いとしては、実証講座を終えた後の取り組みに関して評価をいただくことです。そのため、他の会議体とは異なり、取り組む内容の検討は避け、取り組み概要をお伝えする程度に留めます。よろしく願いいたします。との言葉で会議が始まった。

2. 議 事

(1) 令和1年取り組み内容の説明（配布資料：令和1年度取り組み実績参照）

資料を見ていただいたらお分かりのように、昨年度は、取り組む方向性の確認と車椅子を取扱う企業、団体、施設などに現状と求めていることを聞き出すためのヒアリングとヒアリング結果を参考としたテキストの骨子案を成果物として作成し、皆様にお送りしている。

ヒアリングで目立った結果としては、車椅子に関する現状の知識の低さが84%、教育に求めることとして、安全性78%、部品の名称の理解が72%であった。車椅子に関する相談できるところが増えることは、高齢者は70%、障害者は安心するという回答が95%であった。不具合に関することは、施設担当が高齢者78%、障害者100%、施設は80%が業者との連携ということであった。

この結果からも、車椅子関連企業や団体、施設で働く方は、車椅子に関する知識を備えていなければならないという結果となった。

方向性を示すたたき台的なテキストの骨子案を作成したが、受講生、主に専門学校生、初心者に向けての内容としては、専門用語や文章の言い回し、表現方法といったレベルを含めた課題が残り、改善する必要があるということで、昨年度は終了した。方向性を明確化とするものとして検討を重ねることを考えると、課題がある程度明確なものとして示すことができている文、骨子案として十分な内容であったと捉えている。等

< 会 議 録 >

(2) 令和2年取り組み概要の説明（配布資料：令和2年取り組み概要、車椅子の選び方のメンテナンス入門講座コマシラバス、シーティング技術〔基礎編〕コマシラバス、シーティング技術〔応用編〕コマシラバス、キャリアデザイン編コマシラバス、車椅子の選び方とメンテナンス入門講座テキスト一部抜粋参照）

昨年度に作成した骨子案のテキストは、実習での経験しかない介護科の学生にとって理解することが難しい。ということもあり。シーティングの時間数を調整した4月の計画段階では、シーティング【応用編】の時間数を3コマ減らし、その分、普通車椅子（標準形手動車椅子）を設け、シーティング技術は【基礎編】・【応用編】は16コマから13コマ、【普通車椅子（標準形手動車椅子）】を3コマとした。学術的な部分を削り、実習の部分を増やすこととした。

また、本年度は電動車椅子の実証講座は実施しないこととしている。素人が扱える範囲がメーカーにより様々であるため、本年度は、あるメーカーに絞り、そのメーカーが考える範囲をモデルとし、項目だけでも作成するに留めるとしている。

大きく変わったことは、残念なことに、9月に予定していた講師が辞退した。そのため、新たに講師探しから始め、作り直した。

講座の構成内容は、【キャリアデザイン編：2コマ】、【普通車椅子（標準形手動車椅子）+モジュラー車椅子編：12コマ】、【シーティング技術〔基礎編〕：4コマ】、【シーティング技術〔応用編〕：4コマ】の合計33時間とした。講座内容は、配布の各コマシラバスを見てほしい。

当初は、専門学校教育では馴染のない新しいシーティング技術をメインに考えて取り組んでいたが、学生が理解する内容的なものを考えると、車椅子の構造やメンテナンスを含めないと難しいということで、変更した。ただし、介護現場ではシーティングの技術は必要ということもあり、調整をしてこの形となった。

メンテナンスという言葉は入っているが、レベル的には、日常のメンテナンスというレベルである。しっかりとしたメンテナンス技術を習得するには、専門的な知識も含め、時間がかかるため、現在の専門学校への導入には向いていない。誰でも受講できるように、内容と時間数を考えたものとしている。

また、汎用性を考慮し、コマの独立性を考えている。アンケートもあえて項目毎に学生が評価できるように作成した。授業としては、つながっているが、33時間の授業は学校にとってかなりの負担になる。採用したい専門学校が、空いている時間を活用してコマシラバスの内容とアンケート、確認テストの結果を基に選べるような内容を目指している。

テキストは、まだ整理中ではあるが、一部抜粋してお配りしている。本年度は、本文レイアウトや構成は、これで進める。等

(3) 実証講座の説明（配布資料：実証講座スケジュール、車椅子の選び方とメンテナンス入門講座アンケート抜粋参照）

実証講座のスケジュールは、配布内容の通り、12月21日にキャリアデザイン1コマ、

< 会 議 録 >

22日～24日の3時間で車椅子の選び方とメンテナンス入門講座、1月14日～15日でシーティング技術の基礎編・応用編各4コマ、1月18日キャリアデザイン1コマで実施する。その際に、確認テストと、アンケートを実施する。

アンケートは、お配りのようなコマ毎に理解度と満足度を学生が評価し、最後に、その日の満足したものや学びたいものなどの意見を書いてもらうようにした。

評価方法としては各種テキストと学生による実証講座のアンケート評価、確認テストの結果から、評価をいただきたい。必要な書類は、次回の会議でまとめてお渡しし、それを基に評価していただく。評価の時間は次回の会議時間内に設けて実施する。等

【意見交換】

・昨年度作成した骨子案はどうなるのか。

→昨年度の骨子案は、学術的な要素が入っていることもあり、本年度のよりレベル的にワンランク上と考えている。本年度シーティングを学んだ学生が、より興味を持ち学ぶテキストとして活用できればと考えている。

・留学生はどの程度の人数か。

→今回は、20人中4人で2割程度である。

→この授業を受けるために受講している留学生は別にいるのか。

→介護士になるために学校に通っている日本人の学生と同じで資格取得のために通っている。今の介護の現場を考えると車椅子やシーティングに関しての知識が乏しい。昨年度の調査報告からも明確となっているので必要な学習と思っている。

・ある会社からの情報であるが、タイで介護保険制度が決まった。それに伴い、レンタル用のベッドや車椅子の販売を考えていること。この国では車椅子の使い方や福祉用具の正しい使い方が分かる人はいないのではないのか。この教育と連動できればよいと考えている。

・ヘルパーや介護の勉強ではこのような基礎的な内容は行っていない。車椅子をどのように動かすのか、トランスの問題などは重点的にやるが、その他はやらない。

例えば、リクライニング式の車椅子はどのように扱うのか。ということをやらない。このような基礎知識をしっかりと勉強することが大事である。

車椅子の種類によって取扱い方が違うことを分かっているヘルパーは、付加価値が付くと思う。介護施設でもブレーキが効かないことに対し、まず、タイヤの空気を見ることから始めると解決が早いのに、それに気が付かない方が多い。業者を呼んで対応する。空気が入らなければ虫ゴムなどを見ればほとんどは解決する。

→その場で済むことなのに、業者を呼ぶ手間と時間を掛けている。

→最近であるが、大腿骨を骨折した方がいた。原因は車椅子のブレーキが甘く、十分に効かない状況であったことによるものであった。少しでも空気が抜けてしまうと車椅子は動いてしまう。

本来、介護する場合は、車椅子が動かない、固定した状況で行うことが基本であるが、それを知っているかどうかで事故率が変わる。それは、車椅子の構造を理解していないとでき

< 会 議 録 >

ない。今までは、それを経験でやっていた。必須条件である。

→車椅子安全整備士が入って、この事業に参加しているということは、将来、就職を考えた教育として画期的なものと思う。

→分かっている方はいるが、少ない。経験を頼りにしているところが多い。特に、就職した新人が分かっていない。その分、事故を起こす確率が高い。

→そのような意味では、短期間でここまで作り上げたものは褒めるべきものと思う。

→色々大変とは思いますが、短い期間でここまで作り上げることができたのは評価に値する。これがきっかけになればよいと思う。一つのモデルとしてなればよい。期待する。

→困った時や必要な時に声がけをいただければ、協力する。

→まだ実験的な講座という理解で大丈夫か。

→本年度と来年度に実証実験講座を行いながら最終的にまとめて文部科学省へ提出する。来年度の実証講座としては、専門学校の通常授業への採用は難しいかもしれないが、例えば、就職前の期間で学習できるようなものとして採用していただけるようなものであればよいと考えている。

→シーティングは国家資格ではないので、通常授業への反映は難しいかもしれない。

→車椅子利用者にとっては、理想のカリキュラムに近いと思う。等

本日はお忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございました。次回は、実証講座が1月18日までですので、整理作業に1週間ほどかかると思われます。25日頃を予定しています。その際に、評価していただきます。よろしく願いいたします。との言葉で会議散会となった。

【会議風景】



＜ 会 議 録 ＞

事業名	令和2年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」分野横断型リカレント教育プログラムの開発「介護における車椅子シーティングに関する技術習得のための分野横断型リカレント教育プログラムの開発」事業
会議名	第3回プログラム開発WG／第2回調査・課題検討WG合同会議
開催日時	令和3年1月15日（金） 17:00～19:00
場 所	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 教場
出席者	委員： 菅原 武、西山輝之（日本福祉用具評価センター）、安村 亮（ラックヘルスケア株式会社：花房勇輔委員代理）、吉川隆治（計4名） オブザーバー： 池田有記、岩崎史侑（計2名） （合計6名）
【 議 事 内 容 】	
<p>【 目 的 】</p> <p>実証講座「車椅子シーティング技術〔基礎編〕・〔応用編〕」と「車椅子の選び方とメンテナンス入門講座」、「キャリアデザイン編（前半）」を終え、授業への影響や学生の意識についてオブザーバーから話を聞くとともに、「車椅子シーティング技術〔基礎編〕・〔応用編〕」講座の確認テスト、アンケート結果から見る改善点、キャリアデザイン編のアンケート項目について検討することを目的とした会議を開催した。</p>	
<p>【 次 第 】</p> <p>日 時：令和3年1月15日（金） 17:00～19:00 会 場：姫路ハーベスト医療福祉専門学校 教場</p>	
<p>1_ 15:00 開 会</p> <p>2_ 15:05 議 事</p> <p>(1) 実証講座の感想 ーオブザーバーより感想</p> <p>(2) 車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 ー確認テスト結果、アンケート結果からの改善点等</p> <p>(3) シーティング技術〔基礎編〕・〔応用編〕実証講座を終えた感想</p> <p>(4) キャリアデザイン編 ーアンケート項目の検討</p> <p>3_ 16:50 その他（連絡事項等）</p> <p>4_ 17:00 閉 会</p>	

< 配布資料 >

- ・ 議事次第
- ・ 会議出席者一覧表
- ・ 車椅子の選び方とメンテナンス入門講座の確認テスト結果
- ・ 車椅子の選び方とメンテナンス入門講座の確認テスト結果
- ・ キャリアデザイン編アンケート（案）

【 内 容 】

以下、次第に沿って会議が進められた

1. 開 会

お忙しい中会議ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。定刻になりましたので、会議を開催いたします。本日で講座の中心であるメンテナンスとシーティング講座が終了しました、先生方ありがとうございます。本日は、これまでの講座を見てきた本教員2名からの感想を言っていたいただいた後、それぞれの講座について意見交換を行いながら進めていきます。よろしくお願いいたします。

2. 議 事

(1) 実証講座の感想：オブザーバーから感想と意見交換が行われた。

【オブザーバー1】学生の反応は、いつもと違う講師からということで、刺激を受けた講座であった率直に思う。私自身、10年ほどの介護現場の経験を通じて感じたことは、その当時に知っていた方がよかった、知っていたら利用者さんの状況が変わっていたかもしれないという内容が多く盛り込まれていた。その当時を振り返ると、もっとできたのではないかと後悔する気持ちが込み上げてきた。受講した学生は、未だ基本的なところも経っていない知識の状態、真っ白な状態なので、今回の講座は刺激となって入っていったと思う。それが、一般の社会人や私のような経験した方がリカレント教育として受講した際には、また違った感想が出てくると思う。社会人の方が、この講座を含めた様々な研修を受講する場合は、何かしらの解決したい困難な事例をもって受講しに来ると思われる。今の現場の状況を打開したい気持ちを持った方が参加されるので、学生とは違った様々な意見が出てくると思う。学生自身が様々な知識を吸収して、社会に出た際にはミスマッチが起こり得ると思う。講師の方々には、理想論ではなく、目指すべきところがあるという話をしていただいたが、実際、行われていないことが悲しい介護の現場である。その辺を調整しながら私たちも学生に向けて、倫理や業者への配慮を含めながら知識と技術を教えて、社会評価を上げていく。等

→メンテナンスとシーティング講座の5日間実施したが、これを実際に、先生にやっていたかどうかは可能か。

→現時点では難しい。介護の養成をしている学校のため、指導を受けていない。今まで指導してくれる講師も機会もなかった。今回の講座で初めて聞くこともあった。教える立場として

の知識は足りていない。単に伝達するのではなく、学生から質問された時に、上手く説明できないといけない。

→実技の時間をどれだけ増やすかを考えなければならないと考えた。確認テストの結果から推測すると、テキストに書かれているところを読み込んで解凍するところが、点数が悪い。一般社会人はできると思われているところが、学生ができていな。慣れていないからかもしれない。学生向けにするためには、もう少し簡略化したものが必要と考えている。座学と実習の時間配分も含めて改善案を考える。

→留学生の方が、話すスピードや言葉に対してどれほど理解しているのかお聞きしたい。質問を投げかけたときに、理解はしていたが、日本語として答えるのに時間が掛かった。本日も隣にいた日本人の生徒さんが通訳的な役割で助けていたことが気になった。留学生に対して言葉の理解と話すスピードが気になったので、教えていただきたい。

→今回の講座は、留学生が5名いた。日本語能力も様々で、N1から日常会話ギリギリまでの学生がいる。普段の会話では成り立っているものが、少し難しい言葉や話すスピードが速くなれば理解が難しくなる。ゆっくりかみ砕いて分かりやすい小学生レベルまでの言葉にすると理解できる。全く分からないということではなく、日本語としてどのように答えるかが、出てこない。

→留学生の状況を見ながら判断していくということになるのか。

→その通りである。

→ある程度理解できていれば安心するが、本日のように1日6時間はかなり厳しいものがあるのではないか。

→留学生は、口元を見て言葉を理解しているため、新型コロナの影響で仕方がないが、今回のようにマスクをしての授業はきついと思う。

→みんなが分かっている中で、講座を止めて質問することができない状況になっていないか心配はする。その点は、先生方のアドバイスをいただくと有り難い。等

【オブザーバー2】今まで、学生の車椅子の見方は、一般的な名称や押し方程度の授業でしかカリキュラム上できなかった。今回、車椅子という一つの福祉用具を使ってのメンテナンスの必要性や実際に乗っている方の視点に合わせたシーティングを新しくできたことは、客観的にみても良かった。今まで車椅子の空気が抜けていることや座った時の感覚など学生はほとんど気にしない。使う直前でタイヤの空気などを言っは来るが、事前でチェックすることが必要で、実際に乗ることも、ただ乗り役モデルの学生が乗っているだけ、そこで、乗り心地や姿勢が悪くなるなどの意識をしていない中での授業であった。今回の講座を受講したことにより、今後学生にとってより充実した授業へと繋がっていくと感じている。今回の講座は、本当にはじめのアイスブレイクや講座の中で学生一人一人に声を掛けていただいたのが良かった。事前に学生の名簿を渡していない中で、学生の名札を見て、名前を呼んでいただいたことは、学生にとってもすごく嬉しく感じたと思う。留学生も嬉しく感じていると思う。表情や目を見ると理解しているか分かるので、聞き返して、理解した状態で次に進めるようにしている。今回は、学生に新しい視点ができ良かった。今後、実習先においてもタイヤの空気や汚

れ、利用者に合った車椅子なのかという視点が持てていけることは良いことと感じた。

→理解の表情ということで、今回講座内での説明で「しなる」という言葉が理解できなかった。日本語特有の感覚の入った動詞のため、理解が難しいと感じた。教科書に掲載されているときの説明はどのようにしているのか。動作を取り入れて行うのか。

→動作を取り入れて行う。

→教科書も分かりにくいところはQRコードを読み取るとそこで動画が流れるようになっている。留学生が増えていることによる対応のようである。介護は、文章で見ると実際に見るとでは理解度・イメージが違ってくる。講義だけでは理解できないため、実習も絡めて行ったりする。等

→90分の中でやる内容が出来なかつたりするのか。

→介護の実技は特に計画通り進まない。その際には、補講を使って行う。等

(2) 車椅子の選び方とメンテナンス入門講座

アンケートの結果を見ると、狙い通りの結果になったと思われる。2名程確認テストの合格点には及ばなかった。

→平均点から見ると合格ではなるが、個々に見ると合格者の中でも50点台とかあった。テキストの中の文章から答えを導き出すところが点数は低く、感覚的なところは点数が高い傾向であった。テキストの文章をどのようにかみ砕くのが必要と考える。問題文の言い回しの問題もあったと思う。

→正答率が低いところは、留学生が多いのか。正答率が低いことは、「起因」といった言葉が入っているため、文章の作り方の問題で間違いが多い傾向なのか。

→単語の意味が分かっていないから間違いが多いと思われる。

→間違っているところを見ると、日本人は分かるが留学生は分からないのでは。

→「構わない」という単語を留学生は理解しているのかなどか。

→問題文を見ると、そのような言い回しが多いところが、正答率が低いと考えられる。他に、英語でもあることだが、一文が長くなると分からなくなってしまうのではと思う。文章の意味が分からなくなってしまうのではないか。この部分を改善すると、正答率は上がると思われる。

→安村講師の問題文がそうであった。簡単に見える文章であった。日本語がアンケートでは聞き取れなかった。理解が難しいところもあったというところから、大人が話していることが難しく感じたということかもしれない。バランスが難しい。

→聞き取れないは全てにある。専門用語が分からないというところもある。

→工具のところ、**「ナット」「ワッシャー」**が分からないという回答もあった。実物とテキストで説明しても分からないところがあった。テキストの作り方の構成はそのままとして、文章を見直すことを考え直す方向はどうか。丁寧にするのではなく、文字数を減らしてポイントを絞ったものにするという改善の方向ではどうか。リカレント教育の取り組みなので、他の分野でも分かるようにするためには、このような反応は有り難い。一方で、確認テストでは、平均

点に満たない学生でも63点と66点とそこそこ取れている。このことを考えると、日本語の言い回しを変えるだけで、この2人の学生は70点を上回ると思う。一回目の講座で手探り状態の中で改善点があるのはあたり前である。逆に、見つかったことがよい。あとは、実技の時間を長くして、座学を短くするバランスが必要と思われるがどうか。

→実技をした後の確認、実技の確認が難しい。そこをどのように判定するのか。

→昨年アンケートからすると部品の名称は知ってほしいという回答が多かったので、そのテストでもよいと思う。写真などを載せて名称を記入式にするという方法はどうか。

→問題の文章も写真に置き換えるということか。

→そのようにもできる。「しなる」ということも写真や図で見せて留学生が理解して話せるようにする。

→日本語テストのようになるが。

→部品の名称や取扱い、実技において、日本語が理解し辛いところが多々でてくる。感覚でもよいから少しでも分かるようにできればよいと思う。

→漫画的な問題もありかもしれない。

→点数的に見るとほぼ理解していると思われる。

→改善として、確認テスト、言葉の使い方、用語集といった方向性で取り組みを考える。等

(3) シーティング技術〔基礎編〕・〔応用編〕実証講座を終えた感想

・実際に8コマはどうであったか。

→トータルで見ると妥当かもしれないが、コマ毎で見ると見直すところがあった。どこまで教えるのかという範囲にもよるが、例えば、本日の最後のコマは、専門性が高まるところに入るための入口になるため、リカレント教育ということを考えると、必要度は低い、削除してもよいと思うコマでもある。〔基礎編〕も削除するところもある。話し方を丁寧に、ゆっくりと話すことを考えると8コマでもよいと感じる。1コマ程度は削除できると思われる。しっかりとした実技ができたと思う。

→来年も同じ生徒で行う予定で、全く知らなかった時と学習を重ねた時との比較ができればという考えもある。

→リカレント教育として、現場の方が受講してきたことの大切さや学生が社会に出て、現実とのギャップを知ると思う。教える知識レベルを考えさせられる。

→知識としては合ってよいと思う。今のベテランの取り組みに対して改善するには、やはり自治体との連携は必要と思う。街自体で取り組むようにしなければ変わらないと思う。今の学生さんたちが卒業して10年後を見据えるような考え方は必要と思う。

→社会の現実的な話をするべきではないのかと思う。

→教育のレベルは高くあるべきであり、現場とのミスマッチは必ずある。教育は教育であるべきである。ミスマッチを埋めるような話で伝えることと思う。今回受講した学生が10年度になったときに、知っている強み、体験した強みを生かして、当たり前みんなが知って就職している環境となるチャンスの時期と考える。

< 会 議 録 >

→先生に対してのテキストの内容をどのようにするのかを考える必要があるのではないか。学校として考えた場合は、どう考えるか。

→現状では難しいと思う。時間を掛けていかなければいけないと思う。聞いただけでは難しいと思う。

→先生用の定期講習会を開くなどをしなければならないと思う。時間的に余裕を持たせた上で、単位制にして進めるなどのやり方はある。

→シーティングの講師養成の講師とすれば、学問になると思われ、今回のシーティング講座とは違う。今回のシーティング講座は、学問ではなく、現場で培った経験を取り入れたものであり、その講師養成をする場合は、一緒に現場経験をすることがよいと思う。人それぞれ違うため、正解がない。良い商品が出るとそれに合わせたやり方が望ましい等、商品によって正解が変わる。

(4) キャリアデザイン編

・アンケート案について意見を聞きたい。様式が様々ある。12月に7枚書いて、来週18日にこの2枚に書く内容となっている。この様式についてアンケートを取りたいので、意見を伺いたい。整理できたかという方向でアンケートを聞いていきたいと思うがどうか。

→「整理できたか」という「整理」という言葉はよいと思う。

→12月に実施しなかったのは、12月は下地段階であり、18日が本番という流れのため、実施しなかった。「満たされたか」という部分は削除してもよいと思うがどうか。

→テキストとして表示していくものが、教材として伝わらなければ改善していくべきと考える。テキストやフォーマットが分かりにくいものかの評価は個人的には必要と考える。

→キャリアデザインは、1回1コマしかない。分からないところは講師が説明して埋めていくという作業になる。

→「整理できたか」ということは、テキストや様式ではなく、その子の能力関わることになってしまう。伝わるものとして提示できているかどうかを評価するというのがポイントとなる。整理しやすかったかどうかは聞くべきと思う。

→様式はある程度決まったものがあるみたいなので様式の評価よりも、授業の評価を重点にすればよいと思う。

→今回は、講師と作成者が別なので、それぞれ評価できると思われる。

→記入しにくかった項目はどれですか、番号とその項目はありましたか。というようにしてはどうか。「いくつでも」を入れる。

→講座の満足度の点数は、このままにします。等

3. その他

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座と車椅子シーティング技術の成果物の奥付について確認をした。

< 会 議 録 >

本日はお忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございました。実証講座はあと一日を残すのみとなりました。引き続き、よろしくお願いいたします。との言葉で会議散会となった。

【会議風景】



＜ 会 議 録 ＞

事業名	令和2年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」分野横断型リカレント教育プログラムの開発「介護における車椅子シーティングに関する技術習得のための分野横断型リカレント教育プログラムの開発」事業
会議名	第2回第三者評価委員会会議
開催日時	令和3年1月25日(月) 14:30～16:30
場 所	株式会社アクセストレードセンター(一般財団法人日本車椅子シーティング財団理事所属先) 会議室
出席者	委員： 古谷彰則、大嶋勝己、吉川隆治 (合計3名)
【 議 事 内 容 】	
<p>【 目 的 】 本年度の事業取組み(テキスト開発、実証講座等)の説明と評価を実施することを目的とした会議を開催した(説明後、評価委員による評価用紙に評価を記入)。</p>	
<p>【 次 第 】 日 時：令和3年1月25日(月) 14:30～16:30 会 場：株式会社アクセストレードセンター(一般財団法人日本車椅子シーティング財団理事所属先) 会議室</p>	
<p>1_ 14:30 開 会 2_ 14:35 議 事 (1) 令和2年度取組み計画の説明 (2) テキスト開発の説明 (3) 実証講座の説明 _車椅子の選び方とメンテナンス入門講座 _車椅子シーティング技術〔基礎編〕・〔応用編〕 _キャリアデザイン内容 (4) 評価記入方法の説明 (5) 評価実施 3_ 16:35 その他(連絡事項等) 4_ 16:30 閉 会</p>	
<p><配布資料> ・議事次第</p>	

< 会 議 録 >

- ・ 会議出席者一覧表
- ・ 令和2年取り組み概要
- ・ 実証講座スケジュール
- ・ 車椅子の選び方のメンテナンス入門講座コマシラバス、テキスト、確認テスト類
- ・ シーティング技術〔基礎編〕コマシラバス、テキスト、確認テスト類
- ・ シーティング技術〔応用編〕コマシラバス、テキスト、確認テスト類
- ・ キャリアデザイン編コマシラバス、テキスト（様式含む）
- ・ 確認テスト結果一覧
- ・ 受講アンケート結果（コメント付き）

【 内 容 】

以下、次第に沿って会議が進められた

1. 開 会

お忙しい中会議ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。お時間になりましたので、これより第2回第三者評価委員会会議を開催します。本日の会議進行は前回同様に受託機関である姫路ハーベスト様に代わり吉川が行います。今回は、全ての実証講座が終了しました。その評価をお願いしたいと存じます。お手元の資料は、実証講座に使用したものです。それぞれ補足説明をしていきますので、評価をお願いします。よろしく願いいたします。との言葉で会議が始まった。

2. 議 事

(1) 令和2年度取り組み計画の説明・・・以下の説明が行われた。

第1回の会議で、事業概要は説明しているので、詳細の説明は見送る。本年度は、実証講座の実施と受講者アンケートによる検証が最も重要な取り組みの年度であった。当初予定していた講師の諸事情により、短期間の中で、実証講座をするまでもっていくことができた。色々な方のご協力があって計画通り、本年度最も重要な実証講座を実施できた。

実証講座の総時間33時間、日数と時間帯は、車椅子シーティング技術〔基礎編〕・〔応用編〕を2日間連続、各9:00～16:10、車椅子の選び方とメンテナンス入門講座は3日間連続、各9:00～16:10、キャリアデザインは、この2つの講座の前と後で1コマずつ14:40～16:10と実施した。等

(2) テキスト開発の説明・・・以下の説明が行われた。委員からは、特に意見も無く、コマシラバスとテキストを見ながら聞いていた。

車椅子シーティング技術〔基礎編〕・〔応用編〕と車椅子の選び方とメンテナンス入門講座は、コマシラバスに沿って作成した。パワーポイントの下に説明文やポイントとなる文章をルビ付きで作成した。留学生がいるので、全ての文章にルビを入れた。ただし、パワーポイントの部分は、ルビを入れると逆に見え辛くなるため、ルビ無しにしている。

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座は、メカニク的な要素があるため座学による基礎理解が必要である。振り返ることに理解が深まるように文章は車椅子シーティング技術と比べると多い。一方、車椅子シーティング技術は、シーティングの入口ということで、知らないことに興味や関心を持ってもらうため、学問的な要素を除いた体験重視の構成となっているため、ポイントのコメント的な要素で作成した。コマシラバスの内容とテキストを一緒に見ていただければご理解いただけると思う。

キャリアデザインは、様式にルビを振って作成した。12月の講座では、講座前に様式の①～⑦に記入が必要で、そこは学校の先生に指導をしていただくようにした。事前の説明用のテキストとして作成した。1コマの講座のため、時間配分を入れたコマシラバスとなっている。様式もこの内容に沿って作成されている。等

(3) 実証講座の説明・・・車椅子の選び方とメンテナンス入門講座、車椅子シーティング技術〔基礎編〕・〔応用編〕、キャリアデザイン内容についてそれぞれ説明が行われた。委員からは、特に意見も無く、確認テスト結果とアンケート結果を見ながら聞いていた。

講座は、車椅子の選び方とメンテナンスと車椅子シーティング技術に入る前に、自分を理解することからはじめた。目標を持って受講してほしいから、キャリアデザインを取り入れた。それから、車椅子の選び方とメンテナンスと車椅子シーティング技術を学び、最後に、目標を持つための大切さや意識づけをするという構成の講座である。21日にキャリアデザインで自己理解をするための様式記入、自分が振り返っての気づきや感想といったことの発表をした。22日～24日は、車椅子の選び方とメンテナンス入門講座で、JIS規格の理解から入り、車椅子の選び方、フィッティングや工具の使い方、車椅子の実機を使ったメンテナンス実習を実施した。1月14日～15日は、シーティング技術として、主に体験をメインに、なぜシーティングが必要なのかというところから、クッションのこと、モジュールタイプの車椅子の扱い方、実際に高齢者と同じ体験を通して学ぶ内容を実施した。18日に話す人は時間内で相手に自分のことを伝える、聞き手側はその時間内は意見をすることなく人の話を聞くことを大事にするところからはじめ、目標を持つことの大切さを理解するという内容でキャリアデザインを行い、今年度の講座を終えた。等

確認テストは、平均70点以上を合格としている。車椅子の選び方とメンテナンス入門講座は、残念ながら2名届かなかった。確認テストはテキストを見ながら解く方法を取り入れていたが、全体の傾向としては、読み込んで答えを導き出すところは、点数が低い傾向であった。車椅子シーティング技術は、全員合格であった。正答率の表をお配りしているので、テキスト部分と照らし合わせて確認いただきたい。

アンケート結果においては、車椅子の選び方とメンテナンス入門講座は、技術的な要素を含んでいるため、講座内容としては、学生は楽しく受講できてはいたが、満足度は高い傾向ではあるが、理解度は私たちが思っているほど高くはないと思う。ただ、もっと学びたいことを見ていただければ分かるように、前向きな意見が多かった。

車椅子シーティング技術については、全てに対して高評価であった。体験を多く取り入れたことで、理解度が深まった傾向である。こちらも、もっと学びたいという前向きな意見が

< 会 議 録 >

多かった。

キャリアデザインは、様式に記入することが多かったため、心配にはなったが、講師の支えで高評価となった。特に、キャリアデザインは正解を導き出すものではないため、講師の影響が大きいと思われる。等

(4) 評価記入方法の説明・・・評価項目について説明が行われた。

評価項目は、全15項目で、【リカレント教育】、【分野横断】、【連携】、【各講座のこと】、【汎用性・普及】といった事業のポイントとなる区分をしている。合計100点となる。配分点はそれぞれの項目に記載しており、10点満点と5点満が混在している。採点の付け方は、配分点の考え方を参考として考えて採点していただきたい。等

(5) 評価実施

2名の評価委員により、実証講座の説明、テキスト、確認テスト結果、アンケート結果を参考に行われた。評価表は成果報告書へ掲載。

本日はお忙しい中、評価していただきましてありがとうございます。よろしく願いいたします。との言葉で会議散会となった。

【会議風景】



＜ 会 議 録 ＞

事業名	令和2年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」分野横断型リカレント教育プログラムの開発「介護における車椅子シーティングに関する技術習得のための分野横断型リカレント教育プログラムの開発」事業
会議名	第3回調査・課題検討WG会議
開催日時	令和3年1月27日(水) 15:00～17:00
場 所	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 会議室
出席者	委員： 菅原 武、西山輝之（日本福祉用具評価センター）、吉川隆治、佐治彰一 （合計4名）
【 議 事 内 容 】	
<p>【 目 的 】 本年度実施した実証講座の課題と改善点について整理し、来年の最終年度に向けた方向性を示すことを目的とした会議を開催した。</p> <p>【 次 第 】 日 時：令和3年1月27日(水) 15:00～17:00 会 場：姫路ハーベスト医療福祉専門学校 会議室</p> <p>1_ 15:00 開 会 2_ 15:05 議 事 (1) 実証講座アンケート報告 －車椅子シーティング技術〔基礎編〕・〔応用編〕、車椅子の選び方とメンテナンス入門講座、キャリアデザイン編 (2) 第三者評価報告 (3) 実証講座アンケートと第三者評価報告による課題の抽出 3_ 16:50 その他（連絡事項等） 4_ 17:00 閉 会</p> <p>＜配布資料＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 議事次第 ・ 会議出席者一覧表 ・ 実証講座アンケート 	

・第三者評価による評価結果表

【 内 容 】

以下、次第に沿って会議が進められた

1. 開 会

お忙しい中会議ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。今回最後のWGの会議となります。配布資料のアンケートと第三者評価表から講座としてどうあるべきかの意見交換を行います。よろしくお願いいたします。

2. 議 事

(1) 実証講座アンケート報告・・・以下の説明が行われた。

全ての講座のアンケート集計とコメントを入れたものをお配りしています。車椅子の選び方とメンテナンス入門講座の1日目から説明すると、主にテキストと講師の進め方は、70%を超えたものとなっている。それぞれのコマの理解度は、理解できたとまあまあ理解できたがほぼ、半々、興味・関心もゼロから半分ほどでできた。考え方などの記述は、全員内容がかぶっていなかった。おもしろかった講座だとここで分かる。総合的な満足点は平均81.6点、課題は聞き取り辛かったというところであった。

2日目は、テキストと講師は、テキストや講師の授業進め方からみると、の7コマ目のメンテナンスの問題点や工程管理が学生にとって難しかったと思われる。メカニック的な要素が入ると苦手意識が出ている傾向だった、まあまあ理解できているという割合が多いことから推測される。講師の教え方や興味・関心は60%を超えている。やや不満は出ていなかった。学生にとって良い講座ということが分かる。考え方が変わったことも学生それぞれ自分なりの回答が出てきている。総合的な満足点は平均80.5点と1日目よりも若干少なくなったが、80点を超えているところで、満足であったと思われる。ここで、専門用語として例えばワッシャーなど聞きなれない単語が入ってとまどった感があったとの意見があったが、部品の名称なので仕方がない。点数の理由は動きのあるコメントになっているので良かったと思う。

3日目は、テキストと授業の進め方は、留学生一人から12コマ目にやや不満との回答があったが、講座の作り方は良かったと思われる。気になる点が9コマ目からフットサポートやシートなどの機具になると苦手意識が出てきている。10コマ目のブレーキや11コマ目のフットサポート、駐車用のブレーキといったメカニック的なものになると難しく感じる傾向であった。逆にこの部分は自転車関係者や自動車関係者が面白く感じる場所ではあると思われる。考えが変わった新しく気づいたという回答も学生数分意見がしっかりと出てきた。総合的な満足点は平均86.3点と大幅にアップしている。

車椅子シーティング技術については、講座の半分を体験にしたことで、全体的に高い評価であった。シーティング独特の工夫が随所で見られた。

1日目の基礎編では、講師の教え方が88.9%、興味・関心も80%となっているので、楽しかったと分かる。考え方も正しく座ることとクッションが大事ということが認識できたので良かったと思う。総合的な満足度の平均点数も87.8点であった。

2日目の応用編では、テキストと講座の進め方は、全てのコマにおいて80%を超えている。理解度的にも4コマ目の片麻痺は理解度が低めであるが、その他はそれぞれ60%を超えている。概ね理解できていると思われる。講師の教え方は88%、興味・関心は70%と少し落ちてはいるが、高いところで維持している。考え方が変わったとして、ユーザー目線で考えるようになった。新しい気づきとして車椅子の機能について考えるようになった。という回答があることは良かったと思う。総合的な満足度の点数は平均88点であった。意見を厳しめに書いている学生からは満足度の点数が高かった。学ぶことにどん欲になったと思われる。

キャリアデザインの授業の進め方や講師の教え方については、61%という回答結果であった。進め方など問題は無い傾向である。様式の整理度について聞いたところ、半分はまあまあ書けたということであった。これは説明会の時の学校の先生方のお力によるものと考えられる。考え方が変わった自分の振り返り、自己理解ができたことや明確に目標を立てることが大事という回答があった。様式が記入しにくい、分かりにくいというところもそれぞれ回答が出ている。総合的な満足度の平均は79.5点であった。等

(2) 第三者評価報告・・・以下の説明が行われた。

25日に第三者評価委員会で評価を行った。シラバス・コマシラバス、テキスト、講座スケジュール、確認テスト結果、アンケート等を渡し、それぞれ説明をして評価を行った。評価項目が15項目、それぞれ配点を付けている。重要とされるところを10点、リカレント教育として合っているか、委員や企業との連携、全体的なプログラム・カリキュラム、シラバス・コマシラバス、それぞれの講座内容が対象者へ向けたものとなっているか、汎用性・普及を高得点としている。配分の考えた方として、下の表に表している。結果として団体からが93点、企業からは90点であった。付度は無いということであった。高得点の大きな要因として、実際の現場では必要な知識であるこのような取り組みをどこもしていなかった、できていなかったこと。教育面で発信できたこと、日常的な部品名称などを含めた車椅子のメンテナンスやシーティングという内容まで落としたものが無かったというところであった。等

(3) 実証講座アンケートと第三者評価報告による課題の抽出

アンケート結果と第三者評価の説明が一通り終わったことで、今回の講座を見学しての意見等をお聞きしたい。

→生徒がすごく前向きで本当に興味を持って、取り組んでいたという印象を見受けられた。やらされている感はなく、自ら率先して取り組んでいたと感じた。

→長丁場で集中力がどうかと思っていたが、集中力を切らさずに最後まで受講していた。本当に興味が湧いてきたものと感じた。

→アンケートにもあったが、丸椅子で講座をしていたことが、疲れさせていた。背もたれの椅

< 会 議 録 >

子で行う配慮は必要と考えさせられた。テキストの作成方向について、文字数をどのように工夫した方がよいのか考えさせられた。振り返りとして活用できるのであれば、ある程度文字数は必要と考えている。

→講座の作り方によるものとする。車椅子の選び方とメンテナンス入門講座では、車椅子シーティング技術よりも実習が少なかったことから、文字数が多くなっている。実習を増やせば、読み込む部分をポイントに絞り込むことができるのではないかと。

→社会人相手は、ポイントを絞ったものであっても、自分にとって必要なところは、自らメモ書きをするが、学生はそうではないため、文字数が多くなる。実習で手を動かすことをしても振り返りのために、文字数は必要と考えるがどうか。

→おそらく、正解は無いと思う。リカレント教育としての入口の講座であるからこそ、しっかり学ぶという考え方や興味を持たせるための軽さがあると思う。どちらも有りとするが、学生にとってどうなのか、という評価を見てみると文字数は多い傾向となっている。今回の講座としては、視覚で呼び込む、体験により理解度を深めるといったことになっていると思う。ただ、学校が違えばその傾向も代わると思われる。また、社会人になれば、メモするので、文字数はポイントのみで、全体的にはもっと少なくなってくると思う。

→評価項目の中で汎用性と普及の中で、幅広く普及されるかという項目や講師を選ばずに実施できることを目標に作成されていると分かる書いているがその点ではどうか。

→携わっているからこのような言葉が出てきたと思われる。仕事としてやっていない方には、この作り込みの部分までは気づかない、業界の研修がどのような内容で実施しているのか分からない。そうするとこの意見はしっくりとある。

→先日の会議で、先生は難しいという意見があったことからすると、この意見はどのようにとらえるべきか。

→業界に長くいる方で経験値の差でこのような意見が出てきていると思う。削除するとした場合、詳しく書くことは大事ではあるが、入口の講座として考えられることはJ I S規格のところを考えてはどうか。大切な部分と思われるが、その後のステップのところでも学ぶ内容としても考えられる。その他、PL法に関する記事部分を全て掲載するのを取り止め、掲載先のみにして、文章を削除すると1コマは空けることができると思う。

→確認テストの中で六輪車の問題が悪かった。テキストから抜き出して考えれば、正解を導くことができたのだが、そこまで求めるのか。という考えにもなる。

→専門用語はどうしても入る。用語の説明をどこまで入れるのかも考える必要はある。

→今回の車椅子の選び方とメンテナンス入門講座、車椅子シーティング技術を合わせて、学ぶ人を想定して、レベル設定してみてもどうか。

→今回は入門編ではあるが、もっと落として作り上げるべきということか。

→段階を分けてみるかどうか。指導できるレベルまで区切ってはどうか。

→車椅子のタイヤの空気が抜けているとどのような影響を与えるかを考えて、施設内に車椅子の空気を入れる場所をいくつか設けるといった裏方の方がいて、ヘルパーさんなどが、車椅子のタイヤの空気が抜けていたら、そこで空気を入れるようになったということを行って

< 会 議 録 >

る方がいる。そこを考えると、段階的に切り分けた講座としては有りと考えている。ただ、一つの授業に落とし込むと結びつきにくいと思われる。単独で切り分けてどこまで理解できるかというところはある。

→今まで言ってきたようにコマの独立性は想定している。アンケートもそのように、コマ毎に評価が入っている。連続していてもよいと思う。ただ、全ての中のこのコマの部分抜き出したいが、どのような評価であったか。アンケートを見て、また授業シートや確認テストを見てポイントはどこかという判断材料としてもらえばよいという方法を取っている。レベルを下げるとしての理想論はあるだろうが難しい。

→線引きはかなり難しい。

→今回のメンテナンスは、最低限のことを行った。これ以上上げると工具を使わず、話だけで2コマはいらない。実習によって理解を深めることができなくなる。

→ケーススタディ的なものを取り入れた実習形式をテストとしてはどうか。空気のところやケガが無い状態でグラつきが1カ所あるところを作って行うなど。

→宝探しの良いかもしれない。

→来年は電動車椅子を入れるということだが、時間数はどうするのか。

→できれば、今年の内に入らせていきたい。圧縮して3コマ程度に収めたい。

→今回の講座は学校としてはどうか。

→学校としては、コンパクトに収まったと感じている。

→キャリアデザインをどうするのか。今回は、前半でA4を7枚、後半A3で2枚書くことに対して検討する必要がある。講座のコマとしては2コマであるが、講座の時間以外にその前の説明などで、先生方にそれぞれ4コマ程の隠れた時間がある。結果は、良い傾向が出ているが、先生方にかなり負担が掛かっていたようである。汎用性を踏まえてどう思われるか。

→そうなると多い。

→キャリアデザインとリカレントとの結びつきを考えると今回は広すぎる傾向であったと思う。

→リカレントということで、社会人も想定していた様式だったと思う。自分自身で書ける能力を持った方向きで、社会人対象であれば良いものであると思うが、学生にとっては難しい様式だったと思う。

→隠れた時間がそこまであったのであれば、削った方がよいと思う。

→今回は、学生が将来を見据えた広い話であった。そこまではいらないと思う。キャリアデザインという発想を考え直すべきと考える。

→来年度は1コマという方向で考える。来年度、当初予定していた電動車椅子講座を4コマ前提に進める。トータルの時間数は、これ以上増やしたくないので、全体的に調整する方向で考える。

→概論的なものになるかもしれない。

→誤操作による事故の原因を知る内容を入れるよいかもしれない。

→保険制度や電動車椅子の特徴というところにフォーカスをあてる方向で考える。

< 会 議 録 >

→選定と利用者状況を考えるというところが中心となる。

→来年度は、キャリアデザインのコマ数を減らす、車椅子の選び方とメンテナンス入門講座はJIS規格と裁判内容を減らして、実技にする。車椅子シーティング技術は圧縮するという方向性で見直す。等

[その他の意見交換]

・理学療法士の学生にも受講させたい内容ではある。

→理学療法士の学生の受講は可能か。

→通常授業の中では難しい。国家資格対策などがあるため、時間がなかなか取れない。

→2～3月頃が資格試験を終えて、就職が決定し、手応えのある学生に対しては良いかもしれない。

→診療医学報酬が取れる状態となった。そうすると、リハビリに携わるとなると福祉用具の選定を学んでない状態で就職している。せめて、車椅子の選定とシーティング部分は伝えることは有効と考える。

→この部分だけを抜き出して学べるようにできればよいと思う。

→今回の専門用語は理解できているということであれば、スムーズにできると思う。

→2月の試験を終えて、就職前までの春休みの間は受講できると思われる。

→声があることは報告書には明記した方がよい。等

本日はお忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございました。今回で本年度内のこのWGは終了となります。残り少ない期間となりますが、引き続き、よろしく願いいたします。との言葉で会議散会となった。

【会議風景】



＜ 会 議 録 ＞

事業名	令和2年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」分野横断型リカレント教育プログラムの開発「介護における車椅子シーティングに関する技術習得のための分野横断型リカレント教育プログラムの開発」事業
会議名	第2回企画推進委員会
開催日時	令和 2年 2月 3日 (水) 15:00～17:00
場 所	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 教場
出席者	委員： 菅原 武、西山輝之（日本福祉用具評価センター）、山中章二、田中 航、 花房勇輔（ラックヘルスケア株式会社）、吉川隆治、佐治彰一、西口紗矢、 益永万理 (合計9名)
【 議 事 内 容 】	
<p>【 目 的 】 実証講座の報告と昨年度からの課題の改善確認、来年度に向けた取り組みの確認を目的とした会議を開催した。</p>	
<p>【 次 第 】 日 時：令和3年2月3日（水）15：00～17：00 会 場：姫路ハーベスト医療福祉専門学校 教場</p>	
<p>1_ 15：00 開 会 2_ 15：05 議 事</p> <p>(1) 実証講座の結果報告 - 車椅子の選び方とメンテナンス入門講座アンケート・確認テスト結果 - 車椅子シーティング技術【基礎編】・【応用編】アンケート・確認テスト結果 - キャリアデザイン編アンケート結果</p> <p>(2) 昨年度の課題部分の検証確認について：アンケートと確認テスト資料から確認 - 講座内容（講座の流れ、講座の進め方、指導方法等について） - テキストの内容（専門用語、導入部分のレベルであったか等について） - 講座時間（メンテナンス12コマ、シーティング8コマ、キャリアデザイン2コマ） - 対象者（受講生が介護福祉学科1年生であったことが適正であったか） - 開講時期（12月～1月について）</p> <p>4_ 16：50 その他（連絡事項等） 5_ 17：00 閉 会</p>	

< 配布資料 >

- ・ 議事次第
- ・ 確認テスト結果一覧
- ・ 講座アンケート結果

【 内 容 】

以下、次第に沿って会議が進められた

1. 開 会

お忙しい中会議ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。第2回企画推進委員会を開催いたします。よろしくお願いたします。との言葉で会議開催となった。

2. 議 事

(1) 実証講座の結果報告・・・以下の説明が行われた。(配布資料：確認テスト結果一覧、講座アンケート結果参照)

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座の確認テスト報告が行われた。確認テストは全12回行った。1～12コマの平均点数が読み上げられた。確認テストは全体の平均82.9点となった。テキストを見ながら行ったため、平均70点を合格としていたが、19名中2名が合格に至らなかった。1コマ目の問1、2コマ目の問4と6、3コマ目問10、5コマ目問9、7コマ目問2、10コマ目問1といったところの正答率が50%未満で悪かった。その他は、ほぼ80%の正答率であった。アンケート回答と照らし合わせると「まあまあ理解できた」の回答が多かったところは、正答率が低い傾向であった。理解できたと感じていただけの傾向が強、「理解できた」を多くしないといけないということが分かった。

次に、車椅子シーティング技術【基礎編】・【応用編】だが、全8コマ中3コマ実施した。入門ということで、体験を多く取り入れた。問題の出し方も丁寧で、正解率を多く出す傾向の出題で90点以上であった。留学生も100点が取れるような文章の工夫があった。また、体験したことを確認テストに出題するなどの流れの工夫があった。

車椅子の選び方とメンテナンス入門講座のアンケート結果が読み上げられた。1日目は、テキストと授業の進め方から入り、それぞれコマ毎に理解度に対して聞いていった。「理解できた」の50%を超えているのは、1コマ目のJIS規格、2コマ目の六輪車、4コマ目の正しい姿勢というところであった。その他は「まあまあ理解できた」という回答であったが、先ほどの確認テストと照らし合わせると、理解度が低くても、ここにチェックを入れている傾向であった。「理解できた」を増やしていくことが必要である。講師の教え方は、「満足」が63.2%、興味・関心に対しては「できてきた」52.6%という結果であった。記述のところは、ゆっくりと読んでいただければと思うが、受講生からの回答は重なった回答は無かった。似たような書き方があるものの、しっかりと自分の思ったことを書いていた。満足度を点数化すると平均81.6点であった。話すスピードが速かったり、専門用語が入った説明になったりす

ると思いが止まる傾向であったことが、要因となっている。ある程度専門用語が入ってくるのは仕方がないが、真っ白な状態での受講ということで、可能な限り、見直す必要があった。話すスピードについては、全てに入っている。

2日目も同じような傾向であった。内容にもよるが、もう少し工夫が必要ということを感じた。ただ、テキストの見せ方や授業の話し方は、高い評価傾向であった。また、講師の教え方も「満足」63.2%、興味・関心は「できた」63.2%と興味・関心が1日目よりも10ポイントほど上がった。学ぶ必要性を感じた結果と思われる。この日からスパナや工具を使う内容となった。初めての方が多かったため、工具の理解することに時間を要した。満足点としては平均80.5点と1日目より若干落ちたが、工具を使った実技の影響と考えられる。

3日目も理解度というところでは、「理解できた」が50%を超えなかった。ただ興味があるだけで、経験したことがないとこのような結果となるのではと考えられる。講師の教え方も「満足」66.7%、興味・関心は「できた」55.6%と1日目と同じような結果であったが、ある程度の意識付けにはなったと思われる。部品の取扱いや工具の取扱いの大切さを初めて知った学生が多かった。相手のことを想う気持ちも芽生えたという回答の傾向であった。満足度の点数は平均86.3点であった。

テキストの見やすさは、概ね高評価であった。受講生からも、「今日学んだことを復習して理解を深める」や「復習や明日の予習をする」といったことから判断できる。全員が「満足」「まあまあ満足」と評価している。授業の進め方やスピードについては、検討する必要がある。その中でも、専門用語が入った説明や話すスピードについては、留学生もいたこともあり、気を配ることが重要であった。等

シーティングの【基礎編】は、体験をメインにしたことで、評価が高かった。授業の進め方のスピードやテキストの見やすさは、表にまとめているように、高評価であった。理解度については、メンテナンスは技術面寄りであったため、得手不得手ははっきりする部分であったが、シーティングはその部分がないこともあり、「理解できた」が60%を超えていた。講師の教え方も「満足」88.9%、興味・関心は「できた」83.3%という結果となった。シーティングのきっかけとなるには十分であった。クッションの大切さ、座り方の姿勢などの考え方が変わった。満足度の点数は平均87.8点であった。

テキストの見やすさと授業の進め方やスピードは、高評価であった。受講生からも、「分かりやすかった」や「満足できた」といったことから判断できる。また、「体験がたくさんできてよかった」という声もあり、講師の工夫が見える。テキストはパワーポイントで作成したもので、受講しながら見る分に良いが、振り返りで学び直すという点では、弱いため、文字数をもう少し考える工夫が必要である。

次に【応用編】は、体験を4コマ中3コマ取入れた。1コマ目に体験をして、それを2コマ目に座学で理解するような流れであった。総合的に高評価であった。講師の教え方も「満足」88.9%、興味・関心は「できた」72.2%という結果となった。興味・関心が高いことで、学ぶ必要性の意識付けはできたと考えられる。相手を思いやる気持ちや福祉用具の取扱いの考え方が変わった。満足度の点数は、高齢者の立場になって車椅子の体験など実態に合わ

せた体験が多かったこともあり、満足度の点数平均88点という結果となった。

キャリアデザイン編では、車椅子の選び方とメンテナンス入門講座の前と車椅子シーティング技術講座終了後に1コマずつ行った。

この講座は、テストという形式ではなく、自分理解と将来に向けての目標設定の大切さ、目の前の小さな目標でも一つ一つクリアし、キャリアを積むという意識付けの講座として実施した。

講師の話し方がよく、すごく聞き取りやすかった。講師の教え方や授業の進め方も高評価であった。様式が前半はA4用紙7枚、後半はA3用紙2枚とすごく書き込んで整理するという作業が多かった。学生も大変であったと思うが、先生方もフォローが大変だったと思われる。

整理度と満足度は、自分で評価するものであるため、このような傾向という感じで見ていただければと思う。目標を立てることが大切であったり、自分を理解できる時間が持てて良かったりなどの回答があった。満足度の点数平均79.5点という結果となった。

将来に向けて自分のキャリアをデザインしていく上で、自己を理解し、目標を明確に立てることを理解する内容で実施した。受講生の中には、具体的な目標を手足ること、今まで考えなかったことを考えるようになったり、将来が明確になったりと様々な考えの変化が見られた。様々な様式に記入するため、受講生のテンションが気がかりであったが、講師の講座の進め方のスピードや教え方の工夫があり、受講生も楽しく受講できたように思われる。等

これらが、アンケート結果となった。今回の講座は、時間が無い中で、ここまで作り上げることができたことは、成功と感じている。等

【意見交換】

・確認テストから導き出す答えが、点数が取れていなかったところは、出題傾向を考え直す必要があると思う、あと、実技の時間配分についても考え直す必要がある。受講生は、前向きで受けられていたと感じる。椅子が丸椅子であったので、背もたれの椅子で受講させれば良かったと思う。

・車椅子や座るということに、これほど深く学べる機会は、普段の授業と違っていたことが、今後の授業で深く考える意識付けはできたと思う。女子学生が多い中、今回は男子学生が生き生きとしていた。かなり刺激を受けた授業であった。教員にとっても良い経験となったと考える。

・授業をする前に、「座る」ことの基本にフォーカスを取った。学生に伝えることを第一に考え、今回の授業構成となった。ただ、理解度が20%ほどの差があるところがあるので、そこを埋める工夫は必要である。また、言葉の工夫が必要である。説明に自然と専門用語が出てしまっている場合があるので、気をつけなければならない。若い方は興味を持つとどんどん入ってくる。福祉用具を取扱う我々としては、学生時代に興味を持って就職した際に、入った会社ではなく、利用者や業者を見て用具をどのように利用するか判断してほしい。改めて、学生に知ってもらふ必要性を感じた取り組みであった。

・シーティングを見学したが、講師の話し方が、学生に合わせた丁寧な話し方であった。何を

学ぶのが分かるパワーポイントを映しながらの授業で良かったと思った。

・楽しく、興味を持ってもらうように、意識して行った。コミュニケーションは社会に出ると業種関係なく必要なことであるため、ローテーションを取り入れて進めたが、その回り方も工夫をしていた。ささいなことだが、それで通じるものができる。この感覚ができる人とできない人がいる。話は変わるが、専門用語辞書みたいなものは作成するのか。

→どのレベルにするのかということになる。テキストレベルでどこまで取り入れるかが課題である。この点は、検討している。

→用語集や専門用語は必要と考える。

→ローテーションの補足として、後半の部分で実施していて、同じ人と被らない回り方の工夫を講師が指示して行っていた。最後には、全員に対して話をした形で行ったということである。

・アンケートを見るだけで、良い講座であったと分かる。専門用語とはどこを言っているのか。

→例えば、メンテナンスでいえば、ワッシャー、ナットといった部品の名称のことを学生がそう捉えている。

→テキストには写真と名称を入れているが、その部分が結びついていなかった。工具のスパナなどもそうであった。

→シーティングの専門用語では無かったのか。

→それはなかった。ほぼ、医学用語、専門用語を使わないように気を配っていた。

→留学生からなのか。

→日本人も居た。

→言葉としては、「たわむ」「しなる」という感覚が入った言葉が留学生には理解できない。実習で現物を見せながらはできるが、テキストのみであると難しい。

→どのような状況かが理解できない。ベトナムとミャンマーとでも違う。日常使う言葉の意味が分からないことがある。「気が晴れる」でもなぜ天気が入るのが分からない。テキストにこのような感じが出てくると飛ばしてしまう。

→2年生になってくると分かるようになってくるのか。

→図などを取り入れたりして繰り返し教えていくので、ある程度分かるようになってくる。

→日本人でも「たわむ」「しなる」が理解できない子もいる。専門用語や用語集が必要であると考える。

・視野が広がることが大事、一般的な介護となると老人の身体介護を想像するが、今回の講座を通して、介護分野は様々なことがあるということを知ることができたことは有意義な内容であったと思う。等

(2) 昨年度の課題部分の検証確認について：アンケートと確認テスト資料から確認

昨年度からの課題の改善について確認していく。予定している電動車椅子は、メーカーは色々あるが、一つに絞って、そのメーカーの考え方を反映した内容としていきたい。

■講座内容（講座の流れ、講座の進め方、指導方法等について）

【意見交換】

事務局側としては、昨年作成した骨子案より、レベルを下げたものとなっている。また、入口として体験も多く取り入れた構成となっている。講座の進め方も講師が学生の名前を呼んでいたり、メンテナンスでは寄り添って指導していたりと工夫が多く見受けられた。課題としてはクリアしていると思われるがどうか。

→講師の方々が生徒レベルまで下りていただいていたので、生徒は楽しく授業できていた。誰でもできるものではない。

→今まで話し合っていたことが、形になったことで腑に落ちた。生徒が意欲的に学んでいた。1日90分の4コマを3日間連続では、最後まで生徒の集中力が続くか疑問であったが、最後まで続いていたことがすごかった。講師の工夫がすごかった。アンケートのマイナスポイントのところもベクトルがプラスの方向に向かっている。時間が足りないとか外に出て車椅子に乗ってみたいといった声もあった。良い講座であった。

→講座内容は改善された。等

■テキストの内容（専門用語、導入部分のレベルであったか等について）

【意見交換】

事務局としては、導入レベルを意識してパワーポイントの下にポイントとなる文章が入っており、漢字はルビを振って作成したので、クリアしていると考えます。

→生徒が見るということを意識して作成していただいていた。分かりやすかった。生徒にとって無理のない内容となっていた。等

■開講時期（12月～1月について）

【意見交換】

時間の関係で12月となってしまった。時期だけに絞ってみるとどうであったか。

→講師の立場としては、時期的には問題はなかった。

→1年生であれば、このタイミングで良かったと思う。等

■対象者（受講生が介護福祉学科1年生であったことが適正であったか）

【意見交換】

介護福祉学科1年生という対象レベルとして、アンケートを踏まえてお聞きしたい。

→リカレント教育として考えると、妥当であったと思う。前向きな意見がかなり多かった。

→専修学校のリカレントとしては、2年間学ぶため、例えば、1年次で学び、理解度を上げるため半年後もう一度学ぶといったスタイルが実践的でよいと思う。生徒なので詳しくは知る必要はない。自立して生活する姿勢のことを分かってもらえるようになればよいと思う。基本的な用具の捉え方を知ってもらえることが、社会に出ると役に立つ。身体は一人一人違う、同じものがない。

→確かに、与える知識は高い方がよい。

→1年生の内である程度視野が広まる機会となるので、対象としては良かったと思う。専門用語でも大事なことを講師が教えているので、それを調べる時間もある。専門用語にあまりこだ

< 会 議 録 >

わることはないと思う。

→車椅子の勉強は授業で取り入れているのか。

→詳しくは取り入れている。介護に必要な場所の名前、あと動かすことの注意事項程度の内容である。

→1時間程度なのか。

→座学と演習は別にある。全体ではもう少しある。ただ、ここまで詳しくはしていない。

→話を聞くと、ここまでの内容が学べたことは良かったと思う。ただ、理解度を考えると2年生になってもう一度受講するのがよいと思う。

■講座時間（全33時間、メンテナンス12コマ、シーティング8コマ、キャリアデザイン2コマ）

調査・課題検討WGで、講座について会議を行った。現在、33時間という長丁場の講座であり、これに電動車椅子4コマ、6時間を入れると39時間となる。電動車椅子を入れて33時間としたい。リカレント教育では、学びやすさと先生方の負担を考える。メンテナンスでは、座学の部分を実習に置き換える。例えば、JIS規格の部分を実習・体験にするなど工夫を考え始めた。シーティングについては、当初、お願いした際には、時間が長いと言われつつも開発した。ポイントを絞れば理解度と充実度が上がるコマ数も1～2コマは減らせるということであったので、その方向で進める。キャリアデザインは、資料の数が多かった。12月では、学生に講座の前にA4用紙に7枚書かせる必要があった。この対応でおそらく先生方は6時間程度要したと思われる。1コマで行う講座に隠れた時間があることはよろしくないと思った。この点を改善して、キャリアデザインを1コアにしてお願いする形にする。これで空いた時間を電動車椅子にするように考えている。

→メンテナンスとシーティングが重なる内容がある。すり合わせをして調整はできると思われる。本来のメンテナンスでいうと時間が足りない。実際の社会に出た時の有効性の最低レベルを考えて検討していく必要がある。

→車椅子のことやシーティングの必要性を感じ、興味を持ってもらう入口の講座で、日常的なメンテナンスレベルである。実務レベルまで引き上げる内容は、既に様々なところに存在しているので、そこまでは必要はないと考える。

→受講する生徒によって技術が違う。シーティング技術とメンテナンス技術の2方面がある。技術系の方が車椅子の安全整備、シーティングの適合技術があると思う。

→自動車整備士などの入口はメカニック系のメンテナンスから入る。さらに興味を持った方は、シーティングに入る。

→今回、介護系でメンテナンスもしたがそこはどうか。

→男性は、機械を扱うことが楽しいので、そこを踏まえた上で、視野を広く持ってもらうため取り組んだ。

→安全性を考えると、時間数を減らすことは難しいかもしれない。

→座学的な部分をしっかりしないといけないと思う。

→キャリアデザインは1コマでよいと思う。

< 会 議 録 >

- 本来は、座学でしっかり学んで実習で活かすことと思う。
- 社会人の技術系の方は、福祉分野でそのようなことができていないので、今の技術がここでも活用できるという発信
- 教える側は一人を想定しているのか。複数人ではダメなのか。
- 色々な方が入ってもよいと思う。例えば、コマ毎に先生が変わっても問題ない。しかし講師をする上では、その知識はもっていないとできない。講師要項を現在作り始めている。講座の時間については、来年度の計画を考える際に、相談します。等

【その他の意見交換】

- ・今回講座を見て感じたことは、2年生の2月に卒業するまでに総まとめとして受講できれば良いと思う。ただ、委託事業として考えると、夏休み後の実習に行く前に何日か受講できれば良いと思う。
- 病院では先生が車椅子を触る。病院を出た後が一番大事であるそれを介護現場のセラピストの方が分かっている合っていない悪い車椅子に座らせている。生活に対する車椅子の適合ができることになればよいと思う。
- 残念ながら、2月の実証は難しい。個人的な感覚ではあるが、現実的に、国家資格を取得させるカリキュラムの中で、そうではない内容を取入れることは難しいと思うが、2月の試験が終わってから就職する前の1ヵ月にこの講座の内容のいずれかを入れて学習することはできると思う。
- 卒後教育の内容で使えるのではないかと。現場で困った時の役に立つ教育として考えるとリカレント教育としてつながると思う。
- 理学療法学科の学生にも受講させたい。

本日はお忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございました。今月に成果報告書と成果物をお送りいたします。よろしく願いいたします。との言葉で会議散会となった。

【会議風景】



「車椅子に関わるすべての人のために」 姫路発、全国初の教育プログラムを開発

車椅子は、適切に調整して正しく使うことで介護を必要とする高齢者や障害者が自立した日常生活を送ることができる大切な福祉用具。文部科学省の採択を受け、姫路市で「車椅子シーティング技術」社会人教育プログラムの開発に取り組むプロジェクトを紹介します。



「車椅子シーティング技術」って何？

高齢化が進む中、心身機能合わせた車椅子の調整がで
の低下によって介助を必要と きていない」ことによる二次
する高齢者が増加。厚生労働 障害（床ずれ、筋緊張、変形な
省の「介護給付費等実態統 どのトラブルも増えている
計」によると、福祉用具とし
す。

「車椅子」の貸与件数は 長時間じっと座っていると
年々増加。2019年度で 意外に疲れますよね。「シー
は、全国で約887万台が貸 ティング技術」とは、利用者
し出されています（左下グラ の目的に合わせた適切な機器
フ参照）。増え続ける車椅子 の選定や体型に応じた調整な
利用をめぐっては、「正しい どのによって座ることの負担
姿勢で座っていない」「体 にを減らす技術です。体



姫路ハーベスト医療福祉専門学校介護福祉学科1年生の18人と同学科教員、実証講座講師を務めた「日本福祉用具評価センター」の西山輝之さん（後列左）、「ラックヘルスケア」の安村亮さん（前列左）

フィットする車椅子であれば
長時間座っていても苦になら
ず、移動や食事、入浴などの
日常生活動作（ADL）が向
上し、車椅子利用者比以前と
変わらない生活を送るための
大きな支えになります。

介護を学ぶ学生が 実証講座に参加

「介護施設職員や看護師、
利用者の家族など、介護を担
うすべての人に車椅子シー
ティングの大切さを知っても
らい、技術を学んでもらうた
めの教育プログラムを開発し
たい」。かねてから実習教育
を充実させ、国が認定する職
業実践専門課程をもつ「姫路
ハーベスト医療福祉専門学
校」では、2019年度から、
文部科学省の専修学校リカ
レント教育総合推進プロジェ
クトのひとつとして「介護に
おける車椅子シーティングに
関する技術習得のための分野
横断型リカレント（社会人）
教育プログラムの開発」に取
り組んでいます。「分野横断
型」の名の通り、このプロ
ジェクトには教員だけでなく
、福祉用具に関わる民間企
業や社会福祉法人、教育コン
サルタントなど幅広い人材が
参加。2年目となる今年度は
作り上げたカリキュラムを学
生に受講してもらった実証講
座を行いました。

のべ30時間に及ぶ授業では
車椅子の構造理解やメンテナ
ンス実習、シーティング技術
を学び、最終日は学生がモデ
ルとなって体に合わせる調整
作業を実習。「車椅子一つで
利用者の生活が変わること
を学べました」「座位姿勢の
大切さを利用者の立場で考え
ることができました」とも
興味を湧かしたのもっと学
びたい」と、受講した同校介
護福祉学科1年生18人は目
を輝かせます。

福祉用具「車椅子」の貸与件数 (単位:千件)



出典/厚生労働省「介護給付費実態統計」居宅サービスによる福祉用具貸与種目別調査



▲初めての車椅子のシーティング技術を真剣に学ぶ学生たち▶学習に使用した車椅子の一例。右は「モジュラータイプ」と呼ばれ、座面やアームレストの高さ、背もたれやフットサポートの角度などさまざまな調整が可能

【問い合わせ】

姫路ハーベスト医療福祉専門学校
姫路市南駅前町91-6
Tel: 079-224-1777

HP



本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、《学校法人摺河学園 姫路ハーベスト医療福祉専門学校》が実施した令和2年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」の成果をとりまとめたものです。

令和2年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」
分野横断型リカレント教育プログラムの開発

介護における車椅子シーティングに関する技術習得のための分野横断型リカレント教育プログラムの開発事業 成果報告書

令和3年 2月発行

発行所・連絡先

学校法人摺河学園 姫路ハーベスト医療福祉専門学校
〒670-0962 兵庫県姫路市南駅前町 91-6
TEL 079-286-5801 FAX 079-224-1779
<http://www.harvest-school.com>

本書の内容を無断で転記、転載することを禁じます。